平成28年７月1日
防衛大学校同窓会機関誌

小　原　台　だ　よ　り

Vol. ２３
電子版第1号

CONTENTS

■ 電子版「小原台だより」の発刊にあたり 5

■ 新年のご挨拶（from 折木同窓会長） 6

■ 平成２８年新春 國分学校長に聞く 9

■ 会長ルーム・活動録

防大同窓会第１期生会長との対談（本部事務所） 13

防大同窓会第３期生会長西元氏との対談（本部事務所） 22

タイ王国海軍参謀長タナラット・ウボン海軍大将との懇談 33

平成 26 年度防衛大学校卒業式典に出席 40

平成 27 年度防衛大学校入校式典に出席 42

平成２７年度第３学年部隊実習を激励 48

防衛大学校平成２７年度第６３回開校記念祭及び同窓会行事に参加 51

折木同窓会長の海外支部訪問 54

平成 27 年度防衛大学校卒業式典に出席 62

■ 同窓会本部・事務局

タイ王国タナラット海軍大将歓迎会 83

第１８回防大同窓会テニス大会の結果 85

永岩前同窓会長 ASEAN 海外支部訪問記 87

第１７回防大同窓会囲碁大会の結果 92

第１９回防大同窓会ゴルフ大会の結果 94

■ 地域支部

「関西小原台倶楽部短艇委員会」紹介 from 関西支部長 97

同窓会島根地区支部の創立 99

小原台クラブ新年会＆オープンセミナーにおける懇談等 101

平成 26 年度九州地域支部総会等の実施 103

第 43 回沖縄寮歌・大学の歌祭りに参加（沖縄地域支部） 105

防大國分校長講話の実施（関西地域支部） 106

部外講話の実施（熊本地区支部） 107

平成 27 年度防大同窓会東北支部の総会等の実施 108

阿波踊り防衛大学連演舞成果の概要 111

防大同窓会東海支部総会成果報告 113

初代インドネシア同窓会支部長挨拶 115

平成 27 年度九州地域支部総会等の実施 117

平成 27 年度熊本地域支部同窓会実施成果等 119

小原台クラブ新会長挨拶 122

■ 防衛大学校関連

防衛大学校第６２期生期生会設立総会 123

防衛大学校第５９期生謝恩会 127

防大図書館貴重書庫で歴史探訪の旅 128

平成 27 年度カッター競技 132

平成２７年度定期訓練支援 134

平成 27 年度防大水泳競技会の激励 135

断郊・持久走競技会の激励 137

■ 同窓生は今

タイ王国タナラット海軍大将（23 期留学生）歓迎会 140

タナラット海軍大将を囲む会（部屋会） 141

４２３小隊学生、４月２３日に集合す 142

半世紀ぶりの「部屋会」 145

第 59 期生に聞く（その１) 150

第 59 期生に聞く（その 2） 153

第 59 期生に聞く（その３） 157

第 59 期生に聞く（その４） 158

今人生、男盛り（21 期）（その１） 161

今人生、男盛り（21 期）（その２） 163

今人生、男盛り（21 期）（その 3） 167

公文書を解読して本当の近現代史を知りたい 170

■ 活動報告

平成 26 年度防衛大学校同窓会代議員会等（実施報告） 174

第 16 期ホーム・カミング・デー（ＨＣＤ） 178

第 39 期ホーム・ビジット・デー（ＨＶＤ） 183

平成 27 年度防衛大学校同窓会代議員会等（実施報告） 190

■ 講話録・投稿文

平成 26 年度防大代議員会記念講演(養老孟司氏) 194

新入生（63 期生）に対する OB 講話 226

防大逍遥歌の誕生と現状 234

■ その他（油井飛行士）

油井宇宙飛行士近況アーカイブ 246

2015.03.18 油井宇宙飛行士近況 277

2015.03.31 油井宇宙飛行士近況 279

2015.06.15 油井宇宙飛行士近況 281

■ 校友会活動

平成 27 年度校友会活動主要成果及び部員状況 284

■ 連絡事項

平成 26 年度防衛大学校同窓会決算書 291

防大同窓会費に関する細則第６号改正に至る経緯等 292

会費納入状況・会費納入のお願い 294

同窓会 HP コミュニティサイト活用促進のお願い 296

同窓生人材バンクの登録推薦の依頼 298

ホーム・カミング・デー２の開始 300

同窓会名簿管理、物故者名簿に関するお知らせ 301

電子版「小原台だより」への投稿のお願い 303

期生会長・代議員名簿 305

平成 27 年度同窓会本部・支部役員名簿 307

電子版「小原台だより」の発刊にあたり

平成 27 年度機関誌「小原台だより」は、ホームページにご投稿頂きました方々及び取材に応じて頂きました方々のお蔭をもちまして無事発行する事が出来ました。

この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

これまで会員の皆様に紙媒体の冊子として配布してまいりました「小原台だより」は、今回の第 23 号から、ホームページのアーカイブとしての記録保存の意義を重視した電子版として装いも新たに編纂、発行を終え、この度、ホームページ上にアップロードしました。

編纂にあたっては、編纂時期を従来の年末から、３月の代議員会の記録を含めた年度の活動を取りまとめて掲載できるよう、会計年度の〆である年度末に変更しました。

しかしながら、諸般の事情から、電子版としての最初の「小原台だより」第２３号の発刊は、当初計画の４月末から大幅に遅れました。

発刊を心待ちにされていた皆様には改めまして深くお詫び申し上げます。

さらに、ホームページ掲載の記事をそのまま収録することから「新年のご挨拶（from 折木同窓会長）」、「平成２８年新春 國分学校長に聞く」等は、従来の「小原台だより」を見慣れた目にとっては季節・時期的に若干違和感を覚えるところですが、前述の通りホームページのアーカイブとしての記録保存の意義を重視し、電子版「小原台だより」の発刊に際しては新たな原稿を依頼しないとの方針によるものであることにご理解を賜りたくお願い申し上げます。

（防衛大学校同窓会本部事務局長　記）

新年のご挨拶（from 折木同窓会長）

新年のご挨拶

2016.01.01

　明けましておめでとうございます。

　同窓会会員の皆様におかれましては、ご家族共々すばらしい新年をお迎えのことと存じます。

　今年も 16 期から 25 期までの有志によって運営されている同窓会本部のスタッフとともに、各支部、各期生会、防衛大学校等と連携しつつより一層の同窓会の発展に取り組んでまいります。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

　さて、今年度のホームカミングデーには、第 16 期生が國分学校長から第 59 期生の卒業式に招待いただき、同窓生そしてその家族等の総勢約 350 名が参加しました。そして学校長からの温かいお言葉と学校側の心温まるおもてなしを受けました。ほとんどの同窓生が何十年ぶりに母校を訪れその変化に驚き、そして現役学生に当時の自分を重ね見ている様子は、多感な青年時代に起居を共にした母校に対する誇りや懐かしさ、そしてありがたさをしみじみ感じる時間でもありました。また、11 月に行われた開校記念祭にはご家族とともに卒業後 20 年を迎えた多くの第 39 期生がホームビジットに参加しました。現在、彼らの殆どは自衛隊の中核として司令部や部隊等で活躍しており、学校長と共に参加した激励の場で彼らの自信と意欲と逞しさを感じることができました。さらに今後の母校と同窓生との関係でいえば、学校長の御発意で、来年 4 月の入校式から新たな取り組みとして、ホームカミングデー2 として、入校後 60 年を経た同窓生を招待いただくことになりました(本年 4 月の入校式は、最初の取り組みですので第 1~4 期生が対象となり、来年からは第 5

期生から順次各期の番となります)。

このような連綿とした約 60 年の防大の歴史や伝統の背景には、時代と共に変化してきた安全保障環境があります。平成の時代から始まる「ポスト冷戦」では、テロとの戦いや国家再建を含む平和の創出等のために各国は努力してきましたが、それから四半世紀を過ぎても一向にテロや紛争は収まる気配もありません。かえって新興国の経済発展を基盤とした軍事力の増強や軍事活動が活発となり、作戦環境も宇宙やサイバー空間まで広がり、不安定さ、不透明さが増加しているのが現状です。また、いわゆる国家対非国家主体・テロとの戦いから、過去の伝統的な国家対国家という要素も考慮しなければならない時代になりました。中東や欧州、アジア、もちろん日本自身を取り巻く安全保障環境も著しく厳しくなりました。

このような中にあって、この数年、日本の安全保障政策も本来の姿に向かって大きく変化しつつあります。国家安全保障戦略の策定、国家安全保障会議の創設、新防衛大綱・中期防衛力整備計画の策定等に始まり、昨年は日米新ガイドラインが合意され、更に集団的自衛権の限定的運用を可能とすることなどを内容とした新安保関連法案が国会で決議されました。

自衛隊にとっても新防衛計画の大綱の下で防衛力整備が進みつつありますが、運用的観点からは、昨年十月には内局運用企画局を統合幕僚監部に合一し、態勢が強化された新統合幕僚監部が動き出しました。大きな歴史的転換による新しい自衛隊統合運用時代の幕開けが始まっています。これから防衛省・自衛隊には厳しい安全保障環境の中で、「信頼される、確実な任務遂行」という、益々重要な役割と国民の期待が求められていくことになります。時代はこれからも大きく変化します。現役同窓生にとっても自衛隊幹部の中核としての責務が大きくなっていくでしょう。

これからの時代にあって、同窓会の活動も一つの転機です。「過去に対する思いを重点とした同窓会活動」から「将来に対する視点をより取り込んだ同窓会活動」、いわゆる、自衛隊の変化に適応した現役同窓生の活動を活性化する、支援する、あるいは留学同窓生との連携という取り組み等も強化していく必要があるのかもしれません。防大では國分学校長の主導で「教育、訓練、研究の

将来のあり方を考える新たな高みプロジェクト」をスタートさせ、防大の 20 年後、30 年後を見据えた取り組みが進んでいます。同窓会としてもできる限りの御協力・御支援をしていきたいと思います。同窓会本部でも将来の取り組みについて、会員の皆様の御意見をいただきながら、今後取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

最後になりますが、本年も会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます

2016 年 1 月 1 日

防衛大学校同窓会長　折木良一

平成２８年新春 國分学校長に聞く

学生間指導における「新たな高み」

2016.02.03

防衛大学校長　　國分良成

昨年の『小原台だより』の中で、60 年という大きな節目を超えた防衛大学校が、現在全校をあげて取り組んでいる「新たな高み」プロジェクトについて説明させていただいた。昨年４月には、学生の知的水準と国際感覚の向上に資することを目標に、教養教育センターと国際交流センターが新設された。今年４月にはグローバル・セキュリティ・センターが発足する予定だが、これは防大の顔となるような高度な研究センターを目指している。防大に相応しい文理融合型の最先端の研究プロジェクトが、国内・国外の研究機関との連携により始動することになろう。

防大では、もう一つ忘れてはならない「新たな高み」プロジェクトが同時進行している。それは防大教育の根幹ともいうべき訓練面における「新たな高み」である。防大では、いうまでもなく学生舎生活と校友会が訓練訓育活動の大きな柱となっている。防大はこの数年、前代未聞の悲しい出来事を複数経験した。保険金詐欺事件といじめ事案などがそれである。もちろんこれらは一握りの学生であり、組織性も見られず、ほとんどの学生は規律正しく清廉な生活を送っている。しかし、前者に関しては卒業生５名の懲戒免職、現役学生 13 名の懲戒退校の処分が下された。いじめ事案に関しては、社会的な関心も集めた。

これらの事案は「新たな高み」プロジェクトを立ち上げた前後に発生した。私は最高責任者とし

てこうした一連の事件の背後にある膿を徹底的に出すよう命じ、同時に訓練訓育面においてもこれらを大きな教訓として、訓練版の「新たな高み」を作成するよう指導した。このような渦中において、防大は幸いにも幹事として岡部俊哉、森山尚直、小林茂、訓練部長として伊藤弘、湯浅秀樹という優れた指導者を次々と迎えることができた。幹事と訓練部長を中心に議論に議論を重ねる日々が続いた。私自身もこうした議論に何度となく参加し、若い訓練指導官たちの現場の声に耳を傾けるようにした。このような過程を経て、最終的に分厚い巨大な報告書が完成し、最近になってその要約版ができあがり、学生にも配布された。

その主題は『学生間指導の在り方』だが、私の提案で副題を『世界一の士官学校を目指して』とした。世界各国には、それぞれの歴史や文化、政治や経済などの状況に応じて士官学校固有の教育理念と制度が存在している。しかし優れた軍幹部の人材養成という点においてはいかなる士官学校も同じ方向を向いており、この部分に違いはない。私自身もこれまで世界の数多くの士官学校を視察してきたが、学業・訓練バランス、日課の自律・規律バランス、学生・教官比率、留学生比率、陸海空の統合度合、軍内幹部の卒業生比率などの様々な要素を勘案すると、防大はいずれも世界的に相当に高い水準を誇っている。これは私の印象であるが、確信でもある。

『学生間指導の在り方～世界一の士官学校を目指して～』について簡単に紹介しておきたい。まずその結論から言えば、防大生は「良き社会人」であることを自覚し、学生舎生活が「公」の場であることを認識すべきである、ということである。そして学生間指導において最も重要なのは、指導した内容が「指導された本人の実にならなければならないこと」であり、その際指導者の根底にあるべきは、「相手の気持ちを慮る心」であり、「被指導者の人格を尊重する心」であり、「人の成長を待つ心」である。

指導の基本は「言葉を尽くして行うべきで」、「暴力的指導」や「意味のない不適切な強制を伴った指導は厳に慎まなければならない」。本文中ではこうした指摘が何度となく繰り返されているが、その理由はすなわち、防大の常識と社会の常識に違いはないとの強い思いからである。

具体的な指導方法を記した部分にも多くの注目すべき指摘が散りばめられている。例えば、口頭指導したとしても、必ずしもすぐに効果が現れるものではないこと、指導には忍耐力が必要なこと、相手を威圧してはならないこと、「怒る」ことと「叱る」ことは違うこと、指導者は自らの感情を抑制すべきこと、威圧や暴力による指導は自己の指導力に対する自信のなさの現れであること、等々がそれである。

要するに、防大生が身に付けるべきは「恐怖心に基づき相手を従わせる威圧的指導ではなく、尊敬と信頼に基づき自然と相手が従う『心服させる指導力』である」。本学生間指導要領は防衛大学校だけではなく、広く社会一般、特に企業や学校など、あらゆる組織や機関においても通用するにちがいない具体的で啓発的な知恵が満載されている。

この指導要領に基づき、昨年以来、実際に学生の日課時限の変更が試験的に行われている。週 5 日あった課業行進の週 3 日への削減、日夕点呼の 1940 から 2215 への変更、自習時間の拡大、などがそれである。つまり、学生の自主自律の拡大である。一人ひとりの学生の自由な時間の幅を広げることで、学生個人の判断で学業補習、読書、その他の教養力向上、語学力向上、体力向上などに空いた時間を当てることができる。近年、伝達手段の発達などもあってか、学生間指導が過度になり、とりわけ下級生たちの自由な時間がほとんどなくなり、自分の頭でものを考える余裕がなくなり、ただ言われるままに動く傾向が顕著に見られる。昨秋、英国の王立海軍兵学校を訪問して学校長と意見交換した際、同じような現状認識を共有していることが確認できた。

もちろんこれですべてが解決したとは思っていない。こうした制度の導入以来、確かに大きな事案はなくなり、特に下級生たちが以前より伸び伸びとしている。しかし、となれば逆に、今後防大生活の厳しさをどのように担保していくか、このあたりが課題となる。重要なことは、すべての知恵は実践の中にあるということである。試行錯誤の繰り返しの中で我々の知恵は形成されるのであり、一度スタートした制度を金科玉条のように扱わず、今後ともフィードバックしながら改訂して

いく柔軟な思考を持ち続けることである。それこそが「世界一の士官学校」を目指す上で重要な要素である。

防大同窓会第１期生会長との対談（本部事務所）

2015.02.12

平成２７年２月９日１４００から、防衛大学校同窓会本部事務所において、第１期生会長 高橋恆清（空）氏との対談が実施されました。

永岩会長

この度、各期生会会長の皆様にお出まし頂き、いろんな想いを後輩諸官にお伝え頂く企画を準備致しました。まず、何事も１期生からということで、本日は宜しくお願いします。

まず、ご紹介頂きたいのは、防大１期生の現況、現状です。今、１期生が何を考え、何に興味を持っておられるか、そして、もう一つは、同窓会又は同窓生に対するご指導を頂戴したいと考えておりますので、そのような観点で宜しくお願いします。

（資金処理及び新対番制度について）

１期生会長

１期生は、今年３月までに全ての者が８０歳を迎えることになります。中には８５歳にならんとする者もいます。そのような中、５年程前に１期生役員会として期生会の今後のあり方について検討を始めたのですが、まず、同期生の基金をどうするか、加えて、最近、最も懸念である、期生会の将来構想、いわゆる「終活活動」をどうするかということを重点に検討し、期生会員にアンケートを取りました。

その結果、役員会の結論としては、８０歳で逝去者に対する弔慰金等の事業活動を打ち切り、８５歳で１期生会の組織を解き、そして、名簿管理等を同窓会本部に委ねることでまとめられました。その結論は、総会で方向性が了承されましたが、最後の方で陸の東君から、「３０年を１世代の区切りと考えれば、３１期生に我々の後継者として、最後の面倒見も含めて託すのはどうか？」との提案がありました。その後、先輩の葬儀等で、期生会、戦友会、偕行会などの活動が９０歳でもされていることを見ると、やはり８０歳、８５歳というのは早すぎるのではないかと考えるようになりました。

そして、やはり１期生会の弔慰金等の事業活動は５年伸ばし、実態として８５歳まで行うことに私の前会長時の役員会で変更されました。

永岩会長

それはまた５年先延ばしされることになると私は思いますよ。高橋先輩は、今でも多くの会合に元気に出席されておられますし、そのご様子からは５年たっても変わらないと感じられます。

１期生会長

私は、昨年の６月から期生会長になりましたが、３１期生会長の陸自候校長前田君に会長就任前に電話で話をして対番関係となることについて前向きな反応を得ていたこともあり、会長就任の総会の場において、３１期生との交渉、話し合いを開始することを表明し、特段の反対もなく了承を得ていました。しかし、その後、期生会の会報において記事として載せたところ、強烈な反対も出てきました。それは、「金銭的なことは自分たちで行うべきで、後輩に委ねるのは適当でない」という意見でした。そのほか、「我々が将官の時に初級幹部になったような後輩諸君に頼むのは不適当」、「後輩は先輩が言えば従うのは決まっており強制することは良くない」、などいろいろな意見が出てきました。対番の件については現在ペンディングとしており、私としては、この件は拙速で決定するのは宜しくないと考えています。その最大の理由は、１期生の８５歳からお願いするとすると、３１期生は盛りの５５歳程度で未だ現役であり、対番などやっている余裕など無いでないで

あろうと考えるからです。

永岩会長

一番忙しいときですね。

１期生会長

　そうなる（３１期生の余裕が出てくる５年後）と１期生が９０歳になったところから頼むこととなるが、９０歳まで期生会の事業を継続するのは、他人の意見を聞いても、また８０歳になった自分自身から見ても、気力、体力の面から無理であると私は判断しています。

　ただ、私が当初３１期生対番を進めようと考えた理由の一つに、我々が２年生に上がって１年生の対番制度が始まり、この度、６０年の区切り（一つのメモリアル）であるということがあります。また、１期生にとって他の同窓生はすべてかわいい後輩であるが、３１期生会との件を進めるうちに後輩の中でも特別な繋がりの濃い存在があってもよいのではないかとも思うようになった。そういう意味では、お金のことは除いて、対番を考えてはどうかというのが今の心境です。

永岩会長

　私はこの件を以前から伺っております。１期生会と３１期生会との対番の話ではございましたが、これは全ての期生会に関わってくることであり、防衛大学校同窓会全体として何をすべきか、何ができるかを協議する時期に来ているのかなと思っています。もちろん、高橋先輩には、８５歳、９０歳ぐらいまではお願いしたいとは思っています。

１期生会長

　１期生が同窓会本部に名簿管理を従来の協力関係から全面依頼にすることとなると、２期生会以降も次から次へとそうなる。長い目で見て同窓会は対応できるのであろうか？そこで、１期生は３１期生が、２期生は３２期生が、というふうなシステムを考え、各期の名簿管理程度は（対番期の後輩期生会で）面倒を見るというやり方を検討してもらえないかということです。それが、今後の同窓生全体の「終活」にもなろうというものです。

永岩会長

一つの形として考えられると思います。同窓会事務局の仕事の中で一番大変なのは、名簿の管理であります。日々変更の必要な大変な作業です。

１期生会長

対番制度に対する反対意見の一つとして、「我々は伝えるべきことは、すべて伝えてきた。今更、３１期生に云々という必要はない。」というのもあります。

永岩会長

ひとつのポイントですね。１期の先輩方は、言うべきことは思う存分言ってこられたと思います。

１期生会長

私は必ずしもそうではないと思っています。３１期生は将補が出て、間もなく将が出る時期に来ています。３１期生はこれから１０年間、自衛隊を背負って立つ時期でしょう。

永岩会長

一番、盛りの時ですね。

１期生会長

そのときに我々ロートルでも、何か少しでも役に立つことがあるかもしれません。そういう時に関わりを持つことは無駄ではないという気もしています。

今、部隊に行くと３１期生ぐらいがちょうど部隊長をしています。そういう時に対番期ということであれば、更につながりが強くなるから進めろという声もあります。

永岩会長

対番期の選択は、いろいろあると私は思っています。２０年、３０年、そして１５年であれば１

５期生の私たちが面倒を見る必要があると思っています。いずれにしろ、各期生会に関わる事項ですので、同窓会本部としても考えていきたいと思います。

（記念碑の設置について）

永岩会長

次に、１期生の事業として考えておられる記念碑の設置、久里浜のメモリアルの件について、お伺いしたいと思います。

１期生会長

私は、その件については、今このように考えています。

この話は、１期生の基金をどのように活用しようかという議論の際に出てきた案ですが、築地に海軍兵学寮の記念碑が立っていますが、これに倣い、防衛大学校としても保安大学校発祥の地である久里浜に相応の記念碑を建てるべきだとして、最近の１期生会の期生会において話題になっています。しかし、私はこれは１期生会だけの話ではなく、防衛大学校として行われるべき大事な事業であるとも考えています。同窓会長として、防衛大学校にも話をしてもらいたいと思います。

永岩会長

１期生の基金の活用のあり方は１期生の問題ですが、それはさておき、この件は既に学校長及び総務部長にも内々に打診しております。具体的な事業化につきましては、なぜこの時期か、必要な予算をどうするかということも含めて、今後、議論が必要ですが、学校として実施できることは積極的に支援いたしますというスタンスでした。同窓会としても当然関与していく必要があろうと考えています。

（軍事官僚としての意見発信について）

永岩会長

そのほか、１期生の関心事項はございますか。

１期生会長

退官時の挨拶でも言ったが、当時、東大卒等の高級官僚に比べて、防大卒が国や政治に関してものを申さなすぎるということについてです。内局は文官としての官僚であるけれども、我々は軍事官僚として言うべきことがある。文官統制といって、国政全般にわたって自分たちが国を動かしているという官僚の自負が強く、重要な軍事についてはなおさらのことという内局の意識が当時は本当に強かったと思います。自衛官が国政に口を挟まないというのは本来あるべき姿ではあります。しかしながら、サポートする面においては積極的にやるべきだと私は思います。最近は変わりつつあるのかもしれないが、遠慮すべきではありません。

永岩会長

最近もまだ少しはあるかもしれませんね。

１期生会長

私は空幕には３回勤務しましたが、直接防衛力整備に関わる配置についたことはありません。しかし当時、北方の防衛部長をやっている時など「専守防衛だからこそ、空中給油機が必要だ。」と言い続けておりました。「ファントム導入時に爆撃装置を外したり空中給油装置を外したり、こんなバカなことはない。」と言っておりました。軍事専門家がそんなことを許してはいけない。

永岩会長

私が防衛力整備の担当の時代も「空中給油機は戦略的兵器であり、隣国を刺激する」と当時の与党ですら言っていました。

１期生会長

当時、軍事上の正当性をもっと強く主張しておれば、より早く実現できたのではないかと思いま

す。もし、そうゆう軍事専門家の意に反するものが残っているのであれば、後輩は強く言い続け、変えていって欲しいと思います。

（入校式での同窓生招待について）

永岩会長

現在、ホームカミングデーの事業があり、昨年は１５期生が卒業式に学校長招待がありましたが、國分学校長から、来年度６３期生の入校式に６０年先輩期の皆様をご招待したいというありがたいお申出がありました。来年度は、準備時間がないため、１期生から４期生同窓会の事務方の皆様で参加頂き、再来年度から正式に参加するためのご準備開始をお願いしたいと思います。

１期生会長

１期としては、来年度ある程度の事務方メンバーの参加をお願いしているところです。

（学校長の防大同窓生就任について）

永岩会長

防大学生または学校に対して、ご意見はございますか。

１期生会長

私は、適任者がおれば、防衛大学校学校長は防大卒業生から出すこともあって良いのではないかと考えています。世界の軍学校では卒業生が学校長を務めていないということはありません。我々としても心積りしておく必要があろうと考えています。

永岩会長

この件は、従来から代議員会などでよく話題に上っています。そのたびに、賛否両論が出ます。

防大が軍学校とは歴史的にも現状としても違う面がないわけではありませんから、その観点で反対意見もないわけではありません。そのうち、学校長交代のタイミングで話題が出てくると思いますが、現在、防衛大学校は、國分学校長という本当に素晴らしい学校長を頂いており、有難いことだと思っております。

１期生会長

もちろん、私もそう思っていますが、長い目では、卒業生を出すということも考え、準備していく必要があろうと思います。

（名簿の管理について）

永岩会長

同窓会に対するご要望は、ございますか。

１期生会長

同窓会にお願いしたいのは、先ほども言ったとおり名簿の管理についてです。全てを同窓会本部が引き受けたらパンクしてしまうであろう。ひとつのアイデアとしての対番制度についても考えて欲しいと思います。１期生の人数が少なくなり事業活動がなくなったら、１期生を３１期生の会合に招くことなどもお願いしたい。

（高橋先輩の活動について）

永岩会長

高橋先輩は、いろいろな会合にお元気にたくさん出られていますね。

１期生会長

私は、年が離れた人と話ができるのが楽しい。そして楽しくできるのは現役時代のつながりが多いのが幸いしています。幹部学校教官で９期生から１１期生に渡るＣＳ学生を知ることができました。最長記録が破られていない統幕学校長を２年８か月間在職し、陸海空の後輩を３期に亘り知る

ことができました。また、米空軍大学に留学し、今でもマクスウェル会（米空軍大学卒業者の空自幹部で構成されている親睦会）に属して若い人たちと交流しています。

（留学生について）

永岩会長

実は、明日、タイ海軍幕僚長である２３期同窓生のタナラット海軍大将とお会いします。同窓生として留学生の活躍も今後増えていくことと思います。

（女性幹部の登用について）

１期生会長

最後に言いたいこととして、人事１班長、人事教育部長としての経験から、女性幹部の育成登用を積極的に推進すべきだということです。防大にも優秀な女子学生が入るようになりました。マクスウェル会にも今や女性がいますが、彼女は防衛大学校学生隊学生長経験者でした。私は女性幹部の活躍を積極的に推進すべきと思います。

永岩会長

私が人事１班長だった頃は、女性をパイロットに登用しようという時代でした。

本日は、長い時間貴重なお話をありがとうございました。

１期生会長

１期生会の会報に会長挨拶として載せようとしている私の書いた「憲法改正の機運を盛り上げ世論を喚起しよう」のペーパーをお渡しします。

永岩会長

よろしければ同窓会ホームページに載せさせて頂き、同窓生に広く配信していきたいと思います。ありがとうございました。今後とも宜しくご指導いただきたいと思います。

防大同窓会第３期生会長西元氏との対談（本部事務所）

2015.02.25

平成 27 年 2 月 16 日 1345 から、防衛大学校同窓会本部事務所において、第 3 期生会長 西元徹也（陸）氏との対談が実施されました。

永岩会長：

本日はご多忙の折、ここ同窓会本部にお出まし頂き、誠にありがとうございました。同窓会本部は昨年末に防衛省前の好立地のこの場所に移転いたしましたが、お陰様で同窓会の理事会や各期の会合等に大いに活用頂いております。

さて、本日は、3 期生会の大先輩の皆様方の現状等についてご紹介頂くとともに、防衛大学校同窓会や後輩諸官に対するご指導等をお聞かせ頂けたらと存じます。

（3 期生会の現状・後輩へのメッセージ）

西元 3 期生会長：

現在、3 期生同窓会構成は、陸海空のそれぞれが独立して同窓会を運営しています。陸の同窓会長が期生会長を代行するという形を取っており、期を代表して参加する各種イベントには参加していますが、陸の同窓会長が海空各同窓会長との調整役をしているという状況です。私の場合、一昨年の秋から当面の間、陸 3 期同窓会長を任されているといった状況ですが。

昨年 11 月第 3 金曜日に陸 3 期生の総会を実施して約 80 名が集まりました。関東近傍に住んでいるものがほとんどでしたが、北は北海道から西は兵庫県の同期生が集まってくれました。今後の同期生会活動方針について相談いたしましたが、「同期生会基金が尽きるまで今の活動を続ける」

と満場一致で合意されました。

　それからもう一点ご紹介しておきたいのは、昨年、３期生 60 周年を記念して、陸、海、空同期生から寄稿文を募り、古賀、藤本、島田三氏の編集委員の尽力により『われら小原台っ子』という文集を作って同期生に頒布したこと、そして国分防衛大学校長のご承認をいただいて 2 冊を防衛大学校の図書館に寄贈いたしたことです。

　後輩諸官に対するメッセージですが、日本を取り巻く安全保障環境が激変する中、来年度早々には、安保法制等の改定が大幅になされ、また、「日米防衛協力のための指針（ガイドライン）」の見直しもなされると思います。つまり、自衛隊の活動に対する国民の期待は更に高まり、任務は更に多様化するとともに、活動は広範多岐にわたり、活動の現場も任務によっては非常に厳しいものになろうと思います。次なる時代の部隊指揮官のリーダーシップや任務遂行能力には過去に無いほど高度のレベルのものが要求されることになるでしょうし、相応の覚悟が必要となります。同窓会にはその覚悟のあり方というものを後輩諸官にしっかりと伝えて欲しいと思います。防大生や後輩諸官に、先輩たちの背中を見せるということは非常に大事なことだと思います。

永岩会長：

　自衛隊の中の中核をなす存在としての防衛大学校卒業生であり、同窓会ということでありますので、その点については重々認識しつつ、同窓会活動を進めているわけですが、これだけのポテンシャルの組織でありながら、たとえば我が国の安全保障環境を改善するために積極的な活動を推進しますとか、政治的な活動を推進することに関しては色々と意見のあるところです。いずれにしろ、ご指摘のとおり、安全保障環境の大きな変わり目でもあり、その厳しい状況の中、同窓会としても今まで以上の覚悟をもって諸々の施策推進を図らければならないと考えています。

西元 3 期生会長：

　そうですね、そのような基盤を整えるということが、優秀な人材を確保することに最終的には繋がると思います。

そして、新しい安保法制ができた暁に、「これは危ないのではないか」と言って敬遠する若者たちが出て来ないような措置については、政府としてきちっとして頂かなければいけませんし、また、防衛省としても当然のことながら、担当する省として各種行動の安全対策や部内・御家族に対する広報などに万全を期すための努力をしていかなければならないと思いますので、我々としても、私は隊友会の一員でもありますので、国政の要路にある方々提出しております『政策提言』などを通じて最大限の応援をさせて頂きたいと思っています。

永岩会長：

防衛大学校に國分大学校長を戴いて防衛大学校の学生はとても恵まれていると思います。学校長は学校職員に対していつも「すべて防大生のために」をモットーとして教育・訓練に臨まれています。

学校長は、常々、「防衛大学校卒業生の役割は、日本という国家と日本人の独立・平和・安全を守ることであります。これは崇高な使命であります。」と表明され、それを主たる軸として、学生教育に当たられています。

加えて、すべての同窓生に対して、常に過分のお言葉を頂戴していることに、恐縮しつつも、心より感謝致している次第です。

先輩の方々からは、メディアで防衛大学校の不祥事等話題に上るたびに、「同窓会は何をしている！」とのお言葉を頂戴します。同窓会としては「悪しき伝統は防大の伝統ならず！」「国民の負託に答える防衛大学校のあり方は！」として、同窓会として学校サイドと話し合ったり、同窓会理事と指導官との意見交換会を定期的に実施しているわけですが、我々卒業生が直接防大生指導するというのは適切ではないですし、あくまで、幹事や指導官の立場を尊重しつつ、防衛大学校としてのあるべき姿を追求しようと考えています。

西元３期生会長：

そうですね。そういうことは即ち、会長が言われるとおり、現職の自衛官自身もしっかりとした

背中を学生たちに見せてやるということが非常に大切なことだと思います。

（防大入試改革について）

西元３期生会長：

槇学校長以来、学校の理念として強調しております学生のリーダーシップと言いますか、人格形成とリーダーシップの向上ということについては、学問も確かに大切なんですけれども、私はある極論を言いますと、そのこと（人格形成とリーダーシップの向上）は防衛大学校にとっては学問と同等もしくはそれ以上に重要な分野ではないかと思っており、だからシビリアンの先生方が仮に学問的分野だけに一生懸命になるのではなくて、やはり、その先生方もご自分の体験なり人生経験を通じてですね、まあ制服の指導官、或いは防衛学の教官ももちろんなんですけれども、シビリアンの先生方も一致協力して、その人格形成とリーダーシップの向上に特別の意を、防大としては用いて頂きたいと思います。

実は、たまたま補佐官の時に、それは民主党政権の時ですが、五百旗頭学校長のご尽力によって、防衛大学校の入試の改革をやったんですね。この前、隊友会のある方がおっしゃるには、その方の甥御さんがその新しい防大入試の選抜方法のために防大に合格できたのですが、「昔だったらとてもじゃないけど合格できるレベルではなかった。」とのことでした。

例えば、運動部のキャプテンをやっている人はそれなりの人格やリーダーシップを持っており、ある基準を試験で超えれば、試験だけの順番であれば落ちる可能性もあるのですが、面接の中で人格とリーダーシップをよく見極めて、そういう者については合格させてもいいのではないかという（入試方式を採用した）のが、大きな改革でした。

永岩会長：

実際にそのような（選抜合格）学生数人の評判を聞いたところ、「自分自身の考え方もしっかりとしており、やる気、集中力も含めて、非常に良い学生が入って来てくれている。」と学校長も高い評価をされておりました。

西元３期生会長：

嬉しいですね。その例は、先ほど話をしました、ある隊友会の友人が言ってきた今度の新入生のことです。

永岩会長：

代議員会でもよく出てくる話で、防大ＯＢを防大学校長にという声が出てくるのですが、現在のところ、國分学校長が非常に素晴らしい方ですので、あまり話題に上りません。将来、学校長が変わられる時が来ましたらまた同じような話題が出てくるものと思っておりますし、また防大卒業生の中に学校長に相応しい人物がいないかと言うと、そのようなことは全くありませんし、その時の議論を楽しみにしております。

西元３期生会長：

そのような人材というのは卒業生に中にいらっしゃると思います、これからもまた出てくると思いますが、そこはやはり時期を待つことだと思います。それもやはり先ほど申しましたように、自衛隊としての地位を憲法上にしっかり固めた上で、おそらくそういったことも実現するのではないかと思っております。

（タイ国タナラット海軍大将来日について）

永岩会長：

先般、タイ王国からの留学生であったタナラット海軍大将が来日いたしました。23 期の卒業生で、防大卒業後、幹部候補生学校を卒業後、遠洋航海にも行き、その後、防研にも入校したんです

ね。現在、タイ王国海軍参謀長になっております。彼のほかにも、防大 26 期留学生のジョム・スンサワン空軍中将がいて、現在参謀長ですが、将来空軍司令官の有力な候補となっているという話でした。そういった人材が控えているというのも有難い話です。

タナラット海軍大将の講話を防大で聞いたのですが、彼は ASEAN 諸国の防大卒業生のネットワークを構築しようと推奨しています。微妙な関係の隣国も無いわけではないのですが、防大同窓生（留学生）の繋ぎを通じて地域の安定に寄与しているということは、非常に素晴らしいことで、有難いことだと思っています。安倍総理の「積極的平和外交」そのものであると思います。まさに、防衛大学校の先見の明であると思っています。このことは今後とも継続していって欲しいと思っております。

西元 3 期生会長：

まったくそのとおりで嬉しいことですね。実は防衛省にペトリオットの配置する時に車両等を配置する場所の南側に、航空機が展示してあるのですが、その横に、インドネシアの独立の志士初代の国軍司令官の等身大の銅像が立っております。多分ご存知だとは思いますが・・

永岩会長：

タナラット海軍大将が ASEAN 防大同窓生ネットワークを推進するということで、大変ありがたいことであり、今後とも同窓会としても積極的に応援していきたいと思います。。

西元 3 期生会長：

それは有難いですね。そういう留学生ネットワークができますと、海上自衛隊が実施している遠洋航海、人道支援のためにパシフィック・パートナシップといって東南アジアを巡回していますよ

ね、さらに、コブラ・ゴールド或いはリムパックもありますので、またそういった演習の意義も非常に大きいものだと思います。たぶん、今度の法改正によって、限定的ではなく全面的にリムパックやコブラ・ゴールドに参加できるようになると思うのですが、ますますそういったネットワークの強化といったことには繋がるのではないかと思います。

永岩会長：

当方の最後の職は航空支援集団司令官でしたが、イラク復興支援任務で中東派遣をしておりました折に、C-130 輸送機の経由地としてタイ王国ウータパオ海軍基地を何回も使用させていただきました。ある立ち寄りの時、防大の同窓生が集まってくれて同窓会を催してくれたこともあります。インドネシアの場合は、津波の時にバンダアチェまで復興支援にも行きました。

西元 3 期生会長：

本日これから防衛省に行きますので、その時、写真をとって送りますよ。

永岩会長：

それはありがとうございます。ぜひお願い致します。

（学生諸活動に対する同窓会支援活動について）

西元 3 期生会長：

同窓会として、学生の諸活動に具体的にどのような支援活動をしておられますか？

永岩会長：

物心両面ということで言いますと、例えば、防大の種々の講演、学会、体育大会、定期訓練等が実施される際に、本部理事を派遣しますとともに、賞品、義援金を提供したり、開校祭や儀式実施の際等に対する金銭的な支援に加え、定期訓練

や棒倒し、カッターレース等の際の優勝チームや優秀者に対する表彰時のメダル贈呈等を実施しています。

西元３期生会長：

もし、そういうことについて、例えば、資金が足らなくなった場合には、同窓生に対してカンパを募ってもかまわないと思います。もし、そのような要望があれば、同窓生として、額の如何を問わず、ある程度のカンパをするということについては、私も同期生会（３期生会）に対して呼びかけます。

（防大同窓会費納入状況について）

永岩会長：

そういう観点で申し上げますと、先輩が初めに最初におっしゃいましたように、今後、自衛隊の活動が更に厳しくなった時、場合によって、防大の同窓生全体で金銭的に支えなければならない事案が発生した時、現在の資産が及ばない場合、状況によっては同窓生にカンパをお願いする時があるかもしれません。

しかし、今のところは、防大卒業と同時に同窓会入会終身会費を納めてもらい、それで賄っているというのが現状です。今年度は 59 期生が卒業しますが、各副会長が陸海空それぞれの幹部候補生学校に参りまして、同窓会入会と会費完納をお願いする予定です。最近の完納率は約 90%以上を維持しております。

トピックスですが、１期生の先輩の方々から、今年度、19 名の会費完納のお申し出があり、これで、一期生の先輩は完納率 100%を達成されておられます。是非３期生の先輩にもご承知おき頂きたいと存じます。

西元３期生会長：

それは素晴らしいことですね。必ず、３期生全員に伝えます。

永岩会長：

昨年の代議員会の時に、「ＨＣＤ、ＨＶＤの際に同窓会費未納者の方は納入をお願いしたい」と同窓会費納入促進キャンペーンを実施しましたら、今年は複数期から数十名の追加納入がありました。今後是非とも、同窓会費完納を推進して頂けたらと思います。

西元３期生会長：

本当ですね。実は非常に恥ずかしい話ですが、先般同窓会本部からそのお知らせをもらい、３期生会全体で確認したところ、陸が 17 名、空が３名、海が 12 名の者が未納であることが判明しました。そこで、陸については、一人一人、メール、ファックス、手紙等で同窓会費完納推進の連絡をとったところ、17 名のうち、８名が存命、残りの９名が連絡が取れず、亡くなっているのかどうか不明ということでした。当然のことながら海、空の責任者にも未完納者の名前をお知らせして善処をお願いいたしました。

私は一昨年秋、陸の同期生会会長職に着いたばかりで、このような現状に全く気づかずという状態でした。今後やらなくてはならないことなんですが。同期生会に出てくる者は払っていますので、未完納者の状況を伝えて情報の把握に努め、今後もその点については努力させて頂きたいと思います。

永岩会長：

１期生が同窓会費を完納されたというのは全体に良いメッセージになります。

西元３期生会長：

それについては、本日の対談をホームページに掲載される際載せてもらって、３期生が見た時に、「これはいかん」と思うことは間違いないと思われますので、是非ともよろしくお願いいたします。

永岩会長：

よく東大や慶応大のホームページを見るのですが、我々と違って財を成している先輩方が多いの

で、献金コーナーが設定されているのを目にします。そこで、防大同窓会ホームページに取り入れようとしているのですが、まだそこまでいっていないのが現状です。

先日、陸 17 期の同窓生の高橋様から 100 万円程献金を頂きまして、防大同窓会の名前の入った法被を作り、防大にプレゼントしました。また、箱根駅伝予選会で応援をする時に振る防大の小旗が無いということで、これも作って贈りました。今年の代議員会には、その高橋様も来てくださることになっております。

こういうことは珍しいので早速ホームページに載せて紹介しました。

西元 3 期生会長：

いろいろご尽力伺って、心から敬意と謝意を表します。

（コミュニテイサイト新設について）

永岩会長：

同窓会ホームページを見て頂けましたら、このような記事を少しずつ載せておりますので、是非見て頂きたいと思います。

また、同窓会ホームページ内にコミュニテイサイトというものを新設しました。 3 期生の方もその作り方で HP を作りますと簡単にできますので、ご活用頂けたらと思います。各期生会の方も幾つかの期が、それを活用して期生会ホームページを立ち上げておられます。1 期の先輩方が最初にアップされましたので、是非ご参考にして頂ければと思いますので宜しくお願いします。

西元 3 期生会長：

先月ホームページが壊れてしまいまして修復している最中です。もし、同窓会サイトを活用という話になりましたら、担当者からメールを差し上げることになるかもしれませんが、その故障の度合にもよりますが、できるだけ早く修復すべく努力しているところです。

永岩会長：

　本日は、お忙しいところ本当にありがとうございました。

西元３期生会長：

　防大同窓会長としてのご尽力、本当にありがとうございます。どちらかと言うと、古い者は同期生の方にしか頭が向かないものですから、その辺のところは、次の期生会の総会のときにはしっかりと伝えたいと思います。

タイ王国海軍参謀長タナラット・ウボン海軍大将との懇談

2015.02.28

２月１０日（火）１４１５～１４４５の間、グランドヒル市ヶ谷「琴」の間において、来日中のタイ王国海軍参謀長　タナラット・ウボン海軍大将と永岩同窓会長、赤星同窓会副会長が懇談した。タナラット海軍大将は、防大２３期生であり、この度防大同窓会タイ王国支部長に就任されたばかりである。

永岩会長

先ず、防大同窓生２万４千人を代表して、「おかえりなさい」と言わせて下さい。

大将は、日本に来られる前に、韓国及び中国を歴訪されたと伺いましたが、お疲れではありませんか？また、久しぶりに日本に来られた印象は如何ですか？

タ大将

疲れはありません。また、日本は、あまり変わっていないという印象です。

永岩会長

大将は防衛研究所にもおられたと伺いましたが。

タ大将

防研一般課程の第４５期です。

永岩会長

私が（退職前の）最後の配置である航空支援集団司令官の時、今からちょうど１０年程前になりますが、イラクの復興支援任務でタイのウタパオ海軍基地に立ち寄った時に、防

大同窓生が集まってパーティーを催してくれたことを覚えています。また、スマトラ島沖地震の際には、ウタパオをベースにしてインドネシアのバンダ・アチェに部隊を派遣しましたが、その時にも(タイには)お世話になりました。タ大将が第２艦隊司令官か海軍本部の総務部長の頃でしょうか？

タ大将

　そうですね。ちょうどその頃ですね。

永岩会長

　明後日（２月１２日）の大将の防大での記念講演は、私と永田副会長も聴講させていただきます。

タ大将

　講演といっても、日本語も忘れていますし、大したお話はできません。

赤星副会長

　いやいや、タイ王国の海軍大将の講演が聴けるというだけで、学生にとっては大変ありがたいことだと思います。

永岩会長

　本日は、お忙しいスケジュールの中、時間の許す限り色々なお話を伺いたいと思います。私からはまず、大将がこの度タイの防大同窓会支部長におなりになったということで、タイにおける同窓会の活動状況についてお聞きしたいと思います。

　大将が、アセアン（東南アジア諸国連合）における防大同窓生ネットワークの構築を提唱されていることは大変素晴らしいことだと思います。安倍総理が唱えている「積極的平和主義」に基づき、日本が南シナ海周辺の安定に積極的に貢献しようとしている時に、防大ＯＢが関係国の国軍の高位高官の地位にあるということは極めて大事なことであると考日本以外では、タイが防大同窓生が一番多いと聞いていますが。

タ大将

　そうですね。現在は確か陸海空合わせて１８０名程いると思います。

永岩会長

　タナラット大将のような高官が支部長になられたことをきっかけに、他の国や地域でも防大同窓会の活動が活発になればありがたいと考えます。

赤星副会長

　タイの同窓会としては、何か定期的な活動をしておられるのでしょうか？

タ大将

　年に何度か同窓生を集めたパーティーを行っています。また例えば、新年会等以外でも、防大校長がタイを訪問された時や練習艦隊が寄港した時なども、同窓生を集めて歓迎会を開いたりしています。私自身、支部長として今後そのような機会を増やしていきたいと考えています。

永岩会長

　今回の大将の支部長就任に際しては、同窓会長としてタイを訪問しお祝いしたかったのですが残念ながら叶いませんでした。私の会長としての任期は今年の３月までですが、新しい会長が貴国を訪問する機会もあるかもしれませんので、その際は宜しくお願いいたします。

タ大将

　もちろん大歓迎いたします。ところで、他の国、例えばシンガポールにおける同窓会の状況は如何でしょうか？

永岩会長

シンガポールについては、残念ながら情報が余りありません。同窓会としては、現在はまず国内の同窓会組織の拡充に力を入れているところですが、当然海外も視野に入れていますので、今後は海外の同窓生とも具体的な情報交換を密にしていきたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

赤星副会長

東南アジアにおいて防大同窓生のネットワーク拡充を図るとすれば、やはり留学生の数が多いタイが中心となると思います。

永岩会長

東南アジアと南シナ海の安定は日本にとっても大きな関心事です。

特に中国の活動が活発化しています。大将は今回の訪日前に中国も訪問されたと聞いていますが、どちらに行かれたのでしょうか？

夕大将

中国は元気ですね。特に、世代交代が進んでいて、若者が元気です

今回の中国訪問では、北京、姜哥庄（ジャングウジャン）、青島、安慶、武漢、上海など見せてもらいましたよ。今回の訪中は、タイの海軍司令官の公式訪問に同行したもので、私が先に中国に入り施設研修等をした後、後から中国に来た司令官に私も途中で合流しました。

永岩会長

日本の場合は幕僚長が自衛隊のトップですが、タイには参謀長の上に司令官がおられるということですか。

夕大将

その通りです。

赤星副会長

　タイ王国海軍は中国海軍とは、今までも緊密に交流してきたということでしょうか？

タ大将

　それほどでもありません。２０年ほど前までは、中国製の艦艇を６隻ほど購入した実績もありましたが、最近では、ヨーロッパやアメリカの装備の方が性能も良く信頼性も高いということもあり、中国との関係も疎遠になっています。

赤星副会長

　大将は、防大卒業の後、江田島の幹部候補生学校には行かれたのですか？

タ大将

　はい、行きました。遠洋航海にも行きましたよ。

赤星副会長

　私は、大将が江田島を卒業された２～３年後に候補生学校の教官をやりましたが、その時もタイの留学生がいました。名前は忘れてしまいましたが、色の黒い非常にまじめな海軍士官だったと記憶しています。

タ大将

　色が黒い・・・多分、ルンビタック君でしょう。２５期生ですね。彼は、早い時期に海軍を退役して、今は水先案内人をやっています。

赤星副会長

　そうですか。大変まじめな好青年で、彼の言動には、いつも感心してました。

永岩会長

同窓会としても、今後２～３年かけて東南アジアにおける防大同窓会ネットワークを如何にして拡充していくかを議論していきたいと考えていますので、大将にも是非議論に加わっていただき、アイデアを頂戴したいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

タ大将

私も、防大同窓生としての利点として、仕事がやり易いという実感があります。例えばシンガポール等に出張しても、必ず防大同窓生が対応してくれます。もちろん、ベトナム等、留学生を送り始めて間もない国もありますので、ネットワーク構築には時間も必要です。

赤星副会長

ベトナム海軍とは交流があるのですか？

タ大将

あります。海軍の共同パトロールもやっていますし、毎年 NAVY to NAVY Talks も行っています。

永岩会長

今では自衛隊もベトナムとの交流が活発になってきています。海上捜索や事故調査に関するスタディ等において自衛隊の知見をベトナムに提供する為に、去年も何度か交流がありました。自衛隊としても各国と交流を活発に行う時代になってきており、これを促進することが地域の安定にもつながるものと思います。

赤星副会長

ベトナムは、防大にも優秀な学生を毎年送り込んでいます。

タイにとってベトナムは国境を接している国でもありますので、良好な関係を維持することは大切なことだと思います。

話はかわりますが、タイには海上自衛隊の練習艦隊が数年に１度は寄港して、大変お世話になっています。

夕大将

来月も部内課程の外洋練習航海部隊が寄港しますね。

赤星副会長

大将の同期も、海上自衛隊の現役は武居海幕長だけになりました。あとの方々は皆、第２の人生を送っています。

夕大将

そうですね。今日の午前中の企業研修でも、同期生に会うことができました。また、今夜も海上４班の班会を同期が開いてくれることになっています。海幕長も同じ４班だったので参加してくれます。全部で１０名くらい集まってくれるそうで、大変楽しみにしています。

永岩会長

この後もご予定があるということで、そろそろお開きにさせていただきたいと思います。明後日（２月１２日）には、横須賀で防大と共催で歓迎会を開かせていただきますので、是非色々とお聞かせ下さい。本日は、誠にありがとうございました。

（本部事務局事業部担当記）

平成 26 年度防衛大学校卒業式典に出席

2015.03.31

平成２７年３月２２日（日）防衛大学校卒業式典（本科第５９期学生、理工学研究科前期課程第５２期学生、理工学研究科後期課程第１２期学生、総合安全保障研究科前期課程第１７期学生及び総合安全保障研究科後期課程第４期学生）に永岩同窓会長が出席しました。

当日は、学生の門出に相応しい穏やかな小春日和でした。

今年の卒業生は本科４９２名　うち女子は４７名で留学生はカンボジア、インドネシア、モンゴル、フィリピン、タイ、東ティモール、ベトナムの計２０名

例年との相違点は、卒業式に引き続き、総理の御立席のもとに陸海空一般幹部候補生の任命・宣誓式が実施されたことです。

卒業式、任命・宣誓式、観閲式の後「午餐会」が実施され、来賓代表として同窓会会長が、１期生から５８期生まで約２万４千名の構成員を持つ防大同窓会を代表して卒業のお祝いを述べるとともに激励しました。

東ティモール初めての卒業生、武官、東ティモール国防大臣を囲んで

(本部事務局総務部　24 期空　渡邉 和博　記)

平成 27 年度防衛大学校入校式典に出席

2015.04.10

平成２７年４月５日（日）折木同窓会長が防衛大学校入校式典（本科第６３期学生　理工学研究科前期課程第５４期学生　同後期課程学生第１５期学生　総合安全保障研究科前期課程第１９期学生及び同後期課程第７期学生）に永岩前会長とともに出席しました。

桜と新緑が競う小原台は、小雨のぱらつく生憎の天気にもかかわらず、希望に満ちた溌剌とした新入生と、暖かく（ちょっぴり不安げに）見守るご父兄の方々で実に清清しく緊張感のなかにも心の行き交う雰囲気に包まれておりました。

入校式典は、入校式と午餐会が行われ、観閲式は雨のため中止となりました。

本年の入校生数は、本科５６８名（内留学生は１０カ国で２８名）、理工学研究科前期５１名、同後期９名、総合安全保障研究科前期１７名、同後期１名となっております。（４月５日現在）

記念式典は、部内外からの沢山の来賓があり、左藤防衛副大臣から訓示が述べられ、統幕副長山崎陸将及び米国海軍第７艦隊司令官トーマス海軍中将からお祝いとともに、激励の言葉が送られました。

私からは、午餐会においてお祝いと激励を述べさせていただくとともに、今後の充実した学生生活を祈念して万歳三唱の音頭をとらせてもらいました。

横須賀市長、北原氏と新旧会長（控え室にて）

午餐会の様子

学校長挨拶

米国海軍第７艦隊司令官トーマス海軍中将の祝辞

新･前会長　学生歌を大声で！！

万歳三唱の前にお祝いと激励

そしてバンザーイ！！

式典終了後に学校長と新旧会長交代挨拶

折木会長と高校の同窓子弟のご父兄と

式典終えて　本館

平成２７年度第３学年部隊実習を激励

2015.07.16

折木同窓会長は、７月９日(木)　第９師団第５普通科連隊(青森駐屯地)で部隊実習訓練中の防衛大学校第３学年陸上要員を激励しました。

当日の天候は、羽田空港を離陸したときは雨模様でしたが、青森は晴天で初夏の心地よい風が吹く絶好の訓練日和でした。

青森駐屯地到着後、第９師団長を訪問、その後訓練を担任する第５普通科連隊長から訓練全般の説明を受けた後、この日の訓練場である「レンジャー塔」に移動しました。

女子学生２名を含む１０名の学生は元気溌剌、順番に「セーラー渡り」でロープ橋を渡っているところでした。途中で「フォール」から復帰する際には悪戦苦闘する場面も見られましたが、全員無事ロープを渡るのを見届け、教場に移動しました。

教場では、学生の自己紹介の後、会長から激励の講話が実施されました。

講話の内容は、「部隊の実情を知り、将来のリーダーシップの糧とする。」という部隊実習の意義、「実習先隊員との人間関係の構築」「近い将来の小隊長として見られていることを意識」等の心構えの他、「安全保障環境の変化する中で、陸上自衛隊を支えるのは防大出身者であるべき」「約４０年間の勤務を振り返って自衛隊は良いところだった。」といった将来の自衛隊勤務についての激励も含んだものでした。

その後は学生からの「学生時代に得たものは？」「語学等修学上の心構えについて」「上司との接し方」「学生時代の助教等との卒業後のつきあい方」「辞めたいと思ったことは？」等々様々な質問があり、瞬く間に予定の時間が過ぎました。

最後に、「過去の防大卒業生は中隊長になる頃までに一人前になれば良いという余裕があったが、現在は初級幹部の頃から一人前の仕事が求められる状況である。しかし、その人だけでなく皆でもり立ててそうして行くから決して孤独ではない。」と締めくくり、激励の講話を終了しまし

た。

　ここにあらためて、第９師団長をはじめ、第９師団司令部、第５普通科連隊及び防衛大学校訓練課の方々のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

第９師団長との対談

第５普通科連隊長からの訓練説明

レンジャー塔での訓練

教　場　で　の　激　励

（本部事務局　広報部　24 期陸 新居 久佳 記）

防衛大学校平成２７年度第６３回開校記念祭及び同窓会行事に参加

2015.12.12

平成２７年１１月１４日（土）折木同窓会長は、小雨がしっとりと降る中、厳粛に挙行された学校主催（実行委員長：引田小原台事務局長）の顕彰碑献花式に参列し、９５柱の御霊に哀悼の誠を捧げました。

本年度は新たに本科第４２期故山本忠浩君と本科第４４期故吉川敏文君が祀られ、本顕彰碑献花式には、御遺族の２家族７名の方々も参列されました。

式では、國分学校長に続いて、折木会長が顕彰の辞を奉読し、本校を卒業した同窓生を代表して、９５柱の御霊の安らかならんこと、並びにご遺族の御健勝を祈念しました。

併せて参列した第１期生から第５９期生（３個期除く）までの各期代表が献花を行いました。

また当日は顕彰碑献花式に先立ち、同窓会主催の記念会食が行われ、各期代表のほか、学校長や各幕幕僚長代理の方々が同席され和やかな会食になりました。

前日に引き続く１１月１５日（日）、折木同窓会長は雨の上がった小原台に到着し、中谷防衛大臣（本科第２４期卒業）を出迎え、本館２階和風応接室において学校長を始めとする来賓の方々とともに、中谷大臣を囲んで懇談を実施しました。

更に記念式典・観閲式に引き続き祝賀会食に参加し、部内外からの多勢の来賓で盛会となった祝賀会食は、会長の万歳三唱でお開きとなりました。

祝賀会食の後、会食場に隣接する学生会館で賑やかに行われていたＨＶＣ会場に学校長とともに足を運び、卒業２０周年を祝う第３９期卒業生（９６家族、総勢２５７名）の輪に入り大いに歓談

しました。会は現役防大生（応援団リーダー部）が口上を述べた後に「逍遥歌」で大盛会のうちに閉会を迎えました。

（本部事務局　総務部　25 期陸　川上幸則　記）

記念会食（同窓会主催）で挨拶する折木会長

「顕彰の辞」を奉読する折木会長

献花する折木会長

中谷防衛大臣（第24期卒業）との懇談

記念会食時の万歳三唱

39HVD会場での挨拶

逍遥歌の輪（中央に学校長・会長）

折木同窓会長の海外支部訪問

2016.03.01

今回の海外支部訪問は、2016 年 1 月 31 日(日)から 2 月 6 日(土)の間、インドネシア共和国、タイ王国、シンガポール共和国の 3 か国で実施されました。

インドネシア共和国訪問は、タイ王国、シンガポール共和国に続く防大同窓会インドネシア支部の設立に伴うもので、本訪問に関連して、国防次官及び陸軍人事部長を表敬訪問するとともに、同国の最高指導者を教育するレムハンナスにおいて基調講演を実施することで、両国の関係強化に寄与するものとなりました。なお、本訪問においては、在インドネシア防衛駐在官小宮 1 等海佐（防大 41 期）が案内・随行しました。

インドネシア支部設立記念式典は、2 月 1 日（月）1700 から在インドネシア日本国大使館講堂において、同窓会長、防衛駐在官、インドネシア同窓生 12 名が参加し、藤井総務部長の司会により、式は厳粛に開始されました。当初、同窓会長から、「本日、タイ、シンガポールに続き、インドネシア支部が設立されたことは、同窓会本部として非常に嬉しく思っています。私の時代には留学生はいませんでしたが、現在の防大ではアジアから多くの留学生が学び、インドネシア共和国からは卒業生 27 名、在校生 12 名が小原台で学んでいます。今後、益々国際化が進むことを考えると防大同窓会を通して、お互いの同窓生がインドネシアと日本の関係強化に寄与する意義は極めて重要であり、「切磋琢磨」、絆を深くして発展することを祈念します。」との挨拶があり、初代支部長アルラディクス・ディジャンセナ氏（防大 47 期、研究科 52 期）に委嘱状と盾が手渡されました。インドネシア初代支部長からは「このような機会を与えられたことへの感謝と防衛大学校の卒業生とし

て、日本とインドネシア共和国の架け橋となって、自分の力を信じ、地に足をつけ一歩一歩着実に前進する」との決意の言葉が述べられ、記念すべき発会の日となりました。

（News&Topics～期生会：初代支部長の挨拶参照）

その後の懇親会では、同窓会長を囲んで同窓生が日本語で楽しく懇談することで、「同窓生の疑問や防大同窓会の今後の活動等」について、認識を深めることができました。また、この場において、永年に渡りインドネシアの同窓生の面倒を見て来たデデ・ユリアーディ氏（研究科３２期）に、会長より感謝の言葉と同窓会の半被が贈呈されました。

今回の訪問に関連して、国防次官の表敬（２月１日（月）午前）においては、急遽、大統領の要務が入り、国防大学学長ミリオ中将が対応されました。懇談では、先方より折木会長のインドネシア共和国への貢献に対する感謝の言葉と日本との関係強化、特に人事交流等の発展に尽力してほしいとの非公式の発言がありました。

陸軍司令部人事部長スサント少将の訪問（２月２

日（火）午前）では、前日会った陸軍の同窓生が陪席する中、なごやかな雰囲気で懇談が行われました。

この懇談の中で、人事部長からは、「現在の人事交流は防大の本科学生及び研究科学生のレベルであり、今後は幹部中級等の関係へとレベルを上げていきたい」との非公式の意向がありました。また、インドネシア同窓生から折木会長に対して、「今後の同窓会活動」に関する質問があり、それに対して、会長は「非公式の同窓会活動は、先ず防大卒業生としての誇りを持って、皆が「切磋琢磨」して仕事に専念すること、そして、将来的には同窓会本部とインドネシア支部、アジアの支部と支部の関係が、人と人の交流を通して発展するような礎を構築していきたい」との説明がなされると、同窓生の顔も引き締まり、極めて印象的な懇談でした。後で聞いた話ですが、この表敬に同席するために、ハリマンタン島の部隊から 2 時間のフライトで駆け付けた同窓生もいました。

レムハンナス訪問（2 月 1 日（月）午前）はブディ学長の強い意向に基づくもので、当初の懇談の中でも、日本の防衛研究所のカウンターパートとして、今後、自衛隊から上級幹部を派遣してほしいとの発言がありました。続いて、約 60 名が聴講する講堂で、「東アジア及びＡＳＥＡＮ地域の諸問題について」の基調講演の後、約 1 時間に渡り教官や学生の質問に回答するものでした。質問としては、日米関係、中国に関する日本の認識、日本の安全保障法制、防衛装備品の輸出等に関するもので、彼らの関心事項を理解し説明することで、聴講者の認識を深め、関係強化に繋がるものでした。

2 月 2 日（火）、インドネシア共和国からタイ王国へ移動、同日夜にはタナラット・ウボン前支部長と夕食を共にし、タイ支部長として同支部をまとめてこられた功績に対する労をねぎらうことができました。

2 月 3 日（水）、在タイ防衛駐在官　木ノ下憲一郎 1 等陸佐（防大 40 期）の案内・随行により、国軍副司令官　プラサン・スッカセート海軍大将、空軍士官学校長　チャットチャイ・ブンヤヌラック空軍大将、新支部長である空軍参謀長　ジョム・ルンサワン空軍大将（防大 26 期）、海

軍士官学校長　ルーチャイ・ルッデット海軍大将を相次いで表敬しました。いずれも防大卒業生が通訳を務め、和やかな雰囲気での意見交換でした。

意見交換の主な内容は次のとおり。

☆ 国軍副司令官　プラサン海軍大将：

・ 日本・タイ関係の緊密化（王室レベルから国政レベルまで）は重要

・ コブラゴールド等の共同訓練を含め自衛隊諸活動にタイの協力は今後とも必要

☆空軍士官学校長　チャットチャイ空軍大将：

・ 空軍士官学校の概要説明（ビデオ）

・ 現行の予備士官学校３年・士官学校４年システム（3・4 システム）を近いうちに（2・5 システム）へ変更予定（最終学年に職種学問を集約）

☆空軍参謀長　ジョム空軍大将：

・「良い武器を保有すれば、平和になる。」を強調しており、日本からの装備品導入に期待

・ 韓国製練習機（８機）の導入を決定（低価格を追求）

☆海軍士官学校長　ルーチャイ海軍大将：

・ 日・タイの共同訓練の推進を要望

・ 地雷処理・潜水艦技術の教育提供を期待

在タイ日本国佐渡島志郎特命全権大使主催の防大同窓生新年会は、1900 から大使公邸において行われ、同窓生約 90 名が参加しました。新年会は木ノ下防衛駐在官が司会を務め、佐渡島大使挨拶・乾杯に引き続く、タナラット前支部長への防大校長からの感謝状贈呈、ジョム新支部長への支部長委嘱状授与、同窓会長からの祝辞・記念品贈呈を行い、最後は参加者全員による写真撮影と声高らかに防大校歌を斉唱してお開きとなりました。

タイから防大への受入総数は 193 名、卒業生は既に 166 名であり、既に海軍大将 2 名、空軍大将 2 名を含め十数名の将官を輩出しています。現在は 25 名（日本語教育中を含め）が在校中です。

2 月 4 日（木）、タイ王国からシンガポール共和国へ移動、なお、本年は日本・シンガポールが外交関係を樹立して 50 周年目の節目の年であります。

1530 から在シンガポール防衛駐在官　和田和起 1 等陸佐（甲南大卒、96 幹候）の案内・随行により、在シンガポール日本国竹内春久特命全権大使を表敬、自衛隊に対する支援への御礼を申し述べるとともに、防大へのシンガポールからの留学状況等の説明を行った。この際、竹内大使からは大使館としても防大への留学生が増加するよう働きかけをする、との力強い言葉を頂いた。在シンガポール日本国大使館主催の防大同窓生新年会は、1830 から市内のレストランにおいて行われ、

同窓生等 24 名が参加した。

新年会は和田防衛駐在官が司会を務め、折木会長挨拶・乾杯に引き続く、スティーブン・タン・ブンヘン新支部長（防大 39 期）への支部長委嘱状授与、記念品贈呈を行い、最後は参加者全員による写真撮影によりお開きとなりました。

シンガポールから防大への受入総数は 39 名、卒業生は既に 37 名、現在は 1 名が在校中です。

2 月 5 日（金）、新支部長スティーブン海軍大佐の職場で

ある Singapore Maritime Crisis Center（SMCC）を訪問した。SMCC は 2011 年（平成 23 年）に設立、シンガポールが直面する海上安全全般、海賊や海難事象、不法入国など広範囲に渡って対応するため、縦割りの省庁にとらわれず、海軍や警察、港湾局、移民局、入国管理局などで構成されている。スティーブン支部長はＳＭＣＣの隷下部隊である National Maritime Sense-making Grope（情報収集・管理・分析部門担当）の指揮官であり、平成 27 年 12 月から現職に就いておられます。

２月６日（土）、シンガポール共和国を離れ、帰国した。３ヶ国を６日間でめぐるという強行予定であったが、各支部長と直に会い、意見交換することにより、防大同窓生との関係を強化するという主目的は十分に達成できたものと考える。

また、各国の防大同窓生が現役及びＯＢを問わず、現地において大いに活躍している姿を実際に

垣間見る機会を得たことは大きな成果と言える。今後の同窓会長の海外支部訪問に関しては海外支部設立、或いは支部長交代時等に日程を合わせる方向で継続検討する予定です。

（随行者藤井総務部長＆佐々木経理部長記）

平成 27 年度防衛大学校卒業式典に出席

2016.04.07

東京の桜の開花が宣言された平成 28 年 3 月 21 日（月）防衛大学校卒業式典（本科第 60 期学生、理工学研究科前期課程第 53 期学生、理工学研究科後期課程第 13 期学生、総合安全保障研究科前期課程 18 期学生、総合安全保障研究科後期課程第 5 期学生）が挙行され、折木同窓会長が出席しました。

式典には自衛隊最高指揮官の安倍内閣総理大臣、本校第 24 期卒業生でもある中谷防衛大臣、及び清家慶應義塾長を代表とする御来賓多数が参列されるとともに、ＨＣＤ（ホームカミングデイ）として招待された 17 期卒業生や卒業生の御父兄等部内外からの多くの来場者が見守る中、國分学校長から本科 60 期学生一人一人に卒業証書が手渡されました。

本年度の卒業生は本科 439 名、うち女子学生 31 名、留学生 20 名（カンボジア王国 2 名、インドネシア共和国 3 名、モンゴル国 4 名、フィリピン共和国 2 名、タイ王国 5 名、東ティモール民主共和国 2 名、ベトナム社会主義共和国 2 名）でした。

卒業式のおける学校長式辞、内閣総理大臣訓示等は次のとおりです。

・学校長式辞

・内閣総理大臣訓示

・防衛大臣訓示

・来賓（清家慶應義塾長）祝辞

式典は卒業式に引き続いて任命・宣誓式、観閲式、午餐会が整斉と行われました。

任命・宣誓式では、恒例の帽子投げで一旦記念講堂を駆けて出た卒業生が、思い出の詰まった紺色の学生制服から陸・海・空それぞれの制服に腕を通して再び記念講堂に整列し、服務の宣誓を唱和した後、各要員代表が安倍総理に宣誓書を手渡しました。

在校生による観閲式の後、卒業記念の午餐会が学生食堂にて開催され、折木同窓会長が来賓祝辞として、「小原台上で培った４年間の事をいつまでも忘れずに部隊勤務に精励されたい」旨、祝意と激励の言葉を餞の言葉としました。

（本部事務局担当記）

平成27年度防衛大学校卒業式 学校長式辞

本日、防衛大学校本科第60期生、及び理工学研究科と総合安全保障研究科の前期課程と後期課程の諸君が所定の課程を修め、卒業のよき日を迎えました。

この中には、タイ、フィリピン、インドネシア、モンゴル、ベトナム、カンボジア、韓国、東ティモールからの留学生諸君も多数含まれています。留学生諸君が、防大卒業生としての誇りを胸に、将来、母国と日本との架け橋として活躍してくれることを心より期待しています。

防衛大学校の教職員を代表して、本日小原台を巣立つすべての卒業生諸君に対して、心から祝意を表したいと思います。

「学生諸君、卒業、おめでとう！」

本日はまた、卒業生諸君を支え、見守ってこられたご家族・ご親族の皆様に対しましても、防衛大学校を代表して心よりお慶びを申し上げます。

この式典に際し、日本国の最高リーダーである安倍晋三内閣総理大臣、本校の卒業生でもある中谷元防衛大臣の御臨席を賜りました。これは防衛大学校だけに与えられた最大の栄誉であります。防衛大学校を代表して、衷心より御礼と感謝を申し上げます。

また、本日の卒業式には、数多くのご来賓の方々をお迎えすることができました。ここに本校を代表して、すべてのご来賓の皆様方に厚く御礼を申し上げます。私の友人でもある清家篤慶應義塾長には、後ほどご来賓を代表してご祝辞を賜ります。

本日の卒業式には、昭和48年（1973年）に防大を卒業された第17期の皆さんが、43年ぶりにホームカミングデーで参列されています。本日、ここに集われた防大卒業生の皆さんは、危機と隣り合わせのぎりぎりの場で、国の平和を守るという職務を全うされ、今日までの日本の安寧を支えてきました。

今日の日本の平和と繁栄は、第17期の皆さんをはじめとした自衛隊が、日常生活から見

えないところで、地道にかつ誠実に任務を遂行された賜物であります。ミッションを無事にコンプリートされて、今日この小原台に凱旋された第17期の皆さんに盛大な拍手をお願いいたします。

さて、防衛大学校の存在意義とは何でありましょうか。それは一言で言えば、国と国民を守る最後の砦、自衛隊の幹部を養成するという明確な目的をもった日本でただ一つの最高学府だという点にあります。防大の役割を他の学校に代替してもらうことはできないのです。20年、30年後の日本の安全と平和は、本日この地を羽ばたく卒業生諸君の双肩にかかっているのです。

今日、我が国をめぐる近隣の安全保障環境は、年々、量的にもまた質的にも厳しさを増しており、自衛隊の活動範囲は広がり、かつ複雑なものとなりつつあります。

本日の卒業生諸君が自衛隊の中核となる20年、30年後の内外をめぐる情勢を想像することは容易ではありません。にもかかわらず、情勢の多様化と複雑化がさらに進むであろうことは容易に想像できます。その不確実な時代の自衛隊を担うのが、まさに本日卒業する諸君であります。

式辞の結びに、卒業生諸君に対して、学校長の最後の訓示として、次の三点を贈ります。

一．防大プライドを忘れるな

防大プライドとは何か。それは要するに、「紳士・淑女としての気品を胸に、真の勇者であると同時に、良き社会人たること」。「良き社会人」とは何か。それは、人のために生きることを最大の喜びであり、誇りとする人間であります。それが防大の建学の精神であり、小原台で学んだ者の生き様です。

二．防大で培った友情と絆を忘れるな

槇智雄初代学校長は、学生舎生活を防大教育の基本の一つに捉えました。本来、college は学生全員が寮で共に暮らし、互いに切磋琢磨する中でcolleague（仲間）を作る学校を意

味します。厳密に言えば、日本の大学にcollegeはほとんどありません。その意味で、防大は明確にcollegeなのです。ここで得た同期、先輩、後輩は一生の仲間であり、宝です。防大は世界でも珍しい陸海空がともに学ぶ士官学校であり、ここで培った絆が今後の自衛隊の統合運用の成否を握ります。

三．スケールの大きな自衛官になれ

防大卒の自衛官は必ず幹部になります。しかし大事なことは、肩書よりも人間的にスケールの大きな自衛官になることです。スケールの大きな自衛官とは何か。それは大きな志をもち、チャレンジする行動力があり、たえず部下を思い、知的でバランスのとれた自衛官であります。諸君たちは、それらの種子を防大生活の中で植え付けられたはずです。それを大きく育ててください。

結びに、改めて、

「卒業生諸君、卒業おめでとう！」

平成28年3月21日

防衛大学校長 國分 良成

平成27年度防衛大学校卒業式 内閣総理大臣訓示

（はじめに）

本日、伝統ある防衛大学校の卒業式にあたり、今後、我が国の防衛の中枢を担うこととなる諸君に、心からお祝いを申し上げます。

「卒業、おめでとう。」

諸君の規律正しく、誠に凛々しい姿に接し、自衛隊の最高指揮官として、心強く、大変頼もしく思います。

本日は、諸君が、幹部自衛官として新しい一歩を踏み出す、良き機会ですので、一言申し上げたいと思います。

（平和安全法制）

北朝鮮が、核実験に続き、弾道ミサイルの発射を強行しました。挑発行為が繰り返されています。我が国の安全に対する直接的かつ重大な脅威であり断じて容認できません。

我が国の南西方面では、領空への接近や領海への侵入が繰り返されています。国籍不明機に対するスクランブルは、この10年間で7倍にも増加し、外国艦船の活動も拡大の一途にあります。

テロの脅威は、世界中に広がり、深刻さを増しています。昨年は、日本人も、その犠牲になりました。

諸君がこれから向き合うのは、まさに、こうした「現実」であります。

私たちが、望むと望まざるとに関わらず、国際情勢は絶えず変化し、日本を取り巻く安全保障環境は厳しさを増している。この冷厳な「現実」から、私たちは目を背けることはできません。

しかし、いかなる状況にあっても、国民の命と平和な暮らしは、断固として守りぬく。これは、私たち政府にとって最も重い責任であります。

その責任を全うし、子や孫の世代に、平和な日本を引き渡すため、強固な基盤を築く。そのことを考え抜いた末の結論が、「平和安全法制」であります。

「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託に応える」

この宣誓の重さを、私は、最高指揮官として、常に、心に刻んでいます。

自衛隊員に与えられる任務は、これまで同様、危険を伴うものです。しかし、全ては、国民のリスクを下げるため。その任務は、誠に崇高なものであります。そして諸君は、この困難な任務に就く道へと、自らの意志で、進んでくれました。

諸君は、私の誇りであり、日本の誇りであります。

（国民の信頼）

昨年の関東・東北豪雨。すさまじい洪水被害の現場にも、自衛隊は真っ先に駆けつけ、多くの命を救いました。

その後、自衛隊のヘリで救出された少年から、一通の手紙が届きました。あどけさが残る、しかし心のこもった、その手紙には、こう綴られていました。

「ぼくは、大きくなったら、ひとをたすける じえいたい に なりたいと思っています」と。

我が身の危険も顧みず、黙々と任務を果たす諸君の姿は、多くの国民の目に、しっかりと焼き付いています。自衛隊に良い印象を持つ国民が、過去最大、92%を超えたことも、当然の帰結でありましょう。

国民が、諸君を信頼し、大いに頼りにしている。そのことを胸に刻み、諸君には、強い使命感と責任感を持って、全力で、それぞれの任務にあたってもらいたいと思います。

（戦略的な国際協力）

諸君を頼みにするのは、日本国民だけではありません。

毎年2万隻の船舶が通過する、世界の大動脈・アデン湾では、世界の船舶が自衛隊を頼りにしています。この海域において、かつて年間200件以上発生していた、海賊による襲撃事案は、昨年、ゼロとなりました。世界に誇るべき大成果であります。

そうした自衛隊に対する国際的な高い評価の上に、昨年、戦後初めて、自衛隊から多国籍部隊の司令官が誕生しました。

その司令部には、タイ王国の海軍からも2名の幕僚が派遣されました。2人は共に、「日本の自衛隊から、多国籍部隊の司令官が来る」と聞き、司令部への勤務を、自ら、強く志願したそうであります。

いずれも、防大を卒業した、諸君たちの先輩であります。防大43期・パニャリシリ中佐は、任務終了後、こう語っています。

「舞台の融和・団結を図ることができたのは、防衛大学校で学んだ『和の精神』を重視したからだ」と。

ここ小原台での、厳しくも充実した学び、共に過ごした強い絆が、戦後初の任務を成功へと導く、大きな原動力となったことは間違いありません。

本日、ここには、インドネシア、カンボジア、タイ、韓国、東ティモール、フィリピン、ベトナム、そしてモンゴルからの、留学生の皆さんもいます。是非、皆さんも、我が国と共に、世界の平和と安定のために大きな役割を果たしてほしい。大いに期待しています。

幹部自衛官となる諸君もまた、国際的な視野を持ってほしいと願います。

自衛隊が活躍する分野は、グローバルに、飛躍的に拡大しています。私は、これまで63の国と地域を訪問し、400回を超える首脳会談を行ってきました。ほぼ必ず、防衛協力が、大きな話題となります。キャパシティ・ビルディングや、装備・技術協力など、自衛隊が有する高い能力による協力が求められています。

もはやどの国も、一国だけで、自国の安全を守ることはできない。そうした時代にあっ

て、戦略的な国際防衛協力は、日本の平和のみならず、アジア・太平洋地域、ひいては世界の平和と安定にとって、欠かすことのできないものであります。

世界の平和は、諸君の双肩にかかっている。その気概を持って、諸君には、世界を視野に入れて、日々、研鑽を積み重ねてほしいと思います。

（積極的平和主義）

「日本の自衛隊に、とても感謝している。」

「日本を大切にしなさい。」

幼い頃から、おじいさんに、そう教えられてきた一人の少年は、その後、軍に入隊し、ここ小原台への留学を熱望しました。そして、今、諸君たちの後輩になっています。

カンボジアからの留学生・ピセットさんのおじいさんは、自衛隊が初めて参加したカンボジアPKO、の際、現地の警察官として、諸君の先輩たちと一緒に仕事をしていました。

自衛隊の丁寧で緻密な仕事ぶり、学校や農村の子どもたちに優しかった自衛隊員の思い出などを語りながら、おじいさんは、いつも決まって、こう言っていたそうです。

「現在のカンボジアがあるのは、日本のおかげだ」と。

あれから24年。モザンビーク、ゴラン高原、東ティモール、更にはイラク、ネパール、ハイチ。今この瞬間も、南スーダンで、現地の人々の自立のため、世界の平和のために、ひたすら汗を流し続ける自衛隊員の姿を、世界が称賛し、感謝し、そして頼りにしています。

その自衛隊が、積極的平和主義の旗の下、これまで以上に国際平和に力を尽くす。平和安全法制は、世界から支持され、高く評価されています。先の大戦で戦場となったフィリピンをはじめ東南アジアの国々、かつて戦火を交えたアメリカや欧州の国々からも強い支持を得ています。

その誇りを胸に、自身を持って、新しい任務に取り組んでほしいと思います。

（現場での経験）

本日ここから、諸君は、それぞれの「現場」へと踏み出します。

私は、「現場」の情報を、何よりも重視しています。自衛隊の運用状況などについて、統合幕僚長をはじめ安全保障スタッフから、毎週、報告を受けています。そして、多くの課題について、「現場」の情報に基づいて、議論し、判断を下しています。

自衛隊が、いつ、どこで、どのような行動を行うか。諸君が担うこととなる「現場」の一つ一つの活動が、我が国の国益に直結している。そのことを肝に銘じ、これからの任務にあたってほしいと思います。

安全保障政策の司令塔である国家安全保障会議をはじめ、私の下には、将官を筆頭に、１佐や２佐を中心とした20名を超える自衛官が勤務してくれています。

防衛大学校は、戦前の陸軍と海軍の縦割りを克服することを目指し、陸・海・空の幹部候補を一元的に教育し、十分な成果を挙げてきました。しかし、陸・海・空が一体となるだけでは、もはや不十分であります。自衛隊、更には防衛省の枠を超えて、政府一体で、総合的な安全保障政策を進めていかなければなりません。

諸君にも、そういう広い視野を持って、任務にあたってもらいたい。そして、将来、諸君の中から、最高指揮官たる内閣総理大臣の片腕となって、その重要な意思決定を支える人材がでてきてくれることを、切に願います。

「現場」での経験を積み重ね、諸君が大きく成長してくれることを、心より待ち望んでいます。

（百戦錬磨）

100年以上前の、日本海海戦における、歴史的な大勝利。その「現場」に、観戦武官として立ち会った、アルゼンチン海軍のマヌエル・ドメック・ガルシア大佐は、報告書の中で、日本が勝利した要因について、こう分析しています。

「日本海海戦の勝利は、ただ勝利を得ようとする願望や熱情のみで得たものではない。」

「あらゆる警戒措置を怠らず・・・ごく細部に至るまで研究した結果、手中にしたものである。」

そして、このようにも述べています。

「日露戦争の結果は、・・・完璧な研究と用意・準備を行ったことに帰結する。」

いかなる任務も、必要十分なる訓練と、万全の備えなくして、成功を収めることはできません。もとより、精神論だけで達成できるほど、「現場」での任務は、生易しいものではありません。

今月施行される平和安全法制に基づく、新しい任務においても、「現場」の隊員たちが、安全を確保しながら適切に実施できるよう、あらゆる場面を想定して、周到に準備しなければなりません。

幹部自衛官としての道を歩み出す諸君には、それぞれの「現場」において、隙のない備えに万全を期し、任務を全うしてほしいと思います。

「百錬成鋼」という言葉があります。

鉄を百回鍛えることで、強い鋼となるように、鍛錬に、鍛錬を重ねることによって、人は成長する。いかなる困難にも打ち克つことができる人材となるという言葉であります。

卒業生諸君、どうか、諸君には、日本国民を守る「百錬の鉄」となってもらいたい。その心構えを持って、いかなる厳しい訓練や任務にも耐え、努力を積み重ねてほしいと思います。

（最後に）

そして、御家族の皆様。大切な御家族を、隊員として送り出して頂いたことに、自衛隊の最高指揮官として、感謝に堪えません。お預かりする以上、しっかりと任務を遂行できるよう、万全を期すことをお約束いたします。

最後となりましたが、学生の教育に尽力してこられた、國分学校長をはじめ、教職員の

方々に敬意を表するとともに、平素から、防衛大学校に御理解と御協力を頂いている、御来賓、御家族の皆様に、心より感謝申し上げます。

卒業生諸君の今後の益々の活躍、そして防衛大学校の一層の発展を祈念して、私の訓示といたします。

平成28年3月21日

内閣総理大臣 安倍 晋三

中谷防衛大臣訓示

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

先ほど、諸君一人ひとりが、國分学校長から、整然と、凛として、堂々と卒業証書を受け取る姿を拝見し、防衛大学校で学んだことへの自身と誇り、無限の可能性と熱き気概を、そして、今後の厳しい任務の中にあっても、人の上に立って、しっかり組織を掌握し、国民の負託に応えることのできる、強く、優しい、立派な幹部候補生になったことを確信しました。

「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり。」

ここで言う「道」とは、物事の道理、人の在り方であり、諸君は、ここ小原台で、いろいろなことを考え、学び、大切なことを身につけたことと思います。

視野を広く開き、科学的考察を養い、豊かな人間性に処世の道を求めて、国家及び社会に責任を持った幹部自衛官として、その職責を果たし得る人格と技能を修める。

「良き自衛家の前に、良き社会人であり市民たれ。紳士たれ。」

日本が主権を回復し、国際社会に復帰した昭和27年、自衛隊の前身である保安庁が設立された時、保安大学校が設置されました。

作用は人を作る。集団生活での学び、学生舎生活での規律。

理想と尊い感情は重んぜられ、服して威信を傷つけぬ慣行は、伝統となって、これを生活の誇りとする。

この共同生活は、個性を喪失させるものではなく、むしろ、個人に信の自由を与え、自身と闘志を湧き上がらせ、友情と愉快な雰囲気の中での生活、営みを与えてくれました。

学生諸君、よくぞ、耐えて、自らを鍛え、磨いてくれました。

学問と履修。学問は、妥協を許さない一つの規律でありますが、同時に、光明と力の源泉となります。防衛大学校のカリキュラムは、均整の取れた思慮分別のある人として成長して

ゆくことを目標としております。また、国家社会の基礎学の習得なしに、平和と国の独立を守る仕事に必要となる、時局の正確は判断は不可能です。

次に大事なことは、実働の訓練です。

皆さんは、校友会活動を続けてこられました。私はラグビー部でしたが、そこで学んだことは、「体で悟り、体で覚えること。」「体で悟った心理こそ、我がものなのです。」

一国の平和と独立を守るには、規律ある部隊行動と共に、体力と精神力の鍛錬が必要です。これは、私が、自衛隊のレンジャー訓練で教えられたことです。指導官、上に立つものは、勇気と迫力、忍耐と、困難を克服する気力の育成に最善を尽くさねばなりません。

統率の要諦は、人に好かれること。判断を間違わないこと。職責を放棄しないことです。

そして、国を愛する心。卒業生は、誰よりも、防衛という任務の尊さを考えなければなりません。

昨年、国会で、平和安全放映が成立しました。

我が国を取り巻く安全保障環境は、ますます厳しさを増しています。アジア太平洋地域を含め、グローバルなパワーバランスの変化が起きています。

北朝鮮は、日本の大半を射程に入れる数百発もの弾道ミサイルを配備し、核兵器開発を進展させています。今月18日にも、北朝鮮西岸のスクチョン付近から弾道ミサイルが発射され、約800km飛翔し、日本海上に落下しました。現下の朝鮮半島情勢を踏まえれば、今後、北朝鮮が局地的な挑発を含む更なる挑発行動に出る可能性も否定できません。北朝鮮による核兵器及び弾道ミサイル開発の進展は、我が国の安全保障上、極めて強く懸念すべきものであります。

一方、我が国周辺海空域における中国軍やロシア軍の活動も大いに活発化しています。自衛隊のスクランブルの回数は、10年前に比べ、約7倍に増えています。

また、東シナ海においては、中国が、公船による領海侵入を繰り返しています。今月19

日にも、海警3隻が尖閣付近で、我が国の領海を侵犯しました。

南シナ海においては、中国が、領有権について対立がある中、大規模かつ急速な埋め立て、拠点構築、軍事目的での利用など、現状を変更し緊張を高める一方的な行動を継続しています。

ハリス米大洋軍司令官は、「中国は今まさに人工島を自らの軍事能力の前方展開のための作戦拠点に変えつつある。」と証言しました。

今後、南シナ海においては、海警のほか、海軍や空軍のプレゼンスが増大される可能性があります。いわゆるA2AD能力を向上させることで同海域における航行の自由が妨げられかねないなど、安全保障上の影響も否定できません。

防衛省としても、我が国の安全保障に与える影響を注視しつつ、いかなる対応を取っていくべきか、引き続き検討していかなければなりません。

又、アルジェリア、シリア、チュニジアでは、日本人が犠牲になるなど、昨今、ISILを始めとした、暴力的なテロ過激主義が台頭しています。最近も、トルコ、エジプトで大規模な自爆テロ事件があり、多くの市民が殺害されました。

今や脅威は容易に国境を超えてくる時代となり、もはや、どの国も一国のみでは、自国の安全を守れません。

私たちは、このような厳しい現実から目を背けることはできません。政府としては、いかなる事態が起きても、国民の命と平和な暮らしを守りぬかればなりません。国民の安全を守るために、必要な自衛の措置とは何かを考え抜き、あらゆる事態を想定し、切れ目のない備えを行う責任があります。

また、日米同盟は、我が国の安全保障の基軸です。我が国に駐留する米軍のプレゼンスは、地域のおける不測の事態の発生に対する抑止力としても機能します。日本が攻撃を受ければ、米軍は、日本を防衛するために、力を尽くしてくれます。そして、日米安全保障条約

の義務を全うするため、我が国周辺において、適時適切に警戒監視の任務に当っています。平時からグレーゾン、手段的自衛権に関するものも含め、あらゆる事態に切れ目なく、日米が一層緊密に協力し、対応していくため、平和安全法制は不可欠な法律です。

このような背景から、平和安全法制が国会において成立しました。これにより、様々な危機に対する日米間の共同対処能力は飛躍的に向上し、もし、日本が危険にさらされるような事態が発生した場合でも、日米同盟は完全に機能するようになります。更に、このことを世界に発信することによって、紛争を未善意防止する力、すなわち抑止力はさらに高まり、日本が攻撃を受け .可能性は .層少な .な .て .く .考え .い .す。

この平和安全法制は、日本の平和を維持し、戦争を抑止するためのものです。誰もが、世界の平和と無事を願っています。平和は最大の福祉であり、国民は、国が繁栄すること、物資が豊かで、心が豊かな、安楽な暮らしに憧れています。

しかし、災いは忘れた頃にやってくるものです。そうであるからこそ、明日への備えが必要です。今、目の前の世界が平穏に見えても、世の中の全てが平穏であるということではありません。突然のテロ、継続中の紛争など、今この瞬間にも、世界の何処かで緊迫した状況が続いております。

平素からの備えを行っていなければ、突如として襲いかかる災害に間に合わないのは当然のことであります。

一方、平和な平素において、起こり得る脅威をしっかりと想定し、これに備えることは困難なことであります。しかし、この備えを怠ったがゆえに、招かない難を招き、また、備えていないために、難が降りかかったことに混乱して、悲惨な状態に陥った事例は、歴史の中に数多く残されています。

自衛隊の存在は、将来起こり得る脅威に、平素から備えを行うためにあります。この難事中の難事を行うことに、隊員一人一人が使命感と誇りを持って取り組んで欲しいと思いま

す。

さて、海外留学生の皆さん、卒業おめでとうございます。習慣も言葉も違う日本での勉学、大変であったと思います。先日も、東チモール大統領がお越しになっておりましたが、皆さんと日本の友情は、永遠であり、本物の絆です。

皆さんが生まれた頃、1992年、自衛隊が初めて国連PKOへの協力として、カンボジアPKOに参加しました。大変厳しい環境の中で、カンボジアの人々、国連のメンバーと力を合わせながら、道路を舗装し、紛争後のカンボジアの復興のために力を尽くしました。

選挙後、カンボジアは、立派に国の復興を成し遂げ、現在は自衛隊と同じ国連南スーダンミッション、UNMISSに医療部隊を派遣し、「支援される側」から「支援する側」へのと成長しました。

先日私は、南スーダンに派遣中の相園隊長とテレビ会議で直接お話しをしました。その際、相園隊長は、現地で起きた、次のことを教えてくれました。

日本隊は医務室を持っているが、歯科治療など日本隊の医務室では診察できないことについては、エリアの医療を担当するカンボジアの医療部隊のお世話になっている。各国のPKO要員も同様に、診察や治療が必要な時には、カンボジアの医療隊のお世話になっている。

その際、受診料については、国連の枠ではなく自国の判断で派遣されている要員は、費用を徴収されるのが通常である。しかし、日本隊だけはずっと全ての隊員が無料で診察を行ってもらっていた。

相園隊長は、そのことをずっと不思議に思っており、隊長自身がカンボジアの病院長に対して、なぜ日本隊だけこうした配慮があるのかと聞いてみたところ、カンボジア隊の院長はこう答えたそうです。

「20年前、日本はカンボジアを支援してくれた。そのささやかな恩返しである。」

このことは、自衛隊が海外の現場に赴き、顔の見える支援を行い、まいた種が、月日を経て花が開き、固い友情となり、また次の国造りを支える力となっていることを教えてくれました。

諸君は、将来、国際社会で活躍する人材となります。皆さんの行い一つ一つが、日本の信頼、国民の平和な暮らし、さらには、国際社会の平和と安定に、確実に繋がっていることを決して忘れないでください。

最後に、「体で培った真理こそ、我がものなり」

卒業生の諸君が、ここ小原台で学んだことを、いろんなところで実践をし、活躍されること、そして、ますます、自己研鑽され、それが、生涯を貫く本物の真理となることを祈念するとともに、

本日まで、学生を育て、見守り、ご指導、ご援助頂きました、ご父兄、学校関係者、ご来賓、外国政府、関係省庁、協力団体はじめ、多くの協力者の皆さんに心から御礼とお喜びを申し上げ、祝辞とします。

「卒業おめでとう！」

平成28年3月21日

防衛大臣 中谷 元

平成27年度防衛大学校卒業式 来賓代表祝辞

本日、防衛大学校を卒業される皆さま、また理工学研究科、総合安全保障研究科の課程を修了された皆さま、まことにおめでとございます。その御家族関係者の方々にも、心より御祝いを申し上げます。また本日は、私もこの栄えある卒業式に御招きを頂き、皆さまに祝辞を申し上げる機会を与えられましたことを、まことに有りがたく存じております。

さて本日防衛大学校を卒業される皆様はこれから陸海空それぞれの幹部候補生学校に進まれ、そこで一般大学卒業者とともに学ばれた後に幹部自衛官としての道を進まれるわけであります。私はいま大学の学長をしておりますけれども、もともと労働経済学という労働市場や雇用の問題を研究する仕事をしておりまして、今日はその労働経済学の視点から幹部自衛官という仕事の持っている特性について、少しお話をさせて頂きたいと思います。

結論を先に申しますと幹部自衛官は「買うことのできない人材」ということになります。

ご承知のとおり企業等の民間組織はその組織を担う幹部職員について、それを組織内で手塩をかけて育成するか、あるいは外部から出来上がった人材をスカウトするかという選択肢があります。労働経済学の用語ではこれを「Make or Buy」と申しまして、まさに「育てる」か、「買う」か、という選択です。どちらを選択するかは業種や企業規模などにもより、最終的には個別企業の人材戦略によるところもありますが、最近では日本でも大企業のトップを外からスカウトするといったことが見られるようになりました。

しかし自衛隊に限って言えば、そのトップの幕僚長をどこか外からスカウトするということはあり得ないわけですし、また連隊長、艦長、航空隊長といったポストを公募することもないでしょう。これは自衛隊に限らず、あらゆる近代国家の軍事組織に共通のことであります。

つまり自衛隊の幹部あるいは外国軍隊でもその士官たちは、軍学校や大学から初級幹部として入隊し、その中で教育を受け、育てられた者によって占められています。それは軍事組

織、とくに高度な近代軍事組織の指揮、運用といった仕事は、その組織の外にその能力を持った人材を求めることができないからであります。つまり、高度な軍事組織の幹部は、「その組織の外から買うことのできない」人材なのです。

自衛隊の使命は万が一の有事において国民の生命財産を守るために外敵と戦うことであると思いますが、そのためにもそれを担う人材を組織内でしっかりと育成していくことが不可欠なわけです。自衛隊は防衛を担う組織であると同時に教育機関であり、皆さま幹部自衛官には教育者としての役割も大きく期待されていると思います。

さてそうした「買うことのできない人材」である幹部自衛官に対して私たち国民はどのように報いるべきでしょうか。買うことできなものを英語では「Priceless」と申しますが、これはもちろん値段が無い、「タダ」ということではありません。値段をつけることができないほど価値があるという意味であり、財政の制約などもありますが、できる限りきちんとした待遇で報いるべきであります。

もちろん自衛官や多くの公務員の方々は、報酬の .め .は .く、国家、国民のために貢献したい、と言った志をもってその仕事を選ばれていると思います。民間に行く道もあったであろう有為な人材が、あえて国家、国民のために尽くそうとされるわけであります。そうした有為な人材の志を、国民の側から高く評価しているということを示すためにも、それに相応しい待遇で報いることが重要です。労働経済学的な視点からはそのように結論付けることができます。

同時に国民はお金では買うことのできない人材である幹部自衛官に対して、文字通り非金銭的な形でも敬意を示すべきであります。多くの国で軍人、公務員に勲章等を手厚く授与しているのもこのためです。そして実は、幹部自衛官にならんとする皆さんへの国民の敬意を示すもっとも象徴的なことが、この卒業式に内閣総理大臣が御臨席になっていることではないでしょうか。

日本中の大学で、卒業式に毎年総理が出席されるというのは、この防衛大学校以外には無いと思いますが、それはまさにどこからも買うことのできない人材となられる皆さまの卒業式であるからこそ、であります。総理は先ほど自衛隊の最高指揮官として訓示をされましたが、同時にそれは、私共国民を代表して皆さまに敬意を表して下さったものと、思っております。そうした崇高な職務に就かれようとする皆さまに改めて感謝の気持ちを込めまして、その輝かしい前途を祝し、お祝いの言葉と致します。本日はまことにおめでとうございまいた。

平成28年3月21日

来賓代表 清家 篤

タイ王国タナラット海軍大将歓迎会

2015.02.25

平成 27 年 2 月 12 日（木）夕刻、横須賀市内の料亭において、訪日中のタイ王国タナラット・ウボン海軍大将を歓迎する会が、防大と同窓会の共催で催されました。

当日は、タイ王国側がタナラット海軍大将他 6 名、防大同窓会から永岩会長、永田副会長等、また、昼間、防衛大学校においてタナラット海軍大将の学生講話が実施されたこともあり、防衛大学校から國分学校長以下防大関係者の方々の参加を得て、学生時代を過ごした懐かしい横須賀の潮風の香る中、和やかな雰囲気で実施されました。

会次第としては、國分学校長からご挨拶を頂いた後、同窓会長挨拶・乾杯、記念品（法被等）贈呈を実施後、会食・懇談、最後にタナラット海軍大将の挨拶を頂いた後、参加者総員で「防衛大学校学生歌」を斉唱して歓迎会を終えました。

タナラット海軍大将は、23 期の卒業生で、防大卒業後遠洋航海にも参加、その後防研一般課程にも入校されており、現在はタイ王国海軍参謀長の要職にあります。また昨年 10 月にはタイ王国同窓会支部会長に就任、最近では近隣諸国を歴訪しながら、ASEAN 諸国の防大卒業生ネットワーク構築のため、精力的に活動されています。

そんな多忙なスケジュールの合間を縫っての訪日の中、我々防大同窓生にとって原点とも言える小原台（防大）での講演と、青春時代を過ごした思い出の横須賀での宴（2 次会は同期と夜の横須賀へ）が、タナラット海軍大将にとって感慨深いものであり、今後の更なるご活躍の原動力の一助

となれば幸いです。

　最後にエピソードを１つ紹介させて頂きます。同窓生が酒席に集い最後に唱うのが「防衛大学校逍遥歌」ですが、例にもれず「いざ唱わん、防衛大学校逍遥の歌」というところで、タナラット海軍大将から、「タイ王国同窓会ではいつも学生歌を唱っている（逍遥歌は覚えていない？）」とのコメントがあり、急遽「防衛大学校学生歌」となりました。後日、「防衛大学校逍遥歌」を送り届けたいと思っております。（防大同窓会本部事業部担当 神田）

　タナラット海軍大将訪日中に、同窓生によるタナラット海軍大将を囲む会が幾つか催されました。防大卒業後 36 年有余経過しているにも関わらず、酒席に集い話をすれば、小原台で共に過ごしたあの頃に戻り解り合える、これこそが防大同窓生なのかもしれません。本投稿の末席に２つ程紹介させて頂きます。（広報部ＨＰ担当者）

第１８回防大同窓会テニス大会の結果

2015.06.10

本大会は次のとおり実施されました。

１　期日：5 月 26 日（火）1000～1700

２　場所：有明テニスの森公園

３　参加者：196 名

４　試合結果

（１）スーパーグランドシニアの部（１期～７期）

・優　勝：小田・小田組（７期）

・準優勝：阿部・土谷組（６期）

・３　位：稲垣・稲垣組（７期）

（２）グランドシニアの部（８期～１３期）

・優　勝：金子・佐藤組（１１期）

・準優勝：津田・寺田組（１２期）

・３　位：児玉・渡部組（１１期）

（３）シニアの部（１４期～１９期）

・優　勝：１６期

・準優勝：１７期

・３　位：１８期

（４）レギュラーの部（２０期～２５期）

・優　勝：２５期

・準優勝：２１期

・３　位：２４期

スーパーグランドシニア優勝の小田・小田組（7期）

グランドシニア優勝の金子・佐藤組（11期）

シニア優勝の16期チーム

レギュラー優勝の２５期チーム

永岩前同窓会長 ASEAN 海外支部訪問記

2015.09.04

永岩同窓会直前会長は、今年 8 月 5 日から 12 日までの間、インドネシア共和国およびタイ王国を訪問し、留学同窓生との親睦・交流活動等を実施するとともに、同窓生を代表し、それぞれの派遣国の関係者に対して、学生派遣に係る感謝と今後の交流促進をお願いしてきました。

今回の訪問において、前会長は、インドネシア共和国においては、軍主要幹部に対して留学生の継続的な派遣をお願いするとともに、防大同窓生に対して同窓会インドネシア支部組織の結成を促してきました。また、タイ王国においては、恒例の「タイ王国防大同窓会 2015」に参加し、留学生との親睦を深めるとともに、近い将来、"ASEAN 同窓会ネットワーク"設立に向けて、相応のリーダーシップをタイ王国卒業生にとってもらうことをお願いしてきました。

訪問に先立ち、前会長は防衛省を訪問し、空幕長等に訪問趣旨に関わる事前報告を行うとともに、市ヶ谷駐屯地内にあるスディルマン・インドネシア共和国初代国軍司令官の銅像の場所に赴きました。この銅像は 2011 年、当時のプルモノ・インドネシア共和国国防大臣から、日本インドネシアの友好親善および両国間の防衛協力・交流の今後の発展の象徴として寄贈されたものです。

ジャカルタに到着後、前同窓会長は、まず、国立追悼施設であるカリバタ英雄墓地において慰霊を行いました。この地にはインドネシア独立戦争中に戦死した元将兵等が祭られていますが、独立戦争に貢献した残留日本兵のうち 27 名がインドネシアの英雄として埋葬されています。　前会長は、インドネシア共和国国

防省防衛戦略総局長、国軍司令部情報部長、国軍司令部人事幕僚、空軍司令部情報部長、及び元海軍司令部参謀長特別補佐官であるデデ・ユリアディ元海軍准将(防大研究科大 32 期:最初の留学生)らに表敬し、それぞれ、防衛大学校に留学生を派遣して頂いていることに関してお礼を申し上げるとともに、今後の継続的な留学生の輩出を重ねてお願いしました。また、各々の意見交換の際、周辺情勢認識に係る意見交換に加え、我が国の安全保障法制整備に係る理解を得るべく、最近の国内情勢等に関して説明を加えました。

インドネシア同窓会懇親会においては、元海軍司令部参謀長特別補佐官であるデデ・ユリ アディ元海軍准将(防大研究科大 32 期:最初の留学生)を筆頭に 10 名ほどの同窓生が参加し、小原台の思い出話に宴席が盛り上がりました。本科の卒業生の専任期はすでに少佐クラスに昇進しており、いずれも各軍の要職で大活躍のようすでした。

また、タイ王国への訪問においては、恒例の「タイ王国防大同窓会 2015」に参加しました。その同窓会には、タラナット・ウボン海軍大将（本科第 23 期生）元海軍参謀長や、空軍司令官を嘱望されている現空軍参謀長のジョム・スンサワン空軍大将（本科第 26 期生）をはじめとする約 100 名の同窓生が参加するとともに、彼らの家族を含めと約 200 人という大同窓会で、大いに盛り上がりました。最後は、「海青し、太平の灘、緑濃し小原の岡辺・・・　朝（あした）に勇智を磨き、夕（ゆうべ）に平和を祈る、礎ここに築かん、新たなる日（ひ）の本（もと）のため」と、防衛大学校の学生歌を日本語の大合唱で締めとする何とも有難く、そしてとても印象深いものでした。今も彼らは日本のことが大好きです。

前同窓会長は、空軍士官学校の日本語クラブや武道クラブを視察しました。

語学関連では、各士官学校に対する中国の国家的な支援体制が圧倒的で、日本語教育の現状との格差に愕然としました。

また、合気道や柔道といった武道クラブは、日本との交流に強い関心を持っているようでした。今後、何らかの交流ができればと期待します。

現在のタイ王国同窓会支部長はジョム空軍大将ですが、今後、さらに日本の防大同窓生とタイ王国軍防大同窓生との交流・親睦を深めるとともに、「ASEAN 防大同窓会ネットワーク」の構築を積極的に推進し、タイの同窓生がそのリーダーシップをとると約束してくれました。近い将来、現折木同窓会長の ASEAN 諸国訪問の機会もあろうと思いますが、その際には、各国の同窓会支部の設立や ASEAN 防大同窓会ネットワークの構築が実現していることと期待します。

昭和 33 年から始まった防衛大学校の留学生制度は、まさに、安倍総理の推進する「積極平和主義」の走りのプログラムともいえますが、「南シナ海の波高し」の今、その真価が、問われる時代になりました。

最後に、今回の訪問に際し、航空幕僚長をはじめ、空幕の関係各位に多大なるご支援を頂戴しました。また、インドネシア共和国及びタイ王国の防衛駐在官である、小宮 1 等海佐および木ノ下 1 等陸佐には、お忙しい中、事前の調整及び訪問時の対応等、非常にお世話になりました。お陰様で多大なる成果を確保できました。この場を借りて、心よりのお礼を申し上げるとともに、今後のご健勝・ご多幸をお祈りいたします。

（本部事務局事業部 22 期島田記）

第１７回防大同窓会囲碁大会の結果

2015.09.16

１　全般

第１７回同窓会囲碁大会が、平成２７年９月５日（土）、東京市ヶ谷の日本棋院本院に於いて、昨年とほぼ同じ121名の選手が参加して開催されました。

大会は、０９４５から開会式が催され、その後、ＡからＣまでの練度別３グループに分かれ、終始熱気に包まれ、熱戦が繰り広げられました。

今回Ａグループは、各予選リーグ１位の６期と７期が優勝決定戦で戦い、６期が４勝３敗で競り勝ち、昨年に引き続き１２回目の優勝となりました。

Ｂグループは１４期が、Ｃグループは１５期がそれぞれ優勝しました。

また、４戦全勝者は、１１名でした。

試合終了後、閉会式が行われ、杉本同窓会副会長から、優勝したチームと全勝者への表章が実施され、１６３０に大会は無事終了しました。

なお、翌日行われた個人戦は接戦となり、清水氏（４期）、川上氏（５期）、志賀氏（６期）の３名が同率優勝となりました。

２　成績（2・12・17・21・23・24・25期は不参加）

順位	AGｐ	順位	BGｐ	順位	CGｐ
優勝	６期	優勝	１４期	優勝	１５期
準優勝	７期	準優勝	８期	準優勝	２２期
３位	９期	３位	１８期	３位	２０期
４位	４期	４位	１期		
５位	３期・１６期	５位	１３期		
６位	－	６位	１９期		
７位	５・１１期	７位	１０期		

※５・１１期は、BGp降格、８期･１４期は、AGｐ昇格

３　全勝賞（４勝）１１名

３期 倉田 眞治 氏、４期 西山 邦夫 氏、８期 甲斐 聖彦 氏
９期 大塚 章司 氏、庄山 正気 氏、１４期 末田 八郎 氏、中治 一秀 氏
１６期 日暮 正博 氏、１８期 村松 来多郎 氏、松本 裕 氏
２２期 財城 昭彦氏

４　次回予定

第１８回大会は、平成２８年９月３日（土）日本棋院に於いて実施します。

（事業部　籠谷貴年記）

AGp優勝　6期

BGp優勝　14期

CGp優勝　15期

指導碁（防大生）

杉本副会長観戦

競技風景

第１９回防大同窓会ゴルフ大会の結果

2015.10.06

第１９回目を迎えた恒例のゴルフ大会は、今年も千葉カントリー倶楽部川間コース(東、西、南)においてシニアの部(４期～１４期)が９月１１日に、レギュラーの部(１５期～２５期)が９月４日に開催されました。

シニア実施日前日は、記録的な大雨でコースも閉鎖されて、開催が危ぶまれましたが、倶楽部側の御努力により、当日はコースもオープンされ、晴天無風の絶好のコンディションの中実施することが出来ました。各選手は日ごろの練習成果を遺憾なく発揮され白熱した熱戦が繰り広げられました。

★ シニアの部

４期生９名の参加をはじめ各期１０名を基準として総勢１０５名が参加し各期上位５名のネット成績で争われました。

団体戦は、第１３期生が昨年に続き団体優勝の栄冠を手にしました。

※ 第４期生は、今大会を最後に卒業されます。長年のご貢献に感謝いたします。

順位は下表のとおりです。

順位	NET		
	期	SCR	AVE
優勝	13 期	362.2	72.4
２位	14 期	365.6	73.1
３位	10 期	367.0	73.4
４位	５期	369.6	73.9
５位	７期	370.4	74.1
６位	11 期	371.4	74.3
７位	４期	371.6	74.3
８位	９期	373.4	74.7
９位	９期	374.0	74.8
10 位	12 期	375.8	75.2
11 位	８期	379.0	75.8

また、１昨年第１期生からの寄贈により新設しました個人総合ベストグロス賞の第３回目の栄冠は、第１３期生（陸）菅博敏さん（ｽｺｱ)75 で、２年連続で獲得しました。

★ レギュラーの部

昨年は、１９期がグロスは４連覇し、今年はそれを阻止せんと各期とも練習を重ねてこられたところであります。今大会は２５期が新たに加わり、参加人数総勢１０９名で、上位７名のグロス及びネットで争われました。

その結果、グロスは１９期が５連覇を達成しました。恐るべし１９期の方々です・・・・。また、初参加の２５期が第３位と健闘しました。

ネットは２２期が昨年に続き栄冠を手にしました。

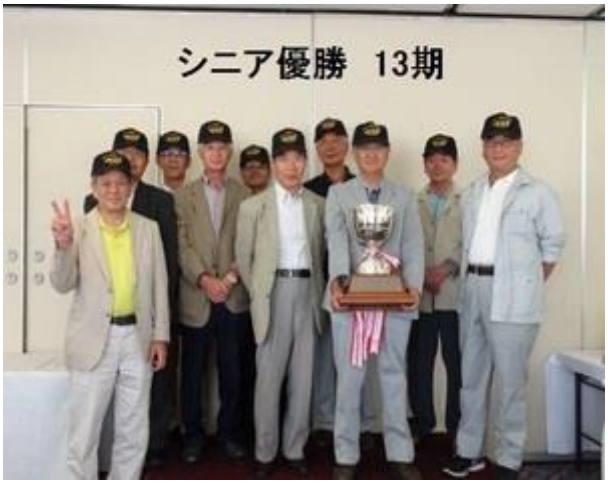
※ 第１５期は、次年度からシニアなります。

順位は下表の通りです

順位	GRS				NET		
	期	SCR	AVE	昨年との比較	期	SCR	AVE
優勝	19 期	568	81.1	→	22 期	510.2	72.9
準優勝	22 期	582	83.1	→	19 期	513.6	73.4
３位	25 期	595	85.0	初参加	18 期	514.0	73.4
４位	20 期	596	85.1	1ランク↓	23 期	516.6	73.8
５位	23 期	597	85.3	3ランク↑	16 期	517.0	73.9
６位	21 期	599	85.6	3ランク↑	25 期	517.0	73.9
７位	17 期	603	86.1	3ランク↓	21 期	519.8	74.3
８位	18 期	609	87.0	1ランク↓	17 期	522.8	74.7
９位	15 期	616	88.0	1ランク↑	20 期	525.8	74.8
10 位	24 期	627	89.6	1ランク↑	15 期	527.0	75.3
11 位	16 期	631	90.1	5ランク↓	24 期	524.6	76.1

※ ２８年度（第２０回大会）は平成２８年９月２日（レギュラー：１６期から２６期）及び９月９日（シニア：５期から１５期）を予定します。

（事業部　木村孝　記）


シニア優勝　13期

レギュラー　グロス優勝　19期

レギュラー　ネット優勝　22期

総合ベスグロ　13期　菅氏

地域支部

「関西小原台倶楽部短艇委員会」紹介 from 関西支部長

2015.01.23

防衛大学校同窓会開催支部長盛田氏から永岩同窓会長に、「関西小原台倶楽部短艇委員会」に関するお手紙を頂戴しましたので、ホームページ上に転記紹介します。（本部ＨＰ担当者）

防衛大学校同窓会　永岩会長殿

平成 26 年 12 月 25 日

関西支部長　盛田節生

防衛大学校同窓会関西支部では、同好会として「**関西小原台倶楽部短艇委員会**」（防大の短艇委員会とは無関係）なるものを立ち上げ既に 15 年程になります。

毎年 5 月の「神戸カッター大会」、7 月の「大阪港カッター大会」に出場しており、過去 100 名を超える同窓の者がカッター（6 人漕ぎ）を楽しんできました。練習については、旧神戸商船大学（現在神戸大学）ポンドにて、毎年 3 月からほぼ毎週日曜日 3 時間練習しています。

たまたま 26 年の大阪大会ポスターに、25 年大会レース参加中の我が「**関西小原台倶楽部短艇委員会**」チームがメインに使用されているので添付します。

写真中、艇指揮は、谷 2 佐（現空自幹部学校勤務）です。他にも現役海自隊員が 1 名艇員におります。因みに私は艇長でした。この艇は退役同窓生中心のロートルメンバー主体で構成されております。また、これらのレースには現役同窓生を中心としたチームも 1 艇出場しております。

防大を卒業後、同窓生がカッターを漕ぐ機会は、陸・空要員についてはまず無く、海自要員にしても部隊に出ればほとんど無いでしょう。

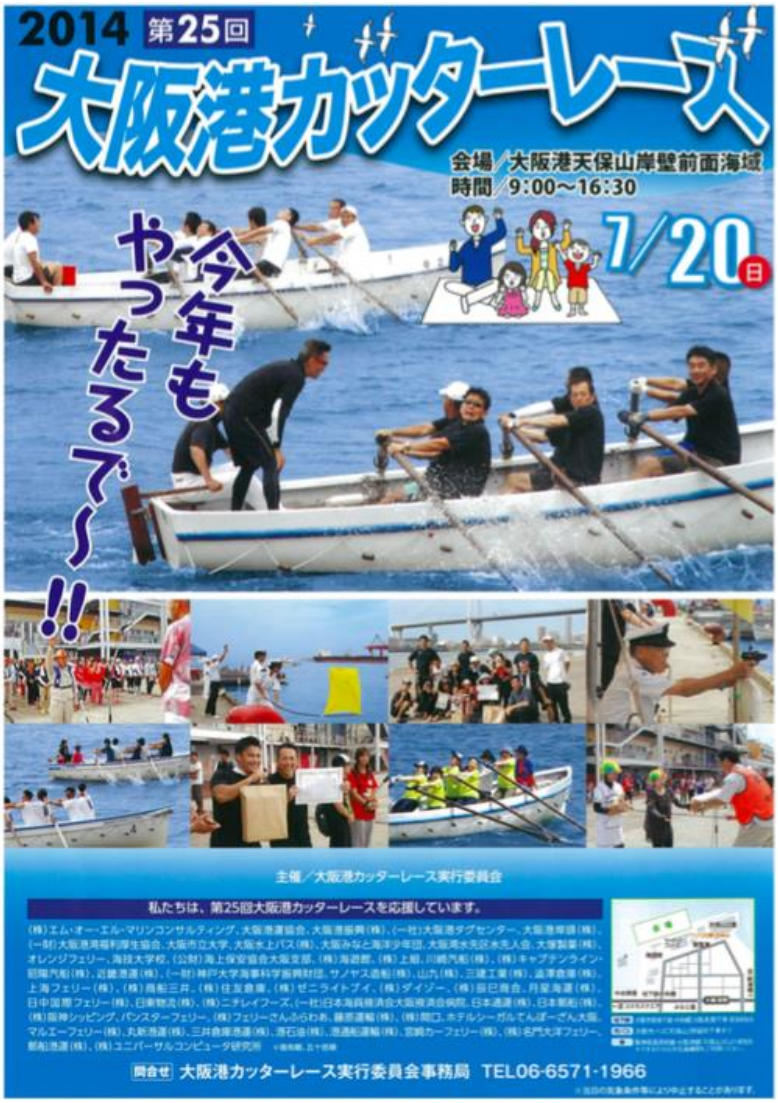
26 年は、私 13 期から 55 期までの同窓生が汗を流しての交流を楽しみました。

先日、奈良幹部候補生学校勇士の忘年会に参加してこのポスターを紹介したところ、48 期の中隊長が 27 年のカッター練習に参加してくれるとのことで嬉しい限りです。

同窓生現役・退役の老若男女が集うこのチームに、同窓生、同窓会の応援をよろしくお願いします。

出来れば、このポスターを 27 年の本部同窓会総会会場に張り出し話題にして頂ければ幸いです。

尚、27 年 2 月 28 日には関西での総会が予定されており、國分学校長を講師として招聘します。今後とも各支部の活動にご理解と応援をよろしくお願い致します。



同窓会島根地区支部の創立

2015.03.01

同窓会島根地区支部の設立を目的とした「立上げ総会・懇親会」が、平成 27 年 1 月 24 日 16 時から出雲市内の出雲会館で開催されました。

立上げ総会等には、島根県在住の 2 期生から 56 期生までの 15 名の同窓生が出席しましたが、そのうち OB 会員は 7 名、現役会員は島根地方協力本部、出雲駐屯地、高尾山分屯基地から 8 名が出席しました。

まず総会では、本会の設立準備を推進された持田氏（13 期・陸）が議事進行役を務め、支部会則の審議と役員の選出が行われ、支部長に桑原氏（5 期・陸）が、事務局長に持田氏がそれぞれ選出されました。

初代支部長に選出された桑原氏は「まず会員の親睦を深めることから始めましょう」などと挨拶されました。

次に、立上げ記念講演として現役会員の島根地方協力本部長、堀氏（32 期・陸）と高尾山分屯基地勤務、山根氏（56 期・空）による防衛大学校に関する講話があり、出席者は最近の母校の説明に耳を傾けていました。

全員の集合写真撮影後、引き続き懇親会が行われました。懇親会は最年長の金藤氏（2 期・空）の乾杯の音頭でスタート、しばらく歓談の後、参加者全

員の自己紹介では防大学生時代の若き日の思い出話に花が咲き、最後は防大逍遥歌を全員で斉唱して終了しました。

本支部は小さな所帯でありますが、OB 会員と現役会員が渾然一体となり、家庭的雰囲気が感じられる支部の設立総会でした。

（同窓会本部人事部長 吉永記）

小原台クラブ新年会＆オープンセミナーにおける懇談等

2015.03.03

小原台クラブの新年会及び宮城県知事の村井嘉浩氏（防大２８期陸上要員）を講師とするオープンセミナーが平成２７年２月２２日（日）に開催され、永岩同窓会長は会に先立ち村井知事及び小原台クラブ役員と懇談するとともに、村井知事による「防大出身知事として乗り切った－東日本大震災の体験談－」をテーマとする講演を聴講しました。

懇談の席では村井知事、小原台クラブ会長の大段和廣氏（１７期海）河野美登副会長（１７期海）長谷川礼司副会長（１７期空）等と小原台クラブの活動や村井知事が政治家を志した動機等、様々な話題に花が咲いている時に中谷元防衛大臣（２４期陸）及び菅沼祐亨名誉会長（１期海）が加わり、最近の政治情勢等の話題も含め非常に盛り上がりました。

（村井宮城県知事を囲み懇談）

（中谷防衛大臣と菅沼名誉会長加わる）

その後の講演会及び懇親会の内容は小原台クラブの投稿記事に詳しく記されているとおりであり、懇親会には佐藤正久参議院議員(２７期陸)、宇都隆史参議院議員（４２期空）も加わり、旧交を温め懇親を深める輪があちこちにできとても盛会でした。

（講演後、村井知事を囲んで）

（村井知事と同期の２８期生たち）

（本部事務局担 24 期高橋記）

平成 26 年度九州地域支部総会等の実施

2015.04.24

1　日時・場所

平成 27 年 2 月 28 日（土）・ホテル・セントラ－ゼ博多

2　内　容

総会及び懇親会

・事業報告、同窓会活動の紹介

・第４師団長、佐世保地方総監、西空司令官による近況紹介

・永岩同窓会長参加

3　参加者

現職及びＯＢ会員等約２６５名

（九州地域支部長　西村 長治）

州防衛大学校 同窓会

第 43 回沖縄寮歌・大学の歌祭りに参加（沖縄地域支部）

2015.04.24

1　日時・場所

平成 27 年 2 月 28 日（土）・浦添市　てこだホ−ル

2　内容

第 43 回　沖縄寮歌・大学の歌祭り参加

・20 数校の大学等のＯＢが寮歌等を歌い合う

・防大は学生服を着用し逍遥歌を歌う

・ＯＢの一部は大会役員として参加

3　参加者

現職及びＯＢ会員等約 15 名

（支部長　山縣 正明)

防大國分校長講話の実施（関西地域支部）

2015.04.24

1　日時・場所

平成２７年２月２８日（土）　リーガロワイヤルホテル

2　内容

部外講話

3　講演内容

「防衛大学校と日中関係」

講師　防衛大学校校長　國分良成氏

4　参加者

現職及びＯＢ会員等約９０名

（関西地域支部長　盛田 節生）

部外講話の実施（熊本地区支部）

2015.04.24

1　日時・場所

平成２７年３月１５日（日）　ＫＫＲホテル熊本

2　内容

部外講話

3　講演内容

「防衛駐在官から見た中国」

講師　西部方面情報隊長　宇部 俊宏（１等陸佐）

4　参加者

現職及びＯＢ会員等約８０名

（熊本地区支部長　齊藤 四朗）

平成２７年度防大同窓会東北支部の総会等の実施

防大同窓会東北支部の皆様へ－２７年度総会、講演、懇親会参加への御礼

2015.05.17

会員の皆様

　平成２７年度防大同窓会東北支部の総会、講演会及び懇親会が、５月１６日（土）午後、雨上がりの清々しい五月晴れの中、仙台市のメルパルクにて開催されました。ご多忙中にもかかわらずご参加下さった会員及び現職幹部自衛官の皆様、講演会で講師を務めて下さった１７期（陸）の越野様に感謝申し上げます。また、残念ながらご都合が合わず参加できなかった会員の皆様にも以下のとおり報告申し上げます。

１　総会

　副会長である原田氏（１７期（陸））の開会宣言に引き続き、国歌斉唱、物故された方への黙祷、支部長挨拶が行われ、また議長郡山氏（１８期（陸））の進行により、

　議事として

　（１）平成２６年度事業報告及び会計・監査報告

　（２）平成２７年度事業案及び予算計画案

　（３）平成２７年度役員案

が報告され、出席会員の承認を得て決定されました。

なお、今年度事業計画は本ホームページの「行事予定」欄に、新役員案につきましては「概要」欄の「役員名簿」にアップデートしております。（事業計画で細部時期が決定されていない行事等参加につきましては、とりあえず当該行事実施月の初日に記載しております。）

２　講演会

「東日本大震災からの教訓」と題して、現在は岩手大学防災研究センター教授として、災害を始めとする危機管理対処に携わる要員育成に尽力されている越野氏に講話をして頂きました。

東日本大震災当時、岩手県庁で防災監として勤務された貴重なご経験をもとに、自衛官として培った状況判断能力や有事対応の自衛隊の組織運営がいかに役立ったか、また今後予想される様々な危機に対しても十分に役立ちうるといった主旨の講話をして下さいました。

特に発災当初、情報収集努力と並行して、状況不明ながらも災害対策本部長である知事の状況判断を補佐し逐次対処方針を決定していったことや、県庁職員と自衛官との意識・考え方の違いを乗り越え、本来縦割りの県等の行政組織を有事に対応したチーム（タスクフォース）にいかにして作り変えるかといったこと、そして危機に求められるリーダーの資質として重要なことは「覚悟（信念、使命感）」であるとして、聴講した現役幹部自衛官を含む全会員に深い感銘と自信を与えて下さいました。

３　懇親会

防大父兄会萩の会会長　菅原氏のご出席も頂き、会員及び現職幹部自衛官総勢約９０名で盛大に懇親を深め、旧交を温め合いました。

吉川支部長挨拶

現役幹部の方々の自己紹介（少々緊張気味）

若き日を思い出し酒を酌み交わし・・・　　締めは懐かしき「海青し太平の洋、緑濃し小原の丘辺～」

阿波踊り防衛大学連演舞成果の概要

2015.08.27

- 2015 年 8 月 12 日徳島阿波踊り開幕、鉦（かね）や太鼓の音に騒（ぞめ）く街、夏の夜をそよぐ風を感じつつ青木連長（空 9 期）のもと、総勢約 70 名の「防衛大学連」を編成し「踊る阿呆」になって藍場浜演舞場（メイン会場）に踊リ込みました。

  「男踊りは腰を落して」「女踊リは指先まで天にのばして、にこやかで、しなやかに」「技」と「美」の競演とまではいきませんが、阿波の子供は、みな小学校高学年の頃までに、基本は体で覚えています。「よしこの」の軽快なリズムに乗れば、「下手でもいい。一生懸命踊っている姿が、見ている人に伝わるのです」

  防大連の意気を示し 12 日、１日限りの「天水たち」（阿波弁で少しおめでたくて、物事に熱中する人を指す）の熱い思いを乗せて「防衛大学連」の夏は、終りました。

  またこの「防衛大学連」の伝統行事を受け継ぐため、各方面より多数の方々から御厚志をいただき有難うございました。この紙面をお借りして厚く御礼申しあげます。

- 防衛大学連の編成

- いざ出陣

- 乱舞

防大同窓会東海支部総会成果報告

2015.12.11

１　概要

防大同窓会東海支部では、平成２７年１２月６日名鉄ニューグランドホテルにおいて、第１６回防大同窓会東海支部総会を実施した。

総会には、来賓として愛知偕行会名誉会長後藤様を始め、現職空自将官 OB４名をお招きして、平成２７年度事業報告及び平成２７年度収支決算報告と平成２８年度事業計画及び平成２８年度予算計画について報告し、満場一致で審議事項の承認を受けた。

その後の講演会では、７代目桂才賀師匠による「３３年目に入った少年院面接委員活動」と題して、少年院を含む刑務所での受刑者との面接委員活動を通じての苦労話を拝聴した。また、鏡味仙志郎氏による太神楽芸を堪能した。

引き続く懇親会では、桂才賀師匠及び鏡味仙志郎氏も交えて、３期生から５２期生までの OB ５９名が全員時間の経つのを忘れて懇親を深めることができた。

懇親会では、中盤程で桂才賀師匠による余興も飛び出し、師匠のユーモアを含めた自衛隊をネタにした話しに、全員飲食を忘れて大笑いする場面があった。

２　細部事項

（１）総会参加人員　：　５９名

内訳　愛知偕行会名誉会長

現職将官　４名（空自）

現職 OB　８名

OB 会員　４６名

審議事項　：

ア　平成２７年度事業報告及び平成２７年度収支決算報告

イ　平成２８年度事業計画及び平成２８年度予算計画

（２）講演会

桂　才賀師匠　：　演題　「３３年目に入った少年院面接委員活動」

演芸　「落語」

鏡味仙志郎氏　：　演芸　「太神楽芸」

（３）懇親会　　：　６１名

内訳　（上記　５９名）他、桂　才賀師匠・鏡味仙志郎氏

３　添付資料（写真　６枚）

初代インドネシア同窓会支部長挨拶

2016.03.01

インドネシア支部設立記念式典は、2016 年 2 月 1 日（月）1700 から在インドネシア日本国大使館講堂において、同窓会長、防衛駐在官、インドネシア同窓生 12 名が参加し、藤井総務部長の司会により、式は厳粛に開始されました。折木同窓会長からの挨拶の後、初代支部長アルラディクス・ディジャンセナ氏（防大 47 期、研究科 52 期）に委嘱状と盾が手渡されました。その際の初代支部長から就任挨拶を紹介します。

（初代支部長挨拶）

この貴重な機会を頂きましたので一言話させて頂きます。

防衛大学校同窓会折木会長、藤井総務部長、小宮防衛駐在官、防衛大学校卒業生の皆様、この防衛大学校同窓会及び懇親会を開いて頂きまして誠に有難うございます。

防衛大学校卒業生の代表として、感謝の気持ちを申し上げます。特別に同窓会長がこの国を訪問され、各職種にばらばらになっている私たちをこの貴重な機会に招待して頂き、非常に嬉しく思います。ジャカルタに来航された印象はいかがでしょうか？

我々インドネシア防衛大学校卒業生は日本の自衛隊と同じように各陸、海及び航空要員の職種に分けられます。ですから、全員そろって集まることはなかなか出来ないことなのです。さらに、今のように暖かい雰囲気で集まり、日本の同窓生及び大使館の方々と懇談ができますことは、神様がくれた奇跡だと言っても言い過ぎではありません。

各人は各勤務場所で色々な職務に励み、自分自身にもたらされた能力を発揮してインドネシアの防衛を担っています。その能力は確かにインドネシア軍の教育によるものもありますが、防衛大学校で身に付けた能力や知識もあると考えております。皆さん、この場所で今集まる理由はもう聞く

べきことではないでしょう。皆さんご存知のようにインドネシアと日本には似たようなところがたくさんあります。島国で人口が多く、国民の中に様々な文化があり、山脈地域で地震と火山噴火が発生しやすい国であります。それに伴い、津波も発生し易くなっています。地震や津波や火山噴火などの震災対応に関して、我々は軍隊の一部として支援すべきことなのです。震災対応活動を話すと日本の自衛隊はたくさん経験してきたと思います。両国の似ているところ、震災だけではなく、色色な場面での協力強化が必要だと考えています。

　そして、我々インドネシア出身防衛大学校卒業生にできることはなんでしょうか。少なくとも、日本国とインドネシア共和国の架け橋になることで両国にも大きなメリットを得ることができると思います。しかし、それまでに進む道は簡単ではないが、いろいろな壁にぶつかりながらも、自分の力を信じ、地に足をつけ一歩一歩着実に前へと進んでいきましょう。

　簡単でありますが、これからずっとインドネシアと日本の友情が強化になると祈っております。ご清聴、有難うございました。

（随行者藤井総務部長記）

平成 27 年度九州地域支部総会等の実施

2016.03.24

1　日時・場所

平成２８年2月２０日（土）　１７００～２０２０

ホテルセントラ－ゼ博多

2　内容

総会、講演会及び懇親会

3　講演内容

「日米同盟の拠点沖縄の現状と課題」

講師　２２期　惠　隆之介氏

4　参加者

ＯＢ会員１６０名及び現役６６名

（九州地域支部）

九州防衛大学校 同窓会
九州防大同窓会

平成 27 年度熊本地域支部同窓会実施成果等

2016.03.31

１　日時・場所

平成２８年3月5日（土）　１７００～２０００・ＫＫＲホテル熊本

２　内容

総会、講演会及び懇親会

３　講演内容

「防衛駐在官から見たイラン」

講師　村上　至　１佐

４　参加者

ＯＢ会員６８名及び現役２３名

（西方僚長副長、第８師団幕僚長他）合計９１名

Ⅰ　総会（１７００～１７１５）

１．開式の辞

２．国歌斉唱

３．物故者に対する黙祷

４．会長挨拶

５．議事（業務報告、会計報告、次年度役員・幹事）

６．閉式の辞

Ⅱ　講話（１７２０～１７５０）

講師　村上　至　１佐

演題　「防衛駐在官から見たイラン」

Ⅲ　懇親会（１８００～２０００）

１．開式の辞

２．会長挨拶

３．現職代表挨拶・・・西方幕僚副長　青木将補

４．琴と尺八の演奏・・会長と吉田様「春の海」

５．乾杯　　・・１期　深野　俊

６．祝宴・懇談

７．学生歌及び逍遙歌斉唱

８．万歳三唱　　・・・５９期　岩本幹部候補生

９．閉式の辞

小原台クラブ新会長挨拶

2016.04.06

昨年７月に小原台クラブ会長の任に着きました、長谷川 礼司（１７期・航空）です。

小原台クラブの主な活動としては、毎年発行の会報と新年会及び総会があります。

今年は、まず２０１６年の皮切りとして、１月３１日（日）に新年会を行いました。そのオープンセミナー（昨年の講演者は村井宮城県知事）にて、毎日新聞社会部編集委員（２６期・海上）の瀧野隆浩氏に「自衛隊のリアルを思う～国民理解を深めるために」というテーマにて講演して頂きました。

滝野氏は、防大出身者で初めて新聞メディアに勤められ、ともすれば同僚から白い目で見られがちな中で、水平な目線で自衛隊を評価・見続けてこられた「素直な感想と語り口」が７５名の参加者から好評価を得ていました。

また、第３９号の会報誌も同時に配布され、その盛り沢山の内容にも「素晴らしい！」と賞賛のお声を頂いております。

次のイベントとしては、６月末から７月初めに開催予定の総会があります。講演者はまだ未定ですが、乞うご期待ください。

防衛大学校関連

防衛大学校第６２期生期生会設立総会

2015.03.16

赤星慶治・防衛大学校同窓会副会長は平成２７年３月５日（木）、防衛大学校第６２期生の期生会創設総会に会長代理として出席、祝辞を述べるとともに、６２期生会会長に助成金を手渡しました。

当日は、春の兆しが感じられる穏やかな日であり、新たなる門出に相応しい天気でした。

期生会設立総会は、６２期生総員が一同に会し、各学生に今後活動を開始する６２期期生会の一員であることを認識させるとともに、以後の防衛大学校生活及びその先を見据えた同期生間での団結を図ることを目的に行われました。

第６２期生は全員で５３８名、うち女子学生が４６名、留学生が１５か国２１名であり、４学年５０１名、３学年４４２名、２学年４１２名に比べても多くなっています。

総会に先立ち、赤星副会長は、國分良成学校長、石塚副校長、渡邉副校長、森山幹事、湯浅訓練部長と短時間ながら懇談しました。懇談の中で、赤星副会長から、「防大卒業後に自衛隊とは別の途に進んだ人たちの『小原台クラブ』というのがあり、先日その総会に招かれて行きましたが、その際、会員の方々が口を揃えて、『防大の４年間の礎の上に我々は在る』と言っていたのが印象的でした。」と述べ、学校長以下大きく頷かれていました。

１２時から学生食堂において行われた、在校生全員が６２期生会発足を祝う会食では、國分学校

長、赤星同窓会副会長のほか、防大の首脳が来賓として紹介された後、幹事・森山陸将が祝辞を述べられました。幹事は、８師団長時代の想い出として、「前任地、北熊本駐屯地において開催された熊本陸軍幼年学校の同窓会では、８４歳・８５歳の方々が全国各地から集まっておられ、戦後７０年を経ても、遠方より御高齢をおして集まる理由は、青春時代の苦労を共にした友に会いたい、その一点にある。この小原台は同期の絆を深める場である。そのために、一日一日を大切にして欲しい。」との祝辞を述べられた。

これに対し、第６２期生会長の高橋駿太学生は、「我々は完全にゆとり世代で、学力低下などマイナス面が語られていますが、個人の創造性と自主性を重視されたので、我々は個性豊かな、特色の有る学生が多いとも言えます。ですから、沢山の意見に（傾聴し）磨きを掛け、最高の期生会にしていきたい。」と所信を述べていました。

１３１５から記念講堂において実施された期生会設立総会では、第６２期期生会会長以下１６名の役員紹介に引き続き、第６２期期生会会長による所信表明が行われ、高橋会長は、防大生としての自覚を持つ以外に期生会の方針として、

① **レベルアップのために自らが変わること**

② **留年すること無く全員が卒業すること**

③ **同期を信頼し団結すること**

を掲げ、全員が期生会を盛り上げようと誓い、

これに対し國分学校長が、「諸君ももう少しで２年生となり、真の防大生となる。全国を回り防大卒業生と懇談するが、皆が防大に熱い思いを抱き、仲が良いことが印象に残る。また、同期が昇任することに関しても、皆がお互いに応援しあう。日本には、全寮制の大学はほとんどない。しか

し防大では、ここ小原台で同じ寮で寝起きして、一緒に走って、同じ釜の飯を食って、熱く議論するなど、熱く濃い４年間を共に過ごすと、仲間意識・友情は他には見られないものとなる。私もその仲間入りできて嬉しい。本校には卒業生との交流会として、防大を卒業して２０年後に開校祭に招かれるホームビジットデー、４３年後に卒業式に招かれるホームカミングデーがある。また、入校６０年後の入校式招待も計画中である。諸君は、小原台の４年間で一生付き合う仲間が出来た。卒業してからは、規則と命令に従って暮らすこととなる。しかし、期生会会長が言ったように、そんな勤務環境においても個性的な６２期生であれ。個性がなければ人間ではないのだから。それぞれの個性を出し合うことで６２期生の味を創り出し、残り３年間は無論、卒業後も研鑽することを期待する。」と、祝辞を述べられました。

　続いて赤星同窓会副会長が、「防大同窓会は１５期の永岩会長、事務局として一番働いている２２期・２３期・２４期を含め、１期生から５８期生まで約２万４千名で構成される。その半分、約１万２千名が現役自衛官であり、約１千名が物故者である。この数は他大学と比して多くはない。國分校長の母校・慶応大学の卒業生は約３５万人と伺っており、規模の大きな大学では１学年で一万人、東京大学でも３千名という。防大同窓会は少数精鋭である。また、目的が明確である。防大を取り巻く状況などは大きく変化しているが、本校の目的は幹部自衛官の育成であり、これは不変である。ＯＢとして経済的支援は『貧者の一灯』で限界があるが、立派な自衛官となることに対する支援は惜しまない。学生綱領に有る『廉恥、真勇、礼節』を精神的基盤として、本校の３本柱で

ある教育・訓練、学生舎生活、校友会活動を真面目にやることが、立派な自衛官となる道である。このことをキチンとやってもらうことが同窓会の要望でもある。あるアンケートによれば、裁判官以上に信頼感があるのが自衛官である。国民から信頼され、国際社会から尊敬を受けるための礎を築き、研鑽されるよう願って御祝いの言葉とします。」と、祝辞を述べ、引き続き、赤星副会長から第６２期期生会会長に対して、防衛大学校同窓会からの支援金が手渡されました。

式の締めくくりとして、防衛大学校学生歌を全員で合唱して、設立総会は終了しました。

（同行者　２４期海 原田哲郎記）

防衛大学校第５９期生謝恩会

2015.03.31

平成２７年３月１９日、防衛大学校学生食堂において、第４年生(第５９期生)の企画・実行による「平成２６年度謝恩会」が実施されました。

同窓会からは、永田副会長が出席し、謝恩会に招待されたことへの御礼及びこれからの卒業生の前途は大いに期待されている旨の祝辞を述べました。また、その後檀上にて、謝恩会の実行委員長に対し同窓会からの支援金を手渡しました。

防大図書館貴重書庫で歴史探訪の旅

2015.04.10

同窓会会員の皆様、平素より防衛大学校をご支援賜り、誠にありがとうございます。

現役学生の頃、皆様は期末試験や卒業研究の準備で足繁く図書館に通った真面目学生だったでしょうか。それとも、学生舎が遠いから、という理由で図書館とは縁の薄い体力勝負の学生だったでしょうか。いずれにしても、防大図書館地階の一角にある貴重書庫の存在を案外ご存知ないのでは。本日は、そんな貴重書庫に眠る主要コレクションの紹介を兼ねて、皆様を歴史探訪の旅にご案内させていただきます。

古代ギリシアの歴史を紐解く時、ペルシア戦争(紀元前 499 年～449 年)を描いたヘロドトスの『歴史』、ペロポネソス戦争(紀元前 431 年～404 年)を著したトゥキディデスの『戦史』に続く有名な歴史書がクセノフォンの『ギリシア史』です。貴重書庫を入ると、16 世紀中葉にヨーロッパで刊行され羊の皮で装丁が施された重厚なクセノフォン全集が目に飛び込んできます。

紀元前 430 年頃にアテネで生まれた軍人で、ソクラテスの弟子でもあったクセノフォンの全集には、『ギリシア史』の他、騎兵戦術の研究やソクラテスの思い出などを記した数多くの著作が収録されています。中でも、指揮官として１万のギリシア傭兵を率いてペルシアから帰還した際の顛末を記した『アナバシス』は有名です。その後、ペロポネソス戦争ではスパルタ軍に加担して祖国アテネから追放されるというクセノフォンの数奇な運命にも興味をそそられます。

ペルシア遠征軍を撃破したスパルタ重装歩兵を彷彿とさせるのが、18 世紀のプロイセン王国軍です。1740 年、プロイセン国王に即位したフリードリヒ 2 世(大王)は、オーストリア継承戦争(1712 年～1748 年)と 7 年戦争(1756 年～1763 年)を戦い抜き、ドイツ帝国に至る礎を築いた啓蒙専制君主です。鉄の規律と機動力で圧倒的劣勢を跳ね返した「斜行戦術」に代表されるフリードリヒ大王の戦術・戦略は、ナポレオンをはじめ後の軍人に多大な影響を与えました。また、フランスの啓蒙思想家ヴォルテールや作曲家バッハとも親交の深かったフリードリヒ大王は、歴史、哲学、文学から軍事に至る多様な分野で多くの著作を残しました。1846 年から 10 年かけてベルリン王立印刷所が編纂・刊行したフランス語版のフレデリック大王全集が全て揃っているのは、日本国内では防大総合情報図書館だけです。

フレデリック大王の没後、プロイセン王国はフランス革命思想の波及という危機に直面しました。1794 年にプロイセン王国軍歩兵連隊に入隊し、14 歳で第一次対仏同盟戦争に参戦したのがクラウゼヴィッツです。彼は 15 歳の若さで少尉に昇進し、1803 年には士官学校を首席で卒業しました。

1806 年イエナの戦いで、プロイセン王国は、ナポレオン I 世率いるフランス軍に完敗しました。捕虜となったクラウゼヴィッツは、フランス抑留中に見聞を広め、プロイセン王国を立て直すための軍政改革に取り組みました。1815 年のワーテルローの戦いを参謀長として指揮したクラウゼヴィッツは、1818 年から 30 年まで陸軍大学校長として勤務する傍ら、軍事学の研究に打ち込

みました。その研究成果を、マリー夫人が遺稿集としてまとめたものが不朽の名著『戦争論』です。1832 年から 1834 年にかけて 1500 部発行された初版本が貴重書庫にあります。

クラウセヴィッツ（戦争論）

クラウゼヴィッツの軍事理論は、彼の後継者モルトケを通じて日本陸軍が採用したプロイセン式の歩兵戦術や参謀本部モデルに投影されました。その一方で、英国式兵法の導入を検討していた薩摩藩が、軍学者赤松小三郎に依頼した完訳本が「重訂英国歩兵練法(7 編 9 冊)」です。その原書 Field Exercises & Evolutions of Infantry(1862)は、赤松から坂本龍馬の手に渡り、土佐藩を経由した後、高知県出身の故上田修一防衛大学校教授を介して防大図書館に寄贈されました。貴重書庫には、赤松が翻訳に使用した原著とその完訳本が、肩を並べて保管されています。

重訂英国式歩兵練法

赤松の教え子であり、薩摩藩士として 1862 年に薩英戦争に従軍したのが東郷平八郎(1848 年～1934 年)です。東郷は 1905 年の日露戦争において、連合艦隊を率いて日本海海戦でロシア帝国海軍バルチック艦隊を破りました。東郷は日本海海戦に際し、「敵艦見ゆとの警報に接し、連合艦隊

はただちに出動これを撃滅せんとす。本日天気晴朗なれども波高し」と大本営に打電し、「皇国の興廃この一戦にあり。各員一層奮励努力せよ」と旗艦三笠にＺ旗の掲揚を指示して全軍の士気を鼓舞しました。これら二つの有名な電文を記した東郷の遺墨が、貴重書庫に所蔵されています。また、赤松が師事し、東郷に操艦術を教えた幕府海軍奉行だった勝海舟、さらには勝と共に「幕末の三舟」として名を馳せた山岡鉄舟、高橋泥舟の遺墨も所蔵されています。

東郷平八郎（遺墨）

母校を訪問された折には、是非とも図書館にも足を運ばれてはいかがでしょうか。１階には防大１期生から 59 期生までの卒業アルバムが開架されています。若かりし頃の雄姿を確認しながら在校時のほろ苦い思い出に浸ると共に、貴重図書に触れて歴史を探訪されるのも一興かと存じます。ただし、貴重書庫の閲覧には事前の許可申請が必要となります。ご来館の前に担当(閲覧係、内線 2108)へご一報願います。

防衛大学校総合情報図書館長　武田　康裕

平成 27 年度カッター競技

2015.04.24

平成 27 年４月 23 日（木）、快晴の下、絶好の海上模様の中で毎年恒例のカッター競技が観音崎京急ホテル裏（走水ボードウォーク沿い）の海面で実施されました。当日は、第２学年のご家族の皆様も陸上から大きな声で声援されるとともに出艇・帰艇するカッターの状況を走水海上訓練場内で見学していました。

競技要領等は、

１　１個中隊クルーは計２６名（艇指揮１名、艇長１名、漕手２２名、予備員２名）で構成し、４チームずつ予選４レースを実施し、各予選の勝者４チームを決定

予選２位の４チームによる敗者復活レースにより勝者１チームを決定し、決勝戦は計５チームで実施

２　競技は距離約２，０００ｍ（各コース回頭ブイ折り返し：回頭は反時計回り）をとう漕、この際、回頭中にオール等の一部が回頭ブイに当ると失格

３　表彰は、優勝を決める中隊対抗と４個中隊の総合成績で競う大隊対抗

であり、当日０８：３０から予選（４レース）及び敗者復活レースが、１４：３０から決勝レースが実施された。成績は次のとおりでした。

中隊対抗の部　優勝　**第２３中隊**（１２分２６秒）

２位　**第２２中隊**（１２分３０秒）

３位　**第４３中隊**（１２分５６秒）

大隊対抗の部　優勝　**第２大隊**

表彰式は記念講堂に行われました。中隊対抗の部では、國分校長（競技会会長）からの表彰状等の授与に引き続き、優勝クルーには國分校長から、２位クルーには森山幹事から、３位クルーには湯浅訓練部長（競技委員長）から一人一人へメダルが授与されました。引き続く、大隊対抗の部で

は國分校長から優勝大隊に表彰状等の授与が行われました。この際、授与された「メダル」は防大同窓会から寄贈されたものである事が紹介されました。

なお、防大同窓会会長代理として出席した槇原理事には、「優勝中隊・大隊に対する賛辞と第２学年に対する慰労」を表する機会を与えて頂きました。

最後に國分校長から「カッター競技に勝つためには、パワーとハーモニーに加えリズムが必要である。防大生活においても第１学年から第４学年まで、各人が各役割を果たしながら学生生活を過ごして欲しい。」と訓示され、無事に競技は終了しました。

（同窓会本部事務局担当　佐々木記）

平成２７年度定期訓練支援

2015.07.08

６月１８日朝の合同朝礼時に、定期訓練支援金を香月理事から菅井６１期期生会会長に贈呈しました。

平成 27 年度防大水泳競技会の激励

2015.10.06

渡邊理事は、平成２７年９月４日（金）平成２７年度防大水泳競技会激励のため小原台を訪問しました。秋雨シーズン真っ只中の週後半ということで、雨中の水泳大会かと危惧されましたが、当日大会が始まると見る見るうちに青空が広がり、絶好の大会日和となりました。

活力漲る水泳競技と活気溢れる応援で、大会は大いに盛り上がりました。伝統の防大リレーも顕在で、学生は作業服装で難なく快泳していました。午後からは、國分学校長と主要職員によるレースも実施され、大会に花を添えていました。学校長が完泳後、同窓会寄贈の法被を軽やかに羽織ってプールサイドの学生を激励して回り、学生がそれに応えて歓声を上げる等、微笑ましい光景も見られました。勝負の厳しさの中にも和気藹々とした雰囲気、また学生達の躍動と気迫を直接肌で感じ取れる素晴らしい水泳競技会でした。

結果は、総合優勝が１大隊、競泳で大差でトップを走っていた３大隊は水球での不振が響き２位になってしまいました。表彰式では、同窓会を代表して渡邊理事が先輩として後輩達に、『若いカの発揮に熱い思いを感じていることを伝え、防大での競技等活動を通じて人生の基盤を醸成することを期待する。』と激励しました。

大会は、多くの感動を残して閉幕しました。

（広報部　大倉 記）

学校長学生激励

小原台事務局で昼食

2015.09.04

断郊・持続走競技会の激励

2016.03.24

平成２８年３月９日(水)、早春の防衛大学校において例年どおり、断郊・持続走競技会が開催され、槇原理事が激励のため小原台を訪問しました。

当日は、今にも降り出しそうな空模様の中、断郊競技会が開始され、持続走競技会が始まる昼過ぎからは冷たい雨となり、時間を追って風雨が強まるという過酷なコンディションでしたが、競技参加者の闘争心溢れる激走と熱心な応援合戦により、終始熱気につつまれ、緊迫感が肌で感じられる素晴らしい競技会となりました。

断郊競技は、３学年（６１期）が男女混合８名により分隊を編成し、観音崎公園から防大の陸上競技場までの約７キロのコースを、背のう、水筒等を背負って分隊員総員で揃って走り切る競技です。

また、持続走競技は、４学年（６０期）が５人で１チームを編成（一部男女混合）し、陸上競技場をスタート、校内を約２周半して陸上競技場に戻って、タスキをリレーする競技であり、各人の走行距離は約５．５キロとなります。

断郊・持続走ともに、各大隊の平均タイムで順位が決定される大隊対抗戦と、上位３個分隊及びチームが表彰される、分隊・チーム対抗戦に分かれて表彰が実施され、持続走においては、女子で最も早いタイムを出した学生にも敢闘賞が授与されました。

成績は次のとおりでした。

（断郊競技 大隊対抗の部）

優勝：第２大隊（32 分 24 秒）、準優勝：第３大隊（35 分 54 秒）

（断郊競技 分隊対抗の部）

１位：４０１分隊（29 分 41 秒）

２位：１０１分隊（30 分 18 秒）

３位：２０１分隊（30 分 33 秒）

（持続走競技 大隊対抗の部）

優勝：第３大隊（20 分 31 秒）、準優勝：第２大隊（21 分１０秒）

（持久走競技 チーム対抗の部）

１位：第１大隊第１チーム（1 時間 29 分 41 秒）

２位：第４大隊第１チーム（1 時間 31 分 10 秒）

３位：第３大隊第１チーム（1 時間 31 分 15 秒）

女子敢闘賞　第３２３小隊　山脇学生（21 分 35 秒）

　また、断郊・持続走競技それぞれ１～３位までの分隊・チームと女子敢闘賞にメダルが授与され、同メダルは防大同窓会から寄贈されたものであることが紹介されました。なお、防大同窓会を代表して槇原理事が、「第３、４学年に対する慰労の言葉と優勝大隊及び１位の分隊・チームに賛辞を送るとともに、自衛隊の統合運用に向けた防大の存在意義及びそこで培われる絆の大切さ等について」述べ、学生を激励しました。

　競技会は、多くのさわやかな笑顔、汗、涙そして熱い思いを残し、無事終了しました。

（事業部 籠谷　記）

断郊・持続走競技会激励について(状況)

学校長断郊激走

断郊競技会風景

学生会館で昼食

持続走競技会風景1

持続走競技会風景2

横原理事激励

同窓生は今

タイ王国タナラット海軍大将（23 期留学生）歓迎会

2014.11.01

平成 27 年 2 月 10 日（火）夕刻、タナラット海軍大将を迎えて、23 期海上 4 班（電気）会が市ヶ谷エリアで実施されました。

関東地区に居住する同期が集まり旧交を暖めました。（下写真）

・ 前列　梶原君、武居君、タナラット君、上尾君

・ 後列　井ノ久保君、山作君、四元君、中山君、佐々木、山本君

タナラット海軍大将を囲む会（部屋会）

2014.11.01

平成 27 年 2 月 11 日（水）夕刻、タナラット海軍大将を囲んで、約４０年ぶりの部屋会を四ツ谷「えび田」にて実施しました。

防大入校して最初の部屋（1 年部屋：4 年X２名、１年X６名）のメンバーで、

・４年（20 期）：木崎（陸）、寺田（陸）

・２年（22 期）：島田（海）→対番学生

・１年（23 期）：タナラット、高橋忠（海）、 出水田（陸）、細谷（海）

の計７名が出席しました。

約４０年の時間を一気に遡って、当時の話題で盛り上がりました。懐かしく、かつ、楽しいひと時を持てたのも、タナラット君訪日と、その期を捉えてすかさず「部屋会をやるぞ！」と号令した木崎部屋長のおかげ、と感謝しております。

日タイ両国のこれからも益々の友好を祈念して散会。」（細谷記）

４２３小隊学生、４月２３日に集合す

2015.06.14

48 年前の 4 月初め、全国各地から桜咲き誇る小原台に着校した第 15 期生は、各大隊の 3 小隊学生としてそれぞれの部屋に配員され、各自の小原台での新生活がスタートした。

縁あって第 4 大隊 423 小隊の学生となった 1 学年教務 8 班の 28 名、本年の 4 月 23 日に修善寺に近い「冷川兀山（ひえかわこつやま）温泉・ごぜんの湯」に集合した。幹事の**藤井**（旧姓：狩野）は、24 名に案内状を送付した（除：物故者 2 名、連絡先不明者 1 名、1 学年時の退校者 1 名）。結果、返信者 17 名のうち参加者 10 名で挙行した。この投稿文は、今回参加出来なかった仲間を含め、その場の雰囲気を伝えたいとの思いから下手な川柳を交えつつ駄文を披露することにしたものである。（参加者名は、**太字**で示す。）

「時忘れ　楽しい時空　小隊会」「返信の　無い人こころ　変心か」

今回、残念ながら返信の無かった者が 7 名いた事に、準備に腐心し骨折りした幹事は無念を通り越して怒り悲しんでいるように感じたのは私だけではなかったように思う。心当たりの者は、次回には必ず返信だけでもお願いしますよ!

さて、当日私は伊豆箱根鉄道駿豆線三島駅改札で、はるばる佐賀県からやって来た**鬼塚**と出会い、のんびりと春の車窓を楽しみながら一足早く終点の修善寺に向かった。駅前に足湯があるのではと期待して早めに着いたのだが、足湯はバスに乗って行ってくださいとの観光案内嬢の言葉で足湯はお預け。次の電車で**深田**が到着。暫くして、杉本と藤井が車で迎えに来てくれ、電車組の残り３人を待つこと少々。やがて改札を出て来るそれらしき人物に対して「あれ誰だ　名前聞くまで判らない」という何とも愉快な時間あり。

16 時頃に、天然自家温泉　温泉湯治宿「ごぜんの湯」（宿主：**杉本**）に到着。早速、鯉を飼っていた池を転用した露天風呂に浸かり、裸の付き合いを再開し、身も心もむき出しの懐かしさで一杯で一気に 1 学年当時に戻った。「露天風呂　判定早し　メタボ腹」「留年を　しなくて済んだは

俺の功」「焼き入れた　４年の制服　俺知らねぇ」「笑えるね　あの４学年　怖かった」等々一挙に話はタイムスリップ。

17 時 5 分前に懇親会場に集合完了。近所の山でワナを仕掛け生け捕った鹿の自家製燻製肉、鯛をはじめとした近海の魚介類、新鮮な山菜等テーブル一杯の御馳走を前にした。突然、千葉県から来た**有村**から全員に意表を突く今流行の「ふなっし～・キーホルダー」のプレゼント配分サプライズ。

「気を使う　必要ないと　言う幹事」「気にするな　気は使わずに　金（かね）使う」と有村。

乾杯後、端から順に各自の近況報告が始まったが、誰かが勝手に割り込んで話し手がいつの間にか移っていたり、誰がどこまで話していたか訳が分からなくなっていたりで、幹事の再三に亘る指導・統制を受けつつ、2 巡目まで一応統制下にあったように思うが？？それと並行して欠席者からの返信が回覧され、返信はがきのコメントを皆懐かしく読んでいた。その中でも田上からは長文の手紙が届き、その中身は圧巻だった。「指導教官岩田三佐のお顔も浮かんで～」基本教練の敬礼指導時「右の手は　ウルトラマンの　ビームの手」（ビーム）----------を皆に呼び覚ました。そして、最近家では「ハイ」以外の言葉を使用していない（誰もが同意？？）という彼の川柳から一句

「遺言を　書いて気が付く　身の軽さ」

「中締めの　号令幾度も　聞き流す」「ガイダンス　思い出させる　大激論」

まるで 2 尉 3 尉の頃のように飲めや騒げやで、古稀近い面々が 6 時間も大騒ぎしたのに、強者どもがまだ 5 名も残留していた。更に温泉に再度浸かった輩が復帰してきてから、またまた激論が再開された。私は午前零時過ぎには、床に入ったが、囲炉裏を囲んで 2 名程はまだ杉本夫人（現役看護師長・白衣の天使）と懇談していたようであった。深夜に、消灯時間後の就寝を妨害するかの如き階段をドタバタと上がってくる音と声で眠りを中断された微かな記憶が残っている。翌朝、露天風呂に浸かりながら最終帰室者と疑わしき者に時刻を問うと、午前 1 時過ぎだったとか、ヤレヤレ元気なジジイ共だ。健康な証拠だ。結構！結構！ただし、「あれ程の　激論交わし　記憶なし」

朝飯前に杉本の農園を案内してもらい、多数のオタマジャクシが泳ぎ回る無農薬水田を見て回り、飼育小屋でかわいいウサギ 20 数匹に対面した。何と食用と言うのだ!!英国生まれの美味しい種とか、今回我々は食べてなかったよ。

「朝食は　食欲旺盛　自然食」「朝食後　みんな揃って　薬飲む」　残る後ろ髪を引かれる思いで、再会と互いの健康を祈念しつつ解散。医療法人の社長である**小吹**は、仕事の都合で先発。**宮崎**、**中谷**、**深田**、**堀内**（旧姓：山口）、**藤根**の 5 名は、藤井の案内で藤井邸宅、韮山反射炉、韮山代官屋敷（江川家住宅）跡、蛭ケ島（源頼朝配流の地跡）、北条政子の生家跡を巡って駅まで見送ってもらった。宮崎、中谷と私の 3 人は揃って特急電車の向い合せの席で膝を突き合わせて帰京した。この 3 人は、決して忘れることができない入校当初の同じ部屋!でした。

藤根順三（15 期・航空）

半世紀ぶりの「部屋会」

2016.03.03

平成 27 年 4 月、防大同窓生にとって第 2 の故郷とも言える横須賀（小原台）で、半世紀ぶりの「部屋会」が催されたとの記事を入手したので紹介します。

後藤 武男（5 期・陸上）

昭和 32 年春、防大 1 期生を送り出した小原台は新たに 5 期生を迎え入れた。その折、学生隊 122 小隊に我が「部屋」が誕生した。8 人部屋で、4 学年 2 人と 1 学年 6 人のメンバーで、出身高校は、北は北海道から南は九州にまたがる。メンバーは次のとおりである。

4 学年（2 期）海上：有馬 哲三郎　岡部 文雄

1 学年（5 期）陸上：後藤 武男　立部 伊承　山口 忠悳

海上：坂西 厚隆

航空：井上 正和　成田 憲正

それから半世紀、正確には 58 年、平成 27 年 4 月に 8 人のサムライが小原台に集合、1 泊 2 日の「部屋会」を開催した。全員がそれぞれの分野で防人の任を全うし、退官後 20 余年を経ての再会であった。当時 20 代前後であった若者は 傘寿と喜寿になっていた。防大入校後、半世紀たっての「部屋会」は僅少であろうかと紹介することとした。

2 日間とも晴天に恵まれ、眼下には青い太平洋 西には秀峰富士山を眺望できた。

初日は防大（小原台）ツアー。正門に 1210 集合、5 分前の精神の発揮をみた。全員矍鑠としており握手の交換。庁舎前で先ず記念写真を一枚写してツアーが始まった。

記念講堂、図書館等を戦略教育室中沢 2 等海佐（28 期）の案内で見学し、施設の充実振りに目を見張った。58 年前へのタイムマシーンが知らず知らずのうちに動き始めていた。

陸上競技場では、午後の課業へ向かう教務班単位の第 2 種パレード訓練が行われた。今回の観閲官は、3 等陸佐の女性で、教務班ごと点数評価される。

國分学校長が視察に来られており、挨拶することができ良かった。

「建学の碑」エリアを訪問、「槇初代学校長の胸像」、「学生歌碑」、「学生綱領碑」に釘づけとなった。槇イズムともいわれる自主自律を骨幹とした全人教育の「建学の精神」に触れて深く感動した。

「学生綱領碑」には建学の精神が明確に刻まれていた。徳目の一つ「廉恥」は、武士の倫理観の源とも云われる坂東武士の精神「名こそ惜しけれ」に通ずるものであり、我が国の歴史と伝統を強く感じた。学生綱領の策定に参与された方々に深く感謝するとともに心から敬意を表したい。

学生舎見学には筆述しがたいものを感じた。学生隊・学生舎での生活無くして防大なしとも云えるだろう。8 人部屋はその基盤ともいえる最小単位であった。指導と服従・挨拶・服装容儀・食事作法・対人関係等々の広範囲にわたってお互いに切磋琢磨する場で、防大教育の緊要な分野であろう。2 人部屋の時代もあったと聞いたが、俄かには信じられなかった。

学生食堂を見学した後、学生会館ホールで「学生歌」と「逍遥歌」を合唱して防大ツアーを終了、小原台から徒歩で走水を経由して宿泊先の「観音崎京急ホテル」に向かった。

ホテルでの夕食・懇親会は「部屋会」のハイライトの一つ。58 年前に部屋会（酒宴）をした記憶がない、「引率外出等はあったがなあ？」と思ったが、「当たり前だ！」１学年は皆未成年であった。今回はひょっとして初めての酒宴かも。杯を重ねる内にタイムスリップを完了し、全員 58 年前に戻っていた。

和気あいあい、重ねた年輪にふさわしい薀蓄のある言語、明解な会話に時の過ぎるのを忘れ夜遅くまで宴が続いた。「これほどの美酒、どこの酒かな？」と自問自答、すぐに回答があった。銘柄「防衛大学校」、生産地「小原台」、杜氏「槇 智雄」であった。南に磯の数え歌を聞きながら寝床についた。

2 日目の朝、幸運にも「防大カッター競技会」があり、ホテルから観戦出来るとのことでロビーに集合。目と鼻の先の海上で競技会開始。船首に砕くる青い波、鉄腕鍛ふる若人の姿を見た。

漕艇訓練の苦しさ、カッター帆走の爽快さの記憶がよみがえった。「カッター競技会」は民間の人にもファンがおり、毎年ホテルに泊まって観戦している。そういう方とスナップ写真を撮った、嬉しいことである。

この後、タクシーでホテルから馬堀海岸経由で三笠公園に向かった。車中から猿島が見え遠泳を思い出す。

三笠公園には、日本海海戦で連合艦隊の旗艦として活躍した「戦艦三笠」が記念艦として保存さ

れており、この「記念艦三笠」を海自ＯＢの丁寧な説明を受けながら見学。艦橋には東郷元帥・各参謀の立脚していた足跡がしるされており、忽ちのうちにＴＶ「坂の上の雲」の世界に入った。

折しも戦後 70 年の節目の年。明治維新(1867)から 38 年で日本海海戦(1905)、海戦から 40 年、維新から 78 年で先の大戦の終戦。

終戦から僅か 5 年で朝鮮戦争勃発・警察予備隊発足、8 年で久里浜に保安大学校開校・1 期生入校、10 年で小原台に防衛大学校の雄姿あり。三笠艦上にて、不遜にも己の馬齢に日本の近現代史を重ねた。

「三笠」の推薦で一番美味しいというカフェ・ウッドアイランドで「横須賀海軍カレー」のランチ会食を愉しみ、再会を約して解散した。

「部屋会」の時代、「防衛大学校生は同世代の恥辱」と後のノーベル賞作家が述べる世相であったが、小原台は怯むことなく若人を育成していた。その心情は、「防大逍遥歌」に簡潔明瞭に表現されている。

２期生時代には無かったと聞き、「防大逍遥歌の誕生と現状」（偕行 27 年４月号 喜田邦彦 陸自 66）を紹介した。当時は冷戦時代の中にいた。

東日本大震災における史上最大の救出作戦ともいえる自衛隊の活動や国際貢献における現地住民との親密な関係を構築しつつの行動等が、国内外から高く評価されており、誠に嬉しく力強く感じる。昨今の国際情勢は、後世「テロ戦争時代」と言われるのであろうか。

若人の城がそびえ立つ小原台は、日本と世界を見渡せる絶妙にして絶好のところにある。

そこで、青春時代を素敵な人々とともに過ごせたことを人生の宝としている。

我々防衛大学校 OB にとって、横須賀・小原台における 4 年間の学生生活は、その後の人生の基盤となっていると思います。今回のような各種イベントの投稿記事がありましたら、同窓会本部事務局へ電話又はメールでお知らせください。（広報部長）

第 59 期生に聞く（その１）

2015.09.29

航空自衛隊幹部候補生学校

第 105 期一般幹部候補生防大課程

宮川　啓一

全国の諸先輩方、同期生及び後輩の諸官におかれましては、日々の任務にご活躍のこととお喜び申し上げます。航空自衛隊幹部候補生学校第１０５期一般幹部候補生防大課程に入校中の防衛大学校本科第５９期卒業生を代表して、宮川候補生がご挨拶を申し上げます。

防衛大学校を卒業し、幹部候補生学校に入校し、早くもその大半が過ぎ、卒業まで残りわずかとなりました。「光陰矢のごとし」とはよく言ったもので、日々忙しくも充実した課程生活を送っていますと、時間の経過がとても早く感じられます。このように充実した日々の中で我々は、幹部自衛官として求められる資質の涵養と、初級幹部自衛官として必要な知識技能の修得のため、日々、勉学・訓練に全力で取り組んでいます。また、幹部候補生学校では、約半年という決して長くはない期間に各種教育・訓練を凝縮し実施されます。我々、航空自衛隊幹部候補生は『「自ら考え、判断し、行動する航空士官」の育成』という教育理念の下、起床から消灯まで常に自らの頭で考え、正しい判断を下し、行動するよう心掛けています。しかしながら、日々数えきれない失敗とうまくいかないことの連続であり、その都度区隊長及び基幹隊員の方々からご指導をいただき、多くのことを学び、成長することができていると実感しています。

今回、「小原台だより」へ寄稿するにあたり、以下の２点を述べさせていただきます。１点目は、「幹部候補生学校で学び感じたこと及び部隊で勤務するにあたりその意気込み」であり、２点目は、「防衛大学校在学中の後輩諸官へのエール」です。

まず、幹部候補生学校で学び感じたこと及び部隊で勤務するにあたりその意気込みについてで

す。幹部候補生学校では、幹部自衛官として求められる資質の涵養のために個人個人に様々な機会が平等に与えられます。各種訓練における学生指揮官、学生舎生活における当直学生や係学生及び各種行事の運営委員等を実際に経験することによって、指揮官及び幕僚はどうあるべきか、何をするべきか等について学ぶことができます。また、日々の課程生活の中でも常に指揮官としての目線を持って、物事を判断することが求められ、たとえ列員であっても指揮官が発揮すべきフォローを行わなければなりません。それらは、決して簡単なことではありませんが、幹部自衛官として必要な資質を涵養するために日々全力で努めています。このように日々悪戦苦闘していますが、そのような時に支えとなるのが同期であります。苦しいときに同期で支えあうからこそ、頑張れているのだと実感するとともに、同期の大切さを身を以て感じています。我々は、卒業と同時に部隊で勤務することになりますが、卒業まで全力で幹部候補生学校で学べることをひとつ残らず吸収できるよう努め、部隊で初級幹部としての任を果たせるよう一生懸命頑張りたいと考えます。

次に、防衛大学校在学中の後輩諸官へのエールです。それぞれの学年がそれぞれの置かれた立場・状況で日々、勉学・訓練・校友会活動に邁進しているものと思います。また、将来への希望を持ちつつも、多かれ少なかれ不安も各学年持っているのではないでしょうか。しかし、陸海空それぞれのカラーはあるものの、各幹部候補生学校での教育・訓練は、初級幹部自衛官として部隊で勤務することができるようにしっかりとしたカリキュラムが組まれています。したがって、自分は本当に幹部自衛官として部隊で勤務することができるのだろうか等の不安を持つ必要はありません。大事なことは、今自らがすべきこと為すべきことに全力で取り組むということです。また、常に自らを高めるための目標をしっかりと定め、それに向かい努力するということだと思います。５９期一同、後輩諸官を心から応援しています。

第 59 期生に聞く（その 2）

2015.10.02

題名：「幹部としての矜持」

陸上自衛隊幹部候補生学校

第 96 期一般幹部候補生 BU 課程

候補生　恩地 経生（おんじ みきお）

現在、陸上自衛隊幹部候補生学校・第９６期一般幹部候補生ＢＵ課程に入校中の防衛大学校本科第５９期卒業生、恩地候補生です。

私たち第５９期が平成２７年３月末に防衛大学校を卒業し、幹部候補生学校・前川原駐屯地の地へ赴任し、早くも半年が過ぎました。幹部候補生学校では、約３４週にわたり、陸上自衛隊の初級幹部としての職務を遂行するに必要な知識及び技能を修得させるための教育訓練を行っています。ＢＵ課程における教育訓練においては、幹部としてバランスのとれた伸展性ある資質を涵養するとともに、「指揮の要訣」の具現化を図り、初級幹部として必要な基礎的知識及び技能の修得を目標としています。幹部候補生学校において私たち５９期卒業生は、「質実剛健にして清廉高潔」の校風のもと、幹部としての資質を涵養するため、日常起居を含め、あらゆる行事等に全力で取り組みながら、充実した日々を過ごしています。

今回、「小原台だより」へ寄稿するにあたり、以下の２点を記します。１点目は「幹部としての矜恃を持つ」という点、２点目は「同期は宝」ということです。

幹部候補生学校での生活では、自ら進んで実践陶冶することが求められ、常に物事に対して疑問を持ち、本質を見極め、積極的に行動しなくてはなりません。確かに幹候校の生活は防大と比べて、自由な時間は限られています。しかし、その中において、「幹部としての視点」を持って、「幹部としての矜恃」すなわちプライドを持つ必要があります。それは決して、誰から教わるもの

でもなく、自ら考え、実践し、感じ取るものです。将来部下の前で、辛い表情を見せないような我慢強さや、的確な指示を与えて部隊を指揮するリーダーシップなどは実践あってこそ身につくものです。それは防大でも同じではないでしょうか。上級生は下級生の前では、見栄を張ってでもやせ我慢して、弱い姿を見せないようにしなくてはなりません。上級生が強い責任感を持ち、模範となり、下級生を指導し、学生舎及び校友会において、その運営の核を担うことでリーダーシップを発揮することができます。それこそが将来、「幹部らしい幹部」となるために必要な資質でもあります。

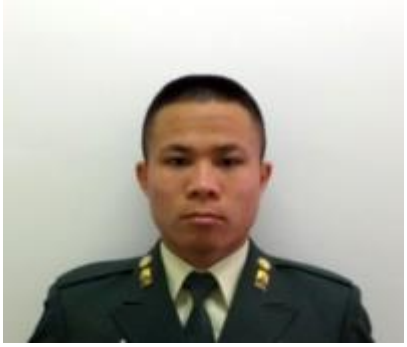
防大でも、同期を大切に、といった言葉はよく耳にすると思います。防大の校友会活動や学生舎生活で築いた同期との絆はかけがえのないものです。幹候校においても、困ったとき、辛いとき、悩んでいるときに助けてくれたり、励ましてくれたりするのは同期です。一人では成し遂げられないようなことも、同期と共に支えあい協力することで乗り越えていくことができます。ただ単に自分のためだけに、自分のことだけをやることは、楽なのかもしれません。しかしながら、それでは周りからの信頼を得ることが難しく、いざというときに誰も助けてくれないでしょう。陸・海・空の要員が同じ環境で生活している防大生活で、信頼する同期との絆を大切にし、自分を犠牲にしてでも同期のために奮闘することで、その絆はより強固なものとなることでしょう。また、きっとその絆は将来、幹部となったときに自分自身を助けてくれるはずです。

防大生活は過ごし方次第で大きく変わります。ただ何となく毎日を同じように過ごしていては何の変化もありません。常に明確な目標を立て、卒業時の理想像をイメージし、その理想に近づけるよう、同期と切磋琢磨しながら生活することで成長することができます。私自身、幹候校での生活を通して、どれだけ防大生活で時間があったかを自覚し、もっと時間を有効的に使えばよかったと後悔しています。今のうちから自分が目指す理想の幹部像を考えながら、同期を大切にして、限られた時間を少しでも無駄にすることがないように、一日一日を全力で過ごし、有意義な防大生活を過ごしてください。

第 59 期生に聞く（その３）

2015.10.02

題名：「全力を尽くして、心技を磨く」



陸上自衛隊幹部候補生学校

第 96 期一般幹部候補生 BU 課程

候補生　山口 浩平（やまぐち こうへい）

防衛大学校本科第 59 期生を代表して陸上自衛隊幹部候補生学校第 96 期一般幹部候補生（BU）課程　山口候補生がご挨拶申し上げます。

長くもあっという間に感じた防衛大学校を卒業し、ここ前川原・幹部候補生学校での生活は早くも半年が過ぎました。幹部候補生学校では、約１０ヶ月の間に、日常起居をはじめとして攻撃、防御等の訓練において実員指揮を学ぶ戦闘・戦技訓練、戦術を中心とした幹部として必要な識能教育、そして高良山登山走、藤山武装障害走等を通じて自分の心身と向き合う体育訓練等を行い、その中で最も重視されている資質を涵養し幹部としての矜持を修得するため、日々邁進しています。

今回、「小原台だより」に寄稿するにあたり、以下の２点を述べます。１点目は、「常に全力を尽くす」という点、２点目は「防衛大学校在学中の後輩に向けて」という点です。

私は、日々の生活を過ごす上で「常に全力を尽くす」ことを念頭に置いて生活しています。上記に述べたように様々な訓練や行事が教育期間に集約され、３６人の区隊員と共に高い質を求めていくとなると、少しの時間も惜しまれるほど頭を働かせて体を動かす毎日です。このような生活をどう捉えるかで自らの行動は変化していくものだと考えています。忙しいからといってただ漫然と過ごすのではなく、目標を持って精進しなければ意味がありません。私は、自らの意志で幹部自衛官になることを決意し、それに必要な識能、資質を涵養するために二度と返ってくることのない今の時間を充実したものにするため常に全力を尽くして生活しています。

また、幹部候補生学校での教育を受ける中で感じさせられることは、たくさんの方々の支援があって訓練・行事が成り立ち、教育を受けさせてもらっているということです。指導者の方々や支援してくださっている方々に対する感謝の気持ちを体現するためにも常に全力を尽くす必要があると思っています。

幹部候補生学校を卒業すれば、日本国内のいずれかの部隊へと配属され、そこでも様々な環境や試練に直面することと思います。しかし、今は今しかできないことをただひたすらに全力で取り組むことによって心技を磨き、少しでも自信をつけて部隊へ活躍の場を移していきたいと考えています。

最後に、防衛大学校在学中の後輩に向けて卒業生として一言述べたいと思います。それは、信頼できる同期をたくさん作り大切にしてほしいということです。校友会・訓練等で築いた同期との絆は、どこに行っても変わるものではなく、お互いに厳しい状況下においても必要としているときに声をかけてくれるのが同期です。私が考えている「同期」とは、楽しい時を楽しく過ごせるかどうかではなく、つらい時をどう過ごすことができるかだと思っています。陸・海・空の要員が同じ場所で生活している今を大事に、たくさんの「同期」との絆を築きこれから待ち受ける困難に立ち向かっていこう。

第 59 期生に聞く（その４）

2015.12.18

題名：「部隊での活躍を前に新進気鋭の意気込み」

海上自衛隊幹部候補生学校

候補生　馬渡 淳司

全国の先輩方、同期生、後輩の皆様、日々の任務においてご活躍のことと存じます。この度は「小原台だより」の紙上をお借りして、海上自衛隊幹部候補生学校を代表し、馬渡候補生が挨拶申しあげます。防衛大学校を卒業し、この候補生学校に入校して以来、早くも半年が経ち ました。現在、我々は幹部自衛官としての資質を養うとともにそのために必要な基礎的知識及び技能を修得するために日々邁進しております。今回は「部隊での活躍を前に新進気鋭の意気込み」という題をいただきましたので、ここに入校して半年間過ごした中で考えたことを踏まえての意気込み、そして後輩の皆様に対し、エールを差し上げたいと思います。

ここでの生活は防大時代に過ごしたものとは一変し、限られた時間の中で多くの所作を行わなくてはならず、「総員起床」から「消灯」まで一瞬の気の緩みも許すことができない日々であります。また、時代の変遷とともにここでの指導要領も見直され、指導についても変化しています。現在の指導は理不尽と呼ばれるものはほとんどなく、合理的な指導であり、また我々が行う全ての事項について詳細に規則が定められています。

この学校では多くの行事があり、４月の入校後の古鷹山登山、７月には８マイル遠泳及び水泳競技会、８月には各部隊実習、９月には幕営訓練があり、そして先日、野外戦闘訓練を行ってきました。遠泳や陸戦では身体的にも精神的にも苦しい場面が多々あり、その時に支えてくれたのは同期でした。志を同じくして、同じ屋根の下で寝食をともに行い、互いの価値を認め合える同期の存在

が今の自分を形作っていると考えています。

　また他の候補生学校と違う点で言えば、この学校では我々のような一般幹部候補生と呼ばれる学生の他に部内課程、飛行幹部候補生。幹部予定者、公募幹部課程、医科歯科幹部候補生課程と多くの課程の学生が存在していることです。他の候補生学校にも同じシステムがあり、このように多くの課程の学生が混在することに差異はありませんが、ここでは我々と他の課程の学生が密接に関わり合っていることが独特であります。候校内の生活及び規則について全ての課程の学生で問題提起、そして解決策を考えています。また、我々より部隊で多くの経験を積んだ方とお話する機会も多々あるので、自分の将来について改めて考え、物事を多方面から見ることができるきっかけとなります。

現在、国会では安保法制に関して改正が決定され、施行に向けて様々な動きがあります。そして我々が部隊で勤務する自衛隊の様子は数年前とは全く異なっています。我々の主たる任務は我が国の平和と独立を守り、国の安全を守るために我が国を防衛すること、つまり国防です。しかし従たる任務としてある国際平和協力活動、周辺事態に際しての諸活動も注目されています。アデン湾における海賊対処や南スーダンにおける支援活動等、我々に対する国民の期待は高まってきています。そして我々はその自衛隊の中核を担う存在になるということです。ここ江田島での教育は幹部自衛官として指揮を執る立場になるものを育成する教育機関として申し分ないと考えます。ここでの心境の変化として「自ら求めて学ぶ」という姿勢を心がけるようになりました。自分を高めるには他人の力ではなく、全て自分の力量によって決定されます。

　最後に後輩の皆に伝えたいことが２点あります 。１点目は「全ての物事に対し自分なりの考えや私案を常に持ってもらいたい」ということです。今はまだ責任を追及する立場ではないから関係ないという考えを持つのではなく、常に自分をあらゆる状況下において物事を考えてもらいたいです。これによりどんな場面に遭遇しても１００％の対応をすることは難しいと思いますが、良い結果へと繋がっていくと考えます。

２点目は「同期を大切にしろ」ということです。防大は陸海空の仲間がともに生活できる貴重な場所だと思います。部隊に配属され、それぞれ進む道は異なってきますが、将来必ず同期と協力する場面があると思います。その時に共に過ごした仲間の存在ほど大きなものはないと考えます。今過ごしている一日一日を大切にしてください。防衛大学校の卒業生として心から皆の活躍を期待しています。

防衛大学校卒業の先輩の皆様方、在校生の諸官な益々の発展を祈念して拙文の結びとさせていただきます。

今人生、男盛り（21 期）（その１）

2015.12.24

今、人生男盛り（ＪＭＡＳ理事長として）　　陸２１期生　荒川　龍一郎

３年前、陸上自衛隊中部方面総監を最後に自衛隊を勧奨退職しました。この３年間の間に会社顧問として採用されるとともに、ボランテイアとして認定特定非営利活動法人「日本地雷処理を支援する会（ＪＭＡＳ）」の理事長を仰せ付かり、結構　忙しく過ごしております。

折角の機会ですので、理事長を務めさせていただいておりますＪＭＡＳの紹介をさせていただきたいと思います。ＪＭＡＳは、１３年ほど前に内戦後のカンボデイアで放置された地雷や不発弾の被害に苦しむ大勢の子供たちの存在に心を痛めた自衛官ＯＢの発意で設立された自衛官ＯＢを主力とする国際活動ＮＧＯです。活動当初は資金難のためカンボデイアにおける小規模な不発弾処理事業しか出来ませんでしたが、設立当初以来のＪＭＡＳ隊員そしてご支援してくださる多くの方々のご尽力により、現在ではアフリカのアンゴラ共和国における機械処理による地雷処理活動、東南アジアのカンボデイア王国における地雷処理活動、地雷処理終了後の地域復興活動そして不発弾処理活動、ラオス共和国における不発弾処理活動、ミクロネシア地域のパラオ共和国における沈船の爆雷処理活動等、４カ国で７個事業を行い、ＪＭＡＳ隊員も陸上自衛隊のＯＢばかりでなく海上自衛隊のＯＢも加わっており、日本人約１００名、現地スタッフ約１００名を擁する組織に成長いたしました。

ＪＭＡＳ設立時に陸幕の運用課長であった私は、当時の江藤防衛部長（１６B）（故人）の強い薦めもあり部長とともにＪＭＡＳの個人会員となりました。その縁もあって今回理事長に推挙され

たようです。理事長になって事業地４カ国を全て視察させていただきました。それぞれの事業地の現場では、国情等の違いはあれ、まだまだ地雷、不発弾等処理のニーズは高く、ＪＭＡＳ事業地だけで日に数十発の地雷、不発弾等の処理をしている状況を確認いたしました。しかしながら、何よりも現地の人々にしっかり寄り添い「地道」且つ「誠実」に黙々と活動し、現地の人々に信頼されている自衛官ＯＢのＪＭＡＳ隊員に直接、接する事ができ、改めてＪＭＡＳ活動の将来に亘る必要性と有効性に確信を持ったところです。

しかしながらＪＭＡＳには大きな問題点もあります。それはＪＭＡＳの事業資金の７０％が外務省所管の単年度の無償援助資金（ＯＤＡ）であることです。防衛費と同様、国庫が厳しい状況にあるため全般的には減勢傾向にあります。このため事業の実施が常に綱渡り状態となり、なかなか中長期的な見通しを持った戦略的な事業展開ができないのです。

したがって今後は広く浅く寄付を募るとともに、寄付型自動販売機の普及等、いろいろな手段を講じて資金を集めてファンドを構築し、安定した事業が実施できるようにしていきたいと考えております。皆様のご支援ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

自衛隊の各種国際貢献活動が当たり前となった現在、２割以上の現役自衛官が海外勤務を経験しております。自衛官退職後も豊富な海外における勤務経験を生かして、海外における活動で第２の人生を送ることは本人の為ばかりでなく、世界平和と日本の安全に大きな役割を果たせる道であると思います。

同窓会員の皆様におかれましても、自衛官退官後に有意義な人生を送るための選択肢の１つとして参考にして頂きたくお願い申し上げます。

今人生、男盛り（21 期）（その 2）

2016.02.05

ありがとう自衛隊への恩返し遠距離介護故郷再生　　海 21 期生　安齊　勉

朝晩の満員電車に身を委ね会社勤めを始めて間もなく 5 年目になります。現役時代よりも少し忙しい気がしています。先輩に「俺たちは断れない症候群だよ」と言われます。お世話になった先輩や後輩から「お願いします」と声がかかれば「はい分かりました」、「やってみます」と応えることにしています。帝国海軍の猛訓練は「月月火水木金金」と言われました。一度染みついた潮気はなかなか抜けません。退職後も様々なことに取り組めるのは健康な心身のバロメーターと割り切っています。会社勤めは当然のことですので脇に置きます。日々取り組んでいる「ありがとう自衛隊への恩返し遠距離介護故郷再生」を簡単に紹介し「今人生男盛り」の寄稿とします。

再就職し改めてお世話になった自衛隊に「ありがとうございます」と感謝し「どうにか少しでも恩返ししたい」と思っています。幹部自衛官の基本は防衛大学で培われました。海上自衛官の人格と技量は幹部候補生学校、部隊、海上幕僚監部、統合幕僚監部、情報本部等の勤務を通じて深められました。家族を養い人生のすべてを教えていただきました。自衛隊時代の部隊運用の経験や同僚先輩後輩の皆さんとの絆のお陰でどうにか会社も勤まっています。

恩返しの第一は、海洋安全保障の普及や海上自衛隊を支援する公益財団法人水交会のお手伝いです。水交会の方針的事項や予算を審議する会務財務委員会や海上自衛隊等支援委員会において遠洋

練習航海部隊の壮行会や帰国歓迎行事、南極観測艦しらせの見送り出迎えなど交流行事に参画しています。活躍する現役に接する楽しみがあります。

第二は、横須賀水交会が横須賀地方総監部と協定を結び開始した隊員の留守家族支援活動であるファミリーサポートに夫婦で参加しています。海上自衛官の夫婦が災害派遣等で緊急登庁する際、隣近所や親せき等にどうしてもお願いできない小学生を水交会会員の自宅に預かり数日間の食事や宿泊通学等の面倒を見るボランティアです。今後の充実が必要です。

第三は、日米ネービー友好協会の総務総括として部隊研修や日米友好親善に寄与した日米の部隊及び隊員を表彰する会務を運営しています。米海軍の空母 George Washington 送別会や空母 Ronald Reagan 歓迎会も企画し大変に喜ばれました。日米同盟の基盤である海上自衛隊と米海軍の相互理解と友好親善に少しでも寄与できるという充実感があります。防衛大学に短期留学中の米海軍士官学校等の候補生及び防衛大学校の対番の皆さんにも声をかけています。日米交流の担い手に成長されるよう応援しています。

第四は参議院全国区から自衛隊出身議員として選出されている佐藤正久と宇都隆史後援会のお手伝いです。昨年、平和安全法制関連法が成立しました。自衛隊出身の国会議員は審議において中心的な役割を果たしています。自衛隊は各種の事態に切れ目なく対応できるようになります。日米共同体制と抑止力が強化されます。紛争を抑止し日本の安心安全を高め平和国家としての歩みを確実にするため自衛隊を運用する時代になりました。現場で汗をかく隊員の声を国政に反映させることが必要です。地に足の着いた防衛論議を引き続き深め、自衛官の処遇改善、戦没者遺骨の帰還促進に全力で取り組む自衛隊出身の参議議院議員を応援することは自衛隊 OB の役割です。お世話になった自衛隊への恩返しになります。

私事で恐縮ですが一昨年の春先に「男は役に立たない」と言う 86 歳の父を看取りました。三度の大病を乗り越え最後まで現役の農家を貫きました。秋に父は麦を作付し稲やサツマイモの苗も注文していました。四十五日を終え田植えの季節になり農協から苗が届き驚いたものです。長男とし 89 歳になる母と築１６０年ほどの養蚕農家の屋敷や山間の僅かばかりの田畑の面倒を見ることになりました。父は亡くなる前に敷地内に新しい家を建てましたので母屋が手付かずのまま残りました。父が生きている内に見て貰えるように思い切って母屋を古民家再生しました。揚屋して基礎をやり直しました。大黒柱や家の端から端まで一本の木を使った屋根裏の梁や仏間の和室等をそのまま残し囲炉裏や土間、馬屋を明るく生活しやすい間取りにリホームしました。

病気することなく自衛隊生活を全うできたのも丈夫に産み育ててくれた両親のお陰です。親に一言も相談しないで防衛大学の試験を受け入学を決めた私を両親は黙って送り出してくれました。父兄会に入り「おやばと」などを読み部隊の見学も楽しみにしていたようです。今度は私がその恩に少しでもこたえようと思っています。幸い妻の実家もひと山越えた町にあり車で１０分もかかりません。

故郷の嬬恋村は 1783 年の浅間山の大噴火により壊滅的な被害を受けました。４～５メートルの火山灰や泥流に埋もれ多くの村人が亡くなり家財や田畑も失いました。近隣の村々の協力と藩や幕府の手厚い支援を受けながら残された人々は村と生活の再生を行っています。親を失った子には子を失った親を家族とし、夫を亡くした妻には妻を亡くした夫を縁組しました。八家族ほど作り直したといわれています。幕末から明治大正昭和にかけて富岡製糸場を支える養蚕が盛んでした。現在は出湯と粉雪キャベツ生産日本一の村、愛妻の聖地ともなっています。実家の敷地内には噴火の際に

押し流されてきた小屋ほどもある大きな浅間石が２個残っています。屋敷神様の小さな祠が祭られています。

週末や連休には極力田舎に帰り土いじりに励み農家のまね事をしています。介護サービスや地域の診療所の診察を受けつつ兄弟姉妹で交代しながら母の遠距離介護にも励んでいます。慣れない畑仕事です。たいしたことはできません。隣近所の先輩に教えとお手伝いをいただいています。家の周りで田植えのまね事と大豆や小豆等を少しばかり作付しています。手の着かない大きな畑はキャベツ農家や花農家に耕作をお願いしています。空き地は旅館の駐車場に貸しています。過疎化、少子化、農産物の輸出入の自由化等課題の多い山間の寒村で生計を立てることは容易ではありません。農民は常に自立した経営者であり新しいものに挑戦する研究者としてしっかりとした技術者でなければなりません。何ができるか見当もつきません。美しい農村風景や旬な野菜の美味しさ山野や小川の持つ癒しの効果を豊かな人生に活かしたい。古いものにも改めて新しい価値を見出したい。育ててくれた故郷を活性化したい。どうにか故郷の再生に貢献したい。国家防衛から故郷防衛に取り組みたい。故郷に夢を持っています。

今人生、男盛り（21 期）（その 3）

2016.02.05

異国の地で思う　　空２１期生　小野田　治

自衛隊を退官して早３年余が経過した。再就職して間もなく、米国のハーバード大学に客員研究員という肩書で２年間勉強する機会を得た。自衛隊を退官した当時は「これで日々の緊張から解放される」と喜んだのも束の間、今度は得意でない英語と異なる生活文化、そして何より生まれて初めて体験するアカデミックな生活に緊張する日々を送ることになった。「防大での生活はアカデミックではなかったのか？」と問う読者もおいでになるだろう。少なくとも私の防大生活の実感は、運動部の合宿のようなもので、勉強もしたにはしたが、厳しい学生舎生活と校友会活動を含めてアカデミックとは程遠いものであった。

ハーバード大学は、米国東海岸のボストン市とケンブリッジ市に所在する４年制の学部と大学院をもつ総合大学である。１６３６年に創設された米国で最も歴史のある大学で、学部生約７千人、大学院生約１万４千人、教授陣約４千５百人、スタッフ等が１万１千人、敷地面積は約２千万㎡（東京都港区の面積とほぼ同等）の巨大な大学である。大学が運用する基金は約２８０億ドル（３兆３，６００億円）、ノーベル賞受賞者は４４人に上る。

私が所属したのはアジア・センターという部門で、アジア地域に関する政治、経済、文化など、あらゆる分野の研究者が多数所属している。著書「ジャパン・アズ・ナンバーワン」で、日本でもよく知られるエズラ・ボーゲル教授が同センター設立に尽力され、初代のセンター長となった。同教授の招聘によって、秋山元防衛事務次官に続いて退職自衛官が客員研究員として過去１０年余り、現任の渡部元陸将を含めて、９代にわたって同センターに所属し、我が国の安全保障・軍事政策、戦略などについて発信を続けている。

米国の教育現場を一言で表現するなら、討論によって他人の考えを理解しながら自分の考えを形成していくというものだと思う。例えば、９０分のセミナーでは、説明者が４０分前後話し、残りの時間は質疑応答と討論である。授業では先生ごとにやり方が異なるが、授業中の質問回数やその内容を評価し、全体評価の２０～３０％とすることが多い。私が聴講した授業でも、初回に試験、小論文作成、質疑の回数や内容といった評価基準の比重を数字で明示していた。従って質疑の時間になると一斉に手が挙がり、質疑や討論が盛り上がる。終始黙って授業を聞いてノートを取り、試験に全精力を集中するという、私の学生時代の文化とはあまりにかけ離れており、逡巡する日々が続いた。増してや、説明者の英語が良くわからなかったり、質問しようにも英語が出てこなかったりと、教育文化以前の問題に悩まされることが多かった。このような悩みも「窮すれば通ず」で、自らが発表する機会を得て度胸だけは付き、様々な方面から声をかけて頂いて近郊の他の大学やワシントンＤＣのシンクタンクなどにも出かける機会が増えていった。

そこでしばしば感じたのは、日本人の認識や考え方と、米国の人々のそれらとの違いである。特に顕著なのは、先の戦争をめぐる認識、いわゆる歴史認識である。例えば、いわゆる「慰安婦」の問題や、「南京大虐殺」の問題について、多くの米国の人々は正しい事実に基づかないプロパガンダ

を鵜呑みにしている。その点を指摘すると、大学の教授ですら、「日本が行ったのは事実なのだから被害者の数は問題ではない」、「日本は謝り続けなければならない」と言うのには驚くとともに、安倍総理を「歴史修正主義者」と断じるマスコミや専門家の声が大きいことにも驚かされた。日本の正当性を主張する言論は、「修正主義」というレッテルの下にほとんど無視されているように感じられた。日本は敗戦国であり、米国は戦勝国なのだと痛感した。これとは逆に、今日の安全保障に関する認識については、米国の国力低下に伴って日本の役割分担を期待するという声が多く、日米協力関係は着実に進展し相互理解も深まっているように思う。平和安全保障法制についても多くの識者は肯定的な意見であり否定的な意見は少ない。こうした姿は長期間対話を重ねてきた結果であるが、忘れてならないのは、米国は自国の国益のために日米協力強化が必要なのだという事実であり、我が国も国益のために米国を必要としているという事実である。同時に近隣の中国や朝鮮半島、ロシアとの関係改善も我が国にとって不可欠であり、相互交流によって理解を深めていく必要があるのだが、米国を含めて海外での日本の発信力はまだまだ低いと思う。その一因は、高等教育の場で安全保障、軍事が取り上げられていないからであり、憲法、核兵器、歴史認識、領有権問題などの戦後７０年間変わることのなかったタブーを打ち破り、国内外で本質的な議論を行っていく必要があると、独り異国の地で思いを新たにした。

「公文書を解読して本当の近現代史を知りたい」

2016.03.29

防大 28 期陸の及川正稔氏（ZIGEN㈱代表取締役）が「公文書現代文訳プロジェクト」を立上げて、幕末から昭和末期までの公文書直訳サイトの無料公開プロジェクトを開始しました。現在クラウドファンディングを展開中で、間もなくボランティア参画者を募集予定。興味深いプロジェクトであることから紹介します。（本部事務局広報部長）

「公文書を解読して本当の近現代史を知りたい」

国内初の公文書直訳フリー事典サイト制作：公文書現代文訳プロジェクト

READYFOR にてクラウドファンディング実施中！

～ 幕末から昭和末期までの公文書直訳を無料公開 ～

デジタルコンテンツ企画を行う ZIGEN 株式会社(本社：東京都新宿区、代表取締役：及川正稔)は、2015 年 10 月、公文書現代文訳プロジェクトを開始しました。このサイト制作費を募るため、2 月 24 日から READYFOR にてクラウドファンディングを実施しています。幕末以降の近現代史議論の根拠を明らかにするため、「みんなで作ってみんなで使う」というコンセプトのもと、当時の証拠である公文書をボランティアによって現代文訳し、説明や解釈無しに無料公開するサイトを制作します。出典を明記した上での引用を自由としますので、どなたでも調べもののほか論文や卒業研究などにご利用いただけます（商用は除く）。このプロジェクトの推進母体として、4 月上旬に非営利型の「一般社団法人 近現代史データバンク」を設立し、7 名の理事及び数名のコアスタッフが公文書検索や現代文訳進行管理、サイト制作を遂行します。

■プロジェクト概要

日本近現代史の専門家である伊藤隆東京大学名誉教授にご指導ご支援を頂いて、公共財としての一

次資料となるサービス展開を目指します。活動経費は寄付・助成が中心となるため、広告宣伝を兼ねてクラウドファンディングを実施しております。

■クラウドファンディング参加方法

クラウドファンディングプラットフォーム「READYFOR」

(https://readyfor.jp/projects/kingendaishi)よりお申込みください。

■クラウドファンディング達成後の流れ

今年の夏ころには、幕末から終戦までの一定数の現代文訳を公開するサイトを立ち上げる予定です。3 年後を目処に、高 3 レベルの歴史イベントの公文書を一通り網羅します。その後も継続して、質・量ともに充実を図って参ります。

■法人概要

商号 ： 一般社団法人　近現代史データバンク（※設立まで ZIGEN（株）にて推進）

代表者 ： （※設立まで ZIGEN（株）代表取締役　及川正稔）

所在地 ： 〒162-0042　東京都新宿区早稲田町 12　シャンブール早稲田 301

設立 ： 2016 年 4 月上旬予定

URL ： 未開設（ZIGEN：http://zigen.tokyo/）

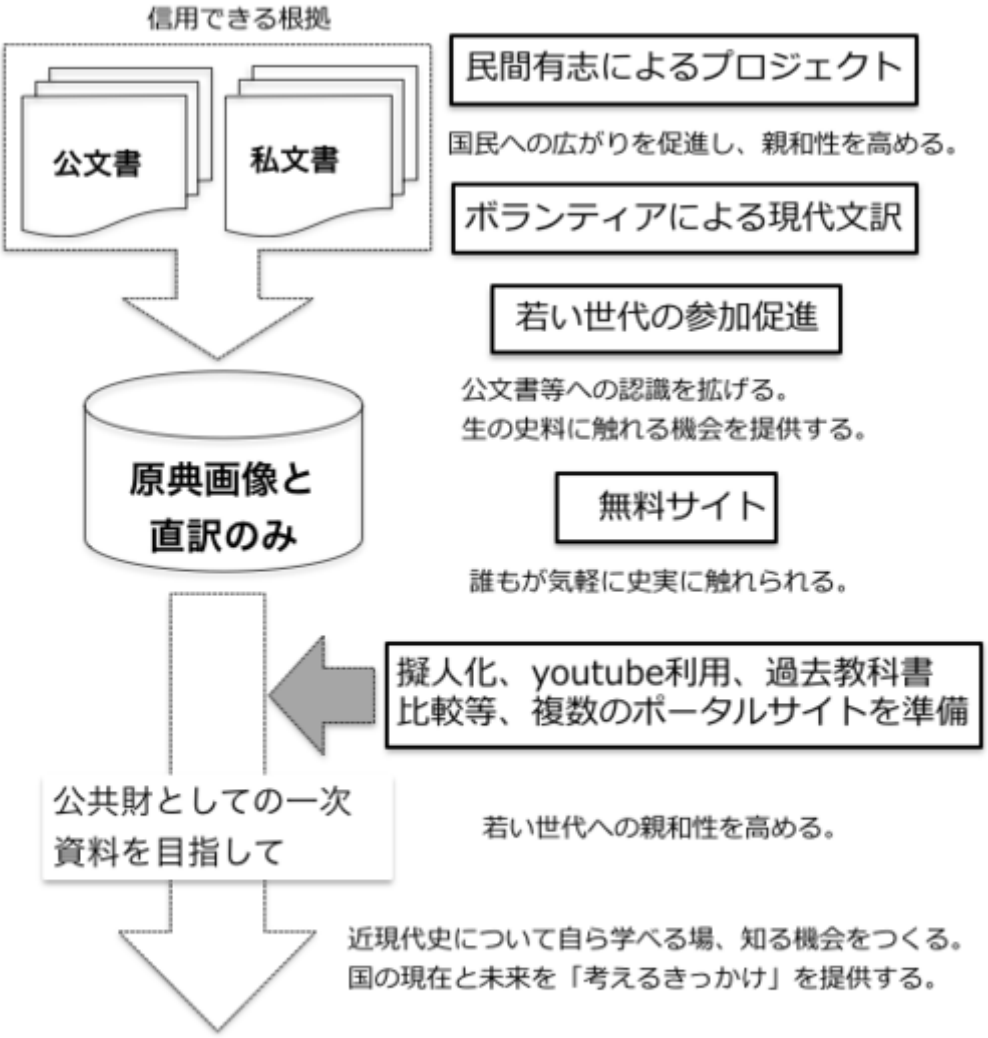
■本件に関するお問い合わせ先

担当 ： ZIGEN 株式会社　及川正稔

TEL ： 03-6457-6097、090-9952-8389

Email ： oikawa@zigen.tokyo

公文書現代文訳プロジェクト概要



・政治外交への理解促進と今後の議論基盤を創る。
・日本人としての誇り・尊厳を醸成し、日本の永続的繁栄に繋げる。

詳しくは　https://readyfor.jp/projects/kingendaishi

活動報告

平成 26 年度防衛大学校同窓会代議員会等（実施報告）

2015.05.02

平成 27 年 3 月 28 日（土）明治記念館において平成 26 年度防衛大学校同窓会代議員会・講演会・懇親会が開催され、盛会のうちに 26 年度の同窓会事業を閉めることができました。

１　代議員会（1330～1550）

代議員総数 244 名中 166 名（出席 87 名、委任 79 名）の出席を得て、過半数 122 名以上の代議員会成立要件を満たされました。

代議員会は、

・ 永岩会長挨拶（15 期空）

・ 報告事項（平成２６年度同窓会事業実施状況、本部事務所の移転）

・ 議長選出

・ 諸案審議（平成 25 年度事業報告・決算報告・会計監査報告、平成 27 年度事業計画案・事業予算案、事務所移転に伴う会則改正、新役員選出等）

・ その他（防衛大学校の現状と取組みについて、同窓会からのお知らせ）

・ 折木新会長挨拶（16 期陸）の次第で整斉と実施されました。

同窓会からのお知らせに関しては次のとおりです。

① 同窓会タイ支部長交替及び日本訪問

同窓会 HP 関連記事を参照。

② 寄付金の活用

17 期(陸)高橋能朗氏(百万円)及び豊川駐屯地同窓会(15 万 4 千円)からの寄付金で、防衛大学校に対して、応援幟(防衛大学校、防衛大学校同窓会、1～4 大隊）、学生食堂ステージ、同窓会法被、応援小旗(防衛大学校、1～4 大隊）を購入して贈呈しました。

③ 物故者名簿の取扱いについて

従来の物故者名簿の記載内容を HP 上に掲載することは、ネット犯罪等に悪用される危険性があることから、掲載内容を期別・要員・氏名・逝去年月日に限定し、かつ掲載期間を約 1 年として限定掲載することになったことをアナウンスしました。（詳細については同窓会本部にお問合せください。）

④ 新たな同窓会 HP について

同窓生活動の活性化に寄与するため、デザインの一新、同窓生人材バンク・コミュニティサイト・フォトギャラリーの新設等について紹介を実施。これにより、同窓会員の社会活動への貢献、期生会・校友会 OB、地域支部等活動支援、会員相互の情報交換、サービスの拡大に寄与できるものと考えております。同窓生の皆様の積極的な活用をよろしくお願いします。

⑤ 島根地区支部の設立について

平成 27 年 1 月 24 日に島根地区支部が設立されました。支部長は桑原寿之氏（5 期陸）、事務局長は持田佳郎氏（13 期陸）です。

⑥ HCD－2（ホームカミングディ 2）について

入校後 60 年（還暦）を迎える同窓生を防大入校式に招待したいという國分学校長の強い意向を受け、同窓会本部で、来年度からの実施に向け検討・準備します。実施要領等検討のため、今年の 63 期生入校式に 1～4 期生代表を招待しました。来年の入校式では HCD－2 を実施する予定であり、今年度調整を実施していきます。

2　講演会（1600～1715）

東京大学名誉教授の養老孟司氏を講師として、講演会が実施されました。詳細については次のとおりです。

・ 講演会講師　東京大学名誉教授　養老孟司氏

・ 演題「日本人の死生観」

・ 参加者 291 名（陸 127 名、海 81 名、空 83 名）

3　懇親会（1730～1900）

講話を実施して頂いた養老孟司氏、河野統合幕僚長（21 期海）、中谷防衛大臣（24 期陸）、宇都参議院議員（42 期空）等の皆様にも参加を頂き、終始和やかな雰囲気の中、盛会のうちに終了しました。

参加者 218 名（陸 94 名、海 59 名、空 64 名、その他 1 名）

第１６期ホーム・カミング・デー（ＨＣＤ）

2015.04.21

平成１２年３月の卒業式典に第１期生を招待して始まったホーム・カミング・デー（以下ＨＣＤという。）も今年で１６回目となり、卒業後４３年目にあたる第１６期生が平成２６年度卒業式典（本科第５９期学生等）に國分良成防衛大学校長の招待を受けて実施されました。

１６ＨＣＤの行事は、卒業式前日の３月２１日(土)の懇親会で幕を開けました。当日は曇天で時折雨を感じる肌寒い日でしたが、懇親会が開催された横須賀平安閣には開会の３０分以上前から続々と同期生及びご家族が参集され、受付からすでに熱気に溢れていました。第１６期生１９２名、ご家族９０名、総勢２８２名が集い、またご来賓として國分防衛大学校長を始め４役や部長等も招待され盛大な会となりました。１６時に開会後まず最初に殉職者及び物故者に対する黙祷が行われ、その後海上部会長香田氏から、久々の再会を祝するとともに同伴された奥様方に対し、「防大入校以来４７年間と同期生のほうがよほど付き合いは長く、お互いなんでも知っている仲である。」とユーモアたっぷりの挨拶があり、来賓を代表して國分防大学校長からは１６期生に対する「お帰りなさい」との歓迎の言葉に引き続き今回の卒業式から任命宣誓式を総理の前で制服に着替えて実施する等の紹介がありました。そしてＨＣＤ実行委員長椋木氏の乾杯で懇親会が始まりました。

（香田海上部会長挨拶）

（國分防衛大学校長挨拶）

（椋木実行委員長乾杯挨拶）

各大隊毎に分かれたテーブルでは久々の再会に懐かしむ声や近況の報告等に花が咲き、ご家族を含め終始賑やかに進み、そしてスクリーンには防大の近況も映し出され、当時を思い起こしながら話も尽きぬ様子でした。その後、各大隊毎に写真撮影が行われ、名残も尽きぬ思いのなかお互いに肩を組み「逍遥歌」を斉唱しました。最後に小鹿航空部会長の音頭で万歳を三唱し会はお開きとなりました。

（逍遥歌斉唱）

（小鹿航空部会長万歳三唱）

（万歳三唱）

卒業式当日の２２日(日)は前日とは打って変わって朝から晴れ渡り、絶好のＨＣＤ日和となりました。朝８時過ぎから続々と集合場所である防衛学館の教場に到着し、８時５０分には第１６期生１９８名ご家族等１５６名、総勢３５４名が陸・海・空に分かれて集合完了し、行事関連の説明を受けた後に写真撮影の場所である時計台横の階段に向かいました。青空の下、総員で写真撮影を実施した後、卒業式会場である記念講堂に向かいました。

（正門受付）

（集合完了）

（写真撮影）

今年は國分学校長のご配慮で昨年より４０席多い１８０席を記念講堂１階の卒業式場に確保していただき、その他の方は別に用意された記念講堂地下のＡＶ講堂で大スクリーンを通して卒業式等の様子を見学しました。

（卒業式場ＨＣＤ席）

（ＡＶ講堂）

（ＡＶ講堂大スクリーン）

予定の１０時を少し遅れて安倍内閣総理大臣が臨場され卒業式が始まりました。学校長から一人一人卒業証書を授与された後、野上智行大学評価・学位授与機構長から学位記が授与されました。

（卒業証書授与）

学校長式辞では昨年に引き続きホーム・カミング・デーに言及され、「本日は、防大を昭和４７年１９７２年３月に卒業され、国と国民の平和と安全を守り抜く仕事を完遂された第１６期生の先輩方が、卒業４３年目に全国各地から駆けつけてくださいました。第１６期の皆さん、お帰りなさい！どうぞ拍手を、今モニターでご覧になっている第１６期の皆さんもおめでとうございます。ありがとうございます。」との言葉に参加者の感慨も一入のようでした。そして４３年間の情勢の変化と自衛隊に課せられた課題と責任の大きさを述べられた後に、卒業生に対し今後は日本国内のみならず世界各地で活動する舞台が与えられ、それは安寧の場ではなく全てが危険と隣り合わせの場であるからこそ４３年後に笑顔でこの小原台に戻ることを切に願うばかりであると最後までＨＣＤを強調した式辞でした。

そして安倍晋三内閣総理大臣から戦後７０年との節目の年にあたり、先の戦争の尊い犠牲の上にわが国の現在の平和があることを深く胸に刻むとともに、二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。そのために自衛隊の中核を担う幹部自衛官として、常日頃から鍛錬を積み重ね、隙のない備え

に万全を期すこと、そしていかなる事態にあっても、国民の命と平和な暮らしを断固として守り抜くこと、そして諸君の先頭に立って、この責務を全うする決意であり、どうか諸君におかれても、全身全霊をかけて国民への務めを果たしてもらいたいとの強い決意を示す訓示がありました。中谷元防衛大臣からは本校での学び、体験を踏まえ、ここで発見した真理を磨き、自身と信念を持ってよきリーダーとして指導者として活躍することを期待する。初代槙智雄学校長の「幹部自衛官たらんとする者は、軍事専門家である前にまずよき社会人であれ、よき紳士であれ」を体現してもらいたいとのご自身の経験を踏まえた力強い訓示がありました。

（國分学校長式辞）

（安倍内閣総理大臣訓示）

（中谷防衛大臣訓示）

白石隆政策研究大学院大学学長から２１世紀に入り、安全保障環境が大きく変わりつつあるが、想像力をもって、柔軟に、また長期的な視野から、なにが日本の安全保障に役立つのか、なにが世界の平和に貢献することになるのか、ぜひ、考え、行動していただきたいとの祝辞が述べられ、その後卒業生代表の答辞と進みました。

例年は内閣総理大臣が退席された後に「帽子投げ」が行われますが、今年は壇上から安倍内閣総理大臣が見守る中、卒業生が一斉に帽子を投げて駆け足で会場から退席する恒例行事「帽子投げ」が行われました。

引き続き行われる一般幹部候補生の任命・宣誓式も昨年までとは異なり、内閣総理大臣臨席のもと陸･海･空それぞれの一般幹部候補生の制服に着替えた卒業生が各幕僚長から各要員別に一般幹部候補生に命ぜられました。その後、陸･海･空の代表が宣誓を行い、安倍内閣総理大臣に宣誓書を手渡し、握手を交わしました。制服に着替えての任命・宣誓式は１６期生の卒業式でも行われており、ようやく正常な形に戻ったとの思いでした。

（幹部候補生任命）

（宣誓書手渡し）

（宣誓書手渡し後の握手）

なお、卒業式終了後から任命･宣誓式開始までの間に、講堂横の顕彰碑において１６期生代表者による顕彰碑顕花式が行われました。

（顕彰碑献花式）

任命・宣誓式終了後は陸上競技場において３学年以下の在校生による観閲式が行われました。１６期生は競技場の一角に設けられたＨＣＤ席で観閲行進を見学し、整斉とした姿に往時の自分を重ねるとともに惜しみない拍手を送っていました。

（観閲式整列完了）

（観閲行進開始）

観閲式見学をもって１６期生のＨＣＤ全体行事は終了し、この後希望者は学生舎の見学を実施しました。現在の学生舎は１６期生が在学した当時と同じ各学年混在の８人部屋に戻っていますが、女子学生や多くの留学生の存在など状況は異なり、また住環境は当時と比べ格段に良くなっており、時代の流れを実感しました。

最後に、１６期生ホーム・カミング・デーの実施に向け、３年前から周到かつ緻密な準備を進められた１６期生実行委員の皆様のご労苦に対して心からの慰労と感謝を申上げますとともに、ホーム・カミング・デーの準備から実施に至るまで親身にご支援いただきました防衛学群長をはじめとする防衛大学校職員の皆様に心から感謝申し上げます。

（同窓会本部事業部ＨＣＤ担当記）

第３９期ホーム・ビジット・デー（ＨＶＤ）

2016.01.15

あいにくの小雨が降る１１月１４日（土）、１５日（日）の両日、防衛大学校において「創造への一歩」をテーマとして平成２７年度開校記念祭が開催されました。そしてこの機に、卒業２０周年目にあたる本科第３９期生が母校・防衛大学校で開催されたホーム・ビジット・デー（ＨＶＤ）に参加し、旧交を温めました。

第３９期生（平成３年４月入校）が過ごした４年間は、防大の内外ともに少なからぬ変化が見られた時期でした。第３９期生入校の翌年の第４０期生からは、初めて女性が入校しました。したがって第３９期は、男性だけの最後の期でした。また冷戦終了そして湾岸戦争直後（平成３年３月停戦）という歴史的背景の中で、海上自衛隊掃海部隊のペルシャ湾派遣、陸上自衛隊施設部隊のカンボジアＰＫＯ派遣と、自衛隊の任務が拡がる萌芽が見られた時期でもありました。

そして卒業後も、防衛省・自衛隊の大きな変化の中で、第３９期生は実務者として経験を積み重ねてきました。モザンビーク、ルワンダ、ゴラン高原、東ティモール、インド洋、イラク、ハイチ、南スーダンや数多くの国際緊急援助活動等、自衛隊の海外活動は拡がりを見せてきました。そして統合幕僚監部の発足に伴う統合運用態勢の本格化、防衛庁の省昇格、そして新ガイドラインの見直しや平和安全法制の成立等、自衛隊の活動の前提や枠組みも大きな変化を遂げつつあります。このような流れの中で、第３９期生は実務者として、これら取り組みに携わってきました。

さて、ＨＶＤは朝降っていた雨も上がった１１月１５日（日）に行われ、全卒業生中９６名、ご家族を含めると２５７名が防大に集まり、旧交を温めました。ＨＶＤでは、在校時に比べ大変立派になった学校本館や記念講堂、図書館、学生舎や学生食堂に目を見張るとともに、観閲式や懇親会、棒倒し観戦を通じ、かつての防大生活の思い出に浸りました。

当日はまず、ＨＶＤ準備責任者を務めた第３９期生会長の湯下兼太郎氏（陸自）他３名の準備組織スタッフが國分良成学校長を表敬（渡邉啓二副校長、小林茂幹事同席）し、ＨＶＤ行事に対するご理解とご協力へ謝意をお伝えしました。

その後、陸上競技場で行われた観閲式においては、観閲台そばに設けられた専用席において、ご家族も含め、観閲行進を見学しました。

本ＨＶＤのメインである懇親会は、今年も学生会館４階大ホールにおいて、１２時５０分から１４時３０分まで盛大に行われました。

懇親会は、まず初めに準備責任者・湯下氏の代表挨拶、そして準備副責任者を務めた第３９期生

会副会長の石寺隆彦氏（海自）の乾杯で開始されました。

　出席者は、お互いに近況を伝え合うとともに、学生時代の懐かしい思い出話に花を咲かせました。また家族同士で交流を深める様子も見られました。

懇親会の後半には、記念会食を終えた國分学校長及び折木良一防衛大学校同窓会長が会場へ駆けつけて下さり、第３９期生と歓談いただきました。

そして第３９期生会から、第６０期生会長に対し、在校生への記念品として「姿見用鏡」の目録が手渡されました。

続いて國分学校長、折木同窓会長より、陸海空自衛隊の中堅として活躍する第３９期生に対し、時折ユーモアも交えつつ、激励の言葉を賜りました。

その後、出席者全員が輪を作り、肩を組んで、現役学生である応援団リーダー部員による口上に引き続き、防衛大学校逍遥歌を声高らかに唱和しました。

そして出席者を代表して牧野雄三氏（陸自）の音頭による一本締めで会を締めくくり、懇親会は大盛況のうちにお開きとなりました。

懇親会の後、出席者は第２大隊学生舎の屋上へ移動し、防衛大学校開校祭の華である棒倒しをご家族とともに見学しました。

こうして第３９期生ＨＶＤは幕を閉じました。

（同窓会本部事業部ＨＶＤ担当記）

平成２７年度防衛大学校同窓会代議員会等（実施報告）

2016.06.01

平成２８年３月５日（土）明治記念館において平成 27 年度防衛大学校同窓会代議員会・講演会・懇親会が開催され、27 年度の同窓会事業を締めることができました。

１　代議員会(1330～1550)

代議員総数 158 名（出席 88 名、委任 70 名）の出席を得て、代議員総数 243 名の過半数以上の代議員会設立要件が満たされました。

代議員会は、以下の次第で実施されました。

・　折木会長挨拶（１６期陸）

・　報告事項（平成 27 年度同窓会実施状況、同窓会会費の検討結果について）

・　議長選出

・　諸案審議（平成 26 年度同窓会事業報告・決算報告・会計監査報告、平成 28 年度事業計画案・事業予算案、同窓会会費に関する細則の改正案、新役員の選出案）

・　その他（防衛大学校の現状と取組みについて、同窓会からのお知らせ）

同窓会からのお知らせに関しては次のとおりです。

①　同窓会長の海外支部等訪問について

平成 28 年 1 月 31 日～2 月 6 日の間、会長は防大同窓会インドネシア共和国支部の立ち上げ及び海外支部の招待により、関係国を訪問しました。同窓会ＨＰ関連記事参照

②　物故者名簿について

本年度よりＨＰによる掲載をはじめたことから、そのアクセス要領、特にセキュリティ上の

ユーザー名、パスワード等について説明しました。

③　地域支部等の助成について

地域支部等の活動を活性化するため、助成基準等（現職会員と退職会員が協力して参加する行事、地域支部等が主催する講演会他、１案件：３万円以下）について説明しました。

④　ＨＣＤ２（ホームカミングデー２）について

入校後 60 年（還暦）を迎える同窓生を防大入校式に招待したいという國分学校長の強い意向を受け調整を進めてきました。今年の 64 期入校式（Ｈ２８年４月５日）に１～４期生を招待して実施する予定について説明しました。

⑤　同窓会ホームページについて

各期生会・地域支部等の情報共有と相互交流可能な「コミュニティサイト」の開設及び活用の促進、同窓生人材バンクへの登録・推薦の依頼、電子版「小原台だより」について説明しました。

２　講演会（1600～1715）

河野統合幕僚長(21 期海)を講師として、講演会を実施しました。細部については次のとおりです。

・　講演会講師　統合幕僚長　海将　河野克俊

・　演題「自衛隊の統合運用について」

・　参加者 247 名

3　懇親会（1730～1900）

講演を実施して頂いた河野統合幕僚長等にも参加を頂き、終始和やかな雰囲気の中、盛会のうちに終了しました。　参加者 239 名

※　今回の代議員会において、１期生会代議員全員に代議員会開催の案内が未着となり、結果として、同窓会の基礎を築かれた１期生の代表がどなたも代議員会に出席できないという事態が発生しました。

　案内が未着となった原因は、案内の発送等一連の手続きにおいて、同窓会本部による確認作業が不十分であったことにあると考えております。

　同窓会本部といたしましては、この場をかりて１期生の皆様にお詫び申し上げますとともに、再発防止に万全を期す所存です。

平成 26 年度防大代議員会記念講演(養老孟司氏)

2015.05.16

「日本人の死生観について」

（東京大学名誉教授　養老孟司先生）

申し訳ありません、歩かないと話が出来ないと言う癖がありまして、見苦しいかもしれませんが、よろしくお願い致します。

今日は、随分立派な題（演題）を頂いているのですけど、私もこの年でと言うか、ちょっと自己紹介を兼ねて申し上げますと、私は昭和１２年つまり１９３７年の１１月１１日生まれなのですが、歴史で言いますと、その年の７月７日が盧溝橋事件の始まりでございます。それで、終戦時は小学校２年生でございまして、これは良く覚えていますが、昭和２０年８月１５日、母の田舎におりまして、神奈川県の田舎でしたが、そこに祖父母と叔母がおりまして、夏休みですから、当時、まあ一種の疎開でございますが、夏休み中は田舎に行っておりました。叔母から一言「日本は戦争に負けたらしいよ」と言われて、私は何とも言えません、子供でしたし、膝の力が抜けるというかがっくりしたというか、少なくとも大人たちはそれまで、竹槍訓練もバケツリレーもやっておりましたから、「そんなもので火事は消える訳はないだろう」と子ども心に思っておりましたけれども、そんな時代でございました。そして、しょっちゅう空襲で夜起こされて、それこそ B−２９が燃えて落ちていくとか焼夷弾を落とすのを花火みたいで綺麗だなと、当時は灯火管制で真っ暗ですから、それを覚えておられる方も、この中で何人かおられるかもしれませんが、そういう育ちでございます。

で、何を感じるかと申しますと、この後、私にとって一つ大きな事件と言うか「教育」がございました。それは、それまで使っていた国語の教科書に、先生に言われて教室で教科書に墨を塗って

いくんです。これは、見事な教育で、恐らく私が受けた教育の中で一番大きなインパクトだったと思います。何が起こったのかと、これも６０代になって改めて考えたことですけど、これが私にどのような影響を与えたか、後で分かってまいりましたような気がします。

それは、まず第１に、何だか知らないけど「不安」と言うものがありまして、それは、世の中で一般に言われていること、世の中の一般に適応していくといったらおかしいのですが、その中にすんなり入って行くってことがどうも出来ない。何故かと言いますと、まあ、理屈で言えば、あれだけ特攻・神風を送り出すまで一所懸命やったことが、ある日完全にひっくり返るんですね。当時私どもが使った教科書は、国定の大事な教科書でございますから、それに墨を塗った体験は、世の中でいくらこうだと言われても、それを本当に信用していいのかと言う気持ちもあったのだろうと思います。

そして、私は医学部に入りまして、患者さんを見ると、やはり「不安」なんですね。当時私は東大病院でインターンをやりましたが、東大病院ってのは、患者さんが死ぬために来るところでありまして、要するに、他の医者が見放して、もうどうしようもないと言うと東大に来るのですね。ですから、まあ死ぬのが当たり前みたいな病院ですね。私の息子が一時池に落っこちてですね、ちょっと発見が遅れて入院させたのですが、退院のお祝いの時に婦長さんが何といったかと言うと、冒頭にいきなりですね、「この病院から生きて帰るのは珍しいですからね。」と言ったことは今でも覚えてます。それで、そういう所に勤めておりましたけど、患者さんがよく死ぬわけですから、そうすると私としては非常に気になるんですね。で、現在では医療事故で当然問題になるのですが、その位のことは当時当たり前。そうしますと、私が患者さんに、注射をしなければならないとすると、まず、うっかりしたものを注射しますと死にますから、人っていうのはなかなか死なないんですね。あの、死んでくれと思うとなかなか死なないですね。そんなつもりは全くないのに、コロンと死ぬことがありまして、怖いですね。注射器（薬又は液）は間違ってないだろうなとか、間違って人を殺しても仕方がないとしても、そういったことはしっかり私の記憶に入ってしまう。これっ

て一体何人殺したら自分がどうなるのだろう。

　そして、その後、その疑問は解けないままでどうしたかと言いますと、インターンが終わってから私は解剖をやりました。何故かと言いますと、学生の時に最初に解剖をやらされた時に本当に「安心」なんですね。つまり、気持ちが一番乱されない、その作業の間は。それだけは分かっていたんです。だから、「解剖ならば同じ医学部でも安心して出来るな」と思いました。それで、卒業してからも、結局、解剖学を選んで、亡くなった方と、（まあ言ってみれば）、ずっとお付き合いしてきたんです。ですから、「死生観」なんて偉そうな題（演題）ですが、実は、亡くなった方とは非常に親しい。何故自分が解剖を選んだか、何故そういう時に気持ちが落ち着いたか、年を取ってから考えるようになりまして、これは、何と言いますか、乱暴に言いますと、これ以上死ぬ心配が無い、始めから死んでますから。もう一つそこにですね、全く嘘が無い。人のイデオロギーとか思想とか正義とか公平とかへったくれとかそういったものが一切無いのですね。毎日決められたとおりにやりまして、実習はほぼ３か月かかるのですが、乾かないように布で包んで帰りまして、で、次の日に開けてみると、昨日やったところできちっと終わってます。夜の間に治った人は一人もいない。そう言うことなんです。ところが、それが、非常に「安心」なんですね。目の前に有ることが全て私がやったことで、どんな結果になりましても、１月経ちますと、腕が取れたり、頭がもげたりしてですね、酷いことになってるんですね。我に返ると、酷いことになっていると思うのですけど、でも、それを考えてみると、「やったのは誰だ？」と言う話です、「おまえだろ」って話です。すると目の前に起こっていることが全部自分の責任だと言うことになれば、これくらい「安心」なことは無い。そういう風に育ったんですね。それは、お前が変なんだろうって多くの方が思うと思うのですが。

　実は私はそうではないと、或る時に気がついたのですが、実はテレビを見ている時に気付いたですね。何で気付いたかと申しますと、NHK のプロジェクト X と言う番組があって、計算機とか車とかトンネルとかですね、本当に矢のように必死で作っている。「何であんなことを一所懸命やる

んだろう？」、おそらくは、ディレクターは私より若い世代ですから、「何であんなことを一所懸命やるのだろう？」と不思議に思って。経済関係の方は戦後の日本は物作りで発展したと言うのですね。物作りで実際に背負って来た人たちは、「一体何を考えていたんだろう？」とそういう不思議さを持ってあの番組を作ったのですね。私は見ててすぐ分かったような気がしたのですね。「あ～、私と同じだな」と思いました。だって、作った計算機がまともに動かなければ作った自分が悪いんですよ。マルクスイズムで作らないからちゃんと動かないとかですね、民主主義で作ってないから一切ダメなんだとか、そういうことは一切無いのです。そうでしょう、車も全く同じです。東京でちゃんと走る車がニューヨークで走らないわけないんです。そうですよね。

　そう言えば、戦後、軍を辞めた方がいくつか技術系の会社を作られてますよね。私、電子顕微鏡を使っていて、日本電子という会社に時々行ってましたが、あそこも実は旧海軍の技術将校じゃなかったかと思います。あ、なんだそっちに行ったのかと思いまして、どういうことかと申しますと、まあ、例えば新聞をとってみればすぐ分かるのですが、去年も朝日新聞は反省してましたけど、私は何とも思ってませんが、戦前の新聞を知ってますから、それから戦後になって、あれに比べれば大事件でも何でもないので、これが新聞ではないかと当たり前に思っています。スタップ細胞でも殆ど驚きません。日常茶飯事です。

　科学上の発見の９９パーセントは嘘だって本が出てます。一番簡単な例で、皆さん、もしかしてご存知かもしれませんが、メンデルの法則は中学校で習います。メンデルの法則は岩波文庫にきちんとデータ付きで載ってますから、論文がそのまま読めます。ところが、フィッシャーという有名な統計学者があれを検定致しました。つまり、メンデルの仮説が正しいとした時に、メンデルがああいう実験をやって、ああいう結果を得る確率はどのくらいかを計算しました。見事に棄却される範囲に入った。つまり、ああいう事は起こるはずがないという結論が出ました、統計的には。どこかでデータがいじられている？、分かりません、だから、どこで何が起こったか。さもないと、物凄く運の良い偶然でございます。まあ、それが一つの例ですけど、まあどうでも良いのですが、そ

れは。

　それで、私が申し上げたかったことは、「戦後の物作りは、実は社会の価値観があれだけ変動した時に起こった、ある意味では必然的な現象かな」と思いましたら、なんと直ぐに、次の歴史の答えがまた出てまいりました。

　それは、何かと言うと、実は「明治維新」でございます。文科系と言いますか、言葉を使って物を書いたりする方がおられたりしたら、歴史を書いたり、ちょっと私と全く違う神経の持ち主だなという気がするのは、（元々若い時から、言葉を使うというのは私はやりません。やらなかったと思います。）何故なら、あれだけ嘘が多かったからです。

　だから、解剖医になったので、そうすると、そう思って「明治維新」を見ますと、福澤諭吉、木戸孝允とか坂本竜馬とか、（高知に行くと坂本竜馬だらけになってますけど）ああいう人達は明治維新を自分で遂行したのですね。だけど、私がはっと気がついたのは、あの時に私ぐらいだった子供達、小学生だった子供達、（当時小学校は無かったですが、明治５年に義務教育令が出来て、小学校が出来ましたけど）、「あの辺で小学校に行く子供達は、社会のあの変化を見てどう思っただろう？」と言うことです。と、突然気がつきました。「俺と同じ奴が大勢いたのではないか？」「それが何になったか？」 野口英世になり、北里柴三郎になり、志賀潔になり、高嶺譲吉になり、豊田佐吉になったのではないか！

　明治維新以降の日本が近代国家として発展して行ったのは、徳川３００年というあのかっちりしたシステムを、言わば１８０度ひっくり返して、散切り頭で、刀を捨てたり、その変化を遂行して行った大人は自分で考えてしたからいいのですが、「自分のお爺ちゃん、お婆ちゃんが堅く信じたことが、孫にとってみれば、全然引っくり返っちゃって、これは一体何を信用したら良いのか？」ってことは、本能的に子供は考えるので、「そういう人達が物の追及にいったのではないか？」

　北里さんの気持ちを私が代弁するのもおこがましい話ですが、あの人は熊本の田舎の出身ですね、今でもお宅が残ってますが、あの人はベルリンでコッホの弟子になりまして、「ベルリンであ

ろうが、熊本であろうがバイ菌に変わりがあるわけじゃなし！」と言うのが北里さんの言い分だったのではないか、腹の底では。北里さんは日本人だからと言う理由でノーベル賞を貰えなかった人ですから。「明治が何故あれだけ世界的な科学者を輩出したかと言う答は社会の価値観の大変動を子供達が通ったことにある」と言う気がしてまいりました。それで、そういう風に明治維新を書くかというと、歴史家の人は最初から歴史に関心があるので、物に関心がある訳ではありませんから、物に関心のある学者は考古学者になっちゃいますから。そうすると、今のような話は出てこないのだろうと言う気がします。

今日（の論題）は「死生観」なんですけど、今申し上げて来ましたのは、自己紹介でありまして、そのような考えでずっと来ました。だから、死ぬと言うのは、商売柄これは当たり前で、何故かと言うと、死んだ人がいなければ解剖も出来ませんから、しょっちゅう、亡くなった方々のお相手をさせて頂きました。その中で、自分がこの年になってきますと、当然ですが、死ぬ事を考えます。本当に具体的に考えるようになります。恐らく若い時から、かなり具体的には、皆さんよりは具体的かもしれません。毎日、毎日、極端に言えば亡くなった方を触ってますから、そういう仕事ですと、どうしても考える。でも、やはりある年になって急に気がつくのです。「今日私が死んだらどうか？」

今日もそうですよ、私は実は、今日、四国の今治から参りまして、結構長旅ですから、途中に交通事故で死んでも別に不思議は無い。或いは、昨日はホテルに泊まってますから、夜中に心筋梗塞で死んでても何の不思議も無いのですね、歳ですから。じゃあ、私が困るかと考えた瞬間に、「ああ俺は全然困らない」と言う結論が出てくるのですね。困るのはこちらの同窓会の幹事の方、「あの野郎来ないじゃないか、あれだけ言って前もって約束したのに来ないわ、あいつ。」なんと、「私の人生って、私にとっては実はどうでもいいのです。そうですね、私が死のうが生きようが私の知ったこっちゃない。」

これは若い人には余り言えませんね。若い人にこれを言うと秋葉原でナイフ持って通りすがりの

人を刺したりする可能性がありますから、知ったこっちゃないですよね。

　でも、歳を取ってくると、しみじみ感じるので、あっと思うのは、「俺が死ぬって事は俺自身に実は何の関係も無い」、極端に言いますとね。じゃあ、何に関係するかと申しますと、「私が死んで困る人は家族」であります。困らないにしても、取りあえず困ります。四国で死んだりすると面倒くさくてしょうがない。ですから、「なんと私の人生って実は私の物では無いな」と、今頃になってしみじみ感じるようになります。

　更に延長しますと、医者ですから、多くの方が自分が病気になると思っているのではないか、それは、もちろん違うので、皆さん病気になられると一番パニック起こすのは奥さんだろうと思いますね、或いはお子さん。そうすると、皆さんの病気って皆さんの物じゃないのですね。

　そうやって考えて行くと、「死ぬって言うのは当たり前ですけど、実は人称変化する」ってことを、私は若い頃から言っておりました。「人称変化」ってどう言うことかと言うと、自分自身の死体と言うのは実は無いのです。自分自身の死体が発生した時は、それを見る自分がおりませんので、これを「一人称の死」と言うのです。なんで、そんなことを考えるかと言うと、解剖しているから当たり前で、解剖というのはどなたかの遺体を頂かないと出来ないのですね、これって結構面倒くさいことが色々とあるのです。お分かりかと思いますので、具体的には申し上げませんけど、トラブルが起こり易いこともあり、面倒くさいので、出来ることなら自分のを使えたら一番便利なんです。足が２本あるから１本使えば良いのではないか？と思うのですけど、それをやらないとするとですね、自分の解剖は出来ないのだなとしみじみ思います。ということは、「一人称の死」は、実は無いのです。そうですね、自分の死は他人の中にあるだけで、自分には無い。知ったこっちゃない。

　「三人称の死」と言うものが有ります。これは、ただ今現在がそうですが、世界的にみますと、何人も死んでますよ、御臨終を迎えられてる人は必ずいます。１分間に何人って死にますから世界中で。皆さん何の関係も無いですよね。正に知ったことでは無いので、これを「赤の他人」と日本

では言います。赤の他人が死のうが生きようが私の知ったことでは無い。

　そうすると、死は論理的にも実際的にも「二人称の死」しか有りえないと言うのが分かってくる。知り合いの死です。これは、「臨死体験」というのが一時流行りましてですね、オームのちょっと前くらいに。随分流行ったのです。あれは、脳みそがやっているいたずらだと、私は説明するのですが、週刊誌なんかからよく取材の電話が掛かってきて、全部きちんと喋ると、当時の私の能力で喋りますと、１５分掛かると分かりましたので、テープレコーダーに入れといて、電話が来たらそれを掛けようと思っていたくらいでした。

　あれは、亡くなった方が時々出て来るのですね、自分が死にそうになった時に、外から見ると全く意識があるようには見えないのですが、ご本人は夢を見てる。ある程度夢のようなものを見てる。一番よくあるのは、川が在って向こう岸から手招きしてるのです。それが、自分が知ってる死んだ人なんですけど、それが、おもしろいことに、死んだ叔母さんとか、死んだ従兄弟とか妙な人が出て来るのです。死んだ人がただ出てくるのだったら、田中角栄とかキリストとかが出てきてもいいんですよね、死んだ人ですから。そういうことはまず無いので、妙な親戚が出てくる。

　私は、色々調べて、ある時、ベトナム戦争に従軍したあるアメリカ兵が、自分のプラトーン、小隊ですね、戦死した奴が順繰りに全部出てきたというものを読んだら、それで分かったのですね、つまり、戦友と言うのは、寝食を共にし、生死を共にしてますので、家族より縁が深いと言う面があります。正に典型的な「二人称の死」なんですね。それで、しかも自分が体験してますから、死んで行くのを。そうすると、それが皆さん、我々が考える死なんですね、具体的な。そうすると、死んだ従兄弟が出てきても何の不思議も無いので、死んだ従兄弟の死に顔を初めて死んだ人として見たとか、叔母さんもそうですが、　五感から入った死がおそらく皆さんの自分が死にそうになった時に連想して思い出してくる死は、自分の五感を通した死だけだと思います。

　後は抽象的な概念です。ですから、それは身近な人だけが、言ってみれば、極端に言えば本当に死ぬのです。それが、私の長年のと言うか一つの結論でありまして、「死は常に二人称である」

と。そう申し上げるしかないです。それは、五感を通して体験するものであります。後は、抽象になってしまいますから。

これは、戦争なんか中々難しいと思いますが、要するに「指揮官と前線で戦っている兵隊の関係」でありまして、前線に戦っている兵隊にとって、今のベトナム戦争の兵隊もそうですが、死は現実ですが、後ろに居ると見えませんですね、数になってしまいます。これは、どこの軍人も同じだと思っていたら、アメリカの統合参謀本部がありますね、あそこの参謀長みたいな人がひょっと立ち上がるのを、（何で見たのか忘れましたが、テレビでしたが）、そして、机の上に箱があるのです。その箱を開けると、自分が在職している間に殉職した兵隊の写真が全部入ってるのですね。それが、「良い指揮官なんだなぁ」と言う気は前からしておりました。それで、理屈を言うと、「死」は、ですから「二人称」しかない。我々に一番大きな影響を与えると言うことです。もっと、日本人と言う風に考えて行きますと、今言ったのは、世界中誰でも同じでしょうと言う話です。

我々が一番良く知っている言葉を、普通に目にするというのはおかしいのですが、概念として、昔から言うのは「生老病死」と言うもので、これは、「四苦八苦」の「四苦」ですね。「四苦八苦」とは、殆どの方が言えないのですが、生まれて歳を取って病をもって死ぬと言うことですが、これは、仏教の説話なんです。どういうことかと言いますと、お釈迦様が若い時の話なんですが、何とか城というとこに住んでまして、日本では都市を城とか呼ばないのですが、中国とか、インドとかヨーロッパとか、中世の都市はご存知でしょ？ 都市は城郭で囲まれてまして、城郭都市ですからお釈迦様は王子様ですから、城郭の中に住んでて、年頃になるまで１歩も出たことがないのですね、この中は都市社会です。　余計なことですが、現在の日本は完全な都市社会ですから、皆さんはお釈迦様です。何を言いたいか、そのお釈迦様が若い時にですね、（城郭には）４つの門が在りますから、四角いので、これを出て行くと言う説話ですから、４つの門を出でて遊ぶこととなり、最初の門を出て赤ん坊に会い、次の門を出て老人に会い、その次の門を出て病人に会い、最後

の門を出て死人に会う。実は１つずれてまして、赤ん坊の所は無くて、最後の門で坊さんに会って出家するという話になっているのですが、何だかお分かりになるでしょうか、この「四苦」と言うのが、人生そのもの、しかもこれは意識ではどうにもならない。これを「自然」と私は呼びます。人間の自然です。これを釈迦がどうして、この説話が何を意味するかと言うと、「都市社会に住んでいると、この生老病死のいずれにも出会わない。」これって、どの位会わないかと申しますと、今東京でお子さんが産まれる時に、ほぼ１００パーセント病院で産まれます。また、９２パーセントの方が病院で亡くなります。ですから、私は、東京都民は全て仮退院だと申し上げております。病院から出てきて、最後はまた病院に入りますから。皆さん仮退院状態です。この中に非常にはっきりした約束事がありまして、「自然の物は置かない、意図的に人の作った物しか置かない。」これは、色んな例がありますが、何だってここまで地面を埋めるのでしょうか。舗装する、そうでしょう、不便だとか、埃が立つとか、破傷風があるとか、色んなことを言うのですが、そんなものは全部言い訳でありまして、こう見てましたら、結構人工芝ですよね。そうでしょう？経費がどうとか色んなことを言うのですが、ようするに本音を私が代弁致しますと、「自然の土には何が入っているのか分からないので、いやなんですね。意識の世界でなくてはいけない」。

　で、一番良く使われる言葉で、例えば「雑草」と言う言葉がありまして、昭和の天皇陛下は、お付き（の者）が「雑草」と言うのを、一々注意されたという話が残っておりまして、「世の中に雑草と言う物はございません、全て名前があるのですから。お前が雑草と言うのは、草の名前を知らないだけだろ」と注意されたのだと思いますが、私は、「雑草」というものを定義しておりまして、どういう風に定義したかと言うと、「こんな物は植えた覚えが無いという草」なんです。勝手に出てくると皆さん許さないですよね。

　都市の中というのはそういうルールが厳然とあるのですが、長く言うとキリがないので、私が言いたいのは、「釈迦の時代にインドでは既に都会が成立していて、都会人が存在していたと言うこと」で、それがお釈迦様なんですよ、若い時の。それで、それが初めて門を出て、人生四苦八苦、

生老病死だと気がつくと言うお話なんです。

　それで、「八苦」は何かと言うと、それに必然的に伴う感情を言うので、例えばキリスト教ですと、愛ということを説くわけですが、仏教では、これ（愛）を八苦の一つとして、「愛は別離の苦しみ」という風に書きます。そうですね、誰かに愛情を持てば、必ずどちらかが先に死ぬ、いずれにせよ、死に別れます。恋人に限りません、親子でもそうですし、親友でもそうです。だから、愛は別離の苦しみと書くのです。キリスト教は逆に、愛と言う物をトップに置きますよね。

　この仏教的な世界というのが、日本人の死生観の一番基本になって、これは自然ですから、「まあ、しょうがない死ぬのは」ってことですね。それで、「自然の現象であり意識ではない」と言うことを申し上げて。

　これが何で問題になってくるのかと言うと、今、申し上げましたように、社会がどんどん意識化されて行きます。これを、皆さん進歩と考え、そう呼んで来たのです。意識化されてくればくるほど、我々自身が抱えている自然は、考える対象では無くなってまいりますので、突然降ってきた災難みたいになってまいります。この間の地震みたいなものがありますと、皆さん思い出して、やはり世界にはそのようなことがあるのだなあと、ちょっと揺り戻しがきますが、間もなく忘れます。そして、どんどんどんどん意識の世界に入り込んで行ってと言う傾向を強くして参ります。

　でも、いくら意識の世界に入って行ってもどうしても駄目なものがありまして、それが何かと言いますと、皆さん方の身体であります。私は解剖をやっておりましたから、皆さん方がお亡くなりになっても身体は残っております。これは不思議で生きてる時と死んでる時と、例えば分子の数を数えて種類を数えあげてリストを作ったら、全然変わらないのですね。１分や２分で変わるはずが無い。だけど、死んでるのです。「何でしょうかこれは？ 生きてる」って不思議なことなんですが、では、その身体は皆さんの意識と一緒に死ぬかと言うと死にません。よくお爺さんが亡くなって、折角髭を剃ってあげたのに、次の日になったら伸びてる。別に毛が伸びても不思議はありません。脳みそと一緒に毛が死ななければいけない義理は無いのです。

もっと言えば、私なんか実験によく（皮膚を）使っていました、最初の私の学位論文は皮膚だったのですが、皮膚に鶏を普通使ってました。ひよこですね。卵の中の皮膚を使って、飼っていたのですが、培養器に。医学部ですから、そういう実験の報告をすると、必ず人間ではどうですかと良く聞かれるのですね。人間の材料で実験をやるために、皆さんに皮膚を下さいと言ってもくれないのです。仕方ないからカミソリで自分で削いでですね、大分年が経つまで残ってました、痕が。でも、これは自分のですから、小さくしてから使うのですが、残るのですね、余りが出ますから。これが他人のだったら良いのですけど、自分の皮膚ですから、余ったら勿体ないじゃないですか。だから、冷蔵庫に入れてとって置くのですね。次の日でもちゃんと使えますから。皮膚は切り出しても次の日も生きてます。ご存知でしょうが、腎臓なんかは、いわゆる、「３兆候死」って言いまして、死を宣告された人から１時間まで取って大丈夫だということが分かってますね。血液が止まったからと言って腎臓が死ぬわけではない。死ぬのは、心臓と脳だけです。心臓と脳は足が速いんです。何を言おうか忘れてしまったのですが。「身体が実は根本」なのですね。自衛隊の方も典型的にそう思っているでしょうけど。

でも、戦前の軍隊は「精神一到何事か成らざらん」みたいなところがありまして、僕、軍隊の歴史を見てて医学系で一番驚くのは、「栄養失調」ですね。一般の方は栄養失調という言葉は何時できたかご存知無いと思うのですが、「戦争と食糧」という本を中国戦線に従軍していた軍医さんが、戦後昭和２０年にガリ版刷りで出して、全国の医科大学だけに配りました。戦後４０年だか５０年を記念して小さな出版社が活版にしましたけど、ガリ版刷りで医学部の図書館にだけ入ったのですが、それは、何かと言うとですね、中国戦線に従軍していた、それこそ盧溝橋以来の昭和１２年から始まった戦争ですが、その医者がですね、前線から後送されてくる兵隊さんに妙な病気がある、ボーとしていて何にもしない。それで、治療法が分からなくて、入院させておくと１週間目位には必ず亡くなる。これにやがて病名が付きます。これが栄養失調です。ガ島とかインパールとかで始まった話では無いと知って愕然としました。

それは、僕は前からこういう商売ですから考えたのですが、江戸の侍と戦国の侍は言うことが１８０度違う。江戸の侍は何と言ったかというと「武士は食わねど高楊枝」と言ったのです。戦国の侍は何と言ったかというと「腹は減っては戦は出来ない」と言ったのです。そうでしょう、具体的にやっている奴と抽象的にやっている奴との違いがそこに見事に出てくるんですね～。日本陸軍はどうも江戸を引きずっていったような気がする。

戦国名将言行録がありまして、これは嘘の話がだいぶ入っていると思いますけど、この中に、私が好きな話がありまして、小田原の北条氏康の子供ですかね、ちょっと今思い出せないのですが、北条氏の中興の祖ではないのですが、その人の話は、合戦の前に息子と一緒に飯を掻っ込んでいるですが、ご飯に汁を掛けて大急ぎで掻っ込むのですが、なんと、氏康の息子が汁をおかわりするのですね。すると、おやじが突然茶碗を置いて慨嘆するんです。「北条の家も俺の代で終わりだ」と言うのですね。自分が毎日食っている飯に掛ける汁の量も初めに分からないようでは、この戦国で人の心が分かるわけは無い。実際に小田原はあの代で滅びますね。それで、ある時、私は、夏休みの終わり頃ですね、リゾートマンションに呼ばれて話に行きまして、前の晩から泊まり込んで、次の日、夏休みですから、何かの会があって、お父さんお母さんが子供さんを連れて来てたのですね。そこで、私が寝坊して行った時には、もう朝飯が大体済んでまして、テーブルの上を見ましたら、大量の食べ残しなんですよ、至るところ。なるほど、今は北条氏康ばかりだなあ～と。自分の食べる朝飯の量も分からなくて取り過ぎて、皆残してるのですね。

これ何が言いたいかと言うと、ボディコンという言葉がありますが、身体に対してセンシティブではないんですね。これは、近代というか現代の日本がずっと動いてきた道であって、これをですね、皆さんお読みになられてますか、唐木順三と言う評論家がいたのですが、文学の。この方が戦後に書かれたのですが、私は面白い本だと思います。どういう本かと申しますと、「型の喪失」と言う本を書かれたのです。「型」ですね、「型を失った」これはどういうことかと言いますと、日本は明治維新でまず大きく「型」を崩した。　日本の文化というのは非常に身体に対して敏感でご

ざいまして、皆さん伝統芸能とか華道とか茶道とか色々ありますが、茶道なんてどうお考えか知りませんが、明らかにあれは私から見ると身体の所作でございます。身体の動かし方なんです、非常に中心になっておりますのは。お茶を飲んでるだけではないのです。畳の何とかって、「畳の３つ」とか言ってますけど、「合理的に身体を美しく動かすとはどういうことか」に対して日本の文化は非常に感受性が高かったのですね。そういう風な身体の動かし方がある合理性をもって動いていきますと、ある限度まで洗練されていきます。それを「型」と言います。

それが比喩的に色んなふうに使われるようになったのですが、比喩的に使われるようになった「型」は、ご存知のように、型通り、型のごとくで死んでしまいます。元々は、しかし人の動きですから決して死んでませんね。元々生きた物です。唐木さんはその指摘をして、明治になってまず身体の動きがどこへ入って来たか、軍隊に入って来たのですね。

しょうがないとこがあり、近代的な軍隊を作るために、「気を付け」から始まって、普段やってないことをやらせる。この身体の動きがどの位違って来たかというのを、今の状況で具体的に示してくれる方を私は一人知ってます。武道をやっている甲野善紀さんです。

江戸の人の歩き方はこうだったよという。こんな歩き方してたのです。「ナンバ」って言うのですけど。江戸の絵巻物を見ますと明らかに「ナンバ歩き」ですね。伴大納言絵巻で、民衆が逃げるところが書いてありますが、「ナンバで逃げてます」。

そういうふうにして、身体の動き方と言うのは文化全体に関わっていることであって、言ってみればそこだけ変えるというのは難しいですね。ですから、現代社会において畳がここまで急に無くなったか、結局こういう風な状況で椅子に座るという身体の動き方に統一するしかなくなったのですね、日本は。私は小学校の時は既に椅子に座ってましたから。畳じゃ無かったですから。だけども、躾とか何かは畳でやられてましたから、正座するとかですね。これは相当に可笑しなことに、頭で考えていけば身体は思うようになるはずなんですが、明治以降かなり優先したのが先ほど申し上げた日本陸軍の「飯は食わなくても兵隊は働く」と言う現地調達でしょ、これは。これは駄目で

すね。では、どこに問題があったか、身体を無視したこと。身体は簡単には動かせません。そうでしょう。

　でも、明治にフランス人が相撲を取っている写真をご覧になった方があると思いますが、見事なもので、完全なへっぴり腰です。これがへっぴり腰って言う見事なへっぴり腰。西洋の文化だとそうなってしまうのですね。我々は違う文化を持っていたのですけど。トイレも変わりましたね。トイレを変えて畳を変えてですね、皆さん、それ、どういう気持ちでおやりになってますか。本気でやってます？トイレはこうでなくてはいけない。普通の家に男性のトイレを置いてはいけない。そうでしょ、置いてないですよね日本は。男性用の小便器のあるお家に住んでおられる方何人おられますか？（数人が挙手）見てのとおりくらいです。

　実は、子供が産まれなくて困ると相談を受けたある県庁の人が言ってました。自分の下にいる女性が、奥さんなんですけど、「健康なのに子供が生まれない」その人何と言ったか、「あなたの家に男用の(旦那用の)便器あるか？」「むろんありません」「じゃ作れ」それで、２年したら無事に子供が出来ました。男の扱い方が問題で、便器のせいではないのですが、身体のことは簡単には理屈になりません。

　「型の喪失」は、そうやって、日本の伝統的な身体の型は、明治が壊して行った。その型を何とか残していったのが、別の型ではあったけど、軍隊であった。そうですね、軍は身体の訓練ですから。その軍が終戦を期に消えてしまった。従って、「文化の一つの大事な柱の軍隊が抜けたのが戦後だった」と言うのが評論でありました、乱暴に言えば。私は、相当に感銘を受けました、私自身が身体を専門にやってましたから。

　で、若い人が当時、３０年も４０年も前ですが、電車に乗る時に行儀が悪い、身体は大きくなったのにどうして行儀が悪いか、お分かりですよね。大きくなった身体をどう取り扱うかという躾を一切受けてないのです。若い人が悪いのではなくて、身体の扱い方が分らなくなったから。今日私は新幹線で帰って来ましたけど、実は、この人そうだろうなと思う若い女性が、前の肘掛に足を乗

っけて引っくり返ってました。もう、爺ですから注意しませんけど、うっかりすると逆切れして刺されるかもしれない、相手が女の人だともっと恐いですけど。こういう世界にしてしまいましたね。文化と言うものは、書いたものとかではなく、一番の根本は身体なんです。

で、「意識」は身体に比べたら次に来ます。それは、軍隊は良く知ってました。そうでしょう、戦後それを消したことがそのまま身体の軽視に繋がって行ったなという気がします。身体を無視しますと、出来る事が出来なくなっちゃいます。特にマニュアルが無い時の動きは身体の動きです。いざっと言う時に身体が動くのは誰でもご存知だと思います。私なんか、「三十六計逃げるに如かず」で、小さい時から喧嘩は弱いですから、逃げるのは非常に得意です。だから、津波なんか来た時は、私は真っ先に逃げた方だと思うのですが、子供達はそういう訓練も多分受けていない。

私が一番感じたのは、池田小学校です。ご存知でしょうが、変な男が小学校に入ってきて出刃包丁で、６人か７人の子供を刺したのですね。僕の時代の小学校だったら、何かちょっとでも事件が起こったら、全員学校からいなくなってます。「蜘蛛の子を散らす」って言いますけど、今の子はそのような自衛の本能が消されているのではないでしょうか。親が、お母さんが危ない所には一切近づけないというやり方を致しますので、これを続けていくとはっきり言うと、全く役に立たない人が出来てくる可能性がある。子供に対しては、私は望みを捨ててません。いくつになっても実は戻れるのですね、生き物ですから。生存上必要だと思えば、だから大きくなって訓練すればいいのです、小さい時に訓練されてない人は。そういう機会を作っていくべきかなと、いつも思ってまして、小さい子が可哀そうかなと思います。

実は、私は幼稚園の理事長を３０年やらされてまして、で、年に１回か２回は子供達を連れて山に行きます。私が一番危ないのですが、４歳の子供が６メートル位の崖から落ちてもビクともしませんが、私が６メーターの崖から落ちたら、もうこれは死んでます。そうでなきゃ骨を折って、あの爺さんとうとうその後死んだよという話になります。そういう意味で、実は、戦後の文化に根本に問題があるとしたら、身体をどう位置付けるか。身体と意識の関係について申し上げますと、身

体は完成していけば型になります。先ほど、甲野さんのことを申し上げましたが、ご覧になっておられない方は、一度本人を呼んで、あの方は理屈を言わせると駄目ですが、家に来てデモンストレーションをやるのですが、身体の動かし方は見事です。ご自分の目で見られたら如何と思います。誰でも納得しますよ、詐欺ではないですよ。本物かどうかを見分けるのは皆さんの目次第ですけど。

今、「意識の世界」について話してますが、題目が大きく広範に渉りますので、ちょっと整理しなくてはいけません。皆さん、どのようなお考えか知りませんが、「意識」というのは、人間にとって非常に基本的な脳の機能の働きです。意識がどういうものかというのは、もうお分かりだと思います。周囲をご覧になって意識の無い方がおられますから、ご自分と比べられたら意識とはどういうものかお分かりでしょう。そういう風に意識を定義致しますと、意識は実はちゃんと動物からあるのがわかります。犬も猫も、寝てるのと起きてるのと区別が付きます。虫はどうかと言いますと、最近は睡眠に関する遺伝子が昆虫でも見つかりますので、意識が関わっている。だから、虫も起きたり寝たりしてるに違いない。何時寝てるか起きてるか知りませんけど。じっとしてる時は寝てるのだと思ってますが。

昔の人が「一寸の虫にも五分の魂」と言ったのもそうなのかもしれません。この意識というのは、皆さん、主人公だと思っているわけでしょう？ああしたいからこうしたとか。本当でしょうか？朝起きる時に起きたいから起きるのでしょうか？勝手に目が覚めるのですね。目覚ましが鳴ったから目が覚めたとか、大きな音がしたから目が覚めた。寝る時はどうか？寝床をしつらえて、温度を温かくして、風が吹かないようにして、音がしないようにして、静かにして横になりますよね。

そこで、「精神一到何事かならざらん」断固として寝ると思ったら、恐らく寝むれないでしょう。なんと、意識は主人公では無いですよね。主人公は身体ですよ。気温等都合良くしてやればいつの間にか意識は消えるのです。消えた意識は自分では戻れませんから、外部の刺激に頼って起き

るのです。さもなきゃ充分に寝てひとりでに目が覚めると言うのですが、皆さんその意識をどの位信用していますか？　私は学生を教えていましたから、人生の３分の１は意識は無いのですね。学生にこうやって講義してますと。「あいつらは人生の半分位は意識が無い」と良く分かります。それで、考えてどうこうすると言いませんか？どこまで信用できるのでしょうか？

これは、今まで申し上げてきた身体の問題とがっちり結びついてます。意識が中心になりますと、死の問題というのが問題というふうに出てきます。元々先ほど申し上げたように問題ではないですよね。だって、皆さん毎日毎日ある意味で死んでるわけで、そのまま目が覚めなかったらそれっきりですよね。そうでしょう。まだ、目が覚めるつもりで寝てるだけであって、何だかまだ目が覚めないなとかで、途中で気がつくわけではないですよね。そこまで、考えると自分の死なんてものは馬鹿みたいなものです。

先ほど控室で会長さんは空軍だと言われましたが、私は良く飛行機に乗るのですが、良く飛行機は落ちるんですね、ラオスに行ってラオスの国内航空によく乗るのですが、ラオスの国内航空は、私は計算しているのですが、年に２回は落ちていますね。しっかり落ちるのです。一昨年、ビエンチャンからサムナワと言うところに行った時に、１７人乗りの飛行機ですが、操縦席にドアなんか無いのですよ。一番前の座席に座っていると計器が全部見えるのですね。「ちょっと俺に運転させろよ」と言いたくなるような状況で飛んで行って、無事に到着して、その後、虫採りに行って、夕方ホテルに戻ったら、私が乗っていた飛行機が谷底に落っこちてバラバラになっているのをテレビでやっていたのですね。僕はテレビの画面を写真に撮って、使用前使用後みたいな写真を持っていますよ。最初に行った時はもっと凄くて、ラオス航空は、中国製の飛行機を２５機買ったと言うのですが、もう２０年位前の話ですが、空港でこれから乗ると言う時に、「そのうち２３機は故障するか落ちるかだ」と言うのですね。だから、今飛んでいる飛行機は大丈夫だと言うのですね。安心するでしょ、皆さん。戦争のベテランですね、もう。２５人の将兵のうち２３人が死んで、今生き残っているのは２人だと言う。だから、あいつらは大丈夫だと言う。私は好きですねそのような論

理は。これは、自分が主人公では無いと、皆さんしばしばお忘れになるでしょ？　で、現在はここが機能してなかったら全然駄目ですね。そうですね、全てが意識的になってます。で、無意識でやっていることは大体排除されていきます。僕が煙草を吸うから言うわけではないのですが、あれだけ煙草が嫌われるのは、煙草は理屈にならないからです。どういう意味で理屈にならないかと言うと、「何で俺が今あれに火を点けて煙を吸い込まなくてはいけないか」という理由が分からないからですよ。そういう理由が分からない、理屈が分からないことはどんどん排除されて行くのです、この世界からは。そうは思いませんか？

最近、私は「自分の壁」という本を書いたのですが、皆さん自分というのは意識だと思っているでしょ？だから、「寝てて目が覚めると自分が戻って来た」となりますね。「意識が無い状態から意識が戻ると自分が戻った」と言う言い方をしますね。これは何だということです。自分の脳みそがどこにあるか分かっているのでしょうか？

どこにあるかと言うと、「空間転移」と言っているのですけど、動物は自分が世界のどこにいるか分かっていないと行動出来ないのです。だから、「空間転移の領野」と言うのが脳に在って、ここの中に、何と「自分と言う概念」が入ってます。「空間転移」って色んなことをするのですが、ピカソの絵も空間転移のいたずらで、「空間転移の領野」を止めてしまいますと、横から見た鼻と前から見た目を一緒に意図的に描くと言うのは、天才は、「空間転移」を自由に出来るのですね。何故、「空間転移の領野」が御自分に有るのかお分かりですか？これは、何のことないのですよ。これは「ナビ」なんです。「ナビ」と言うのは、今は車に殆ど付いてますますよね。「ナビ」は何かと言うと地図が入ってます。地図だけ入ってても「ナビ」は使えません、当たり前でしょう。ナビにはもう一つ絶対に必要なものがあって、その必要なものは「現在位置の表示」でございます。昔、田舎の村の看板は役場の前に立っているのですよね。僕は田舎によく行ってましたから、バス降りて看板見て子ども心に頭にきてたことを覚えてます。そういう看板の一部の看板は、看板が立っている位置の現在位置が描かれていない。村には詳しくはなるのですが、どちらに行って良いの

か分からない。皆さん、頭の中に実は世界の地図を持っていて、そこに現在位置表示がいつも入っているのです。これが何と「生物学的に言って自分」ですよ。ナビという機械が何故出来たかと言うと、脳みその中にナビが有るから出来たのです。

「機械」って二つあります。いじくっているうちにいつの間にか出来た物と自分の頭の中に在るから作れたという物ですね。楽器で言いますとバイオリンやお琴なんかは遊んでいる内に出来そうでしょう？だって、糸を引っ張ってはじいたら音がしますもの。強く引っ張ったら別の音がするし、この糸ではどうかなどと色々やっているうちに、あんな楽器出来てしまうような気がするでしょ、経験的に。ピアノはどうですか？あんな物誰が考えるのですか。気に入らないのは、全ての弦が同じ様に並んでいるじゃないですか、同じ大きさでズーッと並んでますよね。何ですかあれは。子供の頃に、ピアノの上手な女の子が悲しそうな顔で言ったのを覚えてますが、「プロのピアニストになりたいのだけど、私は手が小さいから駄目なの」って言って、僕は何と忠告したか覚えてますよ。「ピアノを小さくすればいいじゃないか」と言ったのですね。なんで小さくしないんですかね、「遠くの（鍵盤）方なんか余り使わないのだから、小さくしてこちらに寄せればいいだろ」と言いましたね。あれ、何とね、皆さん方見たことはないでしょうけど、自分の脳みそにピアノの鍵盤と同じルールで自分の神経細胞が並んでるのですよ。あれ、周波数の対数を取って統計通りにならんでいるのです。周波数とか対数とか言うと途端にどっか行ってしまう人がいますけど、頭の中にあれ（ピアノ）と同じ周波数があるのです。それで、こだわってこんな変な物を作ったな。「ナビ」も同じで、気の利いた奴は皆頭の中に持ってるんですよ、動物なら。そうですよね、だから家に帰るのですね。

ただ、これの面白いところはですね、これを「依怙贔屓」するのです、この中だけ。それはどうして分かるかと言うと、子供の、小学生の質問で分かります。時々、素直な面白い質問するでしょう、「口の中に在る時に唾は汚くないのだけど、いったん外に出すとどうして汚いの？」って聞くんですね。私が病院に行って皆さん方に、「これから検査しますので、この滅菌済みの綺麗なシャ

ーレに唾を吐いて下さい」と言って、「検査が終わりましたのでもう一度飲んで下さい」と言う。皆さんどうします？（嫌だと思いますよ）何で嫌なんだって考えたことありますか？　これはですね、（唾が）外に出たと意識すると、これは元々依怙贔屓しているので、「依怙贔屓」分がマイナスになるというのが私の意見なんです。

これが、水洗便所が徹底的に普及した理由ですね。僕らの頃は水洗便所は一つも無かったですよ。よほど珍しく、山奥の温泉宿なんかに行くと（便所が）川の上になってました。これは元々水洗です。水洗便所は物凄いスピードで普及しました。でも良く考えてみると、ただ今現在、私がレントゲンみたいな目を持っているわけではないですが、皆さんお腹の中に溜めてますよね？腹の中に溜めているのに自分が汚いと思っている方いますか？　一人もいないはずですよ。完全に「依怙贔屓」で、中にいる間はいいのです。いったん出たら駄目なんです。

これは、なんでこんなところにあるか分かったかと言うと、ここ（頭を指す）が壊れた人がいるのですね。脳みそは大体壊れるからわかるのです。なんと、脳動脈瘤が出て丁度ここから出血してですね、また、運がいいと言うか悪いと言うか、その人が３０代のアメリカ人ですけど、専門が神経科学の専門家だったのです。脳卒中の発作を起こしたものですから、発作を起こした時から直ぐに脳出血、脳卒中だと分かって、何とそのご本人が治ってから本を書いたのですが、その時にどう思ったかと言うと、「脳卒中ですから症状を覚えておかなけりゃ」と思ったそうです。相当にプロ根性ですよね。本人はどんな感じだったかと言うと、「馬鹿の壁」にも書きましたけど、「自分が水になっていくような感じがする」と書いてます。皆さん、その場で液体になっていくと、形が消えてズルズルっと広がっていきますでしょ。そして、最終的にどうなるかと言うと、全世界が自分になります。

宇宙との一体感、世界との一体感って、宗教体感はこれですね。なにも脳みそ壊れなくても出来るのです。これは、例えば、アメリカの文化人類学者がメキシコのシャーマンに入門して、薬使ったり、茸食べたりとかして、こういう体験をして書かれてます。宗教体験には普通にある体験で

す、「世界との一体感」、「宇宙との一体感」と言うのは。これは本当に気持ちがいいもので、何故かと申しますと、自分以外の物は無くなってしまいます（世界が自分になりますから）ので、見えてる範囲も、実は自分が見てるのですから、自分の目の中にあるわけで、それを自分だと思えば自分ですよね、それをそうしないのは、運動するのに仕切りを自分で入れているからであって、そのしきりを壊せば脳に入っている世界は全部自分です。

逆にそこから推論出来るのは、「そういう世界に入って至福の感覚に浸っている人は絶対に動かないだろうな」と言うことです。現在位置表示が無いので動けませんね。その位世界と一体化しているのです。自分とはそういうものですね。これは、文科系の人も色んなことを言いますけど、例えば、「人間は考える葦である」と言ったパスカルは、「自己愛が諸悪の根源」だと言っているのですが、これが一番いいのだと言ってます。面白いことに、文化がですね、これを立てる文化と言うものが出来てきたと私は思ってます。パスカルの所属していた文化がそうでありまして、主体即ち自分、これを立てると色んな厄介なことが起こります。自己（大事なことをはしょっているのですが）、これは、戦後になってから強くなったと思いませんか？　個人とかもっと言えば個ですね。これは明らかに日本の文化ではないとご存知ですよね？　日本の文化は元々なんと言ったかというと、例えば仏教ですとこう言ってます。「無我」と言ってます。要は若い人に、「無我」と言っても分からないのではないでしょうか。だから、先ほど申しましたが、死ぬのは自分が死ぬわけではない、病気になるのもひょっとしたら自分が病気になるのではない。家族の方が堪えるのだから、自分の病気はそうですよね？自分が死んでもびっくりするのは家族であって、自分ではないですよ、びっくりする自分がいないのですから。

でも、そこにこういう物を立てる文化が、暗黙ではありますが急速に入って来ましたよね。どういう風になったかと言うと、年よりはどちらかと言うと、旧来の特攻隊が出すような、特攻に出た人は今でも遺書が残ってますし、逝きそびれたと言うと変ですけど、逝くはずで逝く機会が無くて終戦になった（特攻隊の生き残りの方に）、８月１５日に若いジャーナリストがインタビューして

ます。「若い身空でどうして（特攻隊に）志願する気になったのですか？」と。必ず似たような返事をしてますね、「将来の子供達、身近な人達のため」と、２人称環境ですよ、常に。死と同じです。自分のためと言った人はいないし、天皇陛下のためお国のためでは無いのです。

ところが、こういうのが入って来ましたから、「これ何だろう？」、「何時から入って来たのだろう？」と考えると、もうはっきりしておりまして、明治になってからで、何と言ったかといいますと「近代的自我」と申しました。こんなややこしい言葉が出来る位に、大学ではインテリはこういうことを考えるのですね。

僕の個人的な意見ですが、最近朝日新聞のインタビューがありまして、朝日新聞は実は漱石を再録してるのですね。新しいことを書くと碌なことは無いので、明治に戻って三四郎を載っけたりすると、案外評判がいいと言ってました。「何で今頃漱石なんですか？」と、私に聞きに来まして、自分でやっておいて僕に聞きに来ることはないでしょ。だけど、私には良くわかるのです、多分ですね。この問題で一番悩んだ明治のうちの一人が漱石であります。有名なのが、ロンドンに行ってうつ病になって、帰って来て胃潰瘍になって、４９歳で胃潰瘍で死んでます。何で胃潰瘍になったか？　当然ですが、ずっと江戸以来の自分と言うものがあったのをあそこで切り替えていけるのですが、ここは文化の一番根本に関わって来ますから、生き方を含めて。大きなストレスになったのだと思います。

漱石は学習院で、当時、「私の個人主義」と言う講演をしております。それが、学芸文庫になって残っております。私は若い時に読みましたが何を言っているのか分かりませんでした。未だにわかっているとは言いません。ただ、その漱石が最期に何て言ったかご存知でしょうか？　有名な言葉になってますけど、「天に則って私は去る・則天去私」と言ってます。漱石は４９歳になって胃潰瘍に苦しんで世を去ってますね。先ほどから言ってます死の話と合ってます。「死ぬのは私では無い、私は関係ないよ」と。

しかし、西洋近代的自我というのはその後も入って来て、私は小学校２年生で終戦を迎えました

ので、実質的には戦後の教育だけを受けてきたと言っても言いくらい。その中では、自我・個性、個性を伸ばせと言うのは学校から言われた訳ではない。何となく世間の大人から言われる。そういう雰囲気が有りましたね。私は生意気ですから、「個性って生まれつきに持っているものだよな、一生変わらないのだよな、生物学を多少知っていればつまり遺伝子で決まっている事が個性だな、遺伝子で決まっているのは血液型だよな。」と思いませんか？

そうなんです、「血液型」なんです。ABO だけではないですよ、血液型は色んな種類がありまして、学生の頃は、・・・（私はいつまで喋っていいのでしょうか）・・・。

血液型は生まれつきですよ。これは一生変わりませんよ。どうしても変えたい人は骨髄移植するしかないです。つまり、自分の血液の造血細胞、放射線で全部殺して、他人のを貰えば血液型は変えられますけど。あれは苦しいですよ。白血病でもなければそのようなことをする必要はないですが。でも、遺伝子で決まっている個性を伸ばせというのは無理な話しで、血液型をどうやって伸ばすのですか、A―型、B―型とか言うのですか？伸びませんよそんなものは。むしろ、個性というのは在ってしょうがないもので、顔つきと同じですよ。顔がどうであろうと、年を取ったら顔つきは自分で責任を持てと言いますけど、顔の造作は独りでに決まっているのであって、どうにもこうにもなりませんね。

それで、このまま身体の話にもなるのですが、そこで中心になってくるのが、そういうことを中心にした自分なのですが、これは若い人は本当に困っているというのを皆さんお気づきではなかったでしょうか？　特攻隊を出すようなああいう社会から、つまり世のため人のための社会から、自分という社会に移ろうとしたらとても難しいですよ。だから、大人の暗黙の教育は、「人生自分のもの」、そうですね、「自分でなんとかしろ」、確かに、自分で自立できるようにならないと人の為にはならないのですが、そういう話とは別に、「自分には自我が有る」となってますから、自分が、そうすると若い人は悩むのですね、「本当の自分があるはずだ」と。幻覚ですね、いつの間にか社会的な幻覚が出来上がってます。そこから出てきた言葉が「自分探し」で、私が１５年くらい

前に北里大学に勤めていて、一般教育を教えていた時は、結構普通に学生は言ってましたですね、会話の中で「自分探し」と。私は一応教師ですから、聞き咎めると、「お前は今、自分探しと言ったな、探してるお前は誰なんだ」と注意するのですけど。そうでしょう、ある種の幻覚、幻想としか思えないですよね。それで、イラクに行った方がいましたね、亡くなった方が。誰も責任は取れませんよね。

皆さんお考えになったかもしれませんけど、例えば、英語を習うと主語が無ければ駄目だと怒られますね。本当はこんなこと書いちゃいけないと言われますが、どうしてガールではいけないのですかと言われます。「I am a boy」って教わりますよね。皆さん五月蠅いと思ったことありませんか。何が言いたいかと言うと、英語でこう書いたらどうですか？　「am a boy」と書いて、今の先生は真面目だから、こう書いたらダメですよね。「何で(I)を付けないのだ？」と。学生は、「(am)と書いたら主語は(I)にきまってるから、(I)はいらないでしょ」こう言ったことはありませんか？私は実は屁理屈を言ってるのですけど、ラテン語を勉強しますと、(I)はいりません。

だから、デカルトの有名な「我思う 故に 我あり（Cogito ergo Sum）」は「我思う」は(Cogito)の一言です。我なんて言ってませんよ。何故、（Cogito）で良いかと言うと、これは、am と同じで１人称単数現在ですから、（Cogito）と言ったら主体は私に決まっているのです。日本語では、しょっちゅうそれをやりますから、昨日も私が家を出る時に「行ってくるよ」と言いましたけど、「私は行って来る」とは言いませんよ。アメリカ人は何故一々（I）と言うのでしょう。一々（I）と言うことによって、物事には主体が在るということを徹底的に教え込んでるわけです。でも、ローマ時代に戻ったら、ローマ人はそんなことは考えていませんね、恐らく。ラテン語だけでなく、ラテン系の語学を勉強された方は大変ではなかったですか？、動詞が一々変化することを。英語は簡単にしてますよね、かなり。ドイツ語にしたって結構厄介で、一々人称変化するのですから、be 動詞は。

この後、（Cogito）の後は「故に」ですよね。それは（ergo）で。その後は「我あり」（Sum）

と来るわけです。（Sim）は１人称単数現在、英語で（am）ですよね、要りませんよ主客は。

じゃ、何故、近代の西洋語というのは、「あんなにきちんと動詞変化させているのですか？」、「書く必要性の無い主客をどうして入れるのか？」というのは、ああいう文化以外の人が異議を申し立てる以外に無いのです。アメリカなんか WHO とか TPP とかやたら略語が好きなくせに、必ず（I）を入れるでしょう。国連で英語を使っている連中に、「日本は（I）を抜け」と（言いたい）・・・そう思いませんか？

ラテン系なんか無くても全然いいのですよ、あれだけ動詞が変化するのですから。実際スペイン語は要りませんね。動詞をいきなり言っても十分に通じるのですから。

これは、実は西洋近代なのです。西洋近代は世界の一部で歴史の一部でしょ？でも、英語の先生は律儀に「主語が無ければ英語ではありません」と言いますね。金谷さんて、カナダで２５年も日本語を教えられている、もう定年になられたかもしれませんが、その先生に伺ったことがありますが、「主語がないと文章にならない文法を持っている言語は、現代世界で使われている言語の中でも７か国語くらいしかない。」と言っておられました。全部西洋の言語だそうです。

これは、同時に、何を意味するかと言うと、「常に主体が在る」ということを意識させます。特に「私」。なんでこんなことになったかというと、僕は専門家ではないので良くわからないのですが、一ツ橋大学の学長を２期務められた阿部欣也さんが、ドイツ中世史の専門家だったのですが、彼の本に少し書いてありました。

なぜ、西洋で主体が重要になってきたかと言うと、それは、１１世紀頃からであって、ルネッサンスのちょっと前ですね、中世の盛りというか終わり頃に、「告解」、カトリックでは「懺悔」と言いますが、これを徹底的に奨励するようになった。そうすると、普通の真面目な信者さんは、月に１度か週に１度か知りませんが、信者さんは神父さんに「私はこれこれ悪いことをしました」と言って神様に許しを乞う。これが自意識を強くしたのです。

そうでしょう？皆さん、もし、急に俄か信者になって懺悔に行くとすると、日本人が言いそうなこ

とは、「あいつはあんなことを言って俺をいじめた」とか人の告げ口をするのではないですか、神様に。私は、そんな気がしますね。「私はこんな悪いことをしました」とかまず、殆ど言わないですね。「あの野郎悪い奴です」とか。そうでしょう？

それを、キリスト教は、原罪ですから、全ての人間は罪人ですからと自分を意識させるという文化が、そこから広がっているのではないか。そうすると、自然に物語が出来まして、特に主客が必ず在りますから、物事には主体が在ると言う物語性を西洋の近代は持ちました。

だから、科学の世界でも何十人でやった仕事でもノーベル賞でしょ？　特に１９世紀はそれが強かった。天才が学問なり芸術を進める、天才と言われる人が一番出て来るのは１９世紀のヨーロッパです。日本を見ますと、誰がその仕事をしたのか良く分かりません。私は昔からそう思ってました、研究者ですから。

当然「独創性」とかなんか小さい時から言われるのです、若い時から。「独創性」って、私が研究者になって一番悩んだ言葉の一つです。だって、物を考える時に私は日本語で考えてますけど、日本語は俺が作ったわけではない。もし、本当に私だけが、分かって私だけが理解できるような理論を私が考えたとしますと、定義により他の人には通じません。そうじゃありませんか？

アインシュタインの仕事が如何に「独創的」かと言いますと、他の学者が理解するからノーベル賞になるのであって、分からなかったらどうしようもないですよ。他の人が分かると言うことは他の人がいずれ考え付く可能性があったと言うことですよ。

実は独創性のある人は他のもたくさん知ってました。何故かと言うと、私は１年間精神科の病院にアルバイトで行ってたのですが、他の人が一切理解出来ない理屈を言う人がたくさんおりました。だから「主体という物を立てる文化」は非常に広がった。実質的には上手くいったのですが、良く考えると変なのです。意識の話としてズーッと言ってきましたけど、これが社会的に通用してしまうものですから。

例えば、皆さんにとって嫌な言葉かもしれませんが、「戦争責任」という言葉がよく言われて、

日本では大体ぐずぐずになって消えてしまうのですね。時々必死になって言う人もいますけど、当たり前なんです、私が考えると。何故なら、ドイツは「戦争責任」をとってどうとか言うのです。それは、彼らのあの世界は、ドイツとイギリスだったら行為に主体が存在するという物語については暗黙の合意があるのです。だから、誰が悪かったかと言うと、ナチが悪かったので、ヒットラーが悪かったでいいのです。主体がありますから。

皆さんそうは思っていないでしょう？自衛隊もそうだと思いますけど、役所でも。大体書類がありますよね、その書類のしたにハンコを押す欄がありますよね。見てますと１０位ありますよね？それに順繰りにハンコ押していくのです。その書類を見ると、ここにハンコを押した奴は誰も責任が無いというハンコだと思ってます。そうですよね？

御前会議で、その場の雰囲気でというか空気で決めることがあり、空気で決めると言うのは日本の悪いことだと言いますが、僕は長い間、教授会に出たり、日本流の会議に出ましたが、何故それが悪いのか良く分からないのです。つまり、１０人が、１０人の人が陛下の前で最終的に決めるわけですね、その人達の中には、朝、奥様のご機嫌が悪くて朝飯を食い損ねた人も居るだろうし、色んな状況の人もいるはずです。それが、いずれにしても、「しょうがないなあ、この結論を出したのは」、ある意味では極めて客観的な結論ですよね。その場の状況に対して最も適切な答えを出したということで、これは「状況依存の論理」です。「状況依存の論理」は、その状況が消えてしまうと説明のしようが無いので、一般性を持ちません。

でも、日本人はそれを許容してやってきました。だから、それを中国人に説明するとかですね、無理ですよ。特にヨーロッパ人は、そんなものはプリミティブなやり方だと。

私はそう思ってません、はっきり申し上げて。だけど、「それを別なやり方をあいつらにやれ」とも言いません。せいぜい、「そろそろ「I am a boy」の（I）は取ったらどうか」位は言います。そうすると、もう少し人のことを考えるようになるのではないでしょうか。

実は、この問題は、今外してしまいましたけど、我々の持っている「意識」が動物とどこが違う

かと言う話と非常に深く絡んでいて、人間は動物と違って社会を作ったわけです。

その根本は何かと言うと「意識」の違いです。「意識」はどこが違うのかと言う説明を、実は一度も聞いたことはないのです。動物の１番大きな特徴は言葉を喋れないことです。

１０年間、「まる」という猫を飼っているのですが、１０年ずっと面倒見てますよ、腹が減ったと言うと飯を食わせているのですが、この１０年、「ニャー」としか言いません。もう、いい加減喋ってもいいなという気がするのですが、おはようも言わない。どうしてかと考えたことがありませんか？

僕はしつこいたちですから、子供の頃から猫がいましたが、なんで猫はしゃべらないのかとずっと考えてました。結局出てきた結論は、ちょっと面倒臭いのですが、言ってみれば簡単で、動物は言葉を喋らないのは、「同じにする」ことが出来ないからです。

感覚は違うと検出するのですが、「意識」は同じなのです。同じにするのです。同じにしないと言葉は出てこないのです。何を言ってるのか全然わからないと思うのですが、例えば、犬の好きな人もいますね。私は犬の言葉も分からないのですが、家の犬は家族の誰が名前を呼んでも跳んでいきますから、自分の名前位は最低分かってますよ。そういう犬は大体躾の良い犬ですから。飼い主が居なくなったのを見計らって実験をします。躾が良い犬は「お座り」位は必ず出来るので、何と言うかというと、何でもいいのです。例えば「トマト」と言うと、お座りするのです。分かってないのははっきりしてるのですね。

どうして、分からないのかと言うと、動物というのは、調べた限りでは、「絶対音感」なんです。皆さん、この中で「絶対音感」の方って独りくらいいるのではないですか？「絶対音感」というものは、小さい頃から楽器の訓練をしないと「絶対音感」は身に付かないらしいですね。これ違うのです。小さい時から訓練しないと動物として持っていた「絶対音感」が消えてしまいます。動物は皆「絶対音感」ですから、赤ん坊は「絶対音感」で、皆さんも小さい時は「絶対音感」だったのです。

「絶対音感」が分からない人に申し上げますと、うちの姪っ子は「絶対音感」がありまして、ピアノを小さいときからやっていたので、私が行くとですね、私に「絶対音感」が無いのを知っていますから、私が行った時にたまたまカラスが鳴いて、今のカラス鳴き声はこれだよとピアノを弾いて教えてくれる。それが出来る人です。こういう人は、調律が悪くて全部半音ずれているピアノがあるとしますと、それを使っていつも自分が弾いている曲を弾き始めると、その途端に自分が全く新しい曲を弾いていると感じるのだそうです。それは、本人に聞いたことがあります。半音ずれたらもう駄目です。皆さんどうですか？　皆さん方の耳は、音の高さを判定する器官なのです。これは、耳の構造とか生理を調べたらお分かりになるのですが、脳を調べてもそうですが、面倒くさいのでそこは省略致しますが、音の高さを判定する器官ですから。

動物はどう思っているかと言うと、私が、我が家の猫を「まる」と呼ぶ時は低い声で言いますし、女房や娘が呼ぶ時は高い声で呼ぶのですが、それはもう違う音です。今、ウグイスが鳴き始めましたから、私が外へ行って、ホーホケキョと言っても、ウグイスは一羽も寄ってこないです。それは当たり前で、ウグイスにしてみれば音程がずれているのです。「絶対音感」の有る人ってなにも楽器だけではないですよ。昔から知られてまして、江戸時代に名前が残っていますよ。鳥寄せの名人、草笛作って吹いて鳥を寄せるのです。これは、「絶対音感」がある人です。

こういう風に考えるようになって私は、人間というのは、音痴って言うじゃないですか、音痴って極めて人間的な能力だと初めて気がつきました。これは、言葉で定義するときちんと定義出来るのです。どういう風に定義するかと言うと、「音の高さは違っていても同じ曲だと信じて歌える能力」を言うのです。これが出来ないと言葉が出来ないです。そうでしょ？いきなり聞こえて来た音で、「同じ」「違う」を判断しますから。だから、動物は感覚に敏感で感覚に依存しているというのです。犬は訓練していない限りここの部屋に連れて来れないのです。何故かと言うと、犬から見ると、不気味な者がこれだけ居るのですよ、私は人ですから、（皆さんを）防大の同窓生だなあと、「同じ」に出来るのですよ。「同じ」に出来るということから人間の能力は、ずっと発展して

いきます。殆ど僕は説明を聞いたことはありません。

感覚を無視する能力は、第１に「言葉を使う時」に。例えば私の犬に１０を教えようと思って、たまたまこれしか無いからこうやって書くのですが、「しろ」という犬でも良いし、しろという犬に「お前の名前は漢字で書くとこうだぞ」と教えると、犬が怒るのです。分かりますか？犬は「黒」じゃないかと言うのです。（板書で「赤色」で「青」と書いて）皆さんこれ「青」って読みましたでしょ？これ「赤」ですよ。これは屁理屈では無いので、感覚と意識はそれぞれ拮抗してるのですけど、文明人は感覚よりも意識を優先するのです。そうでしょ色を無視してますから。どういう色で書いたって青は青だろって。どういう根拠ですか、それは、意識の方が偉いと言うのは。だから、そこでしょっちゅう問題が起こるのです。それは良いのですが、その次に起こるのはですね・・・だいたい「時間」ですね・・・。何を喋っているのだろうと実は思っているのですが・・・。

これは、結構根本的な問題です。この「同じ」というのを、皆さんどこで最初に習うかと言うと、小学校ですね。９＋３は１２と。ごく素直にイコールと言う言葉を覚えましたでしょ？この位はチンパンジーでも分かると思います。だけど進んで、中学校に入ると、途端に算数を嫌になる人がいまして、それは、方程式が出てきて、解くとX=３になったりするのです。まだ、これはいいのですが、論理的に式を解いて行くと、A=B になったりするのですね。この途端に数学を辞めた方がいるのではないですか、この中に。僕は知ってますよ、ここで（数学）辞めた奴を。理屈を聞くと、「A=B なら、明日から B という字は要らないだろう。」そうじゃ有りません？そういう無茶苦茶なことを先生に言うと、生徒としては言いたくなるのですが、それを言ったらコツンとやられますから、昔だったら言いません。このイコールが出来るとですね、驚くなかれとんでもないことが出来るのです。B=A が出来ます。これを「交換の法則」と言います。数学基礎論では。A=B だと B=A です。当たり前だろってそう思うでしょ？どこでもいいのですが、千葉県の猿が山の中でウサギの死んだのを拾って来て、飼ってた犬が・・・「時間ですね、はい・・・分かってま

す。」言いたいことはですね、動物は交換が出来ないでしょ？猿がウサギの死んだのを持ってきて、犬がきゅうりを拾って来て、そこで取り替えているのを見たということは無いですね。これが出来ると動物の生活は凄く楽になるのです。

　それをやったのが人です。その交換に、更に頭で考えますから、厳密になって行くと、「脳はお金つまり等価交換」になります。もう一つだけ申し上げます。更に言ったのがですね、「頭の中で、自分と相手を交換することが出来るのが、人だけで有ります。」これは、チンパンジーの子供と自分の子供を一緒に育てた人がいまして、生まれた時は殆ど同じで、３歳まではチンパンジーが全部上。４歳を過ぎた途端に人とチンパンジーに猛烈な差が出来てきます。人はどんどん育つけど、チンパンジーは育ちません。どこが違うか。「人の子供は自分が相手だったら何をするかということを考えに入れることが出来る」のです。「チンパンジーは一生それが出来ません」。

　と言うことで、だいぶん最後の方は端折りましたが、後は、御自分でお考え頂きたいということで、よろしくお願い致します。どうも、ご清聴ありがとうございました。

【無断転載厳禁】

新入生（63 期生）に対する OB 講話

2015.11.03

（講師紹介）

氏　名　　：重 久　修

出　身　　：宮崎県都城市　都城西高

最終学歴　：防衛大学校　22 期航空要員　航空工学専攻

入隊年月日：昭和５３年３月　航空自衛隊入隊

職　種　　：戦闘機パイロット（F-4,F-15）

（講話タイトル）「**悔いなき人生にするために**」講演日時：平成 27 年４月６日

はじめに

入校おめでとうございます。今の気持ちは期待と不安の両方だと思います。私は２２期の重久です。出身は宮崎県都城市で、防大においては、専攻は航空工学、校友会（部活）は準硬式野球部でした。卒業後は航空自衛隊に進み、戦闘機パイロットとして３４年余り勤務し２年前に退官しました。

今日は、皆さんの先輩としてメッセージをと依頼され、これからみなさんが直面するであろう悩みや様々な壁に向き合う時の一助になればと思い、いくつかの経験、体験と教訓をお話したいと思います。

１　「人は六回顔が変わる」

まず、はじめに、「人は六回顔が変わる」という話をしたいと思います。人は人生の節目で顔が変わる、すなわち、その時々の立場や責任が変わっていくことで心の顔が変わっていくという意味だと思います。一回目は体が大人になっていく時、二回目は世の中に責任を負う時、今、皆さんはこの二回目の変化の時期を迎えられてると思います。三回目は結婚をして新しい守るべき家族ができ一家の大黒柱になった時、四回目は子供が出来て、子供の立場から一変、親の立場となり我が子

を教え育てる立場へと責任が大きくなる時。五回目は社会や家族に対する責任を果たしおえた時、六回目は人生を終える時と言われております。

自衛隊の中での皆さんの立場も、同様に、最初は自衛官としての使命感や責任感をしっかり自覚し様々な事を学ぶところから始まります。そして、中堅幹部になると、家庭と同様に教わる立場から教える立場に、次いで、人として生きる上で必要な指導ができるような指導者となり、最後は管理者として、組織や人をしっかり掌握し必要に応じて適切な対応が出来るように判断力や決断力を身につけていかなければなりません。

これは、これから４０年間の人として自衛官としての道しるべだと思います。自分が置かれた立場に応じて果たすべき責任としっかり向き合うために、このことを意識して人生を過ごしてほしいと思います。

今、自分が背中に背負っている看板を忘れず確認しながら、一歩ずつ前へ進むことが大切です。自分が人生の中でどこを歩んでいるのか、全体の人生そのものを見据えた上で、今を考えると大きな悩みも小さく思えたりもします。悩む時、袋小路に入ってしまうとなかなか抜け出れなくなります。一歩下がって全体を眺めてから今を見たらいいと思います。

パイロットで良かったと思える一つに、雲の上に一気に上昇し富士山の三倍ぐらいの高度から地上を眺めると、「なんて自分は些細な事で悩んだりくよくよしているのか」と思ってしまいます。それで少しは気が楽になります。ただ、すぐに現実に引き戻されますが、少なくとも気も持ちようで前向きになれることを体験し、悩んだら考え方を変えることが随分出来るようになりました。

パイロットでない人はどうすれば良いかと言えば、防大時代夜の星空を見てはこの宇宙の果てはどうなっているのかとよく星を眺めていました。「大局的に物事を見る」という言葉がありますが、これは、より幅広く、より奥深くものを見たり考えたりすることで小さなことへのこだわりから開放されたり的確な判断が出来たりすることを意味しています。

加えて、「自分の経験や知識は限られたものしか持ち合わせていないと謙虚に自覚し、周りの先

輩や指導教官の助けを借りて足らないスペースを埋めていくこと」が、二つめに大切です。これである程度は冷静に物事に対する判断が出来るようになると思います。

　そして、三つ目が「逃げない気持ち」です。折角冷静な判断が出来てもわかってるけどどうしても今の生活には耐えられないと思ったらどうするか？　そんな時は時間との戦いです。生活リズムに慣れ、楽しいと思えることができれば乗り越えられます。日々の生活の中に悩む時間、逃げ方を考える時間を悩まない時間に変えることが大切です。そのためには、本を読むこと、また、部活に打ち込むことを勧めます。

　社会人として自分の決断や行動に責任を負うことが求められそれを実践していくことが二回目の顔へ成長していくことだと思います。

　これをお話した理由は、自分の経験から今現時点でここにいることに対して悩んでいる人が少なからずいると思い話をしました。自分だけでなくみんな悩んでいると思うべきです。そしていかに後悔のない選択、決心をしていくかです。

　自分の一年生の時と指導教官として一年生を担当した時の話をしたいと思います。

　まず入校動機が違うことによる悩みの違いです。皆さんは自分の夢、やりがいを求めて自分の決断で来ましたか？それとも親や先生に進められてきましたか？それともほかに行くところもなく何となくきましたか？入校して自分の思い描いた学校生活とのギャップはどれぐらいありましたか？というお話からしたい思います。

　入校動機に関わらず、今の時間に追われる忙しい毎日が悩みの原因になってる人もいるのではないかと思います。普通の大学生活はもっとゆっくりスタートして自分の時間もあり楽しいのではと思うと、何故こんなきつい生活をしなくてはならないのか？と。悩みの程度は入校動機やこれまでの生活の習慣によって異なると思いますが。

　私も、同様に希望して入校したにも関わらず、４月から５月はずいぶんと悩み辞めたいというより逃げたいという気持ちが強く親にも随分電話もした覚えがあります。

自分の本当にやりたいことは他にあって、周りに進められて、渋々来た人はもっと悩んでいるのではないかと思います。逃げるのではなく、自分の人生について真剣に考え、決断に責任をもって向き合える自信が持てたら、道を変えるのも良いと思います。ただし、親を頼らず迷惑もかけずが条件です。少なくとも防大で頑張ることは親孝行にはなると思います。

また、若い時は時間はたくさんあります。逃げるのでなく、一年間は頑張ることを勧めます。７月の夏の訓練（遠泳）ぐらいからは楽しいことができてきます。生活に慣れて自分なりの時間も作れるようになります。そうすれば、自分の悩みの本当の原因も見えてきます。

とにかく最初の１か月を、目の前の目標だけを見つめて一日一日頑張ってみたらいいと思います。

指導教官の時の一年生は最初の１か月で４人辞めました。毎晩、相談に乗り消灯になるまで話をしてました。５月以降は誰も辞めず最後まで頑張ってくれました。

そして、相談をする時は同じ経験を持つ四年生や指導教官に相談してください。同じように悩む同級生と話しても、傷の舐めあいとなって、どちらかの考えに引きずられることが多くなります。後悔が残る結果になることも多々あります。また、一人では辞めづらく仲間を作って辞めようとする人がいます。仲間を巻き添えにしないで一人静かに決断した方が後々憂いなく新たな道に進めると思います。

「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」という言葉がありますが、一人で悩むのではなく、自分の少ない経験より多くを経験している先輩の話に少しでも耳を傾け、多くの本を読み、熟慮することがより良い決断につながると思います。

また、相談も中々出来ず悩む人は、目の前の大きな壁に正面から挑まず、斜に構えて、目の前の目標だけを見て、それだけを達成するために一生懸命になる方が楽だと思います。そすれば、これから皆さんが歩む道は決して後悔するような人生にはならないと思います。ただし、俗人的な欲を持って臨むと不満やストレスになると思いますので、国のために自分に与えられた場所で正面から

向き合い頑張れば、必ず良かったと思える人生になると思います。自衛官という仕事はそれほど素晴らしい職業だと思います。

次の悩みの時期は、２年生になる時に陸海空の要員に分かれ、専攻が決まる時かもしれません。入校時の悩みに比べればさほど大きくないかもしれません。今や統合の時代です。どの制服を着ても一緒に仕事をする時代です。前にも述べたように、与えられた場所で与えられた仕事に全力で取り組むことです。希望に対する意識が強くなる時、希望がかなわないとストレスも大きくなります。それも自分だけがストレスを抱えることになります。言われるがままの気持ちで仕事をやるようになって、気持ちが随分楽になりました。夢を捨てろって言ってるわけではありません。大きな志を持って目先の欲望にのめり込まないように心を広く頑張ってください。自然体で。

また、悩みの中で、銃の貸与があると思いますが、自分が武器を持っての仕事なんて出来ないと思う人が出てくるかもしれません。あまり重く受け止めないで、自衛官としての基礎能力を身につける一つだと割り切ることです。我々自衛官は、武器を使うためではなく、武器を使うようなことがないように日々厳しい訓練をしているのです。また、どうしても馴染めない人はそれなりの職種もたくさんあります。

「組織はパズルのようなものです」

その人の得意な分野で、はまりのパーツでそれぞれが役割を果たすことで一枚の絵を完成していくのです。自分に合わないパーツで苦労する時もありますが前向きに努力していくことが大切です。得てして、不得意な分野で中々うまくいかないこともありますが、それは能力の差ではなく、はまりの差であり、努力をすれば必ず誰かが評価してくれます。不得意な分野で頑張れれば、結果として自分の自信にもなります。いざという時にも、予期しないことが起こったときにも、あわてず向き合うことができます。

また、年齢と階級が上がるにつれ立場や責任も大きくなっていきます。パズルの中心、大切なパーツへと移っていきます。若い時には、背景の一部、空や海の一パーツ的な存在から、そのワンピ

ースがないと絵の持つ意味が正確に伝わらないようなワンピースへと変化していくものだと思います。大きな意味を持たないワンピースのうちに多くを学び次なるステップでいつでも力を発揮できる準備をしておくことです。

２　安全保障環境の変化と自衛隊の役割（誇りと充実感のある人生）

次に、自衛隊での略歴に沿って年齢や立場で変化する悩みや教訓、そして、いくつかの出来事と安全保障環境の変化及び自衛隊の役割の変化についてお話します。

私が防大三年生の時にソ連のミグ戦闘機が函館に降りる亡命事案がありました。米ソの冷戦時代の真っ只中で起こり北の空が緊張に包まれたのを覚えています。皆さんはスクランブルという言葉を聞いたことがありますか？　航空自衛隊の平時実施している、国籍不明機の対領空侵犯措置のために、空自戦闘機を緊急発進させることを言います。

航空自衛隊に入り、戦闘機乗りになって、最初の任務がこのアラート勤務でした。時はまだ冷戦時代。当時のソ連の大型偵察機や爆撃機と、日本海で向き合った時の緊張は今でも忘れません。

時代にはうねりがあります。太平洋戦争が終わった後、この冷戦時代が長く続き、そして突然と東西ドイツの壁が崩壊し、２年後にはソ連が崩壊しました。この間、イデオロギーの衝突は国を二分する争いとなり、朝鮮戦争、ベトナム戦争が起こります。ソ連が崩壊したことで世界は平和な安定した時代を迎えるかと思われました。

平成に入り、日本の周りも大きな脅威がなくなり落ち着いた時代を迎えるかに思えましたが、皆さんが生まれてすぐ 2001 年に、9.11 米国同時多発テロが起こり、非国家組織、テロとの戦いが始まりました。平和な時期は 10 年余りで終わり、次なる戦いが今も続いています。これ以外にも、海賊や大規模災害なども頻発し、自衛隊の任務、行動範囲は一気に拡大されることとなります。今や国内に限らず、世界各地で自衛隊は活躍し世界の国々から高い評価を得ています。時代のうねりは今後高くなるのか収まり安定してくるのか全く予断を許しません。

皆さんは日の丸を背負い世界で活躍することになります。やりがいのある誇りを持てる仕事で

す。40 年後どんな時代になってるか？私が想像出来なかったように、これから先の時代も想像も出来ませんが、歴史は繰り返します。平穏と波乱は形は異なっても繰り返します。いつどんな時代になっても国を守れる準備をしておかなければなりません。その準備こそが戦争を回避する第一歩になるのです。

皆さんは防大を卒業したらすぐに指揮官をやる人がいます。指揮官は部下を守り、部下を鍛えることから始まります。そのためには、部下のことを知っておくことが大切です。「人の目を見て心を読め。」スマホの時代になって人に向き合うことが少なくなっていませんか？　メールなら言いたいことが言えるけど面と向かったら何も言えないなんてないですか？

また、情報も何でも得られる時代になり、情報はうまく使えば、昔より幅広く奥深く物事を見られる時代にもなりました。しかし、情報に翻弄され情報に逆に使われている人はいませんか？　戦いの様相も、宇宙空間、サイバー空間も戦いの対象になります。今後益々デジタル化が進んでいくことと思います。でも自衛隊では装備品はデジタル化が進んでも部下は人です。アナログの世界です。3.11 東北大震災でもわかるように、人の気持ち、心が何より大切です。防大での生活においても、スマホより人と向き合うことを優先してください。何かがあった時救ってくれるのは同期であり同僚です。家族を含めて人について考える四年間にもしてもらいたいと思います。このことは人生の中で最も役にたつと思います。

おいしいラーメンのスープは、鶏がら、豚がらと人柄だそうです。

人生とは、人と生きる、人のために生きることです。

また、失敗は敗北にあらずです。失敗を教訓として人生に生かした人だけが人生の勝者になれる。過去のことをくよくよせず、未来を切り開くためにあると考えるべきです。それが、どんな変化にも対応出来る能力を身に着ける第一歩です。

おわりに

　悔いなき人生にするために大いに悩み、乗り越え、誇りある防人とならんことを心から祈念してます。

（同窓会本部事務局広報部担当記）

防大逍遥歌の誕生と現状

2015.04.24

本論考は、防衛大学校の卒業生、在校生の多くから親しまれている逍遥歌の誕生秘話であり、歴史的な貴重な証言でもある。本論考の著者は偕行社編集委員の喜田邦彦氏（防大 10 期[陸]）であり、喜田氏及び偕行社のご厚意により偕行記事 27 年 4 月号から転載するものである。

（防大同窓会広報部ＨＰ担当永岩記）

防大逍遥歌の誕生と現状

偕行社 編集委員

喜田 邦彦 陸自 66

はじめに

今年の偕行社の賀詞交歓会もまた、最後は陸軍士官学校歌と防衛大学校逍遥歌で終わった。直後に防大１期生の大東信祐氏は、「俺たちの期は、在校間に逍遥歌を歌ったことがない」と述べられた。「エッ、なぜですか」との質問に、「あれは我々が卒業したあと、４期生が作詞・作曲した歌だよ・・・」

防大卒業生の宴会では、全員が立って肩を組み１番から４番まで合唱するのが定番になっている。筆者・10 期生の防大時代は、ホッケー部活動に明け暮れ、「勝って祝宴、負けて反省会、締めは肩を組んでの逍遥歌」でしかなかった。漫然と、作詞者は不詳、作曲はプロと見なし、酒と共に心地よいメロディー、高邁な歌詞、理想の姿に酔いしれていた。

50 年余にわたり、作詞・作曲された大先輩に失礼しっぱなしである。お詫びと敬意を込め、誕生のエピソード・秘話を書かせていただこうと考えた。ところが、ネットで「防衛大学校逍遥歌」を調べたが、結果に驚いた。

検索画面トップは、応援団の写真(通常は小原台の全景写真のはず)。続いて「前口上」。歌詞は

その後。さらにその「前口上」に、「酒は飲むべし百薬の長　女買うべし　これまた人生無上の快楽」等々、バンカラ・不快な言葉が連なっていた。

半世紀余にわたり歌い続けられた逍遥歌も、世相の変化、世代交代の波にもまれ、傷つけられ、変化している。我々世代の同窓生にとって逍遥歌は、熱き血潮の青春時代を振り返る、神聖な魂を呼び起こす歌だった。そこで、その誕生と後の変化を、追ってみることにした。それらを記録し、残すことも、『偕行』誌の役割であろう。

発端　校友会の動きかけ

昭和 33 年と言えば、保安大学校が防衛大学校と改称され、小原台に移転した２年後。世相は、60 年安保闘争の始まる２年前で、自衛隊・防大に厳しい時代だった。

当時、４学年は３期生、３学年は４期生、２学年は５期生。逍遥歌の作成を目論んだのは、学生の自治活動をつかさどる校友会本部で、学校当局は関与してない。

校友会の中期学生委員長は、３期生の百瀬友宏氏。校友会本部の役員は５～６名だった。作詞・作曲の審査と発表をした後期の学生委員長は、３学年の４期生、杉原剛介氏（故人）。同期の岩田貞幸氏が総務を担当していた。広島でご健在の氏は、突然の電話インタビューにも気軽に応じられた。

岩田氏。「当時の防大には、１期生(田崎氏)が作った学生歌、同じく前川氏の応援歌、各大隊には固有の歌があった。いずれも元気のいい行進歌調だったが、在校生の間には自分たちで作った寮歌のようなものが欲しいとの雰囲気があったと記憶している」

当時の陸上訓練では、疲れた時や演習場帰り、隊歌演習として日本軍の歌ばかり歌っていた。そこで、勇ましい歌に代え、新しいキャンパスの誕生と、新しい住人による歌を作ろうという雰囲気が湧き上がったのかもしれない。逍遥歌の発案者は、中期校友会委員長の百瀬氏だとされる。

岩田氏の回顧を続けよう。「そこで校友会が、逍遥歌を募集することになり、校友会新聞にまず作詞の募集案内を出した。どんな内容だったかは、記憶してない。

いくつかの応募があったが、同期生の小長谷学生の作詞がすんなり決まった。審査選考は校友会の委員のみで、学校側や部外の専門家は関与してない。

続いて作曲を募集したが、初めはなかなか出なかった。締め切り直前、これも同期生の塩瀬君が２曲応募してくれた。これをブラスバンドで演奏してもらい、現在のメロデーにすんなり決まった。だから、記憶に残るようなエピソードはなかった。しかし、非常にいい歌詞であり、いいメロディーに仕上がり、選考委員としても自信を持っていた」

「ネットに掲載されている『前口上』はありましたか」との質問に、「逍遥歌以外にそんなものは募集しなかったし、応募作品にもなかった」「今も、気楽に逍遥歌を合唱して楽しんでいます」と、懐かしさが伝わってくる回答を頂いた。

応募　作詞・小長谷聡氏

逍遥歌の誕生余話の企画をまとめ、小長屋氏に電話で執筆を依頼した。ところが氏は静岡から出向いてこられ、「今はまだ書く気になれない」と固辞された。その際、昭和 33 年６月 25 日と、７月８日の毎日新聞コピーを提示された。女優・有馬稲子氏の防大訪問記と、大江健三郎氏の「防衛大学校生は世代の恥辱」発言が掲載された記事である。この事件が、逍遥歌の歌詞が誕生する背景にあり、それが氏の筆を鈍らせたのであろう。

そこで、筆者がインタビューしてまとめることで、ご協力のお許しを得ることができた。小長谷氏には、雑駁・浅学な質問に対しても丁重に「です、ます」で答えて頂いた。回答や口調にもそのお人柄がうかがえるので、そのまま掲載させてもらう。

「歌詞応募の動機は何でしょう？」「演習に行っても、軍歌しかありませんでした。また当時は、観音崎を回る 40km マラソンがありました。そんなとき、何か自分たちの歌が欲しいと考えました。３期生が卒業を控えた時期だったと思いますが、校友会紙で逍遥歌の募集を見ました。そこで応募した次第です」

「毎日新聞のコピーをお持ちになりましたが、有馬稲子女史の防大訪問記事への反発や、再軍備

の流れに反対する大江健三郎氏の『防衛大学校生は同世代の恥辱』への強い反発があったようですが？」

「毎日新聞に山口進学生(６期生)がそれに対する反論―祖国日本のために黙々と専念している防大生―を投稿したところ、学校側から注意を受けたと聞きました。一方、毎日新聞はそれを掲載して『防大生は誇りか恥辱か』と言う論争を煽りました。

私たちは非常に悔しい思いをし、人文科学教室の上田教授に相談しました。先生からも、『今は歯をくいしばって耐えよ』との指導を頂きました。ゴミを出しながらきれいな家を誇り、そのゴミ集める人を蔑み貶めるような進歩的文学者やマスコミに対して悔しい思いをした時期で、それが歌詞につながったのです。(筆者注　歌詞の２番、「鉄腕鍛ふる若人の　高き理想を誰が知る」。３番、「真理の光身に浴びて　平和を祈る影長し」。４番、「星影寒く胸に入る、忍びて春を待ちながら」)

「後に大江氏はノーベル賞を受賞しますが、今も、ノーベル賞の選考基準は何なのかと、憤りを感じています。彼らに対する『こだわり』は、逍遥歌を汚すことになるので言いたくない。執筆を控えさせていただきました。それが正直な現在の心境です」

「作詞について伺います。鶯声凍る・・・に始まる文語調の語彙はいかにして学ばれたのでしょう？」「高校の教科に漢文がありましたが、その程度です。詩集は、島崎藤村の『若菜集』を愛読していました。当時、各中隊は短歌、書道、絵画等を展示発表する文芸活動を行っていましたが、それには積極的に参加していました」

「作詞は、すらすら書けたのでしょうか？」「何となく、書いたというか・・・構成は単純です。１学年から４学年の間の主要行事を入れる。四季折々の特性を出す。学生生活の朝昼夕夜を意識する。陸・海・空の思いを込める・・・で仕上げました」

「その後の逍遥歌の状況についてのご感想は？」「実はその後、防大に２回勤務しています。13期～15期生時の小隊指導教官と、20期生頃に学校企画室で学制改革を担当しました。その時、誰

かから『３番の「チリ」は「霧」の間違いではないか』と指摘されました。作詞当時、台上は赤土の埃だらけ、教室から帰るとベッドに土埃が積もっていました。防大に再勤務した時は『緑のおかべ』で、昔の面影はなかったです。だから、時代と共に歌詞は変っていくのかなとの思いが強くなったのです」

「歌詞の最後を『アンドロメダが西に舞う』で締めるのは抒情的でいいですね」

「いやあれは、流星群を書いた抒情ではなく、ギリシャ神話の英雄に思い寄せました。

アンドロメダはケフェウス王とカシオペア女王との間に生まれた美しい娘で、女王が娘の美貌を誇って海の精女を蔑んだため海人の怒りに触れ、娘が海の海獣の餌食になろうとしたところをペルセウス王子が怪物を退治して囚われの鎖を切り、アンドロメダを自由の身にしたギリシャ神話の英雄に、防大の学生を重ね合わせたのです」

筆者は、この話を初めて聞いた。胸が締め付けられる思いがし、ギリシャ神話も知らずに歌ってきた不明を強く恥じ、次の質問までしばらく時間がかかった。

「最後に、後輩たちに一言お願いします」「歌詞も時代と共に変化します。３番の「たれか知る」は「だれが知る」に、４番の「４年・よとせ」は「よねん」に変化しています。時代に合った新しい歌を作られればいいですよ」

筆者は最後に、「作詞の素晴らしさ、作曲の心地よさは不滅です。防大が小原台にある限り、青春を燃やした証として歌い続けられるべきです」と答えるのが精いっぱいだった。

応募　作曲・塩瀬　進氏

奈良におられる塩瀬氏もお元気で、電話の質問に快く応じていただいた。しかしそのやり取りを「Ｑ＆Ａ」で書くより、氏が数年前に４期生のホームページで書かれた文字・文章の方が、臨場感も伺えるのでそれを抜粋して紹介させて頂く。

抜粋┆┆やり場のない焦燥感と、鬱積したエネルギーを発散させるため、運動部(硬式野球部)の練習に励みすぎ、授業中も自習時間もほとんど夢の中で過ごし、落第ギリギリの超低空飛行を続け

ていた３学年のある日、校友会新聞『小原台』を開いたら、逍遥歌に応募した歌詞の入選記事が目にとまった。

逍遥歌を作るため、次は作曲を募集するとの案内と、入選作が紹介されていた。詩歌にあまり興味はなかったが、作詞者が同期の小長谷君であることに興味を覚え、第１節から読み始めた。

一度さらっと読み通したが、再度、行を追って読み進むうち、何とも言えない感動を覚えた。２度、３度と読んでいるうち、自然に頭の中で旋律の付いたメロディーになっていた。

今でも不思議に思うが、苦労して曲を付けたという記憶は全くない。小長谷君が書いたあのすばらしい詞は、書かれた時にすでにその行間にあの逍遥歌の旋律を持っていたに違いない。そしてたまたま、私の感覚が彼の琴線に触れて共鳴し、それを書きとめたのではないかと思えてならない。それはまた、混沌の時代に先駆けて小原台で起居を共にする若者の身が、感受することができる「魂の叫び」だったかもしれない。

そして更に不思議なことに、年を経るにつれ、自分が逍遥歌の作曲者であるという意識や自負が、次第に遠のいていき、あの逍遥歌は小原台上で、いつの頃からか誰かが歌いはじめ、ごく自然発生的に生まれた歌だったかのような、ほのかな追憶に代わっていた。

小長谷君とは教務班も訓練班も違ったので、親交はなかった。だが、彼の素晴らしい文学的才能に大変感心した。当時の防大に文科系の専攻学科はなく、１学年時の一般教養として人文学科が唯一の文科系だった。学生歌『海青し・・・』を作詞された１期生の田崎氏をはじめ、当代一流の文学的才能を発揮された先輩方は他にも多数おられ、これが防大生の文化活動の水準の高さを示していた。

その日の夜、例によって自習時間に飽きた私は、逍遥歌の入選作詞を読み返していたが、昼間のあの旋律がまだ頭に残っていた。単純なメロディーなので、作曲に応募するほどの自信はなかったが、何気なくノートに五線を引き、書き留めておいた。

そんなことがあって約１ヵ月たち、私は逍遥歌のことをすっかり忘れ、相変わらず野球の練習と

居眠りの日々を過ごしていた。ある夜、自習時間が終わり、日夕点呼の少し前と記憶している。突然、同期生の岩田君が部屋に来て、「君は逍遥歌を作曲したと言ってたが、募集の締め切り日が明日なので、応募したらどうか。応募者が思ったより少ないので、今、校友会で手分けして集めている」と言った。

それではと言うことで机の中を探したが見当たらない。消灯間際にやっと見つけ出し、もう一度読んでみたが単純なメロディーなので、とても人前に出せる代物ではない。そこで別の旋律をつけ、もう１曲を準備して２曲のメロディーを岩田君に渡した。

岩田君がなぜ私のノートのメモのことを知っていたのかわからない。多分、同じ訓練班だったので、何かの時に自分がしゃべったのだろう。

それから２～３日後、同じ中隊(第３大隊第２中隊だったと思う)のブラスバンド部員だった３期生の則松さんが目を丸くして私の部屋に来られた。

「おい、君は、あの逍遥歌を本当に自分で作曲したのか？」と尋ねられた。私は、何か悪いことをしたのかと思い、「はい。一応私が書いたのですが、何か・・・」といいかけると、「イヤー、驚いたなー。おめでとう、君の曲が入選したよ。しかも２曲ともだ」

校友会ではブラスバンド部を中心に選考委員会を作り、作曲者の名前を伏せて全員で選んだ結果、最後に２曲が残り、それがいずれも私が提出した曲だったと、興奮気味に言われた。そしてその２曲のうち、最終的に選ばれたのが、なんと先にメモしておいた単純な方の旋律だったというわけだ。

私は防大学生として当時も今も、あまり模範的な人物ではなかったと反省しているが、思いがけず、逍遥歌の作曲者と言う大変な栄誉をいただき、防大卒業生の一人として、何とか母校の名誉を傷つけることなく、30 有余年の自衛官勤務を全うすることができたと、深く感謝している。

そして折に触れ思い出すのは、あの偉大な槇先生の教えと、小長谷君の素晴らしい詩を生んだ原野の名残のある広々とした小原台の風景と、岩田君や選考委員会の方々のご尽力です。そして 40

数年(当時)もの間、歌い続けてくれた防衛大学校同窓生の皆さんの、小原台精神にも深く感謝したいと思っています┆┆抜粋終わり。

塩瀬氏のご所見を補足するため、幾つか質問させていただいた。「失礼ですが音楽の素養は何時身につけられたのですか？」

「自分は中学時代からバイオリンをやっており、湘南交響楽団とも関係があった。防大がダメなら音大受験だと考えていたこともあるほどの音楽好きだった」

「作曲の応募については？」「同じ部屋の岩田君に提出を催促されたので応募した。しかし、採用された曲は旋律が単純で、小長谷君の立派な詩に不似合いではないかとの不安が離れなかった。逍遥歌の入選発表会が体育館で行われた際も、壇上に小長谷君と二人で立ち、中央音楽隊の須磨隊長が指揮するフルバンドで見事に演奏される逍遥歌を聴いたが、果たして皆が歌ってくれるだろうかとの疑念はが残った」

「ご自分の作曲と認識されたのはいつ頃でしょうか？」「防大卒業後は、幹部候補生学校、富士学校(特科ＢＯＣ)、航空学校(ＢＯＣ操縦)を経て中方飛行隊(八尾)、第５飛行隊(帯広)に赴任したが、その間、逍遥歌のことはすっかり忘れていた。たまたま帯広に赴任してきた赤坂強君(13 期生)が、『防大で皆が歌う逍遥歌の作曲者が先輩のお名前と同じなんですが、まさか…』という出来事があった。この時『ああ後輩たちは歌っていてくれてたんだ』と、何とも言えぬ感動を覚えた。あの入選発表から数年を経て、初めて逍遥歌の作曲者であったことを認識した」

「現在、楽譜には編曲岩井氏の名が入っていますが？」「レコーディングした際に曲の一か所半音を上げた箇所があり、そのため編曲の表記になっている。歌っている人にはあまりわからないし、逍遥歌としてのリズムには影響ないでしょう」

「この歌が後輩に歌い続けられていますが、ご所見を」との質問に、「我々の頃の台上は赤土のホコリが舞っていました。それから 60 年近くたちます。陸上自衛隊は海外にまで派遣され、立派に成長しています。このメロディを愛してくれ、時に歌ってくれている後輩の諸君に対し、深く感

謝しています・・・」

「ネットに『前口上』が付けられていますが、ご存知ですか？」「当時はなかったですね。４期生会でも時々『逍遥歌には不似合いでは…』と話題になりますが、時の流れでしょうか」と鷹揚な対応を示された。

関係者の思い出、所見等

１期生・大東信祐氏、防大を卒業して任官、２年後に６期生の隊付訓練を真駒内駐屯地で引き受けた際、逍遥歌を初めて知った。その印象は、心地よいリズムと、思い出深い歌詞であり、後輩がこんな歌を作ったのかとの驚きだった。その後、防大生の指導教官も務めたので、一面で小原台上の変化も目にしつつ歌っている。

４期生・冨澤暉氏、岩田君と塩瀬君は私と同じ３大隊に、小長谷君は４大隊にいた。だから別に謀ったわけでも何でもない。偶然そうした才能に恵まれた仲間が、それぞれの動機に基づいて、協力した成果である。

この歌が作られた背景として、間接的に有馬稲子女史の防大訪問があったとされるのは、本当かもしれない。当時、前期の校友会学生委員長３期生の谷希夫氏が女史の防大訪問時の案内等を実施した。私どもはそれを羨ましく眺めていた。女史は毎日新聞の取材に応じ、「防大生は凛々しく、優しい」とほめそやした。全国の若者達のマドンナが防大学生を褒めたことに「これは危険」と見た大江氏が、「同世代の恥辱」とかみついたのだろう。まだまだ、「自衛官は税金泥棒」と罵られ、某一流女子大のアンケートで「防大生のもとにはお嫁に行かない」が多数を占めていた。

大江氏の見解に対し、防大生は大いに反発した。だが反論・発言の機会は与えられなかった。しゃべれない、やり場のない焦燥感はあったろう。小長谷君が「悔しい」といい、塩瀬氏が「鬱積した」と述べたのはそれを示していると思う。そうした気持ちを抑え、昂然と前に進みたいということではなかっただろうか。

塩瀬君は、バイオリンをこよなく愛する音楽家だった。ＢＯＣで富士学校に入校した時(航空科だ

ったので野戦特科と一緒の教育を受けていた)、機甲科の歌として「吼えろエンジン」という歌を作曲してくれた思い出がある。その作詞はやはり同期の船木捷彦君が担当した。これら同期生が作詞・作曲した歌だけはこの年になっても空で正調で歌える、というのが自慢だ。

小長谷君は、控えめで温厚な文学青年だったと記憶している。ネットで逍遥歌に「前口上」が付けられているが、当時そんなものはなかった。彼があのような品のない言葉を使う筈がない。

その逍遥歌が、時を経るにつれ変化しているのは残念だ。１番、「小原台」のフレーズで音程が変わっている。原曲は、「オ」よりも「ハ」の方が高いのだが、後輩方は「オ」と「ハ」の音程を同じに歌っている。４番、「４年の波」の読み方が「よとせ→よねん」と変わった。最後の「アンドロメダが西に舞う」を、今は２回繰り返すが、初めは一回限りだった。

逍遥歌が発表された当時、普及活動としてブラバンの人達から食堂で教わったのかどうか良く覚えていない。まだ、レコードはなかったと思う。

16 期生・井上廣司氏(元防大幹事)　学生時代、防大逍遥歌は、心にしみる歌としての記憶がある。入校直後に、逍遥歌と防大学生歌を教えられたが、学生歌の方は印象が薄く、学生間では「会食の歌」との呼び名が一般的で、親近感は薄かったように思う。

それに反し、逍遥歌は親しみを込めて歌われていた。当時は学生運動が盛んな時期でもあり、彼らに対する反発もあって、宴会など酒が入ると誰かが応援団の「前口上」をつけて歌ったものである。

自分が４学年になると、クラブ活動後、夕日が空を染めたりすると、曲の最後の「アンドロメダが西に舞う」の一節が心にしみ、卒業と言う文字を想ったものだ。

防大幹事として、30 数年ぶりに母校に帰って感じたことは、防大学生歌が学生の間に浸透していることだった。私自身、年を重ねたためか、学生歌もいいなと感じた。

逍遥歌も歌い継がれていたが、我々の時代の様に集まれば逍遥歌というより、集まれば学生歌という印象だった。「前口上」も、その後に入校した女子学生が文句をつけたとは聞いていないが、今

では少し言いづらい雰囲気ではある。

　大江健三郎の国辱発言は、伝え聞いているが、逍遥歌との関連は知らない。今の防大学生も知らないと思う。

おわりに

　素案ができた時、小長谷様から手紙が届いた。「愚作の件でお手数を煩わし、申し訳ありません」。そして、歌詞１番の「並木」がユーカリから欅(けやき)に代わったこと。３期生の卒業式で逍遥歌等を歌おうと槇校長に申し上げたところ、「卒業式にふさわしくない」といわれたこと。防大も陸軍士官学校並みに 61 期生が入校したこと。小原台に１期生が残された「緑こそわがやすらい」の記念碑が、いつまでも続くことを祈念する、と之内容が綴られていた。

　小長谷氏が執筆を固辞された気持ちがわかるような気がした。多くの同窓生はこの歌を、「放歌高吟する寮歌」と勘違いしてきたのだ。だから防大の期か進むにつれ、宴会の歌、応援の歌、「前口上」の添付と、牡蠣殻を付けて純粋さを失わせてきたのではなかろうか。

「逍遥」とは、大地を歩きながら哲学することであり、赤土の小原台はそれにふさわしい場所だったが、今はない。自衛隊に対する国民の認識も、90%が評価する時代である。

「新しい革袋には新しい酒を」。４期生が作られた逍遥歌は、我々世代が胸に秘めておけばいいのかもしれない。それが、歴史に晒されるモノの宿命であろう。

　はじめは簡単に余話を書くつもりだったが、関係各位の思いを知るにつけ、あれもこれもと長くなってしまった。拙い文を連ねたことをお詫びするとともに、ご協力をいただいた方々に深く御礼申し上げます。(2015.02.08)

防衛大学校逍遥歌

作詞　小長谷　聡

作曲　塩瀬　　進

編曲　岩井　直溥

一　鶯声凍る風とけて

並木かげろふ小原台

北に都を見下ろして

南に磯の数え歌

青き裳に安らいで

花の香りを移さなん

二　船首に砕くる青き波

雲わき上がる海原に

鉄腕鍛ふる若人の

高き理想を誰か知る

遠く高楼かえりみて

共に奏でんかいの歌

三　塵も静かにをさまりて

紫紺に暮るゝ富士の峰

巻き雲あかく映ゆる時

思索は深し天地の

真理の光身に浴びて

平和を祈る影長し

四　星影寒く胸に入る

忍びて春を待ちながら

観音崎にたゝずめば

四年の波は夢のごと

木枯らしに和し笛吹けば

アンドロメダが西に舞ふ

その他（油井飛行士）

油井宇宙飛行士近況アーカイブ

2015.03.01

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2015 年 2 月 27 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、2 月初めは NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS 長期滞在に向けた訓練を行い、その後はロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センターで訓練を行いました。

JSC では、船外活動や ISS のロボットアーム（SSRMS）の訓練を行いました。無重量環境訓練施設（NBL）のプールを利用した訓練では、訓練用の船外活動ユニットを着用してプールに潜り、宇宙ステーション補給機「こうのとり」（HTV）のモックアップ（実物大の模型）を使って訓練を行いました。この訓練で油井宇宙飛行士は、「こうのとり」の曝露パレットに搭載された船外装置を船外活動を実施して取り外さなければならない状況を想定した手順を訓練しました。

また、船外活動クルーと SSRMS を操作するクルーが連携して船外活動の任務を進める流れを習熟するために、バーチャルリアリティ（VR）システムを利用して、一緒に飛行するチェル・リングリン宇宙飛行士と訓練を実施しました。訓練の中で、油井宇宙飛行士は SSRMS の操作を担当し、船外活動クルーの作業を支援する手順を確認しました。

ロシアでは、ソユーズ宇宙船の飛行をシミュレーションした訓練が主なものでした。油井宇宙飛行士は、コマンダーのオレッグ・コノネンコ宇宙飛行士、リングリン宇宙飛行士とともに、打上げから ISS にドッキングするまでと、ISS から分離して帰還するまでの各飛行段階において実施するソユーズ宇宙船の操縦方法を実習しました。油井宇宙飛行士らは、ソユーズ宇宙船が自動制御によって運用できなくなった場合のバックアップとして用意されている手動制御によるソユーズ宇宙船の

操縦方法や、ソユーズ宇宙船で飛行中に急減圧が発生した場合の対処などを訓練しました。ISS のロシアモジュールについては、火災・急減圧といった緊急事態の発生を想定した対処訓練を実施しました。

ソユーズ宇宙船のシミュレータで訓練を行う油井宇宙飛行士ら（出典：JAXA/GCTC）

油井宇宙飛行士、筑波宇宙センターで ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2015 年 1 月 30 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、1 月初旬に帰国し、1 月 7 日から 15 日にかけて、筑波宇宙センターで「きぼう」日本実験棟と宇宙ステーション補給機「こうのとり」（HTV）に関わる訓練を行いました。

「きぼう」のシステムについては、「きぼう」の中でも特に重要な監視制御系・電力系・通信制御系・熱制御系・環境制御系について復習しました。油井宇宙飛行士は、これらのシステムに何かしらの異常が発生した場合でも適切に対処できるレベルの知識・技術を再確認しました。この他に、「きぼう」のシステムに関しては、「きぼう」で日々実施する定常的な作業や、油井宇宙飛行士が ISS に滞在する間に計画されている機器の保守作業の手順を確認する訓練などを行いました。油井宇宙飛行士は、「きぼう」ロボットアームの訓練も行い、船外実験装置を移設する操作をシミュレータを使用して実習しました。また、「きぼう」運用管制チームと一緒にエアロックの運用を想定した合同の訓練を実施し、「きぼう」運用管制チームとの連携を深めました。

「きぼう」の実験に関わる訓練では、実験ラックに搭載されている機器の操作や、実験試料が入った容器などの各実験専用の機器の取り扱いを確認しました。

「こうのとり」については、軌道上で宇宙飛行士が実施する作業の他に、ミッションの流れや緊急事態発生時の運用などを訓練を通して確認しました。

今回の帰国が ISS 第 44 次／第 45 次長期滞在ミッション前最後の機会であったことから、ミッションを地上から支える運用管制チームや実験に関わる関係者らとの最終調整も行いました。1 月 5 日には、JAXA の東京事務所で記者会見を行い、集まった報道関係者らを前に、ミッションに向けた意気込みなどを語りました。

日本での訓練を終えた油井宇宙飛行士は、1 月中旬に米国へ移動し、以降は NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で訓練を行いました。

JSC では、第 44 次長期滞在クルー全員で、ISS で火災などの緊急事態が発生したことを想定した対応訓練を、ISS の実物大の訓練施設を利用して行いました。医療訓練の一環では、AED（自動体外式除細動器）を使用した心肺蘇生の実習も行いました。その他、油井宇宙飛行士は、ISS に接近した補給船を ISS のロボットアーム（SSRMS）で把持する操作の訓練や、故障したトイレの修理方法、船外活動の準備作業の支援手順などについても訓練を行いました。

静電浮遊炉（ELF）の訓練を受ける油井宇宙飛行士（左）と欧州宇宙機関（ESA）のティモシー・ピーク宇宙飛行士（中央）（出典：JAXA）

簡易曝露実験装置（ExHAM）の訓練を受ける油井（左）、チェル・リングリン（奥）、ピーク（右）宇宙飛行士（出典：JAXA）

記者会見の様子（出典：JAXA）

油井宇宙飛行士が記者会見を実施（2015 年 01 月 06 日）

1 月 5 日、国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーに任命されている油井宇宙飛行士が、JAXA の東京事務所で記者会見を行いました。

油井宇宙飛行士は、集まった多くの報道関係者らに対して、会見の冒頭で挨拶をしたのに続き、打上げに向けた現在の訓練状況や自身のミッションの概要を説明しました。

ミッションの概要を説明する中で、油井宇宙飛行士は、来年度打上げが予定されている宇宙ステーション補給機「こうのとり」5 号機（HTV5）で ISS に運ばれる予定の高エネルギー電子、ガンマ

線観測装置（CALorimetric Electron Telescope: CALET）の成果に期待を寄せていることや、「きぼう」日本実験棟で行われている超小型衛星放出などの民間利用の促進に一役買いたいと思っていることなどを語りました。

質疑応答では、前職の航空自衛隊でのテストパイロットの経験を活かして、ISS での仕事をより良くできないか問題意識を持って ISS での任務に取り組みたいと語る場面もありました。また、将来の有人惑星探査を見据えて、次につなげる新たな挑戦をテーマに、様々な実験にも積極的に参加したいと語りました。

今回の記者会見は、ISS 長期滞在ミッション前最後の帰国の機会に合わせて行われました。今後 2 週間にわたって筑波宇宙センターで「きぼう」のシステム機器や実験に関わる訓練を行う予定です。日本での訓練を終えた後は、2015 年 5 月からの ISS 長期滞在に向けて、米国とロシアで引き続き訓練を行います。

記者会見の様子（出典：JAXA）

記者会見の会場の様子（出典：JAXA）

ミッションロゴを背に ISS の模型を持つ油井宇宙飛行士（出典：JAXA）

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 12 月 26 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS 長期滞在に向けた訓練を行いました。

船外活動に関わる訓練の一環では、ISS の「クエスト」（エアロック）と同様の機能を持つ SSATA（Space Station Airlock Test Article）と呼ばれる訓練設備を利用して、船外活動の準備

作業手順を確認する訓練を行いました。この訓練で油井宇宙飛行士は、ISS で使用されている本物の船外活動ユニット（Extravehicular Mobility Unit: EMU）を着用し、減圧された SSATA の中でクエストと EMU の装備品の操作を確認しました。

また、油井宇宙飛行士は、環境衛生システム（Environmental Health System: EHS）の運用手順を確認する訓練も行いました。EHS は、ISS 船内の音響環境・放射線量・空気組成などを調べる装置から構成されるシステムで、ISS 船内の環境を定期的にモニタするために利用されています。

その他には、米国の ISS トイレ（Waste and Hygiene Compartment: WHC）の使用方法やメンテナンス方法についての訓練や、ISS の運用技術を維持するために ISS 滞在中に用いる軌道上訓練用のシステムの使い方に慣れるための訓練を行いました。

油井宇宙飛行士は、微小重力環境での長期滞在によって身体に起こる変化を調べる研究の被験者として、さまざまな医学データの取得も行いました。

油井宇宙飛行士、ソユーズ宇宙船（41S）のバックアップクルーとしてプライムクルーに同行（2014 年 11 月 30 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、11 月 24 日にソユーズ TMA-15M 宇宙船（41S）が打ち上げられる直前まで、41S 搭乗クルーのバックアップクルー（交代要員）の任務を務めました。

11 月上旬、41S のプライムクルーと油井宇宙飛行士らバックアップクルーは、ロシアの星の街で過ごしました。油井宇宙飛行士らは、ロシアに滞在する間、ロシアの宇宙開発の歴史に関連が深い場所を訪問する伝統行事の一環で、星の街にある博物館やモスクワの赤の広場を訪れました。

その後、プライムクルーとバックアップクルーは、それぞれ 11 月 11 日と 12 日に、ソユーズ宇宙船の打上げが行われるカザフスタン共和国のバイコヌールに移動しました。

バイコヌールでは、打上げに向けた最終準備に取り組みました。クルーは、バイコヌール宇宙基地で整備が行われていたソユーズ TMA-15M 宇宙船に搭乗して機器の操作性や物資の搭載状況などを

確認しました。また、シミュレータを使用して、ソユーズ宇宙船を操縦する手順を確認する訓練も行いました。打上げ直前まで、健康状態を確認するために医学検査も日々受けました。

油井宇宙飛行士らバックアップクルーの任務は、ソユーズ宇宙船の打上げ直前に解かれました。

41S クルーを乗せたソユーズ宇宙船は、11 月 24 日午前 6 時 01 分にバイコヌール宇宙基地から打ち上げられました。

今後、油井宇宙飛行士は、半年後に控えた自身の第 44 次／第 45 次長期滞在ミッションに向けて、引き続き訓練を行っていきます。

ソユーズ TMA-15M 宇宙船の前でポーズを取る油井宇宙飛行士らバックアップクルー（出典：FSA）

ソユーズ宇宙船の操縦訓練を行う油井宇宙飛行士らバックアップクルー（出典：FSA）

記者会見を行う 41S のプライムクルーとバックアップクルー（出典：FSA）

油井宇宙飛行士の活動状況（2014 年 11 月 18 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、2015 年 5 月に打上げ予定のソユーズ宇宙船（43S(TMA-17M)）に搭乗するプライムクルーとして、ISS 長期滞在に向けた訓練を行っております。

同時に、本年 11 月 24 日に打上げ予定の同宇宙船（41S（TMA-15M））のバックアップクルー（交代要員※）にも任命されており、現在は、他の第 44 次／第 45 次長期滞在クルー（オレッグ・コノネンコ、チェル・リングリン）と共にバイコヌール宇宙基地（カザフスタン共和国）に移動し、プライムクルーと行動をともにしています。

(※)プライムクルーが何らかの理由で飛行出来なくなってしまった場合に、代わりに飛行する飛行士のこと。

油井宇宙飛行士、ソユーズ宇宙船（41S）搭乗クルーのバックアップクルーとしてロシアで訓練を実施（2014 年 10 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、ロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センターで ISS 長期滞在に向けた訓練を行いました。

油井宇宙飛行士ら第 44 次／第 45 次長期滞在クルーは、ソユーズ TMA-15M 宇宙船（41S）に搭

乗してISSに向かう第42次／第43次長期滞在クルーのバックアップクルー（交代要員）に任命されています。ソユーズ宇宙船（41S）の打上げが日本時間の11月24日に控えていたことから、10月は、ソユーズ宇宙船（41S）のバックアップクルーとしてソユーズ宇宙船とISSのロシアモジュールに関わる訓練を受けました。

油井宇宙飛行士らは、ソユーズ宇宙船に関わる各種のシミュレーション訓練を実施し、ISSへのランデブ・接近・ドッキング、ISSから分離後の大気圏再突入の運用において、ソユーズ宇宙船を手動で操縦する手順などを実習しました。再突入時の手順については、模擬重力を人工的に発生させる大型のセントリフュージを利用して、再突入時に実際に身体にかかる加重を再現した環境の中でも訓練を実施しました。訓練の最後には、各運用フェーズにおける手動操縦技術を確認するために試験を受けました。ロシアモジュールについては、シミュレータを使用して定常的な作業を模擬した訓練を行いました。

そして10月30日と31日には、41Sクルーのプライムクルーとバックアップクルーの技量が、ソユーズ宇宙船での飛行とISSのロシアモジュールにおける長期滞在に問題がないことを確認する最終評価試験が行われました。

試験1日目の10月30日、プライムクルーはISSのロシアモジュールの試験を受け、バックアップクルーはソユーズ宇宙船の試験を受けました。

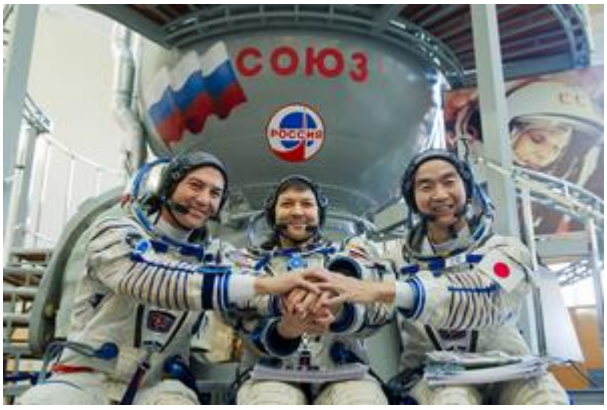
油井宇宙飛行士ら3名のバックアップクルーは、ソコル宇宙服を着用してソユーズ宇宙船の実物大のシミュレータに乗り込み、試験に臨みました。試験では、通信システムや測距装置の故障、メインエンジンの不具合、火災などにクルー3名で協力しながら対処しました。

試験2日目となる10月31日、プライムクルーはソユーズ宇宙船の試験を受け、バックアップクルーはロシアモジュールの試験を受けました。

油井宇宙飛行士らは、酸素生成装置の不具合や「ズヴェズダ」（ロシアのサービスモジュール）内の火災など、さまざまな不具合や緊急事態に対処しました。

プライムクルー、バックアップクルーともに試験を通過し、ソユーズ宇宙船の打上げに向けた準備を整えました。

ロシアモジュールのシミュレータで訓練を行う油井宇宙飛行士ら（出典：JAXA/GCTC）



ソユーズ宇宙船の試験に臨む油井宇宙飛行士ら（出典：JAXA/GCTC）

油井宇宙飛行士、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 9 月 30 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、米国の NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS 長期滞在に向けた訓練を行いました。

船外活動に関連した訓練では、ISS の実物大の訓練施設が沈められた無重量環境訓練施設のプールに潜り、ISS 船外機器のメンテナンス手順の確認に加えて、今後、新たに ISS に取り付けられる予

定のドッキング機構（International Docking Adapter: IDA）を設置する手順を訓練しました。IDA は、国際間での標準化を目的に NASA が開発するドッキング機構で、スペースシャトルのドッキングに使用されていた与圧結合アダプタ（PMA）に取り付けられる予定です。油井宇宙飛行士が手順を訓練する前段階において、金井宇宙飛行士が船外活動の手順作成に携わりました。また、油井宇宙飛行士は、船外活動中に誤って宇宙空間に放り出されてしまった場合に使用するセルフレスキュー用推進装置（SAFER）の操作をバーチャルリアリティ（VR）システムを使用して訓練しました。

ISS のロボットアーム（SSRMS）については、ISS に接近した無人の補給船を把持する操作を訓練しました。

その他、ISS の実物大の訓練施設を使用して、ISS 船内での通常の任務を模擬した長時間にわたる訓練や、ISS に緊急事態が発生したことを想定した対処訓練などを行いました。

訓練以外には、油井宇宙飛行士の ISS 滞在期間中に実施が計画されている実験の概要を確認する打ち合わせを行ったほか、自身が被験者となる医学実験に関しては、ISS 滞在中および帰還後の医学データと比較するために飛行前の医学データを取得しました。

油井宇宙飛行士、ロシアと日本で ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 8 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、8 月前半はロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センターで訓練を行い、8 月後半は一時帰国し、筑波宇宙センターで訓練を行いました。

ロシアでは、ソユーズ宇宙船とロシアモジュールについて訓練を行いました。ソユーズ宇宙船の訓練では、シミュレータを使用して、打上げから ISS にドッキングするまでの運用を、実際の運用と同じ時間をかけて模擬した訓練や、ISS への接近・ドッキングおよび ISS から分離後の大気圏再突入において、自動制御モードが不具合などにより使用できない場合を想定して、ソユーズ宇宙船を手動で操縦する訓練を行いました。

ロシアモジュールについては、コンピュータ上で在庫管理システムを操作する方法を確認したほか、モジュール内の機器の配置について試験を受けました。また、急減圧が発生したことを想定した訓練も行い、減圧室内に設置されている実物大のロシアモジュールの訓練施設を利用して、圧力差で開閉しづらくなったハッチの操作などを実際に体験しました。

ISS からの緊急帰還を想定した訓練も実施し、ソユーズ宇宙船に搭乗して ISS から離脱した後、ソユーズ宇宙船に発生するさまざまな不具合に対処しながら帰還するシミュレーションを行いました。

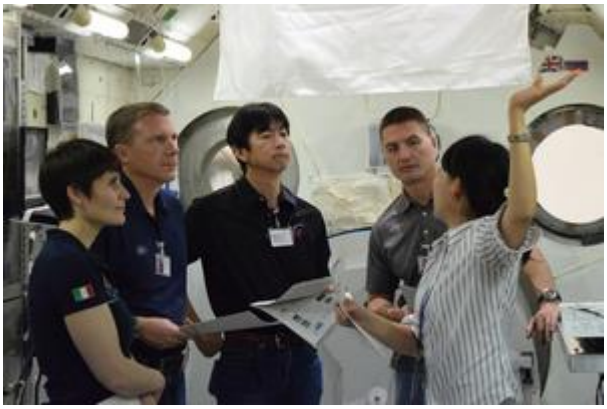
ロシアでの訓練期間中、油井宇宙飛行士は、ソユーズ宇宙船搭乗時に着用するソコル宇宙服の開発メーカーであるズヴェズダ社を訪れました。油井宇宙飛行士は、自身の体型に合わせて作製されたソコル宇宙服を着用し、ソユーズ宇宙船の自身専用の座席とのフィットチェックや、低圧環境下で宇宙服が正常に機能することを確認する試験に参加しました。油井宇宙飛行士は、ソユーズ宇宙船の開発を手掛ける RSC エネルギア社にも訪れ、普段の訓練では触ることのできない実機を確認しました。

筑波宇宙センターでは、「きぼう」日本実験棟のシステムと実験に関連する訓練を行いました。

「きぼう」のシステムについては、これまでに学んだ知識・技術を再確認する訓練を行ったほか、宇宙ステーション補給機「こうのとり」（HTV）が ISS 接近時に使用する近傍通信システム、「きぼう」のエアロック、カメラなどの運用や機器のメンテナンス方法について訓練を行いました。

「きぼう」の運用管制チームと合同で、「きぼう」ロボットアームの運用を想定した訓練も行いました。油井宇宙飛行士は、運用管制チームと連携しながらシミュレータ上でロボットアームを操作し、通常の運用に加えて不具合の発生も模擬される中で、運用管制チームと協調して運用を進める経験を積みました。

「きぼう」での実験については、実験テーマや実験装置の概要を訓練を通して学びました。



「きぼう」船内実験室の運用に関わる訓練を受ける油井宇宙飛行士ら（出典：JAXA）

Aniso Tubule 実験に関わる訓練を受ける油井宇宙飛行士ら（出典：JAXA）

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 7 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、7 月中旬まで米国の NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で訓練を行い、7 月下旬はロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センターで訓練を行いました。

JSC では、ISS の運用に関わるさまざまな訓練を行いました。ISS のロボットアーム（Space Station Remote Manipulator System: SSRMS）に関わる訓練では、ISS に接近した無人の補給船を把持する SSRMS の操作訓練や、SSRMS の操作技術を維持するために ISS 滞在中に行う訓練の手順確認などを行いました。船外活動に関連した訓練では、船外活動ユニットのサイズを調節す

る手順や船外活動で使用する工具の操作などを確認しました。油井宇宙飛行士は、ISS の電力系統の不具合への対処訓練や、他のクルーが心肺停止状態になってしまったことを想定した救急訓練なども実施しました。

また、ISS で行われている医学研究に関する訓練も行いました。筋萎縮や骨量減少を最小限に抑える運動プログラムの開発を目的とした SPRINT と呼ばれる実験の一環で ISS 滞在中のクルーが実際に実施する運動方法を行ったり、微小重力下に長期滞在する宇宙飛行士の身体の大きさの変化や変わり易さを理解するために行われている Body Measures と呼ばれる実験の実施手順を確認しました。

ロシアでは、ソユーズ宇宙船を手動操縦する技能を向上するための訓練を重点的に行い、ISS への接近やドッキング、大気圏突入時における機器の操作を、シミュレータを使用して訓練しました。人工的に模擬重力を発生させる大型のセントリフュージを使用して、ソユーズ宇宙船大気圏再突入時にクルーの身体にかかる加重を実体験する訓練も実施しました。

船外活動で使用する工具の操作を確認する油井宇宙飛行士（出典：JAXA/NASA/James Blair）

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 6 月 30 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、5 月

に引き続き、6 月 6 日までロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センターで訓練を行い、その後は米国に移動して、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS に関わる訓練を行いました。

ロシアでは、ソユーズ宇宙船で一緒に飛行するロシアのオレッグ・コノネンコ宇宙飛行士、NASA のチェル・リングリン宇宙飛行士とともに、ソユーズ宇宙船の運用を模擬した訓練や、ISS のロシアモジュールで火災・急減圧・空気汚染などの緊急事態が発生したことを想定した訓練を行いました。

JSC では、ISS の米国側モジュールで緊急事態が発生した場合の対処訓練のほかに、船外活動訓練や IMAX カメラの操作訓練などを行いました。船外活動については、無重量環境訓練施設のプールを使用した技量試験も行われ、試験の中で油井宇宙飛行士は、船外活動中に何かしらの理由で気を失ってしまった船外活動のパートナーを救助する手順を実践しました。また、高負荷・短時間の運動で筋萎縮や骨量の減少を最小限に抑えるプログラムを開発することを目的とした SPRINT と呼ばれる NASA の実験に関わる訓練を行い、被験者となるクルーが ISS 滞在中に実施する運動手順を確認しました。

油井宇宙飛行士、ドイツとロシアで ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 5 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、5 月 7 日から 14 日にかけてはドイツ ケルンにある欧州宇宙機関の欧州宇宙飛行士センターで、5 月 19 日からはロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センターで ISS 長期滞在に向けた訓練を行いました。

ドイツでは、「コロンバス」（欧州実験棟）に搭載されている機器を運用する上で必要な知識を得るために、講義や実物大の訓練施設を使用した訓練を行いました。

訓練では、コロンバスの熱制御や電力供給を担うシステム機器についての知識を身に付け、システム機器の安全処置などを学びました。また、コロンバスに搭載されている生物学実験ラック・流体科学実験ラック・欧州生理学実験ラックなどの実験機器の操作やメンテナンス方法を確認しまし

た。

ロシアでは、ISS のロシアモジュールとソユーズ宇宙船について訓練を行いました。ロシアモジュールについては、通信システムと電力供給システムの講義を受けて実習を行ったほか、火災・急減圧といった緊急事態が発生した際の対処法を確認しました。ソユーズ宇宙船に関しては、シミュレータを使用して、軌道に投入されてから ISS へ接近するまでの運用や、ISS への最終接近・ドッキング、ISS から分離後の大気圏再突入において、ソユーズ宇宙船を手動で操縦する訓練を行いました。

油井宇宙飛行士、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 4 月 30 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS 長期滞在に向けた訓練を行いました。

ISS に滞在する宇宙飛行士の任務は、実験とシステムの運用・保守が主要な作業であり、油井宇宙飛行士は、4 月は ISS のシステム運用・保守に関連する訓練を中心に行いました。

油井宇宙飛行士は、ISS の船外機器のメンテナンス作業を想定した船外活動手順を確認するために無重量環境訓練施設（Neutral Buoyancy Laboratory: NBL）のプールを使用した訓練を実施したほか、ISS のロボットアーム（Space Station Remote Manipulator System: SSRMS）で船外活動を支援する運用を想定した訓練を行いました。

ISS 船内のシステムについては、機器で発生する余分な熱を船外に放出する熱制御システム（Thermal Control System: TCS）のメンテナンス方法や、TCS の冷媒が漏れた場合の対処法などを確認しました。その他、ISS で使用する予定の IMAX 3D カメラの使い方も学びました。

油井宇宙飛行士は、ISS の訓練を行う一方で、宇宙飛行準備訓練の一環で T-38 ジェット練習機による飛行訓練も行いました。

油井宇宙飛行士の ISS 長期滞在に向けた訓練（2014 年 3 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS 長期滞在に向けたさまざまな訓練を行いました。

船外活動に関わる訓練では、船外活動を開始する前に船外活動クルーが実施する準備手順を確認しました。油井宇宙飛行士は、体内に溶け込んでいる窒素を排出することで船外活動中の低気圧環境下で減圧症（ベンズ）にかかることを防ぐ手順を確認しました。

また、ISS 滞在中に医療担当クルー（Crew Medical Officer: CMO）が行う医学検査の手順や救急処置法、医療機器の使い方についても訓練を行いました。

油井宇宙飛行士は、軌道上で医学実験や検査で使用する機器の操作方法も学び、筋量の測定などに使用する超音波装置や、眼の検査に使用する機器、加速度を測定することで体重を計る軌道上加速重量計測機器（Space Linear Acceleration Mass Measurement Device: SLAMMD）といった装置の使い方を訓練を通して確認しました。

ISS で実施される実験についても訓練を受け、食事メニューや食事をとる環境が宇宙飛行士のストレスやチームの雰囲気にどのような影響を及ぼすか調べる NASA の研究や、欧州宇宙機関（ESA）の植物実験装置の操作方法を学びました。

今後も油井宇宙飛行士は、2015 年 6 月頃から予定されている ISS 長期滞在に向けて訓練を継続していきます。油井宇宙飛行士は、自身の Twitter で訓練の様子や近況などをつぶやいていますので、是非こちらもご覧になってください。

https://twitter.com/Astro_Kimiya

油井宇宙飛行士、ロシアと日本で ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 2 月 28 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、2 月前半は 1 月に引き続きロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で訓練を行い、2 月後半は一時帰国し、筑波宇宙センターで訓練を行い

ました。

GCTC では、ソユーズ宇宙船と ISS のロシアモジュールについて訓練を行いました。ソユーズ宇宙船に関しては、シミュレータを使用した訓練が中心でした。油井宇宙飛行士は、自動化されている ISS への接近・結合及び ISS から離脱後の再突入時の運用において、不具合が生じて自動で飛行を制御できなくなった場合を想定して、ソユーズ宇宙船を手動で操縦する訓練を行いました。ISS のロシアモジュールについては、環境制御・生命維持システムに関わる訓練を重点的に行いました。その他、ソユーズ宇宙船が万が一海上へ不時着した場合に備え、ヘリコプターによる救助を想定した訓練なども行いました。

筑波宇宙センターでは、「きぼう」日本実験棟のシステムについて訓練を行いました。油井宇宙飛行士は、訓練の初めに、前回までの訓練で得た知識の再確認を行いました。その後、監視制御システム、電力システム、熱制御システム、環境制御システムといった「きぼう」の主要なシステムについて、運用方法や不具合発生時の対処法などを確認しました。加えて、エアロックやロボットアーム、実験支援システム、構造艤装系についても訓練を行いました。

「きぼう」に関する訓練を行う油井、サマンサ・クリストフォレッティ両宇宙飛行士（出典：JAXA/ESA）

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2014 年 1 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、1 月上旬は米国の NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で訓練を行い、中旬以降はロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で訓練を行いました。

JSC では、船外活動に関連する訓練を中心に行いました。訓練のひとつとして、船外活動ツールを操作する際に体を固定する方法を確認しました。この訓練で油井宇宙飛行士は、無重量空間での作業を模擬するためにクレーンによって体が吊り上げられた状態になりました。その状態で実際に船外活動ツールを使用してボルトを締める作業を行い、体が一緒に回転してしまわないように、船外活動ツールを持つ手とは反対の手でハンドレール（手すり）を握った状態で作業を行う方法を確かめました。また、ISS の実物大の訓練施設が沈められたプールに訓練用の宇宙服を着用して潜り、ISS の船外機器の交換作業を模擬した訓練も行いました。

GCTC では、ソユーズ宇宙船のコマンダーであるオレッグ・コノネンコ宇宙飛行士と一緒に、ソユーズ宇宙船の打上げ準備から ISS へドッキングするまでの運用をシミュレーションした訓練や、ソコル宇宙服を着用した状態でソユーズ宇宙船のシミュレータに入り、ソユーズ宇宙船が飛行している間に火災や減圧といった緊急事態が発生したことを想定した対処訓練を行いました。油井宇宙飛行士は、手動操縦によるソユーズ宇宙船の飛行訓練も行いました。その他、ソユーズ宇宙船の専用シートライナーを作るために石膏で体の型取りを行いました。

油井宇宙飛行士は、ロシアモジュールの調理設備やトイレの使用方法などを含む環境制御・生命維持システムについての訓練も行いました。

現地時間の 1 月 27 日から 29 日にかけては、GCTC の屋外で冬期サバイバル訓練を実施しました。油井宇宙飛行士は、ソユーズ宇宙船で一緒に飛行するコノネンコ宇宙飛行士と NASA のチェル・リングリン宇宙飛行士とともに訓練に臨みました。

この訓練は、極寒の地にソユーズ宇宙船が不時着した事を想定して行われるもので、クルー全員で協力しながら厳しい環境下で野外生活を送り、サバイバル技術を実地で身につけることが目的です。ソユーズ宇宙船が予期しない場所に不時着した場合は、捜索に 2、3 日要する可能性があることから、訓練は 2 泊 3 日の行程で実施されました。

油井宇宙飛行士らは、ソユーズ宇宙船のパラシュートと木材を使ったシェルタの設営方法や、火のおこし方、救助隊への連絡方法、発煙筒の使い方などを実習しました。

パラシュートを回収する油井宇宙飛行士（左）ら（出典：JAXA/GCTC）

設営を終えたシェルタの前に立つ油井宇宙飛行士（左）ら（出典：JAXA/GCTC）

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2013 年 12 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS の運用に関わる訓練を行いました。

無重量環境訓練施設（Neutral Buoyancy Laboratory: NBL）では、訓練用の宇宙服を着用して実物大の ISS の訓練施設が沈められたプールに潜り、ISS の船外機器のメンテナンス作業を想定した船外活動訓練を行いました。

この他に油井宇宙飛行士は、ISS で緊急事態が発生したことを想定した訓練も行いました。油井宇宙飛行士は、空気漏れによる船内気圧の急減圧、ISS 船内での火災発生といった事態や、熱制御システムの冷媒として使用しているアンモニアが船内に漏洩した場合の対処手順を確認しました。

また、ISS 滞在中に医療担当クルー（Crew Medical Officer: CMO）が行う医学検査の手順や救急処置法についても訓練しました。CMO は、ISS 滞在時に他のクルーの健康管理はもとより、他のクルーが病気や怪我をした場合に、地上の航空宇宙医師（Flight Surgeon: FS）の指示の元で救急処置を行う役目を担います。

これらの訓練の他に、ISS の電力システムや ISS のロボットアーム（Space Station Remote Manipulator System: SSRMS）についての訓練も行いました。

訓練用の宇宙服を着用する油井宇宙飛行士（出典：JAXA/NASA）

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2013 年 11 月 30 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、10 月に引き続き、ロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で、ソユーズ宇宙船と ISS のロシアモジュールに関わる訓練を行いました。

ソユーズ宇宙船については、飛行中にさまざまな不具合が発生した場合を想定した対処訓練や、手動操縦による ISS へのドッキング訓練、ソコル宇宙服を着た状態で手順書を参照しながらソユーズ宇宙船内の機器を操作する訓練などを、ソユーズ宇宙船の実物大のシミュレータを使用して行いました。

ロシアモジュールについては、コンピュータシステムやロシアモジュール内の装置を制御するシステム、ISS の姿勢や軌道を制御するシステムについて訓練を行いました。

ソユーズ宇宙船のシミュレータで訓練を行う油井宇宙飛行士（奥）とオレッグ・コノネンコ宇宙飛行士（手前）（出典：JAXA/GCTC）

油井宇宙飛行士は ISS 長期滞在に向けた訓練を継続（2013 年 10 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、ロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で、ソユーズ宇宙船と ISS のロシアモジュールに関わる訓練を行いました。

ソユーズ宇宙船については、軌道モジュールと帰還モジュール内に備えられている装置や設備の位置や名称、機能、操作方法などを学びました。シミュレータを使用して、ソユーズ宇宙船で飛行する間の運用を想定したシミュレーションも実施しました。

ロシアモジュールについては、機器を扱う上で参照する手順書の読み方や、ISS 滞在中に日々行う定常的な作業について訓練を行いました。ロシアモジュールのコンピュータシステムや、ロシアモジュール内の装置を制御するシステムについての訓練も行いました。その他、ISS のロシア区画内で安全に作業を行うための注意事項について講義を受けました。

油井宇宙飛行士は ISS 長期滞在に向けた訓練を継続（2013 年 9 月 15 日）国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、8 月上旬は NASA ジョン

ソン宇宙センター（JSC）で訓練を行い、8 月後半はロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で訓練を行いました。

訓練用の宇宙服を NBL のプール脇で着用する油井宇宙飛行士（出典：JAXA/NASA）

JSC では、船外活動を模擬した訓練や、船外活動で着用する船外活動ユニット（Extravehicular Mobility Unit: EMU）についての講義を受けました。船外活動を模擬した訓練は無重量環境訓練施設（Neutral Buoyancy Laboratory: NBL）で行われ、油井宇宙飛行士は、自身と同じく第 44 次／第 45 次長期滞在クルーに任命されている NASA のチェル・リングリン宇宙飛行士と一緒に、ISS の実物大の訓練施設が沈められているプールに訓練用の宇宙服を着て潜り、ISS の船外機器のメンテナンス作業に必要となる技術を学びました。船外活動に関連する訓練以外に、ISS 船内での運用に関わる訓練を行い、実験機器やシステム機器が搭載されたラックを移動する方法や、ISS の各モジュールの結合部に備えられているハッチが故障した場合の対処法などを確認しました。

GCTC では、ソユーズ宇宙船のドッキングシステムや姿勢制御システム、帰還時の降下を制御するシステムなどについて講義を受け、シミュレータを使用して実習しました。

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2013 年 9 月 15 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、6 月に続き、7 月上旬はロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training

Center: GCTC）で、ソユーズ宇宙船に関わる訓練を実施しました。

油井宇宙飛行士は、ソユーズ宇宙船の ISS へのランデブ運用や、生命維持システム、ISS との結合部の気密をチェックするシステムについて講義を受け、シミュレータを使用した実習を行いました。

7 月中旬には一時日本に帰国しました。今回の帰国中の活動は、ISS 長期滞在に向けて関係者との打ち合わせが主だったものでした。

7 月下旬には米国へ移動し、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS に関わる訓練を再開し、ISS を運用していく上で必要になるシステムや機器の知識に加え、ISS を取り巻く宇宙放射線の環境などについて学びました。T-38 ジェット練習機での飛行訓練や語学訓練も継続して行いました。

油井宇宙飛行士、ロシアで長期滞在に向けた訓練を実施（2013 年 8 月 13 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、ロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施しました。

訓練は、ソユーズ宇宙船の ISS へのランデブ・ドッキング運用と、ソコル宇宙服を含むソユーズ宇宙船の生命維持システムに重点を置いて実施し、講義を受けて知識を深め、シミュレータを使用した訓練を通してシステムを扱う技術を習熟しました。

6 月 18 日から 21 日にかけては、モスクワ郊外のノギンスクにあるロシア非常事態省の施設で水上サバイバル訓練を実施しました。この訓練は、ソユーズ宇宙船が海などの水上に不時着したことを想定して行われるもので、救助隊が来るまでの間、生存するためのサバイバル技術を学びます。

油井宇宙飛行士は、ロシアのオレッグ・コノネンコ宇宙飛行士と NASA のチェル・リングリン宇宙飛行士と一緒に訓練に臨み、水上に浮かべられたソユーズ宇宙船のモックアップ（実物大の訓練施設）を使用して、帰還モジュール内での防寒・防水服の着用方法、サバイバル装備の準備、帰還モ

ジュールからの脱出手順や脱出後の水上での編隊の組み方などを実習を通して学びました。訓練は、帰還モジュールの浸水や火災などの二次的な緊急事態の発生も想定して行われ、それぞれの状況に応じた対応手順も学びました。

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2013 年 7 月 6 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、ISS 長期滞在に向けた訓練を継続しています。

5 月上旬から中旬にかけて、油井宇宙飛行士は、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で、ISS の環境制御・生命維持システム（Environment Control and Life Support System: ECLSS）に関わる訓練を中心に、ISS の運用に関わる訓練を行いました。

ECLSS は、ISS 船内の温度・湿度の管理のほか、空気の制御や水のリサイクルなどを担うシステムで、宇宙飛行士が ISS で生活するためには欠かすことのできないシステムです。

油井宇宙飛行士は、講義を通してシステムについて習熟し、実際に ISS で使用されている手順書に従って ECLSS の機器をメンテナンスをする方法などを実習しました。

ECLSS 以外にも、ISS の監視制御システム、通信・追跡システム、温度制御システムに関わる訓練を行いました。英語とロシア語の語学訓練も継続して実施しました。

油井宇宙飛行士の ISS 長期滞在に向けた訓練（2013 年 4 月 10 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、ISS 長期滞在に向けた訓練を継続しています。

油井宇宙飛行士は、3 月末に米国からロシアに移動し、4 月はガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で、ソユーズ宇宙船の姿勢制御や軌道制御に関連するシステムについて訓練を行いました。

講義やシミュレータを使用した訓練を通して、ソユーズ宇宙船の姿勢変更時や軌道変更時に、刻々と状況が遷り変っていく中でクルーが実行するシステムの操作に関する知識・技術を深めました。

油井宇宙飛行士、GCTC と JSC で ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2013 年 3 月 10 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、ISS 長期滞在に向けた訓練を継続しています。

3 月上旬は、ロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で、2 月に引き続きソユーズ宇宙船に関する訓練を行いました。

GCTC での訓練を終えた油井宇宙飛行士は、米国に戻り、NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で ISS の運用に関わる訓練を再開しました。油井宇宙飛行士は、ISS で使用され始めたタブレット端末に関する訓練や、ISS に物質を運ぶ補給船に関する講義、ISS に備えられている工具や ISS 内のネットワークの使用方法に関する訓練、ISS での物品管理の方法に関する訓練、船外活動の準備を支援するための訓練など、ISS に滞在する上で必要になる知識・技術を身につけるためにさまざまな訓練を行いました。

語学訓練としてロシア語の訓練も継続したほか、T-38 ジェット練習機での飛行訓練や、船外活動の訓練を行う上で必要になるスキューバダイビングの技量試験なども受けました。

油井宇宙飛行士、ロシアでの訓練を開始（2013 年 2 月 15 日）

写真：GCTC での訓練開始にあたり、ロシアの関係者を前に挨拶を述べる場に臨む油井宇宙飛行士（出典：JAXA/GCTC）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、ロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）で、ソユーズ宇宙船に関わる訓練を実施しました。

訓練では、ソユーズ宇宙船の様々な飛行場面での作業手順が記された飛行手順書や、ソユーズ宇宙船内の各機器の配置・名称・機能・操作方法などを確認しました。また、ソユーズ宇宙船全体のシステムや、ソユーズ宇宙船をコントロールする制御パネルの機能と操作方法についての講義を受けました。シミュレータを使用した訓練では、講義で学んだ内容を、実際に手を動かしながら確認しました。

今回の訓練は、油井宇宙飛行士にとって、GCTC で行う初めての訓練であり、第 42 次／第 43 次長期滞在のバックアップクルー（交代要員）の位置づけで実施したものです。今後も、バックアップクルーとして、そして自身の長期滞在に向けて、ロシアを訪れてソユーズ宇宙船や ISS のロシアセグメントに関わる訓練を重ねます。

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2013 年 1 月 14 日）

写真：ISS のモックアップ（実物大の訓練施設）内で、工具を使用してパネルを外す油井宇宙飛行士（出典：JAXA/NASA）

油井宇宙飛行士は、国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在に向けた訓練を、2012 年 12 月から NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で開始しています。

1 月は、ISS で活動する上で一般的に必要となる知識を得るための訓練を中心に行い、ISS における物品の在庫管理・保管に関する概念や、全ての物品の所在を管理する在庫管理システム（Inventory Management System: IMS）の使い方、ISS のシステム機器や実験装置が収められているラックの設置方法、モジュール間のハッチの開閉方法、機器のメンテナンスに備えて ISS に多数搭載されている工具の使い方などについて確認しました。

加えて、米国が実施する船外活動の出入り口となる「クエスト」（エアロック）の機能を有した地上設備である SSATA（Space Station Airlock Test Article）と呼ばれる真空チャンバを利用して、船外活動を担当するクルーの準備作業を支援する手順を確認しました。また、ISS 船内でアンモニア漏れによる空気汚染が発生した際に装着するマスクのフィットチェックなども行いました。

1 月下旬には、2 月から始まるロシアでの訓練に備えて、ソユーズ宇宙船の概要や飛行時に参照する手順書の読み方などについて確認しました。

油井宇宙飛行士の ISS 長期滞在が決定（2012 年 10 月 8 日）

写真：記者会見を行う油井宇宙飛行士（出典：JAXA）

10 月 5 日、油井宇宙飛行士が国際宇宙ステーション（ISS）に第 44 次／第 45 次長期滞在クルーとして滞在することが決定しました。

滞在時期は、2015 年 6 月頃から約 6 ヶ月間の予定で、打上げ、帰還ともにロシアのソユーズ宇宙船に搭乗する予定です。

ISS 長期滞在決定後、油井宇宙飛行士が現在滞在中の米国ヒューストンの JAXA 駐在員事務所と JAXA 東京事務所を繋ぎ、油井宇宙飛行士は記者会見を行いました。

会見の冒頭で油井宇宙飛行士は、ミッションにアサインされた今の心境や今後に向けた抱負、これまで支えてきてくれた人々への感謝を述べました。

油井宇宙飛行士は、報道関係者からの質問に答える中で、自身が宇宙飛行士候補者に選ばれた当時の会見で目標を語る中で発した"中年の星"という言葉を引用し、「まだ 6 等星レベルであり、これから頑張って立派にミッションをやり遂げて、将来的には 1 等星として、空に燦然と輝けるような"中年の星"になりたい」と、ミッションへの意気込みを語りました。また、候補者として選ばれてから現在に至るまでを、「最初は、宇宙飛行士になることが非常に遠い目標に思えたが、ひとつひとつ積み重ねたら宇宙飛行士になることができた」と振り返り、「先輩方と同様に仕事ができるようになることは、非常に遠い目標に思えるが、自分がやるべきことをひとつひとつやっていけば、少しずつ先輩方に近づいて行けるのではないか。そのように思っている」と、長期滞在に向けた自らの心構えを語りました。

2015.03.18 油井宇宙飛行士近況

2015.03.18

油井宇宙飛行士が JSC で訓練する模様を報道関係者に公開、記者会見を実施（2015 年 03 月 18 日）

米国時間 3 月 16 日、油井宇宙飛行士が国際宇宙ステーション（ISS）第 44 次／第 45 次長期滞在ミッションに向けて NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で訓練する模様を、日本の報道関係者に公開しました。

現在、油井宇宙飛行士は、ISS 長期滞在ミッション前最後となる米国での訓練を JSC で行っています。訓練公開では、ISS のロボットアーム操作を訓練する模様を公開しました。油井宇宙飛行士は、ISS 長期滞在をともにする NASA のチェル・リングリン宇宙飛行士と一緒に、ISS のキューポラを模擬したドーム型のシミュレータの中で、ISS に接近した宇宙ステーション補給機「こうのとり」（HTV）をロボットアームで把持する運用手順を確認しました。「こうのとり」のような無人の補給機をロボットアームで把持する操作は、通常ふたり体制で行われ、ひとりがロボットアームを操作し、もうひとりが支援にまわります。油井、リングリン両宇宙飛行士は、操作と支援の役割を交替して手順を繰り返し練習しました。

訓練公開後には、JAXA ヒューストン駐在員事務所と JAXA 東京事務所を繋いで記者会見を行いました。油井宇宙飛行士は、報道関係者からの質問に答える中で、自身にとって初となる ISS 長期滞在ミッションは、"挑む"をテーマに、「自分の限界や『きぼう』日本実験棟の性能の限界に挑みたい」と、ミッションに向けた意気込みを述べました。1 時間にわたる記者会見の中で、油井宇宙飛行士は多くの質問に答えました。

今後、油井宇宙飛行士は、米国での訓練を終えた後は欧州で訓練を行います。その後、4 月中旬頃にロシアへ向かい、ガガーリン宇宙飛行士訓練センター（GCTC）で最終訓練に臨みます。そして

いよいよ 5 月から、約 6 ヶ月間にわたる ISS 長期滞在ミッションが始まります。

シミュレータでロボットアームを操作するリングリン宇宙飛行士（手前）と、操作を支援する油井宇宙飛行士（奥）（出典：JAXA）

記者会見を行う油井宇宙飛行士（出典：JAXA）

2015.03.31 油井宇宙飛行士近況

2015.03.31

油井宇宙飛行士、ISS 長期滞在に向けた訓練を実施（2015 年 3 月 31 日）

国際宇宙ステーション（ISS）の第 44 次／第 45 次長期滞在クルーである油井宇宙飛行士は、3 月 6 日までロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センターで訓練を行い、3 月 9 日からは米国の NASA ジョンソン宇宙センター（JSC）で訓練を行いました。

ロシアでは、ソユーズ宇宙船で飛行する間の運用を想定したシミュレーション訓練を行いました。油井宇宙飛行士は、ISS へのランデブ・接近・ドッキング時と、ISS から分離後の大気圏再突入時に実施するソユーズ宇宙船の操作手順をシミュレータで訓練しました。また、油井宇宙飛行士は、ソユーズ宇宙船搭乗時に着用する自身のソコル宇宙服と、ソユーズ宇宙船の自身専用のシートライナーのフィットチェックも行いました。

JSC では、ISS の運用全般に関わる訓練を行いました。油井宇宙飛行士は、オレッグ・コノネンコ、チェル・リングリン両宇宙飛行士とともに、ISS で火災が発生した際の対処手順をシミュレーション訓練で確認しました。また、ISS の定常的な 1 日の作業を、事前に計画されたスケジュールに沿って進めるシミュレーション訓練も実施しました。その他、バーチャルリアリティ（VR）システムを利用して、船外活動中の船外機器の取り扱い方を確認する訓練も行いました。

医学関連では、ISS 滞在中に定期的に実施する医学検査手順を確認したほか、医学研究に用いる飛

行前データの取得などを行いました。

VR システムを利用して船外機器の取り扱い方を確認する油井（左）、リングリン（右）両宇宙飛行士（出典：JAXA/NASA/James Blair）

2015.06.15 油井宇宙飛行士近況

2015.06.16

宇宙飛行士の油井さん　スゴ腕の戦闘機パイロットだった経歴　「自分の死、対応するのが仕事」

７月宇宙へ

国際宇宙ステーション（ＩＳＳ）へ向かう油井亀美也宇宙飛行士ら３人が乗るソユーズ宇宙船が７月２３～２５日に打ち上げられます。油井さんは、航空自衛官出身。限られた操縦士しかなれないテストパイロットをつとめ、ありとあらゆる飛行機に搭乗してきたスゴ腕パイロットとして知られています。公開中のブログには「自分の死を含め、直視するのが仕事」と宇宙飛行士への決意を語っています。

油井さん乗るソユーズ、７月２３～２５日に宇宙へ

油井さんが生まれ育ったのは千曲川の源流、人口約４４００人の長野県川上村。「村の人のことをみんな知っているような小さな村」だったそうです。

美しい夜空をいつも望遠鏡で眺めていた少年時代。「こんなところに行けたらなんて素晴らしいだろう。天文学者か宇宙飛行士になりたい」と思っていたそうです。

進学を控えた高校３年の時。「現実味がない」と両親に反対され、授業料が免除される防衛大学校に進学、航空自衛隊に入隊しました。

空へのあこがれは捨てきれず、自衛隊では、ごく限られたパイロットしかなれないテストパイロットとしてＦ１５戦闘機など、ありとあらゆる飛行機に搭乗。2009 年、宇宙飛行士候補に選ばれ、夢をかなえました。

「プログレス」が制御不能、クルーの手紙届けられず

油井さんら３人が乗るソユーズ宇宙船は、当初、今年の５月に打ち上げ予定でした。しかし、４

月２８日にカザフスタンのバイコヌール宇宙基地から打ち上げられたロシアの無人補給船「プログレスＭ―２７Ｍ」が制御不能になる事故が発生。油井さんの打ち上げは延期され、このほど、７月２３～２５日に打ち上げられることが決まりました。

制御不能になったロシアの無人補給船「プログレスＭ―２７Ｍ」の積み荷には、食料や燃料を含む約２トンの物資のほか、クルーの家族が心を込めて書いた手紙もあったそうです。

世界のロケット「２０～３０機に１機は失敗」

ＪＡＸＡ名誉教授の的川泰宣さんは「ロシアのロケットは５０年以上前のエンジンなどが使われている場合もあるが、技術者はメンテナンスもしているはずで、古いということだけが失敗の原因とはならない。一方、給与の未払いで作業員のストライキが起きているケースもあり、人的な要因も考えられる」としたうえで、「世界のロケットは、２０～３０機に１機の割合で失敗しており、今回はたまたま重なったのかもしれない」と話しています。

「自分の死を含め、対応するのが仕事」

油井さんは、ネットで公開中の日記で、宇宙飛行士について「夢を与えられる素晴らしい職業」とした上で、「自分の死を含め、直視するのが不快な現実を見つめ、対応を準備するのが仕事」とも述べています。

（第９話「緊急事態に備える」 http://iss.jaxa.jp/astro/report/column/yui/09.html）

航空自衛隊のテストパイロット出身で、訓練中のトラブルにも淡々と対処する職人のような油井さん。ＩＳＳ船長を務めた若田光一さんは「彼なら安心して見守れる。一緒に飛ぶ仲間からも信望が厚い」と太鼓判を押す人柄と実力の持ち主です。

ＩＳＳへは、物資を運ぶ補給機「こうのとり５号機」が８月１６日午後１０時１分に種子島宇宙

センターから打ち上げられる予定で、油井さんがＩＳＳ滞在中にこうのとりがドッキングする可能性も高まっています。

校友会活動

平成 27 年度校友会活動主要成果及び部員状況

校友会名	部員数	活動状況
儀仗隊	55	○入校・卒業式典儀仗及びドリル演奏 ○文化部合同紹介行事でのドリル演奏 ○横須賀米軍基地製鉄所150周年記念行事 ○自衛隊音楽まつり参加 ○駐屯地等記念日行事参加（練馬、北富士、立川、久里浜、下総）
應援團リーダー部	22	○各校友会の大会応援 ○各校友会壮行会 ○文化部合同紹介行事等での演舞披露 ○入隊予定者に対する激励会
柔道部	59	○神奈川学生柔道春季大会 ・団体男子７人制　準優勝 ・団体女子３人制　準優勝 ・個人男子級66ｋｇ級　第３位 141(4)宇根 ・個人男子級73ｋｇ級　第３位 133(4)中村 ・個人男子級66ｋｇ級　第３位 112(3)寺田 ○防衛大臣杯全自柔道大会 ・73ｋｇ　優　勝　112(2)杉山 ・66ｋｇ　第３位　133(4)中村 ・57ｋｇ　第３位　441(3)菅井
剣道部	68	○春季関東理工科系学生剣道選手権大会 ・団体戦　第３位 ○関東理工系学生新人戦大会 ・第３位（女子）113(1)金井
空手道部	37	○神奈川県空手道選手権大会 ・個人組手優勝　122(1)島尻 ○春季関東学生空手道定期リーグ戦 ・男子団体組手：第３位 ○全国空手道選手権大会 ・男子団体組手：準優勝 ○神奈川県大学空手道選手権大会 ・男子団体組手　第３位 ・男子個人形　準優勝　322(2)土井 ○全国国公立大学空手道選手権大会 ・男子団体組手　優勝 ・女子団体組手　第３位
銃剣道部	50	○全日本銃剣道優勝大会 ・一般第１部 第３位　神奈川県銃剣道連盟チーム(332(4)音琴) ○全日本学生銃剣道選手権大会 ・第３位（団体男子の部） ・第２位（団体女子の部） ・第３位（団体短剣道女子の部） ・第３位（銃剣道個人の部）332（4）音琴 ・第３位（短剣道個人の部）332（4）音琴 ○神奈川県短剣道選手権大会 ・団体戦　準優勝　第３位 ・女子団体　優勝 ・短剣道男子個人戦 優　勝　242(3)山本 準優勝　123(2)大竹 第３位　313(3)西本 第３位　423(3)青野 ・短剣道女子個人戦 準優勝　342(2)進藤 第３位　231(3)橋口 第３位　122(3)久保

合気道部	57	○全日本合気道演武大会 ○全国学生合気道演武大会 ○自衛隊合気道演武大会 ・優秀賞
相撲部	21	○全国国公立大学相撲大会 ・団体戦　準優勝 ・新人戦　優勝　233(1)ドゥルグーン ○全国学生相撲選手権大会 ・Ｃリーグ優勝 ○東日本学生相撲リーグ戦 ・団体戦　優勝 ・敢闘賞　413(4)　ガンゾリグ
居合道部	28	○無双直伝英進流関東大会 ・初段の部 優勝　332（2）橋本 準優勝 242（1）志賀 第３位 431（2）伊集院 ・三段の部 第３位 133（4）阿部 ○自衛隊居合道全国大会 ・初段の部 準優勝 242（1）志賀 第３位 223（1）梨本 ・二段の部 優勝　442（2）山本 準優勝 332（2）橋本 ・三段の部 準優勝 213（3）倉本 ・四段の部 優勝　123（3）渡邊
弓道部	39	○神奈川県学生弓道連盟春季男子リーグ戦 ・１部リーグ３位 ○関東学生弓道連盟秋季男子リーグ ・優秀者　412(4)石井 421(1)佐藤 423(2)佐久間 132(2)東 ○自衛隊弓道大会 ・団体戦 優勝　防大C（溝田・佐久間・三好） 第２位防大A（左合・米田・上久保） 第３位防大B（東・松本・佐藤） ・個人戦 初・二段の部 優勝　132(2)東 第３位　423(2)佐久間 ・参・四段の部 第３位　411(2)松本 ・女子の部 優勝　342(1)花岡 第３位　341(3)上久保
少林寺拳法部	60	○自衛隊少林寺拳法大会 ・団体の部：優勝 単独初・２段の部：第１位　143(3)渡辺 第２位　342(3)藤澤 第３位　122(3)武次 ・組演初・２段の部 第１位　421(3)山内　221(3)庄谷　集介 ・組演３段以上の部 第１位　441(3)鳴海　243(3)信太 第２位　321(4)矢花　243(4)立花 ○少林寺拳法部全日本学生大会 団体演武の部　第3位
バスケットボール部 （男子）	41	○関東バスケットボール選手権大会 ○神奈川学生春季大会 ・一部リーグ昇格(7戦7勝) ○関東大学新人戦 ○全自バスケットボール大会

バスケットボール部 (女子)	6	○神奈川県学生春季大会 ○関東学生バスケットボール大会 ○全自バスケットボール大会
ラグビー部	141	○関東大学ラグビーリーグ　セブンズトーナメント ・準優勝 ○関東学生クラブラグビーフットボール選手権大会
サッカー部	63	○全国自衛隊サッカー選手権大会 ○総理大臣杯 ・神奈川県第４位 ○神奈川県大学サッカー大会春季リーグ ・第４位 秋季下位リーグ ○三浦半島リーグ戦 ・第３位 ○全国自衛隊サッカー大会(女子) ・優勝 ○神奈川大学サッカー大会秋季リーグ ○関東大学サッカー大会
バレーボール部 (男子)	36	○全国自衛隊バレーボール大会関東地区予選 ○関東バレーボール春季リーグ ・4部昇格 ○神奈川トーナメント
バレーボール部 (女子)	14	○春季関東バレーボールリーグ戦 ○秋季関東バレーボールリーグ ○神奈川トーナメント
卓球部	12	○春季関東学生卓球リーグ戦 ・5部残留 ○全自卓球大会 ・男子Ｂクラス第３位 132 (2) 谷津
陸上競技部	103	○第３回近代三種日本選手権イン千葉兼ねて第10回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ ・第１位 121(4)杉山 第２位 121(4)大川 第３位 323(3)佐々木 ○関東理工系学生対抗陸上競技会 ・第３位 131(1)坂元　100ｍＨ ○全自陸上競技会 ・優勝　400ｍ 343(3)高良 4×100ｍＲ　村岡・廣瀬・鈴木（大）・佐藤 ・第２位100ｍ 331(4)廣瀬 200ｍ 231(1)佐藤
硬式庭球部	68	○松原杯シングルス大会 ・個人賞　331(3)須藤 ○会長杯 ・Ａブロック優勝　413(2)櫻井 ・Ｂブロック優勝　331(4)加来 ・Ｅブロック優勝　331(3)須藤 ・Ｋブロック優勝　442(3)橋本
硬式野球部	67	○神奈川大学春季リーグ戦 ・第４位 2部残留 ○秋季神奈川大学野球２部リーグ戦 ・第５位 ○神奈川大学準硬式野球連盟秋季リーグ ・第３位
射撃部	18	○関東学生ライフル射撃選手権秋季大会 ・3部中第４位 ○全日本学生ライフル射撃選手権大会 ○関東学生AR・SBR大会及び関東学生ライフル射撃新人戦
水泳部(競泳)	27	○東日本理工科系大学選手権水泳競技大会 ・総合 第３位 ・個人 100m自由形 第４位 221(4)伊藤 200m自由形 第３位 241(4)桐生 200m平泳ぎ 第２位 443(2)飯田 800mﾌﾘｰﾘﾚｰ 第２位(桐生 前澤 小枝 伊藤) ○東部地区国公立大学選手権水泳競技大会 ○関東学生夏季公認記録会

水泳部(水球)	29	○関東学生水球リーグ戦 ・関東２部リーグ：第４位 個人賞 退水誘発王ﾗﾝｷﾝｸﾞ　第３位 132(4)安岡 新人王ﾗﾝｷﾝｸﾞ　第２位 242(1)湯川 第３位 321(1)岡田 ○トビオカップ ・優勝
ハンドボール部	47	○関東学生ハンドボール春季大会 ○関東学生リーグ ○全自ハンドボール大会 ・第３位
アメリカン フットボール部	80	○関東学生ハンドボール大会春・秋季リーグ ○関東リーグ入替戦(2部残留決定)
ソフトテニス部	22	○春季神奈川リーグ戦 ・1部リーグ準優勝 ○春季関東学生ソフトテニス春季リーグ入替戦 ・8部リーグ残留 ○関東学生ソフトテニス秋季リーグ ・8部リーグ残留
ボクシング部	73	○関東大学トーナメント ○神奈川県一般ボクシングオープン戦 ○第７１回国体代表選考会 ・フライ級　優勝　221(2)佐藤 ○国公立ボクシング大会 ・新人賞　421(2)彌富
レスリング部	31	○東日本学生レスリングリーグ戦 ・第５位 ○全日本学生選手権 ○ソクラテスカップ 57kg級　第２位 113(3)石井 第３位 443(2)濱 61kg級　第１位 211(1)永田 第２位 142(3)河野 65kg級　第１位 421(3)有馬 第３位 341(2)大久保 第３位 333(1)松尾 70kg級　第１位 341(3)高倉 第２位 211(1)山本 86kg級　第２位 221(2)龍門 86kg超級第２位 422(3)中島
ﾌｨｰﾙﾄﾞﾎｯｹｰ部 (男子)	45	○春季関東学生ホッケーリーグ ・2部第６位 ○秋季関東学生ホッケーリーグ ・2部第７位
ﾌｨｰﾙﾄﾞﾎｯｹｰ部 (女子)	18	○春季関東学生ホッケーリーグ ○秋季関東学生ホッケーリーグ ・2部第５位
準硬式野球部	40	○神奈川大学準硬式野球連盟春季リーグ ○神奈川大学準硬式野球連盟秋季リーグ ・第３位
体操部	37	○東日本学生体操教競技グループ選手権大会 ○東日本学生体操競技選手権大会 ○東日本理工系大学体操競技選手権大会 ・団体男子 第３位 ・個人男子 第２位 241(3)林 ○神奈川県大学体操競技選手権大会 ・男子総合 第３位　女子総合第3位
フェンシング部	37	○春季関東国公立フェンシング大会 ・女子：信州大学・新潟大学・防大混合チーム　第3位 ○関東学生フェンシングリーグ戦 ○全国国公立フェンシング大会 ○関東学生フェンシング選手権大会 ○関東国公立フェンシング大会 ○アパッチ杯（新人戦） ・準優勝 323(1)有松

ウェイトリフティング部	15	○全日本大学対抗選手権大会Ⅱ部
バドミントン部	51	○春季関東リーグ男子団体戦 ・第３位 ○春季関東リーグ女子団体戦 ・優勝(5部昇格) ○秋季神奈川リーグ（シングルス） ・優勝 443(1)佐々木
短艇委員会	56	○全日本カッター競技会 ・優勝 ○東日本カッター競技大会 ・優勝
ボート部	39	○五大学レガッタ ・男子舵付フォア：優勝 ・新人ナックルフォア：第１位 ・女子シングルスカル：第２位 433(2)恩田 ○お台場レガッタ大会 ○東日本選手権競漕大会
ヨット部(小型)	23	○関東学生ヨット春季選手権大会予選 ○神奈川５大学戦 ○東京国公立大学戦 ○関東学生ヨット選手権大会
ヨット部(クルーザー)	13	○関東フリートレース
山岳部	10	○合宿
ワンダー フォーゲル部	17	○合宿
グライダー部	25	○久住山岳滑翔大会 ・第３位 131(3)羽野
パラシュート部	19	○全日本選手権アキュレシー大会 ・優　勝 333(4)木村 ・準優勝 123(3)中島
自転車競技部	17	○全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会２０１５ ○伊豆大島トライアスロン大会 ○全日本学生選手権個人ロードTT自転車競技大会2015 ○2015 JCRCロードシリーズ第４戦 in 日本CSC ・ 第４位 131(1)谷田部 ○NISSAN CUP　神奈川トライアスロン大会 ○クロスカントリーエリミネーター in 前橋 ○全日本学生RCS１２戦・埼玉クリテリウム行田第3ラウンド ・2クラス昇格 111(1)松永
吹奏楽部	47	○入校式典演奏支援 ○月例パレード訓練演奏支援 ○横須賀YYフェスタ ○田浦コンサート ○横田基地友好祭 ○横須賀米軍基地製鉄所150周年記念行事 ○第51回定期演奏会 ○開校記念祭における演奏

校友会名	部員数	活動状況
校友会代議員会	58	○定例・臨時代議員会の実施 ○校友会事業計画・運営・予算等の議決 ○校友会積立基金の使用に関する審議方針決定
校友会学生員会	19	○校友会(運動部)合同紹介行事の企画・運営 ○文化部合同紹介行事の企画・運営 ○古典芸能鑑賞会の企画・運営 ○校友会積立基金使用申請方針の決定 ○各校友会の物品購入希望調査 ○各校友会が所有する物品の現況調査
新聞委員会	0	○活動なし
雑誌委員会	5	○雑誌小原台作成
放送委員会	19	○各種学校行事等の放送支援（入校式典、カッター競技会、校友会各種行事、月例パレード訓練、記念会食、卒業式典等）
アカシア会	34	○文化部合同紹介行事での発表 ○サマーダンスパーティー、クリスマスダンスパーティー
自動車同好会	20	○ＴＲＤラリーチャレンジ第１戦信州中川 ○全関東学生ダートトライアル選手権 ○ＴＲＤラリーチャレンジ2015高岡 ○関東学生軽自動車６時間耐久レース ○ＴＲＤラリーチャレンジ2015新城 ○ＪＭＲＣ関東長野県ラリーシリーズＦＲＣラリーマウンテンクロス2015
模型制作同好会	14	○開校記念祭での作品展示
写真映画研究部	17	○各種学校行事等撮影支援（入校卒業式典、校友会各種行事、カッター競技会、月例パレード訓練、記念会食等） ○文化部合同紹介行事、開校記念祭での作品展示
コンピュータ研究同好会	11	○文化部合同紹介行事での発表 ○運動部紹介PV作成
美術同好会	8	○文化部合同紹介行事、開校記念祭での作品展示
弁論部	10	○文化部合同紹介行事 ○土光杯全日本青年弁論大会
国際関係論研究部	22	○文化部合同紹介行事での研究発表 ○開校記念祭での京都大学とのディベート
軍事史研究部	10	○開校記念祭での研究発表
防衛学研究同好会	2	○開校記念祭での研究発表
茶道部	34	○文化部合同紹介行事、開校記念祭茶会 ○ICC・卒業茶会実施
英会話部	9	○文化部合同紹介行事での発表
棋道部	39	○文化部合同紹介行事、開校記念祭での発表 ○防衛大学校棋道部ＯＢ戦
音楽部	29	○文化部合同紹介行事、開校記念祭での合唱
軽音楽部	43	○文化部合同紹介行事、開校記念祭でのバンド演奏 ○HOTLINE（アマチュアバンドコンテスト）
古典ギター部	11	○文化部合同紹介行事、開校記念祭での楽曲発表
文芸同好会	11	○文化部合同紹介行事、開校記念祭での作品発表
詩吟同好会	1	○開校記念祭での詩吟発表
書道同好会	6	○開校記念祭での作品展示
生花同好会	0	○活動なし
心理研究同好会	9	○メンタルヘルスマネジメント検定Ⅱ種受検
紅太鼓同好会	12	○文化部合同紹介行事、開校記念祭での楽曲演奏
ダイビング同好会	70	○スクーバライセンス取得 ○文化部合同紹介行事での活動発表 ○スポーツダイビング室内選手権
タイ文化研究同好会	25	○文化部合同紹介行事での発表 ○開校記念祭でのタイ文化展示及び模擬店出店
韓国文化研究同好会	9	○文化部合同発表会での発表 ○開校記念祭での韓国文化展示及び模擬店出店

インドネシア文化研究同好会	22	○文化部合同発表会での発表 ○開校記念祭でのインドネシア文化展示及び模擬店出店
ベトナム文化研究同好会	32	○文化部合同紹介行事での発表 ○開校記念祭でのベトナム文化展示及び模擬店出店
モンゴル文化研究同好会	5	○文化部合同紹介行事での発表 ○開校記念祭でのモンゴル文化展示及び模擬店出店
カンボジア文化研究同好会	13	○文化部合同紹介行事での発表 ○開校記念祭でのカンボジア文化展示
東ティモール文化研究同好会	4	○文化部合同紹介行事での発表 ○開校記念祭での東ティモール文化展示

連絡事項

平成 26 年度防衛大学校同窓会決算書

平成26年度防衛大学校同窓会決算書

平成27年3月31日現在
【単位：円】

区分		事業等			26年度予算額	26年度決算額	備考
一般会計	収入	同窓会費			23,788,000	26,458,300	58期381名、個別納入者（58名）増
		預貯金・国債利息			622,000	591,462	国債利息減
		雑収入			1,063,000	1,365,534	貸金庫借用料返金、懇親会費（198名）増
		収入合計（①）			25,473,000	28,415,296	
	支出	母校の充実・発展への寄与	1	新入生に対する講話	5,000	0	交通費：防大負担
			2	各種競技会支援	448,000	447,236	各種競技会用メダル
			3	期生会発会等支援	380,000	679,720	卒業ダンスパーティー支援金増（新規）
			4	学生の部隊実習支援	1,210,000	997,862	3学年444名
			5	顕彰碑顕花式支援	340,000	296,776	顕彰版作製、供花等
			6	開校記念祭支援	2,080,000	2,025,120	開校記念祭支援
			7	校友会対外活動支援	800,000	797,000	
			8	学術向上策支援	230,000	225,000	優秀研究レポート15作品(陸、海、空別)
			9	同窓会著作等の寄贈	50,000	20,784	
			10	留学生学業基盤整備支援	400,000	380,000	留学生19名
			小　計（②）		5,943,000	5,869,498	
		会員相互の親睦交流	11	機関誌の発行	800,000	1,039,165	小原台だより発行部数（3,200部）増
			12	同窓会ホームページのリニューアル	1,700,000	1,563,572	リニューアル第Ⅱ期
			13	同窓会ホームページの運営	650,000	169,760	PC（1台）等更新、関西地域HP支援
			14	会員の慶弔業務	1,000,000	590,127	物故者数78名
			15	各種競技大会による交流	300,000	195,958	テニス・ゴルフ・囲碁
			16	地域支部等への助成	650,000	366,692	東北・九州・沖縄地域、東海・徳島・大分・熊本 地区：各1イベント、関西地域：2イベント
			17	卒業留学生との交流	230,000	225,309	タイ支部会長　タナラッタ海軍大将（23期海上）
			18	HVD（ホームビジットデー）支援	320,000	300,432	38期65名（家族含め175名）
			19	HCD（ホームカミングデー）支援	350,000	338,806	16期192名（家族含め282名）
			20	講演会・懇親会の実施	2,650,000	3,769,592	案内状発送（6,200枚）、会場使用料増
			小　計（③）		8,650,000	8,559,413	
		社会活動への寄与	21	安全保障講座支援	100,000	100,000	
			小　計（④）		100,000	100,000	
		会務運営基盤の充実	22	代議員会の実施	700,000	776,815	資料400部作成、交通費（13名）増
			23	同窓会名簿の維持	50,000	63,560	交通費増
			24	期生会名簿の作成支援	120,000	0	
			25	地域支部等の設立支援	100,000	166,120	島根地区設立支援、交通費増
			26	会費納入の促進	650,000	519,692	同窓会バッジ購入、交通費
			小　計（⑤）		1,620,000	1,526,187	
		検討事項	27	社会貢献活動の在り方検討	50,000	0	
			28	事務所移転の検討	50,000	31,922	印刷、郵送料金
			29	「小原台だより」の在り方検討	50,000	0	
			小　計（⑥）		150,000	31,922	
		維持管理	事務費		800,000	1,001,230	PC（2台）、プロジェクター更新
			通信費		550,000	347,607	
			交通費		400,000	444,886	交通費増
			会議費		150,000	197,469	雑費増
			事務員雇用費		1,330,000	1,321,296	
			事務所賃貸費		2,800,000	4,238,342	賃貸費増
			小原台事務局運営費		100,000	206,925	通信費増
			小　計（⑦）		6,130,000	7,757,755	
		支出計（⑧＝②＋③＋④＋⑤＋⑥＋⑦）			22,593,000	23,844,775	
		予備費（⑨）			2,880,000	0	
		支出計（⑩＝⑧＋⑨）			25,473,000	23,844,775	
収入総計（①）					25,473,000	28,415,296	
支出総計（⑩）					25,473,000	23,844,775	
財産への繰入額（⑪＝①－⑩）					0	4,570,521	

寄付会計収支計算書

平成27年3月31日現在
【単位：円】

区分		項目	金額	備考
寄付	収入	17期　高橋様からの寄付	1,000,000	平成25年度収入
		豊川駐屯地同窓会からの寄付	154,687	平成26年度収入
		収入計（①）	1,154,687	
	支出	防衛大学校応援幟代金	144,270	平成25年度支出　434,490円
			290,220	
		豊川駐屯地同窓会からの寄付振込手数料	340	
		防衛大学校半被代金（30着）	301,752	平成26年度支出　720,197円 （うち、565,510円は平成25年度収入分を充当）
		防衛大学校ステージ代金等	266,208	
		防衛大学校応援小旗代金	151,897	
		支出計（②）	1,154,687	
次年度への繰り入れ額（③＝①－②）			0	

※：収支決算書（一般会計）に含まない。

事務所移転会計収支計算書

平成27年3月31日現在
【単位：円】

区分		項目	金額	備考
事務所移転	支出	敷金（4ヵ月分）、仲介手数料等	1,524,216	
		証明写真代金・住民票（2通）代金	1,600	
		案内板（名入れ）料金、事業活動総合保険料金（3年間）	52,420	
		入居工事費用	1,080,972	
		事務所移転費用	505,656	
		オフィス什器引揚費用	50,976	
		合鍵（8本）・セキュリティカード（8枚）代金	33,377	
		新事務所什器一式・インターフォン・パイプハンガー	1,559,162	
		表札費用	22,896	
初度経費額（財産からの取り崩し額）			4,831,275	平成26年度支出

※：収支決算書（一般会計）に含まない。

防大同窓会費に関する細則第６号改正に至る経緯等

2016.04.07

本件に関する経緯等についてお知らせします。

１　検討の経緯等

H27.3：平成 26 年度代議員会にて「遅延金の停止及び会費制度の見直し」の発議

H27.4：同上の発議に基づき、検討を開始

H27.7：理事会において、２項に示す各項目を検討し、以下を決定。

普通会費額は現状の制度（３尉俸給額（１号俸）の 1/4、1,000 円未満切捨）は維持

遅延金に上限額が規定されていないことから、57,000 円を上限額として規定。

5 年間の試行期間を経て、平成 34 に制定。

併せて、平成 27 年度代議員会において上記内容を報告するとともに、細則の改正（案）を議案提出することを決定。

H28.3：平成 27 年度代議員会において上記検討結果等を報告、細則改正を承認

２　理事会における考慮事項

（１）平均完納率（第 1 期生～第 59 期生）は約 89.8%であり、概ね完納

（２）第 1 期生が 100%完納した時点の遅延金は 57,000 円

（３）完納者に対する公平性を重視

（４）日本人男性平均寿命は 80.5 歳（H26 年）

３　細則改定内容

（１）第 2 条第 2 項に「遅延金の上限額を 57,000 円とする。」を追記

（２）付則に「5 年間の試行期間」を追記

４　同窓会事務局からのお願い

各期生会会長・代議員の皆様におかれましては、同窓会活動へのご理解を賜り、厚く御礼申し上

げます。引き続き、会費完納率向上に関しましてもご尽力頂けますようお願い申し上げます。

「同窓会費完納状況」、「会費納入のお願い」を添付しておりますので、ご確認をお願い致します。

会費納入状況・会費納入のお願い

会 費 納 入 状 況

28.3.1現在

期別	会員数	完納者数	完納率（%）	未完納者数				期別	会員数	完納者数	完納率（%）	未完納者数			
				陸	海	空	計					陸	海	空	計
1	339	339	100.0	0	0	0	0	31	431	409	94.9	15	6	1	22
2	359	347	96.7	8	2	2	12	32	404	354	87.6	31	13	6	50
3	484	453	93.6	16	12	3	31	33	447	376	84.1	44	19	8	71
4	465	438	94.2	20	7	0	27	34	426	373	87.6	38	9	6	53
5	529	483	91.3	26	11	9	46	35	496	479	96.6	9	5	3	17
6	477	433	90.8	36	5	3	44	36	354	345	97.5	6	2	1	9
7	503	460	91.5	29	7	7	43	37	384	347	90.4	16	7	14	37
8	467	421	90.1	33	8	5	46	38	337	273	81.0	50	10	4	64
9	498	447	89.8	35	6	10	51	39	356	330	92.7	8	11	7	26
10	498	458	92.0	25	6	9	40	40	388	329	84.8	33	21	5	59
11	495	448	90.5	28	8	11	47	41	405	365	90.1	23	14	3	40
12	466	417	89.5	29	8	12	49	42	407	366	89.9	19	12	10	41
13	468	423	90.4	30	8	7	45	43	431	385	89.3	23	15	8	46
14	491	462	94.1	15	2	12	29	44	381	225	59.1	113	39	4	156
15	463	449	97.0	9	3	2	14	45	351	161	45.9	131	20	39	190
16	428	406	94.9	8	4	10	22	46	360	237	65.8	67	7	49	123
17	498	454	91.2	20	10	14	44	47	388	338	87.1	32	11	7	50
18	423	401	94.8	9	7	6	22	48	425	378	88.9	23	12	12	47
19	446	425	95.3	11	8	2	21	49	325	294	90.5	26	4	1	31
20	383	352	91.9	17	3	11	31	50	369	320	86.7	27	13	9	49
21	489	468	95.7	12	3	6	21	51	411	371	90.3	16	13	11	40
22	474	434	91.6	20	6	14	40	52	415	346	83.4	15	23	31	69
23	408	386	94.6	8	8	6	22	53	431	384	89.1	21	21	5	47
24	446	416	93.3	8	15	7	30	54	364	331	90.9	14	8	11	33
25	422	400	94.8	10	4	8	22	55	397	370	93.2	12	10	5	27
26	506	467	92.3	26	7	6	39	56	372	355	95.4	16	0	1	17
27	388	377	97.2	8	1	2	11	57	413	369	89.3	23	15	6	44
28	451	421	93.3	17	8	5	30	58	434	381	87.8	26	18	9	53
29	391	358	91.6	16	7	10	33	59	472	399	84.5	40	20	13	73
30	410	347	84.6	46	11	6	63	60	0	0	0.0	0	0	0	0

※ 会員数:会費納入対象者数
（留学生を除く防大卒業者数）

平成２８年度の会費納入のお願い

平成２７年度、新しく同窓会会員（正会員）になられた防衛大学校５９期生の皆様から会費のご納入を頂きました。衷心よりお礼申し上げます。また、その他の期の皆様におかれましても会費納入率向上のため、各期生会長及び代議員をはじめとする同窓会員の皆様にご助力を賜り、全体としての納入率は徐々に向上していますことに対しまして、重ねて御礼申し上げます。同窓会本部事務局では、「母校の充実・発展への寄与、会員相互の親睦交流、社会的活動への寄与」という同窓会

の目的を達成するために必要な経済的な基盤を確固たるものとすべく、平成１８年度から各幹部候補生学校等を訪問するなどして会費納入の促進に努めております。

会費未納の方（本部事務局で把握しておりますので、ご不明の点がありましたら下記連絡先までご連絡をお願い致します。）におかれましては、同窓会活動の趣旨をご理解頂き、是非とも平成２８年度中に同窓会会費を納入して頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

（防衛大学校同窓会事務局長　山本　洋）

【納入先】ゆうちょ銀行

口座番号　：　00260-5-□□24826（百万及び十万の桁は無記入）

加入者名　：　防衛大学校同窓会　代表　佐々木俊也

通信欄　：　振込者氏名、住所、期別、要員別及び部隊名（現役の場合）を記入

※　払込料金は本部事務局が負担致します。

【納入先】三井住友銀行：飯田橋支店

口座番号　：　1270680

加入者名　：　防衛大学校同窓会　代表　佐々木俊也

※　振込手数料は振込額から控除して下さい。本部事務局が負担致します。

また、銀行振込の場合は、納入者の確認及び完納証等の発送のため、必ず振込者氏名、住所、期別、要員別、部隊名（現役の場合）及び振込期日をe-mailTel/Faxにより下記連絡先までご連絡下さい。

【連絡先】同窓会本部事務局

〒162－0845　東京都新宿区市谷本村町3－19
千代田ビル101号室
Tel/Fax　：　03－6265－3416
e-mail　：　info@bodaidsk.com

【参　考】

普通会費

・防大本科卒業生　：卒業時の3尉俸給月額（1号俸）の1／4（千円未満切捨）

平成28年1月26日　給与額改正　　3尉1号俸　242，000円

・防大研究科卒業生（一般大学卒業者）　：卒業年度の3尉俸給月額（1号俸）の1／8（千円未満切捨）

遅延金　**（平成33年度末まで遅延金の上限額は57，000円とされました。）**

平成27年度防衛大学校代議員会における承認事項（H28．3．5）

1，000円×（完納年度－3尉任官年度又は研究科卒業年度）

（根拠：防衛大学校同窓会会費に関する細則第6号）

※　平成28年度の会費納入額算出例　：　45期生で過去に分納がない場合

普通会費　：　60，000円

完納　　：　平成28年度（平成29年3月31日まで）

3尉任官　：　平成13年度（14年3月）

平成26年度納入額　60，000円＋1，000円×（28－13）＝75，000円

（詳細は同窓会本部事務局までお問い合わせ下さい。）

同窓会 HP コミュニティサイト活用促進のお願い

2016.04.08

防大同窓会では、地域支部等、各期生会及び校友会 OB において情報共有や通信連絡に 利用可能な「コミュニティサイト」をホームページ内に開設しています。

簡単な操作で、個別の経費負担も不要ですので是非活用していただきますようご案内いたします。

1　概　要

防衛大学校同窓会ホームページ内に「コミュニティサイト」として開設し、「概要」(代表者挨拶、会則、連絡先等)、「掲示板」、「行事予定」及び「関連リンク」等を掲載可能

URL: http://www.bodaidsk.com/community/

2　利用方法

防大同窓会事務局広報部 HP 担当者に e-mail にてご連絡ください。担当者（HP 専用アドレスにて）からメールを差し上げ、 ご不明の点についてご説明し、ご利用手続きの細部をご案内いたします。

メールアドレス:info@bodaidsk.com（同窓会代表アドレス）

3　その他

サーバー借料無料(同窓会本部負担)

サイト作成及び初期設定は同窓会本部担当者が実施

ユーザーによる記事投稿や掲載内容の変更はインターネット経由で実施可能

ID 及びパスワードによるアクセス制限可能

さらに詳しい資料も準備しておりますので、必要な方には e-mail 添付ファイルとして お送りいします。

（本部事務局 HP 担当者）

コミュニティサイト

地域支部等

地域支部

- 北海道地域支部
- 東北地域支部
- 関西地域支部
- 四国地域支部
- 九州地域支部
- 沖縄地域支部

地区支部（各地域）

- 香川地区支部
- 愛媛地区支部
- 徳島地区支部
- 高知地区支部
- 福岡地区支部
- 佐賀地区支部
- 長崎地区支部
- 熊本地区支部
- 大分地区支部
- 宮崎地区支部
- 鹿児島地区支部

本部直轄地区支部

- 北陸地区支部
- 栃木地区支部
- 群馬地区支部
- 東海地区支部
- 岡山地区支部
- 広島地区支部
- 山口地区支部
- 島根地区支部
- 小原台クラブ
- 桜草会

海外支部

- タイ支部
- シンガポール支部

このページの先頭へ

期生会

※　同期生会ホームページへのリンクを希望される方は、責任者名を明記してURLをメールにて同窓会本部(info@bodaidsk.com)に送信して下さい。

同窓生人材バンクの登録推薦の依頼

2016.03.23

防衛大学校同窓会では、平成２６年１０月に同窓生人材バンクを立ち上げて防衛大学校同窓会のホームページに掲載し、部外の方からの講演及びセミナー等の依頼に対して、人材バンク登録者の皆様との仲介業務を実施しています。

そこで、更なる人材バンク充実のために、同窓会の皆様に人材バンク登録候補者の推薦を次の要領でお願い致します。

推薦を頂いた方々には、防衛大学校同窓会事務局広報部担当者から直接メール等で連絡を取らせて頂き、改めて人材バンクへの登録をお願いする予定です。

同窓生の各分野における活躍を世間に紹介するとともに、同窓生相互の交流を活性化するという人材バンクの目的をご理解頂き、何卒宜しくお願い致します。

１　推薦要領

（１）　推薦は自薦又は他薦

（２）　推薦者の氏名、期別、要員、メールアドレス及び住所を下記のＥメールアドレス又は住所に送付、もしくは電話連絡

（３）　メールアドレスと住所の両方がわからない場合は、いずれか一つでも可能

２　同窓生人材バンクのホームページ URL

下記 URL から同窓会人材バンクのページがご覧頂けます。

http://www.bodaidsk.com/bank/index.php

３　連絡先

防衛大学校同窓会事務局　広報部人材バンク担当

住所：〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 3-19　千代田ビル 101 号

Tel&Fax ： 03-6265-3416 （同窓会事務局）

E-mail：info@bodaidsk.com（同窓会本部公開メールアドレス）

ホーム・カミング・デー２の開始

2016.04.06

来る平成２８年４月５日に執り行われます第６４期生の入校式から、ホーム・カミング・デー・２（以下「ＨＣＤ２」と記述）が開始され、今回は、第１期生から第４期生までの同窓生が招待されます。

来年の第６５期生の入校式には第５期生が招待され、以後、毎年入校後６０年を経過したクラスが招待されます。

卒業式典に同窓生を招待して行われているＨＣＤ（ホーム・カミング・デイ）は、松本三郎・第６代学校長の提案で平成１２年の第４４期生の卒業式典に第１期生を招待してから今日まで続けられている行事です。

この度開始されるＨＣＤ２は、國分良成・現防衛大学校長の発意によるもので、入校式典に同窓生を招待することにより、ＨＣＤと同様に若い後輩の入校を祝福し同窓生の同期の絆を高めることだけではなく、入校後６０年という謂わば還暦年数を経過した大先輩の姿から、防大同窓生としての絆の基盤が防大生活にあることを新入生に強く意識してもらい、学生自身の内面の充実と強い動機づけにつなげてもらう意味もあると思います。

ＨＣＤ２がＨＣＤ同様に良い伝統行事となっていくことを期待します。

（同窓会本部事務局）

同窓会名簿管理、物故者名簿に関するお知らせ

2016.04.06

同窓会名簿管理、物故者名簿のホームページ掲載等のついてお知らせします。

１　名簿の維持管理

会員名簿は各種同窓会活動の基盤となるものであり、同窓会事務局としましては出来るだけ最新のデータの確保と厳正な維持管理に努めております。データの確保については主として以下の要領で実施しておりますので、会員の皆様のご協力をお願い致します。

①　各期生会からの通知

個人情報保護法制定等を受け関係各所からのデータ収集が難しくなったことから、名簿の修正は、平成１６年度から各期生会代議員に、平成１９年度からは各期生会業務幹事に対して、例年８月の定期異動後にお願いしております。

平成２１年度からは電子メールの活用を図り、期生会との連携の強化を図りつつデータの収集に努めさせて頂いております。

業務多忙にも拘らず担当して頂いた皆様、ご協力有難うございました。

②　会員個人からの通知

同窓会ホームページ上の「異動連携」の項は、削除しております。同窓会事務局へ電子メール(info@bodaidsk.com)または電話等での連絡をお願いします。

２　利用目的及びプライバシーポリシー

①　利用目的

次の目的で皆様の個人情報を利用又は提供します。

・　同窓会各種事業推進のための連絡

・　会員の慶弔の実施

・　期生会、校友会、教務班等各種活動への協力

・ 地域支部等への協力

② **プライバシーポリシー**

以下のプライバシーポリシーに従い個人情報の適切な保護に努めております。

・ 利用目的の範囲内で収集、管理します。

・ 会員皆様の承諾なしに目的外の利用及び提供はしません。

・ 会員の皆様が個人情報の照会、修正、削除等を希望される場合は、速やかに対応します。（同窓会事務局人事部担当にご連絡ください。）

・ 個人情報へのアクセス、破壊、改ざん及び漏洩の無いよう適切に管理します。

３　物故者名簿の HP への掲載

平成２７年１月から新たな掲載要領により、HP 上に「物故者名簿」を掲載しています。HP の「コミュニティ」サイトの最下段に「物故者名簿」として掲載しています。掲載期間は同窓生がご逝去されてから１年間となります。

「物故者名簿」にアクセスするためには、「ユーザー名」「パスワード」が必要になります。各期生会代議員の皆様に連絡してありますので、各期生会でご確認の上ご活用ください。なお、同窓会事務局においても対応しますが、本人確認が必要となりますのでご了承ください。

（同窓会本部人事部）

電子版「小原台だより」への投稿のお願い

2016.04.06

平成 27 年度機関誌「小原台だより」は、ホームページにご投稿頂きました方々及び取材に応じて頂いた方々のお蔭をもちまして無事発行できる運びとなりました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。これまで会員の皆様に冊子として配布してまいりました「小原台だより」は、今回の第 23 号から、ホームページのアーカイブとしての記録保存の意義を重視した電子版として装いも新たに編纂、発行予定です。また、編纂時期を従来の年末から 3 月の代議員会の記録を含め、年度の活動を取りまとめて掲載できるよう会計年度の〆である年度末に変更しました。

ご承知のように、同窓会ホームページ及び「小原台だより」は、同窓会会員の皆様方からの投稿記事無しでは成り立ちません。現役自衛官や退職自衛官等の様々な分野でご活躍の様子を同窓会会員各位をはじめ社会に広く情報発信し、会員相互の親睦と防衛大学校卒業生の活躍を通じての防衛意識の向上に重要な役割を果たしております。同窓会ホームページ及び「小原台だより」を益々充実発展させるためには、皆様方からの積極的な記事の投稿が欠かせません。広報部一同、ホームページのさらなる充実と機関誌「小原台だより」編纂に鋭意努力参りますので、奮ってご投稿の程お願い申し上げます。特に、各期生会や地域支部からの積極的な投稿を期待します。

投稿締切期日等は特に設けておりません。何時でも随時、以下の要領でご投稿をお願い申し上げます。ホームページ及び「小原台だより」への投稿要領は次のとおりです。

<投稿要領>

初度連絡先：同窓会代表メールアドレス（info@bodaidsk.com）又は本部事務局電話番号（03-6265-3416）へ連絡をお願いします。連絡を受け次第、広報部機関誌担当からメール又は電話にて投稿要領等について折り返し連絡を差し上げます。

投稿原稿等：A4 縦使用・横書きで、文字サイズ 12P とし、2,000 文字(挿入写真の分を含む)を基

準とし、投稿者の顔写真を添付

機関誌担当：同窓会本部事務局広報部: 前田 光弘(25 期・陸上)

期生会長・代議員名簿

2016.3.23

期	期生会会長		代　議　員			業務幹事	
	氏　名	要員	陸:氏　名	海:氏　名	空:氏　名	氏　名	要員
1	高橋　恒清	空	大東　信祐	高山　雅司	田中　憲明	二宮　隆弘	空
2	林　赳夫	海	吉田　暁路	石原　公夫	大庭　肇	石原　公夫	海
3	西元　徹也	陸	中口　廣之	手塚　正水	出口　哲夫	井上　陽	陸
4	石川　信隆	陸	金田　孝之	櫻澤　清志	渡邊　丈二	宍戸　辰雄	陸
5	中村　雅嘉	空	辻川　健二	岩田　威	山田　秀次郎	浅野　勇蔵	陸
6	阿部　英輔	陸	池田　勝	福塚　啓二	星野　元宏	福塚　啓二	海
7	江藤　兵部	空	津村　秀一郎	高木　基博	大杉　祐司	伊藤　文夫	空
8	矢島　寛三	海	園部　宏明	越野　秀人	白川　　新	大野　紀雄	海
9	竹河内　捷次	空	小島　捷利	江本　泉	日高　久萬男	吉橋　誠	陸
10	嶋野　隆夫	陸	嶋野　隆夫	坂東　勝昭	幸治　昌秀	嶋野　隆夫	陸
11	石川　亨	海	洞澤　佳廣	竹村　訓	赤羽　益三	阿保　文敏	陸
12	藤田　昭治	陸	諏訪　浩	藤田　泰夫	橋本　康夫	藤本　四郎	陸
13	山下　輝男	陸	篠田　芳明	新宮領　篁	花岡　芳孝	菅原　純	陸
14	稲葉　憲一	空	寄田　修	斎藤　隆	稲葉　憲一	有井　一弘	空
15	林　直人	陸	瓦谷　育夫	平山　為祥	江口　啓三	佐藤　誠喜	陸
16	折木　良一	陸	石川　由喜夫	橘　恒紀	高橋　健才	石川　由喜夫	陸
17	廣瀬　誠	陸	廣瀬　誠	赤星　慶治	永田　久雄	石村　澄雄	海
18	火箱　芳文	陸	植木　美知男	岡本　正治	外薗　健一朗	岩切　厚	陸
19	酒井　健	陸	塚田　章	武田　壽一	山川　龍夫	榊枝　宗男	陸
20	佐藤　貞夫	陸	西村　智聡	加藤　耕司	渡邊　至之	今井　恵治	陸
21	河村　克則	海	渡邊　隆	山本　高英	山崎　剛美	荒川　龍一郎	陸
22	宮下　寿広	陸	小渕　信夫	山口　透	福井　正明	宮嵜　泰樹	陸
23	岩本　豊一	陸	岩崎　親裕	福本　出	清藤　勝則	竹谷　修治	陸
24	古賀　久夫	空	武内　誠一	原田　哲郎	古賀　久夫	武内　誠一	陸
25	高鹿　治雄	海	飯塚　稔	徳丸　伸一	吉田　浩介	大瀬戸　功	海
26	堂下　哲郎	海	深津　孔	堂下　哲郎	尾上　定正	高嶋　誠	空
27	小林　茂	陸	小林　茂	副島　尚志	丸茂　吉成	小林　茂	陸
28	田浦　正人	陸	田浦　正人	畠野　俊一	遠目塚　進	田浦　正人	陸
29	馬場　邦夫	陸	中村　浩之	中尾　剛久	長島　純	時藤　和夫	空
30	堀切　光彦	陸	山崎　繁	時久　寛司	竹平　哲也	山崎　繁	陸
31	前田　忠男	陸	神道　佳久	今村　靖弘	後藤　雅人	錦織　孝	陸
32	阿部　睦晴	空	池田　頼昭	梶元　大介	柴田　利明	植村　茂己	空
33	中塚　千陽	空	山根　寿一	齋藤　聡	沖野　克紀	沖野　克紀	空

期	期生会会長		代　議　員			業務幹事	
	氏　名	要員	陸:氏　名	海:氏　名	空:氏　名	氏　名	要員
34	佐藤　信知	空	大谷　勝司	大西　哲	小笠原　卓人	小笠原　卓人	空
35	稲月　秀正	空	戒田　重雄	伍賀　祥裕	吉村　一彦	熊谷　三郎	空
36	寺崎　隆行	空	松永　浩二	石巻　義康	寺崎　隆行	松永　浩二	陸
37	宇佐美　和好	空	小川　隆宏	浦口　薫	宇佐美　和好	宇佐美　和好	空
38	石井　浩之	空	森本　康介	濱崎　真吾	霜田　豊英	山崎　武志	空
39	湯下　兼太郎	陸	湯下　兼太郎	平田　利幸	中川　一	湯下　兼太郎	陸
40	清水　徹	海	梨木　信吾	川野　邦彦	石引　大吾	兵庫　剛	陸
41	堤田　和幸	海	小林　貴	堤田　和幸	中谷　大輔	堤田　和幸	海
42	武田　和克	陸	武田　和克	中尾　喜洋	山口　嘉大	武田　和克	陸
43	鎌田　淳	空	澤　繁実	戸永　竜太	志津　雅啓	岩切　主税	空
44	髙橋 秀典	海	青木　仁	阿部　直樹	原田　理	阿部　直樹	海
45	青山　佳史	陸	庄司　秀明	岡澤　智和	坂田　靖弘	庄司　秀明	陸
46	田村　弘範	海	石岡　直樹	近藤　太郎	寺林　洋平	近藤　太郎	海
47	吉水　憲太郎	陸	清田　裕幸	笠原　健治	中里　悠花	清田　裕幸	陸
48	和田　嵩一	海	桐谷　高弘	柏木　祐一郎	齋藤　真吾	柏木　祐一郎	海
49	山上　剛史	空	納谷　知希	小沼　洋祐	山上　剛史	山上　剛史	空
50	吉井　拓也	陸	益田　一宇	八木　佑己	阿部　竹浩	益田　一宇	陸
51	鬼塚　勇	陸	鬼塚　勇	林　大佑	森嶋　倫	鬼塚　勇	陸
52	成田　優	陸	成田　優	小谷　経三郎	荒木　敬	成田　優	陸
53	濵田　卓	空	江嶋　宏次	金澤　佳也	来栖　克則	濵田　卓	空
54	金澤　慧人	空	角丸 公康	垣内 隼斗	内藤 昌孝	金澤　慧人	空
55	若月　豪	陸	若月　豪	中村　知哉	加治　政樹	若月　豪	陸
56	松尾　聡一郎	陸	松尾　聡一郎	田中　結貴	舟津　貴正	松尾　聡一郎	陸
57	我妻　国明	陸	久保　翔平	柗村　駿明	大藪　秀斗	我妻　国明	陸
58	川合　真	海	秋島　一弥	浦山　修太朗	河野　健	川合　真	海
59	屋代　昌也	陸	渡邊　一生	馬渡　淳司	宮川　啓一	屋代　昌也	陸

平成２７年度同窓会本部・支部役員名簿

本部役員

職名	氏名	期別	要員別	記事
会長	折木 良一	16	陸	
副会長	火箱 芳文	18	陸	
	杉本 正彦	18	海	
	外薗 健一朗	18	空	
	河野 克俊	21	海	現職：統合幕僚長
理事	山本 洋	21	陸	事務局長
	槇原 伸一	20	海	
	石野 次男	22	空	
	香月 智	23	陸	防大教授
	田中 敏明	23	陸	事務局長補佐
	廣恵 次郎	33	陸	統幕指揮通信システム部長 (総務部長代理)
	大塚 裕治	32	陸	陸幕監理部長
	中尾 剛久	29	海	海幕総務部長
	金古 真一	30	空	空幕総務部長
会計監事	塚田 章	19	陸	
	鎌田 正広	21	陸	
	宮崎 行隆	20	海	
	戸田 友敬	20	空	

本部事務局員

職名		氏名	期別	要員別
事務局長		山本　洋	21	陸
総務部	部長	藤井 貞文	23	陸
	補佐	本庄 俊弘	24	陸
		渡邉 和博	24	空
	担当	川上 幸則	25	陸
	新事業担当	山田 勝規	25	海
	(事務局管理)	坂尾 陽子		
人事部	部長	早川 昌男	23	空
	補佐	進藤 進	24	陸
		原田 哲郎	24	海
	担当	内山 哲也	25	海
		平川 善人	25	空
経理部	部長	佐々木 俊也	23	海
	補佐	深山 元延	24	陸
	担当	大倉 育信	25	空
事業部	部長	早坂 正	23	空
	補佐	高橋 均	24	海
		菅田 雅之	24	陸
		池川 昭司	24	空
		木村 孝	24	空
	HCD／HVD	山下 繁生	25	陸
	囲碁／留学生	籠谷 貴年	25	海
	テニス／助成	杉本　務	25	陸
	ゴルフ／講演	吉岡 俊一	25	海
	事業指導	島田 正登	22	海
広報部	部長	永岩 一郎	23	海
	補佐	新居 久佳	24	陸
		土谷 正明	24	海
		杉谷 元	24	空
	担当	堀井 克哉	25	陸
		前田 光弘	25	陸
		坂本 卓巳	25	空
	技術指導	村田 和美	17	陸

小原台事務局員

職名		氏名	期別	要員別
事務局長		影浦 誠樹	33	空
事務局長補佐		橋本 里緒	35	空
		高山 博光	31	陸
		内田 貴司	28	空
		宮本 美緒	48W	空
事務局員	総括	中澤 信一	28	海
	総括補佐	茂泉 勝	30	海
	HCD	関口 高史	32	陸
		吉野 順也	33	陸
	OB見学	白幡 和也	39	空
		中野 昌英	41	陸
		東島　輝	37	海
		工藤 信弥	45	空